平成 22 年度

保健学習推進委員会報告書

― 第2回 全国調査の結果 ―

財団法人　日本学校保健会

ま　え　が　き

近年，児童生徒や教員等を対象とした大規模調査によって，教育の成果や課題を明らかにすることが重視されつつあります。例えば，経済協力開発機構（OECD）による生徒の学習到達度調査（PISA），国際教育到達度評価学会（IEA）による国際数学・理科教育動向調査（TIMSS）等の国際的な学力調査や，国立教育政策研究所による教育課程実施状況調査等は代表的なものとして挙げられます。こうしたデータは，調査の内容や方法によって一定の制約を受けながらも，これまでの教育の評価や課題を明らかにする上で有用なものとなっています。そして，これらの実証的なデータに基づいて多くの関係者が共通認識をもち，今後の改善，充実の在り方について広く議論されることはとても有意義と言えます。

保健学習推進委員会では平成 16 年度に，保健学習推進上の課題を明らかにするために，児童生徒の保健学習に対する意識や内容の定着状況，保護者の保健学習への関心や要望，保健担当教師の指導意欲や実施状況などに関する実態等について，わが国初の全国調査を実施し，その成果を報告書としてまとめております。

この度は，平成 20 年（小学校，中学校），21 年（高等学校）に新しい学習指導要領が告示されたことなどから，保健学習の内容やそれを取り巻く状況についても変化が見られることを踏まえて，第 2 回目となる全国調査「平成 22 年度 保健学習の推進上の課題を明らかにするための実態調査」を行いました。

本書は，その結果をとりまとめて報告するものです。各学校における保健学習の充実のためにご活用いただければ幸いです。

末筆となりましたが，本調査の実施及び本書の作成に当たってご尽力いただいた保健学習推進委員会の先生方，調査にご協力いただいた各学校，各教育委員会などの関係の皆様方に心から感謝申し上げます。

平成 24 年 2 月 23 日

財団法人日本学校保健会
会　長　　原中　勝征

目　　次

Ⅰ．目的および方法

１．目的 7

２．調査対象 8

（1）対象者 8

1）児童生徒調査 8

2）保護者調査 8

3）教師調査 8

（2）対象校 8

（3）抽出の方法 8

（4）回収率および有効回答率 8

３．調査方法 9

４．調査内容 9

（1）調査項目 9

1）児童生徒調査 9

2）保護者調査 10

3）教師調査 10

（2）調査内容の妥当性・信頼性 14

1）調査内容の妥当性 14

2）測定尺度の信頼性 14

５．分析方法 14

（1）児童生徒調査 14

（2）保護者調査 14

（3）児童生徒調査と保護者調査のペアリングによる分析 14

（4）教師調査 15

Ⅱ．結果および考察

１．児童生徒調査 17

（1）対象者の属性 17

（2）小中高校共通の保健の知識テスト（共通テスト） 18

1）正答の合計の分布 18

2）問題別の正答率 20

① 正答率の男女差

② 正答率の学年傾向

3）問題別の回答状況 23
4）小括 39
(3) 保健学習の内容の知識テスト 40
1）小学校 3・4 年の内容の知識テスト（小学校 5 年生対象） 40
① 正答の合計の分布
② 問題別の正答率
③ 問題別の回答状況
④ 小括
2）小学校 5・6 年の内容の知識テスト（中学校 1 年生対象） 49
① 正答の合計の分布
② 問題別の正答率
③ 問題別の回答状況
④ 小括
3）中学校の内容の知識テスト（高校 1 年生対象） 59
① 正答の合計の分布
② 問題別の正答率
③ 問題別の回答状況
④ 小括
4）高校の内容の知識テスト（高校 3 年生対象） 75
① 正答の合計の分布
② 問題別の正答率
③ 問題別の回答状況
④ 小括
(4) 保健の学習意欲 91
1）保健学習に対する感情 92
2）保健学習の価値 93
3）保健学習に対する期待 95
4）平成 16 年調査と平成 22 年調査の比較 98
5）小括 98
(5) 経験した保健学習の状況 100
1）小学校 3・4 年の保健学習（小学校 5 年生対象） 101
①「毎日の生活と健康」
②「育ちゆく体とわたし」
2）小学校 5・6 年の保健学習（中学校 1 年生対象） 102
①「けがの防止」
②「心の健康」
③「病気の予防」
3）中学校の保健学習（高校 1 年生対象） 104
①「心身の機能の発達と心の健康」

②「健康と環境」
③「傷害の防止」
④「健康な生活と疾病の予防」
4）高校の保健学習（高校 3 年生対象） 106
① 高 1 の学習内容
② 高 2 の学習内容
5）平成 16 年調査と平成 22 年調査との比較 108
6）小括 110
(6) 健康の価値の認知 112
1）平成 16 年調査と平成 22 年調査の比較 113
2）小括 113
(7) 日常生活における実践状況 115
1）平成 16 年調査と平成 22 年調査の比較 116
2）小括 116

２．保護者調査 119
(1) 対象者の属性 119
(2) 保健の授業への関心，考え 119
(3) 保健学習の内容に関する要望 120
(4) 学校教育で育成すべき児童生徒の能力について 123
(5) 小括 123

３．児童生徒調査と保護者調査のペアリングによる分析 125
(1) 対象者の属性 125
(2) 保護者の「保健学習への関心」と児童生徒の「保健の学習意欲」との関連 126
(3) 保護者の「保健学習への関心」と児童生徒の「保健学習の内容に関する知識の習得状況」との関連 128
(4) 保護者の「学校教育で育成すべき能力としての『健康・安全に生活する能力』の評価」と児童生徒の「保健の学習意欲」との関連 129
(5) 保護者の「学校教育で育成すべき能力としての『健康・安全に生活する能力』の評価」と児童生徒の「保健学習の内容に関する知識の習得状況」との関連 131
(6) 小括 131

４．教師調査 133
(1) 対象者の属性 133
(2) 保健学習の実施状況 135

1）保健学習の計画的な実施 135
2）保健学習の内容の実施程度 135
3）保健学習の指導の準備状況 136
4）保健学習の評価 136
5）保健学習の指導方法の工夫 137
6）児童・生徒への影響に対する自己評価 138
(3) 保健学習の指導意欲 139
(4) 健康の価値の認知 140
(5) 学校教育で育成すべき児童生徒の能力について 140
(6) 保健学習の指導に関わる周囲の状況 141
(7) 保健科教育法または体育科・保健体育科教育法の履修状況 141
(8) 教育実習での保健学習の担当状況 142
(9) 過去 5 年間の保健学習に関する研修への参加状況 143
(10) 体育学習の指導意欲 144
(11) 保健学習の指導意欲に関する構造モデル 145
1）小学校教師（学級担任）の構造モデル 146
2）中学校の保健体育教師の構造モデル 147
3）高校の保健体育教師の構造モデル 148
(12) 小括 148

Ⅲ．まとめ 151

― 付録 ―

調査票 155

Ⅰ．　目的および方法

１．目的

保健学習推進委員会では平成 16 年に，体育科・保健体育科における保健に関する学習（以下「保健学習」という。）の推進上の課題を明らかにするために，児童生徒の保健学習に対する意識や内容の定着状況，保護者の保健学習への関心や要望，保健担当教師の指導意欲や実施状況などに関する実態等の全国調査を実施した。その成果は本委員会の報告書[1]と共に，第 52 回日本学校保健学会（仙台）や日本学校保健学会誌「学校保健研究」にて報告された[2][3]。そこでは，児童生徒の保健学習の内容に関する知識の習得状況や保健の学習意欲については必ずしも十分とは言えない状況にあること，保護者の保健学習に対する関心の高さがうかがわれ，保健学習の内容に関する要望が現行の学習指導要領の学習内容とよく一致していたこと，保健学習の担当教師においては保健学習の実施状況や指導意欲には改善の余地があることなどが明らかにされた。また，このような調査を今後も定期的に実施し，保健学習の動向を把握することの必要性も併せて指摘された。

そこで本委員会では，平成 20・21 年に新学習指導要領が告示されたことを踏まえて，児童生徒に対するテスト問題を新たに作成し直すなど調査内容を修正して，第 2 回目となる全国調査を行った。そして，次の①～⑦について検討し，今後の保健学習の充実に資することとした。

① 児童生徒の保健に関する知識について幅広く捉える「小中高校共通の保健の知識テスト（共通テスト）」を作成し，保健の知識状況について明らかにする。

② 平成 20・21 年改訂の新学習指導要領に示された内容を踏まえて，児童生徒の保健学習の内容に関わる知識の習得状況について明らかにする。

③ 児童生徒における保健学習への意欲，経験した保健学習の状況，健康の価値の認知，日常生活における実践状況について，平成 16 年の調査結果との比較によって，その変化等を明らかにする。

④ 保護者がもつ保健学習への関心，考え，要望等について，平成 16 年の調査結果との比較によって，その変化等を明らかにする。

⑤ 保護者における保健学習への関心と，児童生徒における保健学習への意欲や保健学習の内容に関する知識の習得状況との関連性について，ペアリングによる分析の結果から明らかにする。

⑥ 保健担当教師における保健学習の指導意欲や実施状況などに関する実態について，平成 16 年の調査結果との比較によって，その変化等を明らかにする。

⑦ 保健担当教師における保健学習の指導意欲と，それらを高める上で重要と考えられる各要因との構造的な関連性について仮説モデルを設定し検証する。

２．調査対象

(1) 対象者

1) 児童生徒調査

全国の小学校，中学校，高校に在籍する小学校 5 年生，中学校 1 年生，高校 1 年生，高校 3 年生。

2) 保護者調査

児童生徒調査の対象の保護者

3) 教師調査

対象校において保健学習を担当している教師（短時間のティーム・ティーチング等を除く）

(2) 対象校

全国 47 都道府県の小学校，中学校および高校について各校種 3 校ずつの各 141 校の計 423 校を対象とした。また，各学校・学年においては，1 学級（ホームルーム）を対象とした。

(3) 抽出の方法

各都道府県の小学校，中学校，および高校それぞれの名簿を 3 等分し，その中央付近の学校を抽出した。該当学年に複数学級がある場合は，原則として 2 番目の学級を対象とした。なお，100 人未満の児童生徒数の学校は除いた。また，高校においては，男女共学の学校を対象とした。

例）全部で 45 校ある場合

名簿 No.

1	15	30	45
8 の付近の学校（1 校）	23 の付近の学校（1 校）	38 の付近の学校（1 校）	

(4) 回収率および有効回答率

学校の回収率は，小学校 95.7%，中学校 97.9%，高校 97.9%であった（表 1)。調査票の回収数は，児童生徒調査が小学校 5 年生 4,032 部，中学校 1 年生 4,197 部，高校 1 年生 5,109 部，高校 3 年生 4,833 部，保護者調査が 16,653 部，教師調査が 2,059 部である。これらの調査票の中から，性別などの基本属性が無回答のもの，無回答と無効回答が合わせて全回答の 50%以上のもの，誤った手順で回収されたものを無効とし，解析対象から除いた。回収された調査票における有効回答数は，小学校 5 年生 3,764 部，中学校 1 年生 3,849 部，高校 1 年生 4,670 部，高校 3 年生 4,112 部，保護者調査 15,797 部，教師調査が 2,032 部であり，有効回答率は，児童生徒調査では 85.1%～93.4%，保護者調査では 94.9%，教師調査では 98.7%であった（表 2)。

表1　学校の回収率

	対象校数	回収校数	回収率(%)
小学校	141	135	95.7
中学校	141	138	97.9
高　校	141	138	97.9
計	423	411	97.2

表2　対象者の有効回答

	回収数	有効回答数	有効回答率(%)
小 5	4,032	3,764	93.4
中 1	4,197	3,849	91.7
高 1	5,109	4,670	91.4
高 3	4,833	4,112	85.1
保護者	16,653	15,797	94.9
教師	2,059	2,032	98.7

３．調査方法

調査票等一式は，日本学校保健会より各都道府県学校保健（連合）会に一括して送付し，対象校に配布した。回収については，調査終了後すみやかに対象校毎に児童生徒用，保護者用，教師用の各調査票を一括して日本学校保健会へ送付するよう依頼し，その後，情報処理機関にデータ入力を委託した。

なお，児童生徒調査と保護者調査については，暗号番号を用いて，回答のペアリングが可能となるよう工夫して実施した。

調査実施時期は平成 22 年 11 月～12 月とした。

４．調査内容

(1) 調査項目

各調査の調査項目の枠組みは，以下に示す通りである。

1) 児童生徒調査（表 3）

「保健の学習意欲」(11 問)，「経験した保健学習の状況」(各校種で 6～12 問)，「健康の価値の認知」(3 問)，「日常生活における実践状況」(3 問)，について，平成 16 年の調査と同じ項目を用いた。

「小中高校共通の保健の知識テスト（共通テスト)」(50 問，表 4）は，小 5，中 1，高 1 および高 3 の全対象者に共通の問題であり，問題の作成にあたっては，平成 16 年調査時に作成した共通テスト（9 問）と保護者調査で設定した保健学習に関する内容（18 問）を踏まえ，保健に関する知識をより広く把握することを原則として作成した。項目の枠組みは，「①保健活動，②食生活，③運動習慣，④睡眠・休養，⑤体の発育・発達，⑥思春期の体，⑦妊娠・出産，⑧感染症，⑨生活習慣病，⑩むし歯・歯周病，⑪喫煙・飲酒・薬物乱用，⑫けがの防止，⑬交通安全，⑭応急手当，⑮不安・悩み・ストレス，⑯健康と環境，⑰食品の安全，⑱保健・医療機関，⑲防犯，⑳自然災害への対処，㉑高齢者と健康，㉒医薬品，㉓労働と健康，㉔がん，㉕平均寿命」の 25 項目で構成され，各項目に関して 1～3 問を設定した。問題は全て真偽法とし，回答の選択肢は「正しい」，「まちがい」に加えて「わからない」を設定した。

「保健学習の内容の知識テスト」(各校種で 10～25 問，表 5）については，学習指導要領で扱われている内容に対応した質問項目となっており，小学校 5 年生用では小学校 3・4 年の内容，中学校 1 年生用では小学校 5・6 年の内容，高校 1 年生用では中学校の内容，高校 3 年生用では高校の内容について

それぞれ質問した。主として知識・理解について問う問題と，主として思考・判断について問う問題で構成され，平成 16 年調査と同じ問題を各校種で 1～4 問設定した。問題の作成にあたっては，平成 20 年および平成 21 年告示の学習指導要領で示された新しい保健学習の内容を含めて全項目に対応していること，平成 16 年調査で選択肢がやや複雑であった問題は，問う知識をより明確にするために「正しい」「まちがい」に「わからない」を含めた真偽法も採用すること等の改善を図った。

2）保護者調査（表 6）

「保健学習への関心」（6 問）および「保健学習への考え」（4 問）について，平成 16 年調査と同じ項目を用いた。「保健学習の内容に対する要望」（23 問）については，平成 16 年調査と同じ 18 項目に加えて，防犯，自然災害と避難，高齢者と健康，医薬品の正しい利用，労働と健康についての 5 項目を新たに加えた。さらに，今回は「学校教育で育成すべき児童生徒の能力について」（1 問）を新たに設定した。なお調査票では「保健の授業」という表現を用いているが，保健指導との混同を避けるため，教科として体育・保健体育の時間に行う授業に対して回答するように明記した。

3）教師調査（表 7）

「保健学習の実施状況」（20 問），「保健学習の指導意欲」（10 問），「健康の価値の認知」（3 問），「保健学習の指導に関わる周囲の状況」（3 問），「過去 5 年間の保健学習に関する研修への参加状況」（4 問），「保健科教育法または体育科・保健体育科教育法の履修状況」（3 問），「教育実習での保健学習の担当状況」（3 問）について，平成 16 年の調査と同じ項目を用いた。これに加えて今回は，「体育学習の指導意欲」（10 問），「学校教育で育成すべき児童生徒の能力について」（1 問）を新たに設定した。

児童生徒調査および教師調査のその他の項目については，「平成 13 年度小中学校教育課程実施状況調査」（国立教育政策研究所教育課程研究センター）および日本学校保健学会共同研究「保健教育」等（1979～1981，1984～1986）における調査内容を参考にした。なお，児童生徒調査の「保健の学習意欲」，教師調査の「保健学習の指導意欲」，「体育学習の指導意欲」については，野津有司らが開発した尺度を用いた。

表 3 児童生徒調査の枠組み

		質問数			
		小5	中1	高 1	高 3
属性（性別）		1	1	1	1
小中高校共通の保健の知識テスト	（共通テスト）	50	50	50	50
保健学習の内容の知識テスト	小学校3・4年	10	―	―	―
	小学校5・6年	―	11	―	―
	中学校	―	―	25	―
	高校	―	―	―	18
保健の学習意欲	感情	3	3	3	3
	価値	3	3	3	3
	期待	5	5	5	5
経験した保健学習の状況	小学校3・4年	6	―	―	―
	小学校5・6年	―	9	―	―
	中学校	―	―	12	―
	高校	―	―	―	6
健康の価値の認知		3	3	3	3
日常生活における実践状況		3	3	3	3

― 調査せず

表 4 児童生徒調査「小中高校共通の保健の知識テスト（共通テスト）」の枠組み

項 目	問 題	項 目	問 題
① 保健活動	1. WHOの活動	⑬ 交通安全	25. 後部座席のシートベルト着用義務
	2. 健康増進法		26. 交通事故の件数の増減
② 食生活	3. 食品摂取と健康	⑭ 応急手当	31. 鼻出血の応急手当
	4. 食育とは		32. AEDの使用資格
③ 運動習慣	5. 血管の病気と有酸素運動	⑮ 不安・悩み・ストレス	33. 精神の発達とストレス
	6. 食事，運動，休養のバランス		34. 心身相関のしくみ
④ 睡眠・休養	7. 睡眠時間と健康	⑯ 健康と環境	37. 室内での熱中症
	8. 睡眠と成長ホルモン		38. 飲料水の水質管理
⑤ 体の発育・発達	9. 身体器官の発育	⑰ 食品の安全	39. 食中毒の発生時期
	10. 脳の働き		40. 食品衛生法
⑥ 思春期の体	11. 生殖機能の発達	⑱ 保健・医療機関	43. 国民皆保険制度
	12. 思春期の体の変化とホルモン		44. 献血の年齢条件
⑦ 妊娠・出産	13. 家族計画とは	⑲ 防犯	27. 犯罪の起こりやすい場所
	14. 妊娠・出産時の健康		28. 地域の防犯活動
⑧ 感染症	15. エイズの感染経路	⑳ 自然災害への対処	29. 地震発生後の対処
	16. 感染症予防とマスク		30. 緊急地震速報の役割
	48. わが国のエイズ患者数の動向	㉑ 高齢者と健康	36. 高齢者の運動
⑨ 生活習慣病	17. わが国の3大死因	㉒ 医薬品	41. 医薬品の副作用
	18. 生活習慣病の原因		42. 錠剤薬の飲み方
⑩ むし歯・歯周病	19. むし歯の原因	㉓ 労働と健康	45. 労働災害の防止
	20. 歯周病とは		46. 労働基準法の目的
⑪ 喫煙・飲酒・薬物乱用	21. 喫煙の健康影響	㉔ がん	49. わが国のがん死亡者数の動向
	22. 覚醒剤の依存性		50. がん検診の受診の増減
⑫ けがの防止	23. 傷害の発生要因	㉕ 平均寿命	35. わが国の平均寿命の順位
	24. 時刻，天候とけがの危険性		47. 平均寿命の意味

表 5 児童生徒調査 「保健学習の内容の知識テスト」の枠組み

小学校5年生

問		単元名（小学校3・4年）	平成16年調査
Ⅲ−1	（1）	毎日の生活と健康	−
	（2）	毎日の生活と健康	−
	（3）	毎日の生活と健康	−
	（4）	毎日の生活と健康	−
	（5）	育ちゆく体とわたし	−
	（6）	育ちゆく体とわたし	−
Ⅲ−2	（1）	毎日の生活と健康	○
	（2）	毎日の生活と健康	△
	（3）	育ちゆく体とわたし	○
	（4）	育ちゆく体とわたし	○

中学校1年生

問			単元名（小学校5・6年）	平成16年調査
Ⅲ−1	（1）		心の健康	−
	（2）		心の健康	−
	（3）		病気の予防	−
	（4）		病気の予防	−
	（5）		病気の予防	−
Ⅲ−2	（1）		心の健康	−
	（2）	A	けがの防止	△
		B	けがの防止	△
	（3）		病気の予防	○
	（4）		けがの防止	−
	（5）		病気の予防	−

高校1年生

問		単元名（中学校）	平成16年調査
Ⅲ−1	（1）	心身の機能の発達と心の健康	−
	（2）	心身の機能の発達と心の健康	−
	（3）	心身の機能の発達と心の健康	−
	（4）	心身の機能の発達と心の健康	−
	（5）	心身の機能の発達と心の健康	−
	（6）	健康と環境	−
	（7）	健康と環境	−
	（8）	健康と環境	−
	（9）	傷害の防止	−
	（10）	傷害の防止	−
	（11）	傷害の防止	−
	（12）	傷害の防止	−
	（13）	健康な生活と疾病の予防	−
	（14）	健康な生活と疾病の予防	−
	（15）	健康な生活と疾病の予防	−
	（16）	健康な生活と疾病の予防	−
	（17）	健康な生活と疾病の予防	−
	（18）	健康な生活と疾病の予防	−
	（19）	健康な生活と疾病の予防	−
Ⅲ−2	（1）	健康と環境	○
	（2）	健康な生活と疾病の予防	○
	（3）	健康な生活と疾病の予防	○
	（4）	健康な生活と疾病の予防	○
	（5）	心身の機能の発達と心の健康	−
	（6）	傷害の防止	−

高校3年生

問		単元名（高等学校）	平成16年調査
Ⅲ	（1）	現代社会と健康	−
	（2）	現代社会と健康	○
	（3）	現代社会と健康	△
	（4）	現代社会と健康	−
	（5）	現代社会と健康	−
	（6）	現代社会と健康	−
	（7）	現代社会と健康	−
	（8）	現代社会と健康	−
	（9）	現代社会と健康	−
	（10）	現代社会と健康	−
	（11）	現代社会と健康	△
	（12）	生涯を通じる健康	○
	（13）	生涯を通じる健康	△
	（14）	生涯を通じる健康	−
	（15）	社会生活と健康	−
	（16）	社会生活と健康	△
	（17）	社会生活と健康	○
	（18）	社会生活と健康	△

表の見方

（　　）は主として思考・判断を問う問題
それ以外は主として知識・理解を問う項目
○：平成16年調査と同じ問題
△：平成16年調査の問題を一部修正しているが，ほとんど同じ意味内容の問題
—：新たに作成した問題

表 6 保護者調査の枠組み

	質問数
属性（続柄）	1
保健学習への関心	6
保健学習に対する考え	4
保健学習の内容に関する要望	23
学校教育で育成すべき児童生徒の能力について	1

表 7 教師調査の枠組み

		質問数
属性（校種，年齢，性別，教職経験年数，職種，教員免許種，平成21年度の保健授業担当の有無）		7
保健学習の実施状況	計画的な実施	1
	内容の実施程度	1
	指導の準備状況	2
	評価	2
	指導方法の工夫	10
	児童生徒への影響に対する自己評価	4
保健学習の指導意欲	感情	3
	価値	3
	期待	4
健康の価値の認知		3
学校教育で育成すべき児童生徒の能力について		1
保健学習の指導に関わる周囲の状況		3
保健科教育法または体育科・保健体育科教育法の履修状況		3
教育実習での保健学習の担当状況		3
過去5年間の保健学習に関する研修への参加状況		4
体育学習の指導意欲	感情	3
	価値	3
	期待	4

(2) 調査内容の妥当性・信頼性

1) 調査内容の妥当性

調査内容の妥当性については，教科教育を専門とする大学教員，小学校，中学校，高校の保健学習担当教師，指導主事や管理職などの専門家によって検討された。

2) 測定尺度の信頼性

測定した尺度の信頼性については，各調査において Cronbach の α 係数を算出して内的一貫性を検討した。その結果，児童生徒調査では，「保健の学習意欲」が各学年で.870～.900 を示した。また，教師調査では「保健学習の指導意欲」が各校種で.879～.913，「体育学習の指導意欲」が.879～.919 をそれぞれ示した。

5．分析方法

本調査結果のデータ入力の業務は，守秘義務を誓約した情報処理機関に委託された。また，詳細な解析については，本委員会において以下のように行った。

(1) 児童生徒調査

「小中高校共通の保健の知識テスト（共通テスト)」については，まず，正答の合計の分布を示し，同時に平均得点，標準偏差，最大値，最小値を男女別・学年別で算出した。続いて，問題別の正答率と回答状況を示し，男女差および学年差について χ^2 検定を行った。

「保健学習の内容の知識テスト」については，対象学年ごとに，正答の合計の分布，問題別の正答率と回答状況を男女別で示し，男女差について χ^2 検定を行った。また，平成 16 年調査と比較可能な項目は，調査実施年による正答率の差について χ^2 検定を行った。

「保健の学習意欲」,「経験した保健学習の状況」,「健康の価値の認知」,「日常生活における実践状況」については，質問項目別の回答状況について，男女別・学年別で集計し，男女差，学年差について χ^2 検定を行った。また，平成 16 年調査と比較可能な項目は，調査実施年による回答状況の差について χ^2 検定を行った。

(2) 保護者調査

各質問項目の回答状況について，子どもの学年別で集計した。また，平成 16 年調査と比較可能な項目は，調査実施年による回答状況の差について χ^2 検定を行った。

(3) 児童生徒調査と保護者調査のペアリングによる分析

児童生徒調査の保護者調査の各解析対象者のうち，暗号番号によるペアリングが可能であった 14,053 組（小 5：3,466 組，中 1：3,391 組，高 1：3,891 組，高 3：3,305 組）を対象とした。

分析にあたっては，まず，保護者調査の「保健の授業で学ぶ内容に関心がある」の質問に「あてはまる」と回答した群と「あてはまらない」もしくは「わからない」と回答した群との 2 群に分け，児童生徒調査の「保健の学習意欲」の平均得点および「保健学習の内容に関する知識テスト」の平均正答数を

それぞれ算出し，t 検定を用いて群間の比較を行った。また，保護者調査の「学校教育で育成すべき児童生徒の能力」の順位づけ（1～5 番）の質問に「健康・安全に生活する能力」を「1 番」と回答した群と「5 番」と回答した群の 2 群に分け，児童生徒調査の「保健の学習意欲」の平均得点および「保健学習の内容に関する知識テスト」の平均正答数をそれぞれ算出し，t 検定を用いて群間の比較を行った。

(4) 教師調査

各質問項目別の回答状況について，男女別・校種別で集計した。また，平成 16 年調査と比較可能な項目は，調査実施年による回答状況の差について χ^2 検定および残差分析を行った。

保健学習の指導意欲に関する構造モデルの検証にあたっては，まず，測定した各項目の回答について，望ましい状況であるほど高得点を与えてスコア化し（例：「保健学習の指導は好きだ」の質問に対して「そう思う」4 点，「どちらかといえばそう思う」3 点，「どちらかといえばそう思わない」2 点，「そう思わない」1 点），概念ごとにスコアを合算した。その後，保健学習の指導意欲に関する仮説モデルについて，共分散構造分析を用いて概念間の因果係数等およびモデルの適合度を校種別に算出した。

なお，統計上の有意水準については，すべて 5%とした。統計パッケージは SPSS for Windows および Amos を用いた。

文献

1）財団法人 日本学校保健会：平成 16 年度保健学習推進委員会報告書－保健学習推進上の課題を明らかにするための実態調査－．1-235，東京，2005

2）日本学校保健会保健学習推進委員会企画調査部会：保健学習の実態と課題－児童生徒，教師，保護者を対象とした全国調査の結果－．第 52 回日本学校保健学会 講演集：112-113，2005

3）野津有司，和唐正勝，渡邉正樹ほか：全国調査による保健学習の実態と課題－児童生徒の学習状況と保護者の期待について－．学校保健研究 49：280-295，2007

Ⅱ. 結果および考察

1. 児童生徒調査

1．児童生徒調査

(1) 対象者の属性（平成 22 年調査）

	男		女		全 体	
	n	%	n	%	n	%
小5	1,927		1,837		3,764	
		51.2		48.8		100.0
中1	1,983		1,866		3,849	
		51.5		48.5		100.0
高1	2,262		2,408		4,670	
		48.4		51.6		100.0
高3	1,881		2,231		4,112	
		45.7		54.3		100.0
計	8,053		8,342		16,395	
		49.1		50.9		100.0

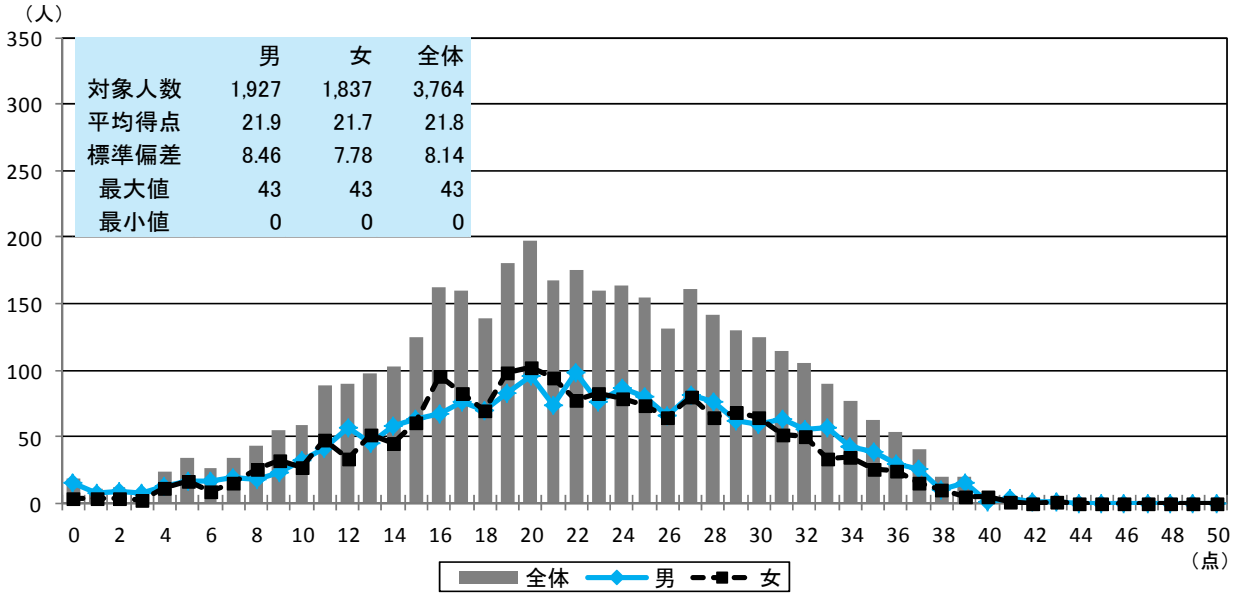
（参考）平成 16 年調査の対象者

	男		女		全 体	
	n	%	n	%	n	%
小5	2,246		2,142		4,388	
		51.2		48.8		100.0
中1	2,282		2,195		4,477	
		51.0		49.0		100.0
高1	2,370		2,610		4,980	
		47.6		52.4		100.0
高3	2,253		2,479		4,732	
		47.6		52.4		100.0
計	9,151		9,426		18,577	
		49.3		50.7		100.0

(2) 小中高校共通の保健の知識テスト（共通テスト）

1) 正答の合計の分布

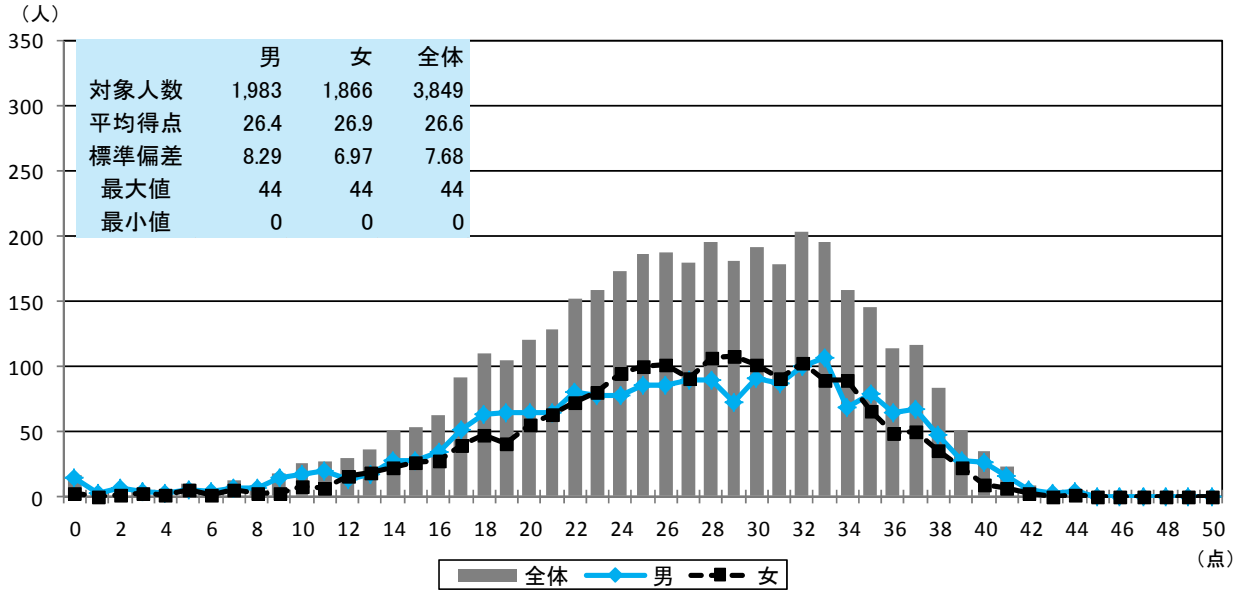
小学校 5 年生



	男	女	全体
対象人数	1,927	1,837	3,764
平均得点	21.9	21.7	21.8
標準偏差	8.46	7.78	8.14
最大値	43	43	43
最小値	0	0	0

・全 50 問中の平均正答数±標準偏差は，男子 21.9±8.46，女子 21.7±7.78 であり，男女差はみられなかった。
・正答数の最大値は，男女共に 43 であり，男女 1 人ずつみられた。
・正答数が 0 の者は 19 人（男子 15 人，女子 4 人）みられた。

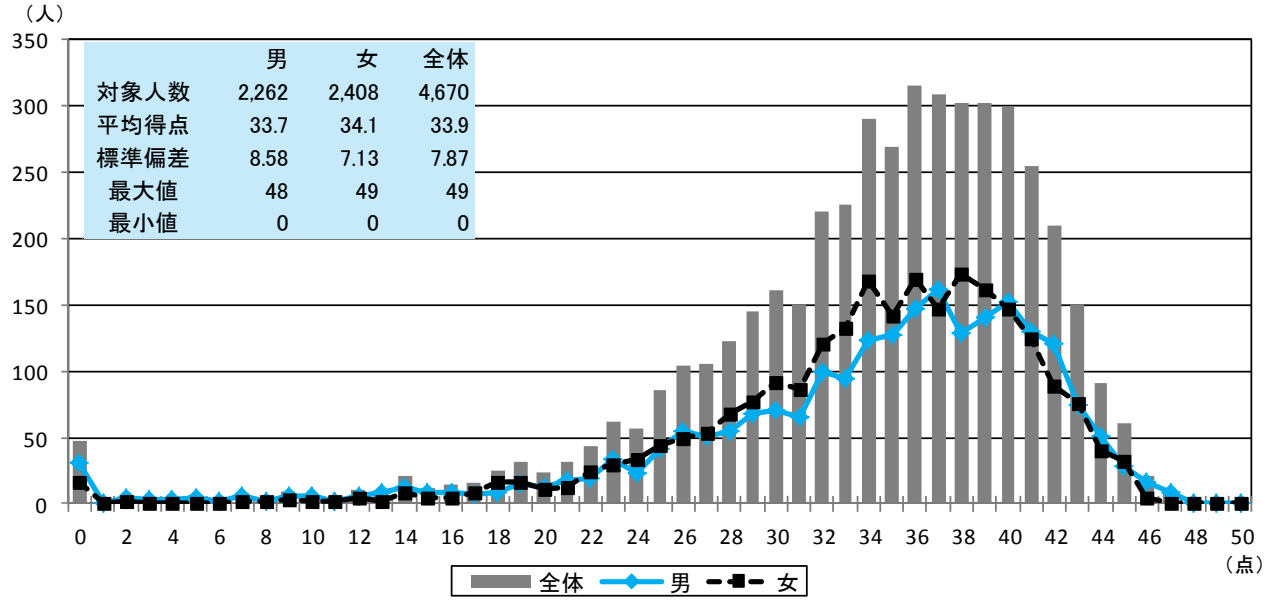
中学 1 年生



	男	女	全体
対象人数	1,983	1,866	3,849
平均得点	26.4	26.9	26.6
標準偏差	8.29	6.97	7.68
最大値	44	44	44
最小値	0	0	0

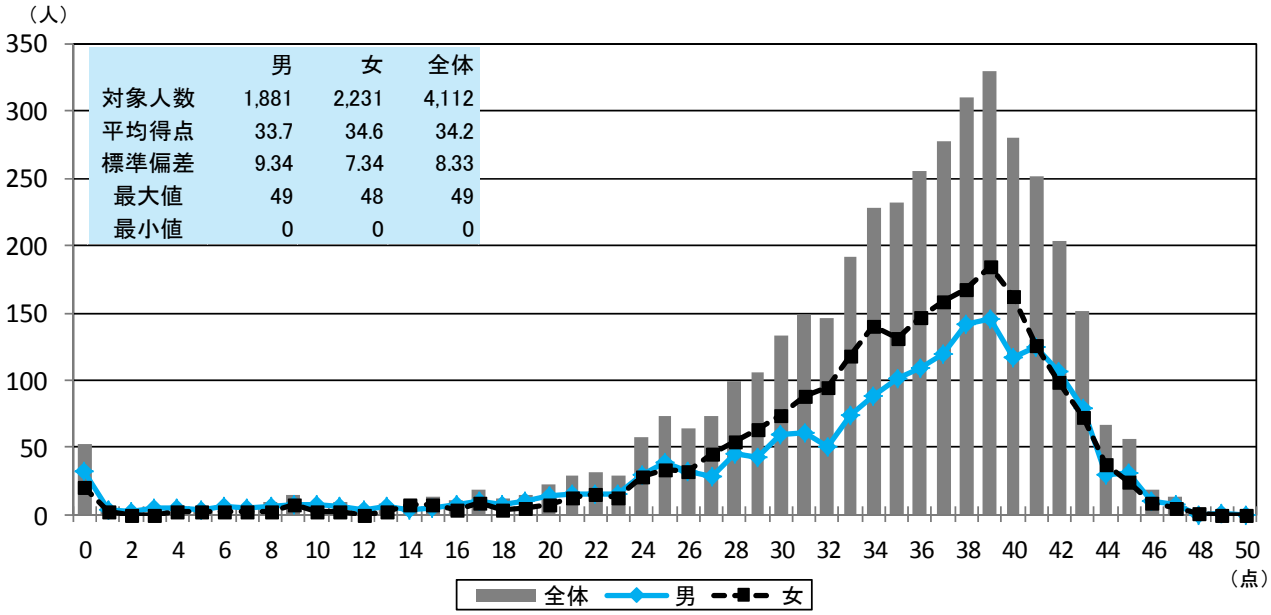
・全 50 問中の平均正答数±標準偏差は，男子 26.4±8.29，女子 26.9±6.97 であり，男女差がみられた。
・正答数の最大値は，男女共に 44 であり，男子が 4 人，女子が 1 人みられた。
・正答数が 0 の者は 16 人（男子 14 人，女子 2 人）みられた。

高校１年生



・全 50 問中の平均正答数±標準偏差は，男子 33.7±8.58，女子 34.1±7.13 であり，男女差はみられなかった。
・正答数の最大値は，男子が 48（1 人），女子が 49（1 人）であった。
・正答数が 0 の者は 47 人（男子 31 人，女子 16 人）みられた。

高校３年生



・全 50 問中の平均正答数±標準偏差は，男子 33.7±9.34，女子 34.6±7.34 であり，男女差がみられた。
・正答数の最大値は，男子が 49（1 人），女子が 48（1 人）であった。
・正答数が 0 の者は 53 人（男子 32 人，女子 21 人）みられた。

また，全 50 問中の平均正答数の学年間差について男女別で分析したところ，いずれも有意差が認められ，小 5 から中 1，高 1 に学年が上がるにつれ，平均正答数が有意に高値を示した。しかし，高 1 と高 3 との間では，平均正答数に有意差は認められなかった。

2）問題別の正答率

問 1～問 30

（%）

	男				女				全　体			
	小5	中1	高1	高3	小5	中1	高1	高3	小5	中1	高1	高3
1. WHOの活動	35.6 −	60.0 −	89.7 +	84.4 +	26.4 −	57.4 −	90.9 +	86.0 +	31.1 −	58.7 −	90.3 +	85.3 +
2. 健康増進法	24.8 −	24.5 −	54.0 +	39.3 +	21.3 −	19.9 −	56.9 +	38.3 +	23.1 −	22.3 −	55.5 +	38.8 +
3. 食品摂取と健康	77.3 +	73.0 −	74.3	77.2 +	76.1 +	72.9	70.5 −	75.9 +	76.7 +	73.0 −	72.3 −	76.5 +
4. 食育とは	42.9 −	63.3 −	79.1 +	76.3 +	43.6 −	62.0 −	79.0 +	79.0 +	43.3 −	62.7 −	79.1 +	77.8 +
5. 血管の病気と有酸素運動	39.3 −	49.4 −	64.4 +	67.5 +	31.2 −	42.4 −	54.8 +	57.0 +	35.4 −	46.0 −	59.4 +	61.8 +
6. 食事，運動，休養のバランス	91.3 −	93.0	94.7 +	91.9	93.7 −	95.4	97.2 +	96.7 +	92.5 −	94.2	96.0 +	94.5
7. 睡眠時間と健康	41.6 −	57.4 −	82.5 +	84.5 +	44.5 −	61.8 −	87.1 +	87.4 +	43.0 −	59.5 −	84.9 +	86.1 +
8. 睡眠と成長ホルモン	62.3 −	79.2	89.2 +	89.6 +	63.9 −	82.0	90.1 +	90.9 +	63.1 −	80.5	89.7 +	90.3 +
9. 身体器官の発育	11.1 −	14.9 −	22.7 +	28.1 +	10.7 +	16.2 +	24.5 +	31.3 +	10.9 −	15.5 −	23.6 +	29.8 +
10. 脳の働き	72.8 −	85.2	90.8 +	90.3 +	73.7 −	87.4	92.1 +	94.7 +	73.2 −	86.3	91.4 +	92.7 +
11. 生殖機能の発達	17.8 −	40.1 −	59.0 +	69.9 +	30.0 −	60.1 −	75.9 +	85.7 +	23.8 −	49.8 −	67.7 +	78.5 +
12. 思春期の体の変化とホルモン	49.4 −	70.2 −	84.8 +	88.3 +	60.4 −	79.6 −	89.0 +	93.1 +	54.7 −	74.8 −	87.0 +	90.9 +
13. 家族計画とは	15.9 −	16.5 −	29.9	54.5 +	12.9 −	15.5 −	26.6 −	57.4 +	14.4 −	16.0 −	28.2	56.1 +
14. 妊娠・出産時の健康	46.7 −	50.0 −	76.0 +	83.4 +	49.5 −	63.4 −	83.7 +	91.5 +	48.1 −	56.5 −	80.0 +	87.8 +
15. エイズの感染経路	17.6 −	48.6 −	84.4 +	83.0 +	14.6 −	50.5 −	86.5 +	88.5 +	16.1 −	49.5 −	85.5 +	86.0 +
16. 感染症予防とマスク	82.7 −	85.0 −	89.8 +	87.6	86.7 −	90.0 −	94.5 +	92.7 +	84.6 −	87.4 −	92.2 +	90.4 +
17. わが国の3大死因	10.1 −	13.9 −	43.1 +	35.0 +	6.3 −	8.8 −	44.2 +	33.3 +	8.2 −	11.4 −	43.7 +	34.1 +
18. 生活習慣病の原因	17.3 −	37.2 −	61.8 +	56.6 +	14.2 −	40.7 −	66.5 +	63.0 +	15.8 −	38.9 −	64.3 +	60.0 +
19. むし歯の原因	18.8 −	27.1 −	40.8 +	49.5 +	17.3 −	23.1 −	35.1 +	43.3 +	18.1 −	25.2 −	37.9 +	46.1 +
20. 歯周病とは	72.8 −	82.5	89.8 +	85.4 +	75.0 −	87.4	92.2 +	92.8 +	73.9 −	84.9	91.1 +	89.4 +
21. 喫煙の健康影響	81.4 −	84.4	89.0 +	82.9 −	81.1 −	84.2	89.1 +	81.2 −	81.2 −	84.3	89.0 +	82.0 −
22. 覚醒剤の依存性	77.8 −	91.8 +	93.5 +	90.5 +	80.1 −	95.9 +	96.6 +	96.3 +	78.9 −	93.8 +	95.1 +	93.7 +
23. 傷害の発生要因	46.3 −	51.7 −	72.8 +	76.2 +	45.1 −	51.4 −	70.6 +	71.4 +	45.7 −	51.6 −	71.7 +	73.6 +
24. 時刻，天候とけがの危険性	78.4 −	83.7 −	89.3 +	89.3 +	75.9 −	83.9 −	91.1 +	92.4 +	77.2 −	83.8 −	90.2 +	91.0 +
25. 後部座席のシートベルト着用義務	79.3 +	78.4	77.8	73.4 −	83.1 +	83.0 +	78.6 −	80.2	81.1 +	80.6 +	78.2	77.1 −
26. 交通事故の件数の増減	28.9 −	38.8 −	47.2 +	48.0 +	26.7 −	38.8 −	45.5 +	50.8 +	27.8 −	38.8 −	46.3 +	49.5 +
27. 犯罪の起こりやすい場所	58.8 −	73.7	82.5 +	82.7 +	63.1 −	79.6	87.0 +	88.6 +	60.9 −	76.6	84.8 +	85.9 +
28. 地域の防犯活動	74.6 −	75.5 −	80.8 +	78.1	74.7 −	77.8	82.5 +	79.9	74.7 −	76.6 −	81.7 +	79.1
29. 地震発生後の対処	65.2	66.2	67.6	67.0	69.4	68.5	66.1	68.9	67.2	67.3	66.8	68.0
30. 緊急地震速報の役割	54.2 −	64.6	68.5 +	63.9	47.5 −	60.0	65.0 +	63.2 +	50.9 −	62.4	66.7 +	63.5 +

下線は，男女差で有意に高率を示す。（$p<0.05$，χ^2検定）

学年差については，「29. 地震発生後の対処」のみ「男」，「女」，「全体」のいずれも有意差なし。それ以外の全ての質問項目で「男」，「女」，「全体」のいずれも有意差あり。（$p<0.05$，χ^2検定）

+ 期待度数以上（$p<0.05$，残差分析）

− 期待度数未満（$p<0.05$，残差分析）

問 31～問 50

（%）

	男				女				全　体			
	小5	中1	高1	高3	小5	中1	高1	高3	小5	中1	高1	高3
31. 鼻出血の応急手当	44.4 −	47.9 −	61.0 +	59.6 +	50.6 −	56.2 −	65.8 +	64.8 +	47.4 −	51.9 −	63.4 +	62.4 +
32. AEDの使用資格	28.4 −	51.4 −	77.7 +	80.4 +	27.1 −	49.9 −	75.0 +	83.1 +	27.8 −	50.7 −	76.3 +	81.9 +
33. 精神の発達とストレス	29.4 −	46.2 −	77.1 +	76.2 +	25.1 −	47.2 −	73.7 +	71.7 +	27.3 −	46.7 −	75.4 +	73.8 +
34. 心身相関のしくみ	68.3 −	68.8 −	79.0 +	81.0 +	64.2 −	66.7 −	76.8 +	80.1 +	66.3 −	67.8 −	77.8 +	80.5 +
35. わが国の平均寿命の順位	31.1	32.0	30.1 −	35.1 +	24.9	25.8	25.2	28.5 +	28.1	29.0	27.6 −	31.5 +
36. 高齢者の運動	60.4 −	77.5	88.6 +	86.8 +	66.5 −	80.7 −	91.2 +	94.1 +	63.4 −	79.0 −	90.0 +	90.8 +
37. 室内での熱中症	69.5 −	81.5	88.9 +	86.4 +	71.3 −	85.5	92.0 +	92.1 +	70.4 −	83.5	90.5 +	89.5 +
38. 飲料水の水質管理	58.5 −	63.7 −	71.0 +	71.0 +	51.3 −	63.4	69.8 +	72.5 +	55.0 −	63.5 −	70.4 +	71.8 +
39. 食中毒の発生時期	59.1 −	76.1	86.7 +	85.6 +	62.7 −	80.2 −	91.0 +	91.8 +	60.9 −	78.1 −	89.0 +	89.0 +
40. 食品衛生法	24.3 −	45.2 −	63.4 +	64.2 +	15.8 −	41.1 −	58.2 +	62.8 +	20.2 −	43.2 −	60.7 +	63.4 +
41. 医薬品の副作用	8.7 −	11.9 −	27.6 +	21.9 +	7.5 −	9.5 −	24.8 +	19.7 +	8.1 −	10.7 −	26.1 +	20.7 +
42. 錠剤薬の飲み方	35.5 −	40.0 −	73.2 +	63.4 +	32.4 −	33.8 −	71.8 +	60.3 +	34.0 −	37.0 −	72.5 +	61.7 +
43. 国民皆保険制度	17.5 −	21.2 −	31.4 +	43.9 +	10.8 −	15.1 −	26.4 +	34.8 +	14.2 −	18.3 −	28.8 +	39.0 +
44. 献血の年齢条件	27.3 −	30.2 −	51.0 +	46.0 +	24.5 −	31.8 −	52.1 +	49.8 +	26.0 −	30.9 −	51.6 +	48.1 +
45. 労働災害の防止	25.2 −	30.6 −	52.2 +	58.3 +	27.7 −	34.0 −	58.6 +	65.2 +	26.4 −	32.2 −	55.5 +	62.0 +
46. 労働基準法の目的	37.2 −	40.6 −	86.1 +	85.0 +	33.8 −	38.7 −	87.3 +	88.6 +	35.5 −	39.7 −	86.7 +	86.9 +
47. 平均寿命の意味	8.8 −	11.5 −	24.6 +	23.6 +	7.7 −	11.5 −	26.8 +	24.6 +	8.3 −	11.5 −	25.7 +	24.1 +
48. わが国のエイズ患者数の動向	20.3 −	23.6 −	60.3 +	54.4 +	15.0 −	20.0 −	57.1 +	51.7 +	17.7 −	21.8 −	58.6 +	52.9 +
49. わが国のがん死亡者数の動向	40.6 −	49.6 −	61.0 +	55.4 +	42.6 −	51.1 −	63.1 +	57.7 +	41.6 −	50.3 −	62.1 +	56.7 +
50. がん検診の受診の増減	6.4 −	6.3 −	11.6 +	12.7 +	5.0 −	3.4 −	9.6 +	11.0 +	5.7 −	4.9 −	10.5 +	11.8 +

下線は，男女差で有意に高率を示す。（$p<0.05$，χ^2検定）
学年差については，「29. 地震発生後の対処」のみ「男」，「女」，「全体」のいずれも有意差なし。それ以外の全ての質問項目で「男」，「女」，「全体」のいずれも有意差あり。（$p<0.05$，χ^2検定）
+ 期待度数以上（$p<0.05$，残差分析）
− 期待度数未満（$p<0.05$，残差分析）

① 正答率の男女差

男子が女子に比して高率を示した問題は，小 5 で 18 問，中 1 で 12 問，高 1 で 13 問，高 3 で 7 問であった。女子が男子に比して高率を示した問題は，小 5 で 10 問，中 1 で 18 問，高 1 で 18 問，高 3 で 24 問であった。小 5 段階では男子の方が高率を示す問題が多く，中 1 以降では女子の方が高率を示す問題が多くなった。

小 5～高 3 のいずれの学年においても，男子が女子に比して高率を示したのは「5. 血管の病気と有酸素運動」，「35. わが国の平均寿命の順位」，「43. 国民皆保険制度」の 3 問であり，いずれの学年においても，女子が男子に比して高率を示したのは「6. 食事，運動，休養のバランス」，「11. 生殖機能の発達」，「12. 思春期の体の変化とホルモン」，「16. 感染症予防とマスク」，「27. 犯罪の起こりやすい場所」，「31. 鼻出血の応急手当」，「36. 高齢者の運動」，「39. 食中毒の発生時期」の 8 問であった。一方，いずれの学年においても男女差が示されなかったのは「21. 喫煙の健康影響」，「26. 交通事故の件数の増減」，「28. 地域の防犯活動」，「47. 平均寿命の意味」，「49. わが国のがん死亡者数の動向」の 5 問であった。

② 正答率の学年傾向

正答率の学年傾向に着目したところ，主として以下に示すA～Dの 4 つのパターンがみられた。

A．正答率がいずれの学年でも高い（7 割以上の）問題

男女共（10 問）：

「3. 食品摂取と健康」，「6. 食事，運動，休養のバランス」，「10. 脳の働き」，
「16. 感染症予防とマスク」，「20. 歯周病とは」，「21. 喫煙の健康影響」，「22. 覚醒剤の依存性」，
「24. 時刻，天候とけがの危険性」，「25. 後部座席のシートベルト着用義務」，「28. 地域の防犯活動」

女子のみ（1 問）：

「37. 室内での熱中症」

B．正答率が小 5～高 3 で高くなる問題

男女共（17 問）：

「5. 血管の病気と有酸素運動」，「7. 睡眠時間と健康」，「8. 睡眠と成長ホルモン」，
「9. 身体器官の発育」，「11. 生殖機能の発達」，「12. 思春期の体の変化とホルモン」，
「13. 家族計画とは」，「14. 妊娠・出産時の健康」，「19. むし歯の原因」，「23. 傷害の発生要因」，
「26. 交通事故の件数の増減」，「27. 犯罪の起こりやすい場所」，「32. AED の使用資格」，
「34. 心身相関のしくみ」，「40. 食品衛生法」，「43. 国民皆保険制度」，「45. 労働災害の防止」

女子のみ（9 問）：

「10. 脳の働き」，「15. エイズの感染経路」，「20. 歯周病とは」，「24. 時刻，天候とけがの危険性」，
「36. 高齢者の運動」，「37. 室内での熱中症」，「38. 飲料水の水質管理」，「39. 食中毒の発生時期」，
「46. 労働基準法の目的」

C．正答率がいずれの学年でも極めて低い（3 割未満の）問題

男女共（3 問）：

「41. 医薬品の副作用」，「47. 平均寿命の意味」，「50. がん検診の受診の増減」

男子のみ（1 問）：

「9. 身体器官の発育」

女子のみ（1 問）：

「35. わが国の平均寿命の順位」

D．高 3 の正答率が高 1 に比して有意に低い問題

男女共（11 問）：

「1. WHO の活動」，「2.健康増進法」，「16. 感染症予防とマスク」，「17. わが国の 3 大死因」，
「18. 生活習慣病の原因」，「21. 喫煙の健康影響」，「28. 地域の防犯活動」，「41. 医薬品の副作用」，
「42. 錠剤薬の飲み方」，「48. わが国のエイズ患者数の動向」，「49. わが国のがん死亡者数の動向」

男子のみ（7 問）：

「4. 食育とは」，「6.食事，運動，休養のバランス」，「20. 歯周病とは」，「22. 覚醒剤の依存性」，
「30. 緊急地震速報の役割」，「37. 室内での熱中症」，「44. 献血の年齢条件」

3）問題別の回答状況

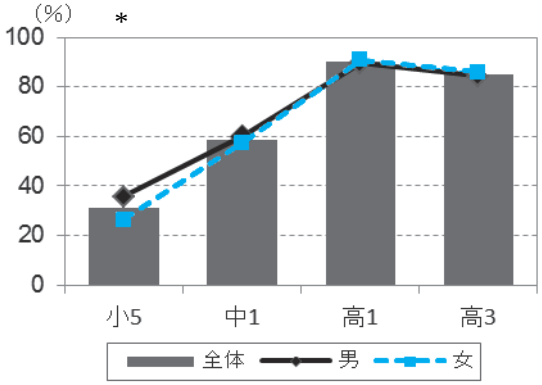
以下，　　は正答を，表における「無回答等」は無回答および無効回答の合計を，それぞれ示す。

問 1．ＷＨＯ（世界保健機関）は，国際的な保健活動を行っている機関である。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	35.6	3.9	60.5	0.1	100.0	＊
	女	1,837	26.4	2.6	71.0	0.0	100.0	
	全体	3,764	31.1	3.2	65.6	0.0	100.0	
中1	男	1,983	60.0	2.6	37.2	0.3	100.0	＊
	女	1,866	57.4	1.6	40.8	0.2	100.0	
	全体	3,849	58.7	2.1	38.9	0.2	100.0	
高1	男	2,262	89.7	1.9	8.4	0.0	100.0	
	女	2,408	90.9	1.1	7.8	0.1	100.0	
	全体	4,670	90.3	1.5	8.1	0.1	100.0	
高3	男	1,881	84.4	3.4	12.1	0.2	100.0	＊
	女	2,231	86.0	1.9	12.0	0.0	100.0	
	全体	4,112	85.3	2.6	12.0	0.1	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05
正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

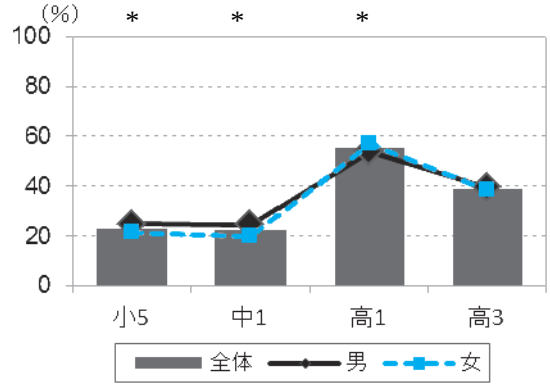
・男女共に，小５から高１までは高学年ほど正答率が高いものの，高３では正答率が低下した。

問 2．日本では，人々の健康を増進するための法律として健康増進法がある。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	24.8	13.0	62.0	0.3	100.0	＊
	女	1,837	21.3	7.3	71.1	0.2	100.0	
	全体	3,764	23.1	10.2	66.4	0.3	100.0	
中1	男	1,983	24.5	18.8	56.5	0.3	100.0	＊
	女	1,866	19.9	14.5	65.3	0.3	100.0	
	全体	3,849	22.3	16.7	60.8	0.3	100.0	
高1	男	2,262	54.0	19.1	26.7	0.2	100.0	＊
	女	2,408	56.9	14.3	28.8	0.1	100.0	
	全体	4,670	55.5	16.6	27.8	0.1	100.0	
高3	男	1,881	39.3	29.2	31.3	0.1	100.0	＊
	女	2,231	38.3	21.9	39.6	0.2	100.0	
	全体	4,112	38.8	25.2	35.8	0.1	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05
正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

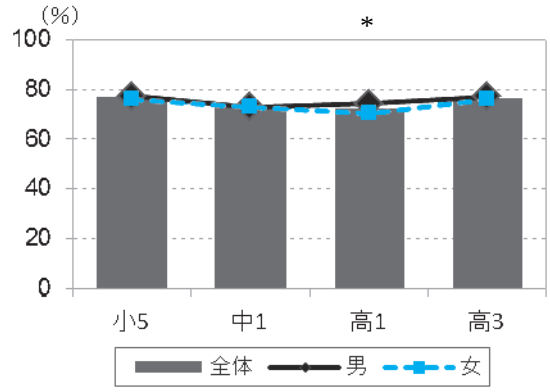
・男女共に，高１で最も高い正答率を示したが，高１から高３では低下した。

問 3．人は，できるだけいろいろな種類の食品を食べた方が健康によい。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	77.3	10.6	11.6	0.5	100.0	
	女	1,837	76.1	11.6	11.8	0.5	100.0	
	全体	3,764	76.7	11.1	11.7	0.5	100.0	
中1	男	1,983	73.0	14.5	12.1	0.4	100.0	
	女	1,866	72.9	12.7	14.2	0.2	100.0	
	全体	3,849	73.0	13.6	13.1	0.3	100.0	
高1	男	2,262	74.3	13.5	11.9	0.3	100.0	＊
	女	2,408	70.5	13.5	15.7	0.4	100.0	
	全体	4,670	72.3	13.5	13.9	0.3	100.0	
高3	男	1,881	77.2	12.1	10.5	0.2	100.0	
	女	2,231	75.9	12.2	11.5	0.3	100.0	
	全体	4,112	76.5	12.2	11.0	0.3	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05
正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

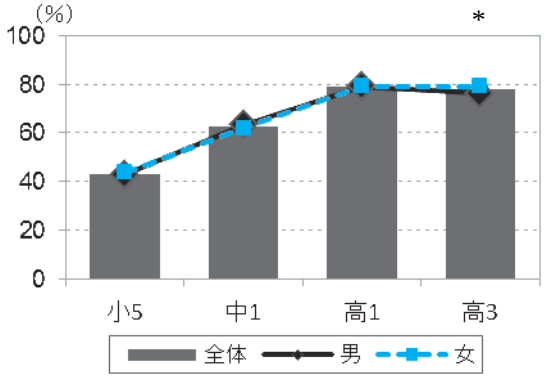
・男女共に，いずれの学年においても７割以上の高い正答率を示した。

問 4. 食育とは，食物を育てることである。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	24.2	42.9	31.8	1.1	100.0	
	女	1,837	21.3	43.6	34.3	0.8	100.0	
	全体	3,764	22.8	43.3	33.0	0.9	100.0	
中1	男	1,983	14.1	63.3	22.1	0.5	100.0	
	女	1,866	13.2	62.0	24.4	0.4	100.0	
	全体	3,849	13.7	62.7	23.2	0.4	100.0	
高1	男	2,262	7.3	79.1	13.0	0.5	100.0	*
	女	2,408	5.8	79.0	14.9	0.3	100.0	
	全体	4,670	6.5	79.1	14.0	0.4	100.0	
高3	男	1,881	8.6	76.3	14.8	0.3	100.0	
	女	2,231	6.5	79.0	14.2	0.3	100.0	
	全体	4,112	7.4	77.8	14.5	0.3	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

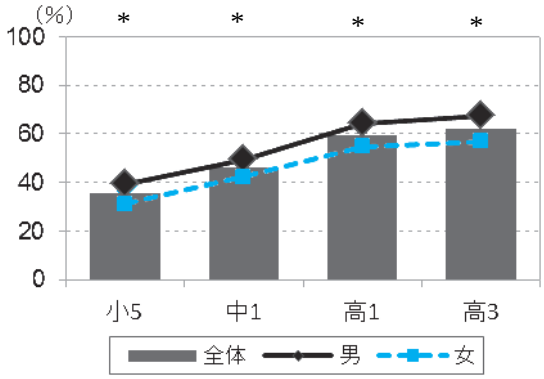
・男女共に，小 5 から高 1 までは高学年ほど正答率が高いものの，男子では高 3 で正答率が低下した。

問 5. 心臓病や脳卒中などの血管の病気の予防には，ウォーキング，ジョギング，水泳などの有酸素運動がよい。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	39.3	18.7	41.5	0.5	100.0	*
	女	1,837	31.2	19.0	49.3	0.5	100.0	
	全体	3,764	35.4	18.8	45.3	0.5	100.0	
中1	男	1,983	49.4	15.4	34.5	0.7	100.0	*
	女	1,866	42.4	17.6	39.5	0.5	100.0	
	全体	3,849	46.0	16.5	36.9	0.6	100.0	
高1	男	2,262	64.4	12.4	23.0	0.2	100.0	*
	女	2,408	54.8	15.7	29.1	0.5	100.0	
	全体	4,670	59.4	14.1	26.1	0.3	100.0	
高3	男	1,881	67.5	11.1	21.1	0.4	100.0	*
	女	2,231	57.0	15.0	27.5	0.5	100.0	
	全体	4,112	61.8	13.2	24.6	0.4	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・いずれの学年も，男子が女子に比して正答率が高かった。

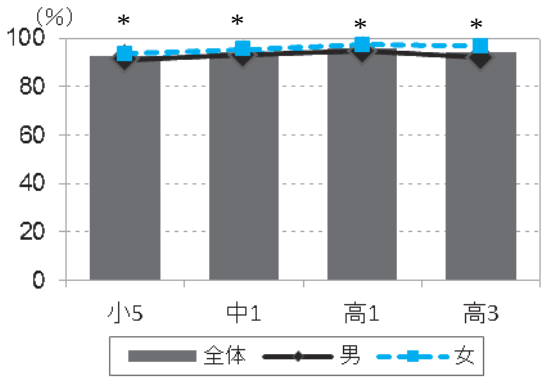
・男女共に，高学年ほど正答率が高かった。

問 6. 体力を高めるには，運動を行うばかりでなく，食事と休養についても考えてとることが必要である。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	91.3	1.7	6.6	0.4	100.0	*
	女	1,837	93.7	1.3	4.6	0.4	100.0	
	全体	3,764	92.5	1.5	5.6	0.4	100.0	
中1	男	1,983	93.0	1.9	4.7	0.4	100.0	*
	女	1,866	95.4	1.0	3.1	0.4	100.0	
	全体	3,849	94.2	1.5	3.9	0.4	100.0	
高1	男	2,262	94.7	1.6	3.5	0.1	100.0	*
	女	2,408	97.2	0.6	2.0	0.2	100.0	
	全体	4,670	96.0	1.1	2.7	0.1	100.0	
高3	男	1,881	91.9	1.8	6.2	0.1	100.0	*
	女	2,231	96.7	0.2	2.9	0.1	100.0	
	全体	4,112	94.5	0.9	4.4	0.1	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・いずれの学年も，女子が男子に比して正答率が高かった。

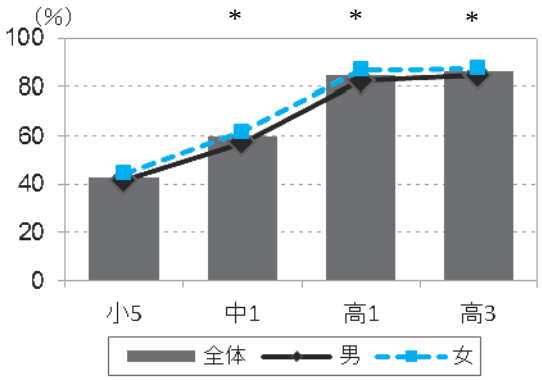
・男女共に，いずれの学年においても 9 割以上の高い正答率を示した。

問 7. 人は，眠る時間が長ければ長いほど，健康によい。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	40.2	41.6	17.2	1.0	100.0	*
	女	1,837	35.7	44.5	19.5	0.3	100.0	
	全体	3,764	38.0	43.0	18.3	0.6	100.0	
中1	男	1,983	26.9	57.4	15.4	0.3	100.0	*
	女	1,866	22.1	61.8	15.8	0.3	100.0	
	全体	3,849	24.6	59.5	15.6	0.3	100.0	
高1	男	2,262	7.1	82.5	10.2	0.2	100.0	*
	女	2,408	4.4	87.1	8.4	0.1	100.0	
	全体	4,670	5.7	84.9	9.3	0.2	100.0	
高3	男	1,881	6.3	84.5	9.1	0.1	100.0	*
	女	2,231	3.9	87.4	8.6	0.1	100.0	
	全体	4,112	5.0	86.1	8.8	0.1	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

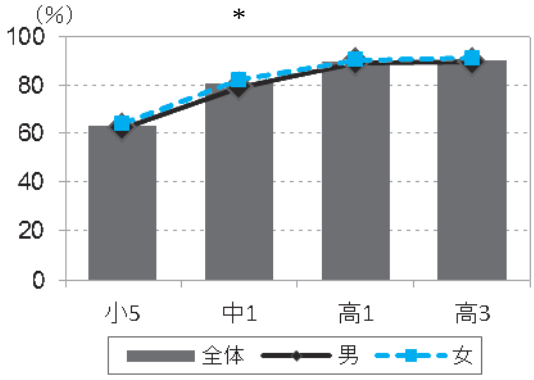
・男女共に，高学年ほど正答率が高かった。

問 8. 体の成長を促すホルモンは，睡眠中に多く出る（分泌する）。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	62.3	6.6	30.5	0.7	100.0	*
	女	1,837	63.9	3.1	32.7	0.3	100.0	
	全体	3,764	63.1	4.9	31.6	0.5	100.0	
中1	男	1,983	79.2	4.0	16.5	0.3	100.0	*
	女	1,866	82.0	2.3	15.4	0.3	100.0	
	全体	3,849	80.5	3.2	16.0	0.3	100.0	
高1	男	2,262	89.2	2.4	8.3	0.1	100.0	
	女	2,408	90.1	1.6	8.1	0.2	100.0	
	全体	4,670	89.7	2.0	8.2	0.1	100.0	
高3	男	1,881	89.6	2.2	8.1	0.1	100.0	*
	女	2,231	90.9	0.7	8.2	0.2	100.0	
	全体	4,112	90.3	1.4	8.2	0.1	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

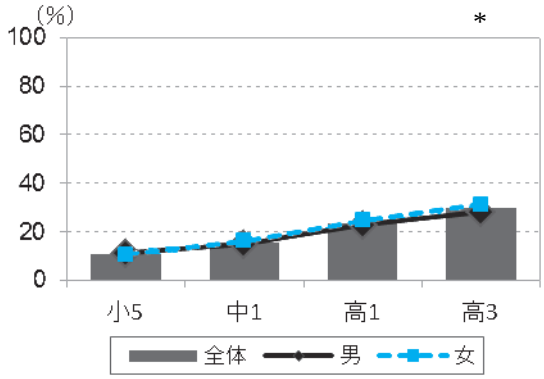
・男女共に，高学年ほど正答率が高かった。

問 9. 体のどの器官も，20 歳頃までは年齢とともに大きくなる。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	48.2	11.1	40.3	0.5	100.0	*
	女	1,837	41.3	10.7	47.7	0.3	100.0	
	全体	3,764	44.8	10.9	43.9	0.4	100.0	
中1	男	1,983	57.6	14.9	27.1	0.4	100.0	*
	女	1,866	50.1	16.2	33.2	0.5	100.0	
	全体	3,849	54.0	15.5	30.1	0.4	100.0	
高1	男	2,262	57.8	22.7	19.5	0.1	100.0	*
	女	2,408	48.4	24.5	27.0	0.2	100.0	
	全体	4,670	52.9	23.6	23.3	0.1	100.0	
高3	男	1,881	54.2	28.1	17.5	0.3	100.0	*
	女	2,231	46.2	31.3	22.2	0.3	100.0	
	全体	4,112	49.8	29.8	20.1	0.3	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

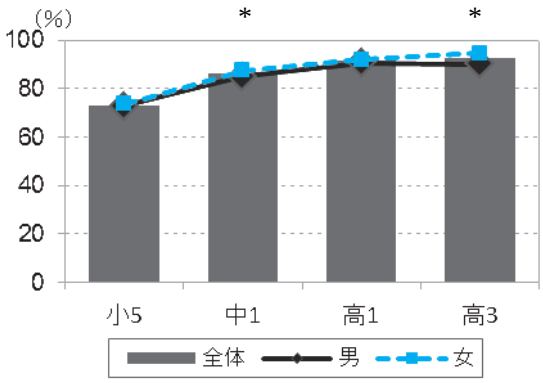
・男女共に高学年ほど正答率が高かったが，いずれの学年も約 3 割未満の低い正答率であった。

問 10. 脳は，各部分（部位）によって，それぞれ違った働きをもっている。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	72.8	4.2	22.4	0.6	100.0	*
	女	1,837	73.7	1.7	24.2	0.4	100.0	
	全体	3,764	73.2	3.0	23.3	0.5	100.0	
中1	男	1,983	85.2	2.7	11.8	0.3	100.0	*
	女	1,866	87.4	1.4	10.7	0.5	100.0	
	全体	3,849	86.3	2.1	11.2	0.4	100.0	
高1	男	2,262	90.8	1.9	7.2	0.2	100.0	
	女	2,408	92.1	1.1	6.6	0.2	100.0	
	全体	4,670	91.4	1.5	6.9	0.2	100.0	
高3	男	1,881	90.3	2.8	6.8	0.1	100.0	*
	女	2,231	94.7	0.6	4.3	0.3	100.0	
	全体	4,112	92.7	1.6	5.5	0.2	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊ p<0.05



正答率の男女差：＊ p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・男女共に，いずれの学年においても 7 割以上の高い正答率を示した。

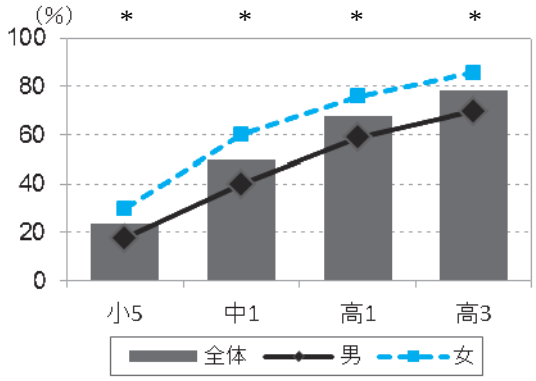
・女子では，高学年ほど正答率が高かった。

問 11. 思春期には，男子では初経，女子では精通という現象が起こる。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	35.8	17.8	45.8	0.6	100.0	*
	女	1,837	38.3	30.0	31.5	0.2	100.0	
	全体	3,764	37.0	23.8	38.8	0.4	100.0	
中1	男	1,983	27.5	40.1	32.0	0.4	100.0	*
	女	1,866	21.8	60.1	17.8	0.2	100.0	
	全体	3,849	24.7	49.8	25.1	0.3	100.0	
高1	男	2,262	17.9	59.0	23.0	0.1	100.0	*
	女	2,408	10.1	75.9	13.8	0.2	100.0	
	全体	4,670	13.9	67.7	18.3	0.1	100.0	
高3	男	1,881	15.0	69.9	15.1	0.1	100.0	*
	女	2,231	7.1	85.7	6.9	0.2	100.0	
	全体	4,112	10.7	78.5	10.7	0.1	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊ p<0.05



正答率の男女差：＊ p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・いずれの学年も，女子が男子に比して正答率が高かった。

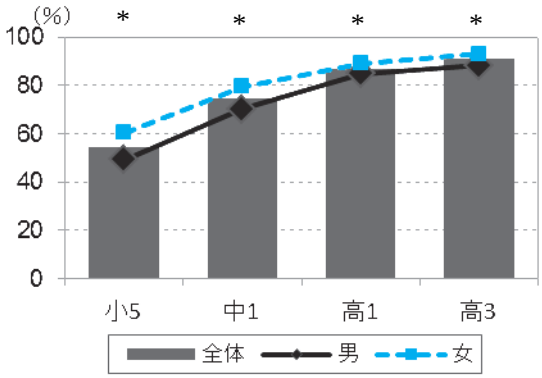
・男女共に高学年ほど正答率が高かった。

問 12. 思春期の変声や発毛などの体の変化は，ホルモンの働き（作用）によって起こる。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	49.4	7.6	42.7	0.4	100.0	*
	女	1,837	60.4	3.8	35.5	0.3	100.0	
	全体	3,764	54.7	5.7	39.2	0.3	100.0	
中1	男	1,983	70.2	4.3	25.0	0.5	100.0	*
	女	1,866	79.6	2.7	17.2	0.4	100.0	
	全体	3,849	74.8	3.5	21.2	0.5	100.0	
高1	男	2,262	84.8	3.1	12.0	0.0	100.0	*
	女	2,408	89.0	0.8	10.0	0.2	100.0	
	全体	4,670	87.0	1.9	11.0	0.1	100.0	
高3	男	1,881	88.3	2.7	8.9	0.2	100.0	*
	女	2,231	93.1	1.0	5.6	0.3	100.0	
	全体	4,112	90.9	1.8	7.1	0.2	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊ p<0.05



正答率の男女差：＊ p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・いずれの学年も女子が男子に比して正答率が高かった。

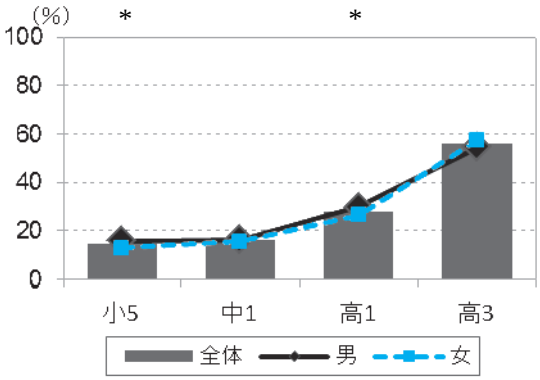
・男女共に，高学年ほど正答率が高かった。

問 13. 家族計画とは，出産する人の健康や年齢，子どもを育てる環境，家庭の経済状況などを考えて，子どもの数や産む間隔を計画的に調節することをいう。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	15.9	18.1	64.6	1.4	100.0	*
	女	1,837	12.9	15.4	70.4	1.3	100.0	
	全体	3,764	14.4	16.8	67.4	1.4	100.0	
中1	男	1,983	16.5	23.0	59.7	0.8	100.0	
	女	1,866	15.5	22.3	61.7	0.4	100.0	
	全体	3,849	16.0	22.7	60.7	0.6	100.0	
高1	男	2,262	29.9	27.0	42.9	0.2	100.0	*
	女	2,408	26.6	24.6	48.6	0.1	100.0	
	全体	4,670	28.2	25.8	45.8	0.2	100.0	
高3	男	1,881	54.5	19.0	26.4	0.1	100.0	
	女	2,231	57.4	16.4	26.0	0.2	100.0	
	全体	4,112	56.1	17.6	26.1	0.1	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

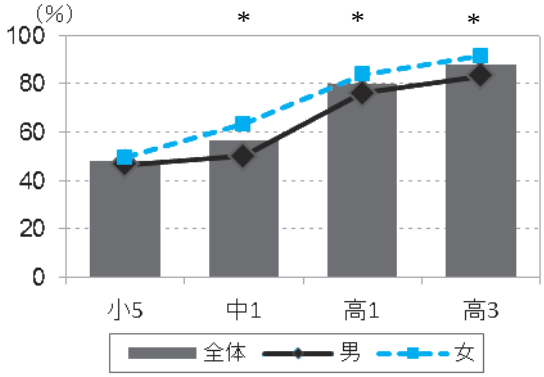
・男女共に，高学年ほど正答率が高かった。

問 14. お腹に赤ちゃんがいる時（妊娠中）や赤ちゃんを産んだ後（出産後）には，特にまわりの人の支援や保健・医療機関での定期的な受診が必要である。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	46.7	8.1	44.8	0.4	100.0	*
	女	1,837	49.5	4.4	46.2	0.0	100.0	
	全体	3,764	48.1	6.3	45.5	0.2	100.0	
中1	男	1,983	50.0	7.3	42.0	0.7	100.0	*
	女	1,866	63.4	4.3	31.8	0.4	100.0	
	全体	3,849	56.5	5.8	37.1	0.6	100.0	
高1	男	2,262	76.0	4.2	19.8	0.1	100.0	*
	女	2,408	83.7	2.8	13.3	0.2	100.0	
	全体	4,670	80.0	3.5	16.4	0.1	100.0	
高3	男	1,881	83.4	3.3	13.0	0.3	100.0	*
	女	2,231	91.5	1.4	6.9	0.3	100.0	
	全体	4,112	87.8	2.3	9.7	0.3	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

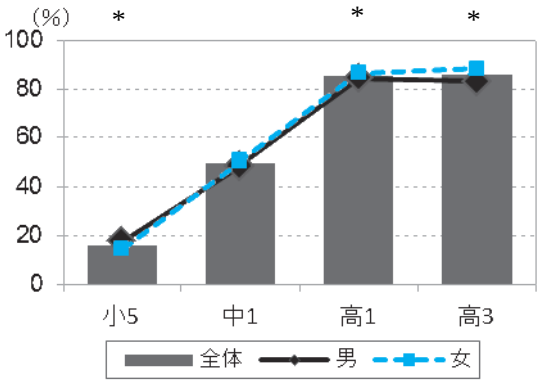
・男女共に，高学年ほど正答率が高かった。

問 15. エイズは，咳やくしゃみでうつる。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	25.1	17.6	57.2	0.1	100.0	*
	女	1,837	20.3	14.6	64.9	0.2	100.0	
	全体	3,764	22.7	16.1	61.0	0.1	100.0	
中1	男	1,983	21.0	48.6	30.0	0.4	100.0	
	女	1,866	21.5	50.5	27.7	0.2	100.0	
	全体	3,849	21.3	49.5	28.9	0.3	100.0	
高1	男	2,262	5.6	84.4	9.9	0.2	100.0	
	女	2,408	4.8	86.5	8.6	0.2	100.0	
	全体	4,670	5.2	85.5	9.2	0.2	100.0	
高3	男	1,881	6.2	83.0	10.2	0.7	100.0	*
	女	2,231	3.5	88.5	7.2	0.8	100.0	
	全体	4,112	4.7	86.0	8.5	0.8	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

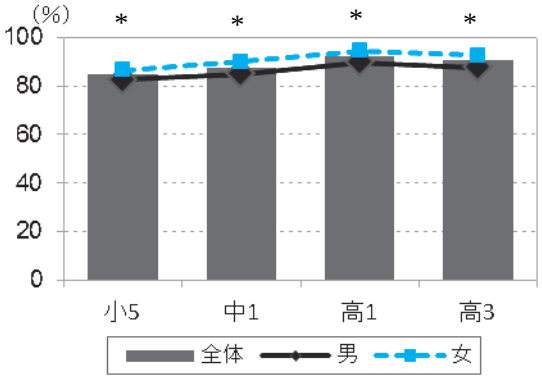
・女子では，高学年ほど正答率が高かった。

問 16. インフルエンザなどの感染症の予防には，マスクを着ければ十分である。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	10.5	82.7	6.4	0.5	100.0	*
	女	1,837	8.3	86.7	5.0	0.1	100.0	
	全体	3,764	9.4	84.6	5.7	0.3	100.0	
中1	男	1,983	6.5	85.0	8.3	0.3	100.0	*
	女	1,866	4.9	90.0	5.0	0.2	100.0	
	全体	3,849	5.7	87.4	6.7	0.2	100.0	
高1	男	2,262	5.0	89.8	4.8	0.4	100.0	*
	女	2,408	2.2	94.5	2.9	0.3	100.0	
	全体	4,670	3.6	92.2	3.9	0.3	100.0	
高3	男	1,881	5.6	87.6	6.5	0.2	100.0	*
	女	2,231	2.7	92.7	4.3	0.3	100.0	
	全体	4,112	4.0	90.4	5.3	0.3	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・いずれの学年も，女子が男子に比して正答率が高かった。

・男女共に，いずれの学年においても８割以上の高い正答率を示した。

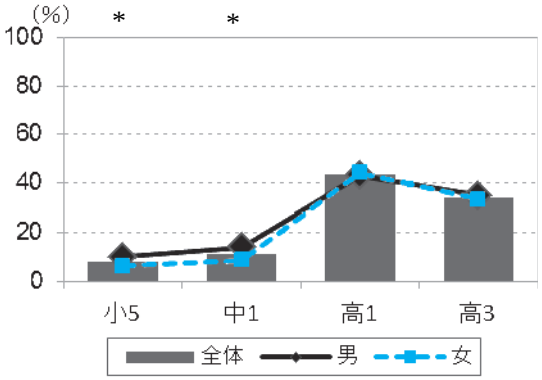
・男女共に，小５から高１までは高学年ほど正答率が高いものの，高３では正答率が低下した。

問 17. わが国の死亡原因は，近年では第１位はがん，第２位は心疾患，第３位は糖尿病である。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	38.8	10.1	50.4	0.7	100.0	*
	女	1,837	31.1	6.3	62.3	0.3	100.0	
	全体	3,764	35.1	8.2	56.2	0.5	100.0	
中1	男	1,983	42.9	13.9	42.8	0.4	100.0	*
	女	1,866	43.0	8.8	48.0	0.2	100.0	
	全体	3,849	43.0	11.4	45.3	0.3	100.0	
高1	男	2,262	37.8	43.1	18.8	0.3	100.0	
	女	2,408	35.4	44.2	20.1	0.4	100.0	
	全体	4,670	36.6	43.7	19.4	0.3	100.0	
高3	男	1,881	42.8	35.0	22.0	0.2	100.0	
	女	2,231	41.6	33.3	24.8	0.2	100.0	
	全体	4,112	42.2	34.1	23.5	0.2	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

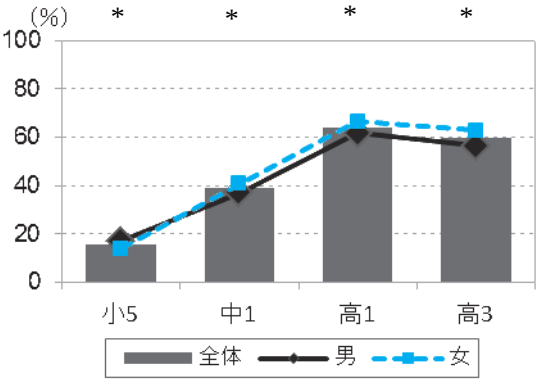
・男女共に，小５から高１までは高学年ほど正答率が高いものの，高３では正答率が低下した。

問 18. 生活習慣病は，20 歳頃からの不健康な生活習慣が原因となって起こる。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	28.6	17.3	52.7	1.3	100.0	*
	女	1,837	27.7	14.2	57.6	0.5	100.0	
	全体	3,764	28.2	15.8	55.1	1.0	100.0	
中1	男	1,983	28.0	37.2	34.4	0.3	100.0	
	女	1,866	26.5	40.7	32.6	0.2	100.0	
	全体	3,849	27.3	38.9	33.6	0.2	100.0	
高1	男	2,262	23.5	61.8	14.2	0.4	100.0	*
	女	2,408	18.0	66.5	15.0	0.5	100.0	
	全体	4,670	20.7	64.3	14.6	0.4	100.0	
高3	男	1,881	28.9	56.6	14.5	0.1	100.0	*
	女	2,231	23.2	63.0	13.5	0.3	100.0	
	全体	4,112	25.8	60.0	14.0	0.2	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

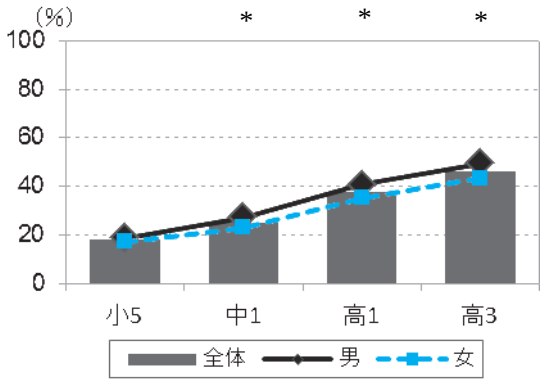
・男女共に，小５から高１までは高学年ほど正答率が高いものの，高３では正答率が低下した。

問 19. むし歯は，砂糖などの糖分が歯を溶かしてできる。

(%)

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	61.9	18.8	18.5	0.8	100.0	
	女	1,837	62.2	17.3	20.1	0.4	100.0	
	全体	3,764	62.0	18.1	19.3	0.6	100.0	
中1	男	1,983	56.9	27.1	15.4	0.5	100.0	*
	女	1,866	60.3	23.1	16.3	0.3	100.0	
	全体	3,849	58.6	25.2	15.9	0.4	100.0	
高1	男	2,262	38.5	40.8	20.2	0.5	100.0	*
	女	2,408	40.0	35.1	24.5	0.5	100.0	
	全体	4,670	39.3	37.9	22.4	0.5	100.0	
高3	男	1,881	32.2	49.5	18.0	0.3	100.0	*
	女	2,231	34.1	43.3	22.4	0.3	100.0	
	全体	4,112	33.2	46.1	20.4	0.3	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

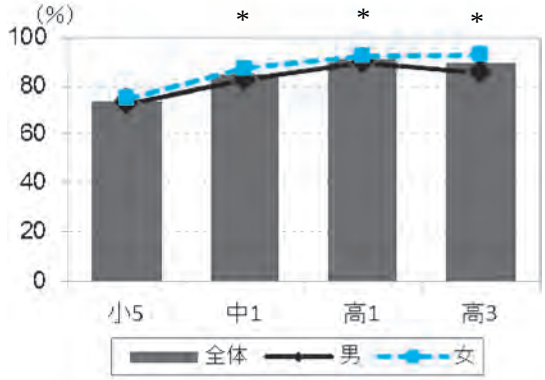
・男女共に，高学年ほど正答率が高かった。

問 20. 歯周病とは，歯を支えている歯ぐきなどの病気のことである。

(%)

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	72.8	4.4	21.8	1.0	100.0	*
	女	1,837	75.0	2.8	21.9	0.3	100.0	
	全体	3,764	73.9	3.6	21.9	0.6	100.0	
中1	男	1,983	82.5	3.7	13.2	0.6	100.0	*
	女	1,866	87.4	2.6	9.8	0.3	100.0	
	全体	3,849	84.9	3.2	11.5	0.4	100.0	
高1	男	2,262	89.8	3.0	6.7	0.4	100.0	*
	女	2,408	92.2	1.7	5.5	0.5	100.0	
	全体	4,670	91.1	2.4	6.1	0.5	100.0	
高3	男	1,881	85.4	5.4	9.1	0.0	100.0	*
	女	2,231	92.8	1.9	5.0	0.3	100.0	
	全体	4,112	89.4	3.5	6.9	0.2	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・男女共に，いずれの学年においても 7 割以上の高い正答率を示した。

・男子では，小 5 から高 1 までは高学年ほど正答率が高いものの，高 3 では正答率が低下した。

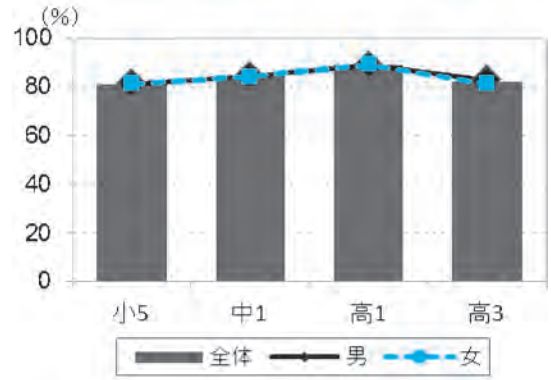
・女子では，高学年ほど正答率が高かった。

問 21. 人は，たばこを吸い始めた時期が早く，吸っている期間が長いほど，がんにかかりやすくなる。

(%)

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計
小5	男	1,927	81.4	3.7	14.2	0.7	100.0
	女	1,837	81.1	3.0	15.6	0.3	100.0
	全体	3,764	81.2	3.3	14.9	0.5	100.0
中1	男	1,983	84.4	4.3	10.9	0.4	100.0
	女	1,866	84.2	4.9	10.5	0.4	100.0
	全体	3,849	84.3	4.6	10.7	0.4	100.0
高1	男	2,262	89.0	4.5	6.3	0.2	100.0
	女	2,408	89.1	4.7	5.9	0.4	100.0
	全体	4,670	89.0	4.6	6.1	0.3	100.0
高3	男	1,881	82.9	8.0	8.9	0.2	100.0
	女	2,231	81.2	9.2	9.3	0.2	100.0
	全体	4,112	82.0	8.7	9.1	0.2	100.0

男女差，χ^2検定，df=3，有意差なし



正答率の男女差：いずれの学年も有意差なし

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・いずれの学年も，正答率に男女差が示されなかった。

・男女共に，いずれの学年においても 8 割以上の高い正答率を示した。

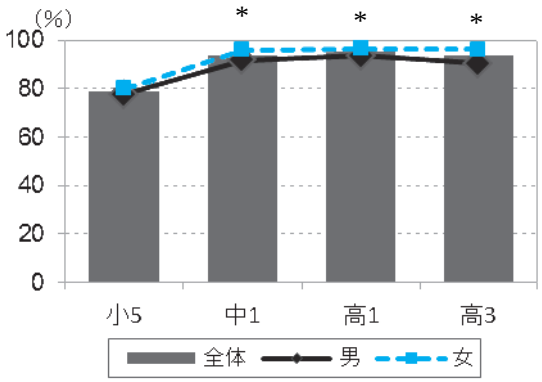
・男女共に，小 5 から高 1 までは高学年ほど正答率が高いものの，高 3 では正答率が低下した。

問 22. 覚せい剤は，一度だけなら乱用しても，すぐにやめることができる。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	4.8	77.8	16.8	0.7	100.0	*
	女	1,837	2.6	80.1	17.1	0.2	100.0	
	全体	3,764	3.7	78.9	17.0	0.4	100.0	
中1	男	1,983	2.8	91.8	4.9	0.5	100.0	*
	女	1,866	1.3	95.9	2.4	0.4	100.0	
	全体	3,849	2.1	93.8	3.7	0.4	100.0	
高1	男	2,262	2.0	93.5	4.2	0.3	100.0	*
	女	2,408	0.8	96.6	2.3	0.3	100.0	
	全体	4,670	1.4	95.1	3.2	0.3	100.0	
高3	男	1,881	3.8	90.5	5.6	0.1	100.0	*
	女	2,231	0.8	96.3	2.7	0.2	100.0	
	全体	4,112	2.2	93.7	4.0	0.1	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊ p<0.05



正答率の男女差：＊ p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・男女共に，いずれの学年においても 7 割以上の高い正答率を示した。

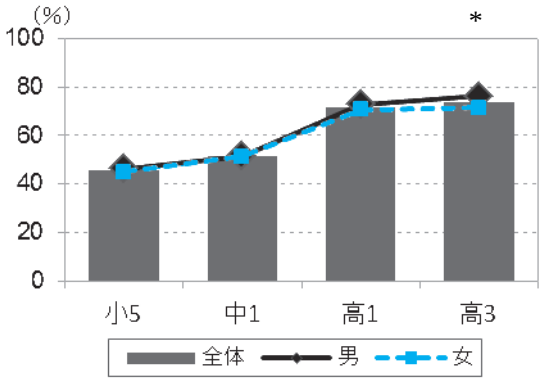
・男子では，小 5 から高 1 までは高学年ほど正答率が高いものの，高 3 では正答率が低下した。

問 23. けがが起こる人的要因としては，人の心や体の状態，行動の仕方などがある。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	46.3	6.9	45.7	1.0	100.0	*
	女	1,837	45.1	4.1	50.4	0.5	100.0	
	全体	3,764	45.7	5.5	48.0	0.8	100.0	
中1	男	1,983	51.7	9.1	38.6	0.7	100.0	*
	女	1,866	51.4	7.3	41.0	0.3	100.0	
	全体	3,849	51.6	8.2	39.8	0.5	100.0	
高1	男	2,262	72.8	7.3	19.4	0.4	100.0	*
	女	2,408	70.6	5.9	23.1	0.5	100.0	
	全体	4,670	71.7	6.6	21.3	0.4	100.0	
高3	男	1,881	76.2	8.2	15.4	0.2	100.0	*
	女	2,231	71.4	6.8	21.4	0.4	100.0	
	全体	4,112	73.6	7.5	18.7	0.3	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊ p<0.05



正答率の男女差：＊ p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

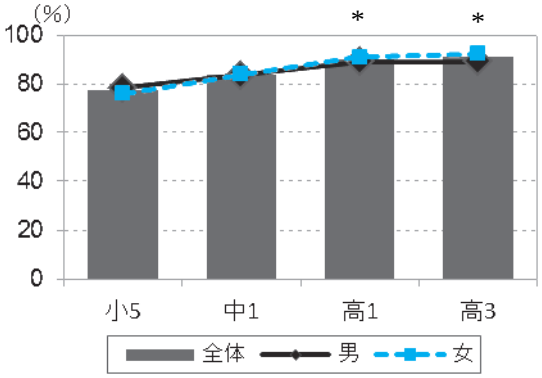
・男女共に，高学年ほど正答率が高かった。

問 24. 同じ場所であっても，時刻や天候によって危険な場所になることがある。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	78.4	4.4	16.3	0.9	100.0	*
	女	1,837	75.9	3.5	20.2	0.4	100.0	
	全体	3,764	77.2	4.0	18.2	0.6	100.0	
中1	男	1,983	83.7	4.1	11.9	0.4	100.0	
	女	1,866	83.9	3.1	12.8	0.3	100.0	
	全体	3,849	83.8	3.6	12.3	0.3	100.0	
高1	男	2,262	89.3	2.9	7.6	0.3	100.0	*
	女	2,408	91.1	1.5	7.1	0.3	100.0	
	全体	4,670	90.2	2.2	7.3	0.3	100.0	
高3	男	1,881	89.3	2.9	7.7	0.1	100.0	*
	女	2,231	92.4	1.1	6.2	0.3	100.0	
	全体	4,112	91.0	1.9	6.9	0.2	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊ p<0.05



正答率の男女差：＊ p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・男女共に，いずれの学年においても 7 割以上の高い正答率を示した。

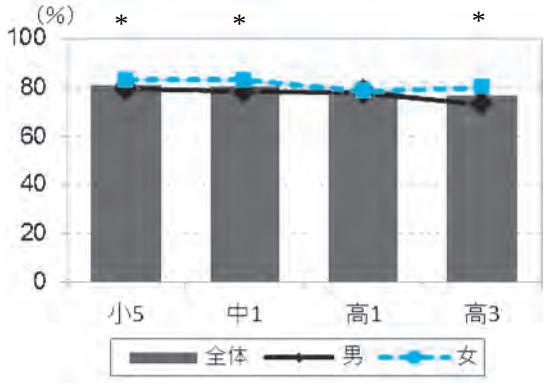
・女子では，小 5 から高 1 までは高学年ほど正答率が高いものの，高 3 では正答率が低下した。

問 25. 車の後部座席に座っている人も，必ず，シートベルトをすることが法律によって決められている。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	79.3	8.2	11.6	0.9	100.0	*
	女	1,837	83.1	5.9	10.9	0.2	100.0	
	全体	3,764	81.1	7.1	11.3	0.5	100.0	
中1	男	1,983	78.4	11.2	9.9	0.5	100.0	*
	女	1,866	83.0	8.3	8.5	0.2	100.0	
	全体	3,849	80.6	9.8	9.2	0.4	100.0	
高1	男	2,262	77.8	13.6	8.3	0.3	100.0	
	女	2,408	78.6	12.5	8.5	0.4	100.0	
	全体	4,670	78.2	13.1	8.4	0.3	100.0	
高3	男	1,881	73.4	17.0	9.5	0.2	100.0	*
	女	2,231	80.2	12.9	6.6	0.3	100.0	
	全体	4,112	77.1	14.7	7.9	0.3	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊ p<0.05



正答率の男女差：＊ p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

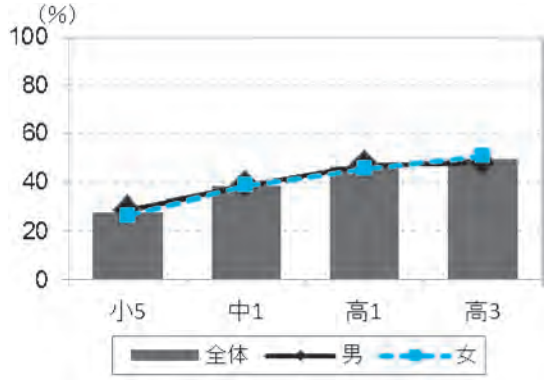
・男女共に，いずれの学年においても 7 割以上の高い正答率を示した。

問 26. わが国では，様々な交通安全対策が行われているので，近年では交通事故の発生件数は減少している。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	27.7	28.9	42.4	1.0	100.0	*
	女	1,837	18.5	26.7	54.2	0.6	100.0	
	全体	3,764	23.2	27.8	48.1	0.8	100.0	
中1	男	1,983	22.4	38.8	38.1	0.7	100.0	*
	女	1,866	14.1	38.8	46.7	0.3	100.0	
	全体	3,849	18.4	38.8	42.3	0.5	100.0	
高1	男	2,262	22.2	47.2	30.2	0.4	100.0	*
	女	2,408	16.5	45.5	37.7	0.3	100.0	
	全体	4,670	19.3	46.3	34.1	0.4	100.0	
高3	男	1,881	24.7	48.0	27.2	0.2	100.0	*
	女	2,231	15.6	50.8	33.3	0.3	100.0	
	全体	4,112	19.8	49.5	30.5	0.2	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊ p<0.05



正答率の男女差：いずれの学年も有意差なし

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・いずれの学年も，正答率に男女差が示されなかった。

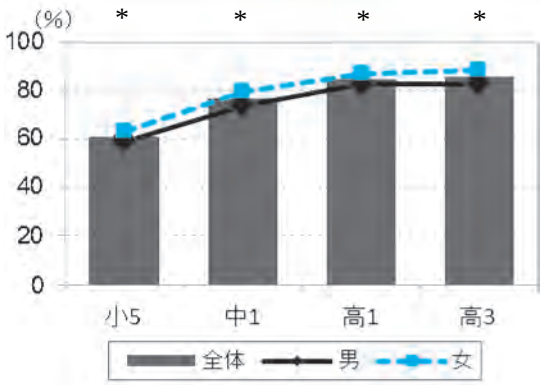
・男女共に，高学年ほど正答率が高かった。

問 27. 公園のようにいつも人が出入りできる場所では，犯罪にあう危険はほとんどない。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	15.8	58.8	24.2	1.1	100.0	*
	女	1,837	11.4	63.1	24.9	0.6	100.0	
	全体	3,764	13.7	60.9	24.6	0.9	100.0	
中1	男	1,983	9.0	73.7	16.8	0.5	100.0	*
	女	1,866	6.6	79.6	13.4	0.4	100.0	
	全体	3,849	7.8	76.6	15.2	0.4	100.0	
高1	男	2,262	6.7	82.5	10.5	0.3	100.0	*
	女	2,408	3.2	87.0	9.5	0.3	100.0	
	全体	4,670	4.9	84.8	10.0	0.3	100.0	
高3	男	1,881	6.6	82.7	10.5	0.2	100.0	*
	女	2,231	2.7	88.6	8.4	0.3	100.0	
	全体	4,112	4.5	85.9	9.4	0.2	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊ p<0.05



正答率の男女差：＊ p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

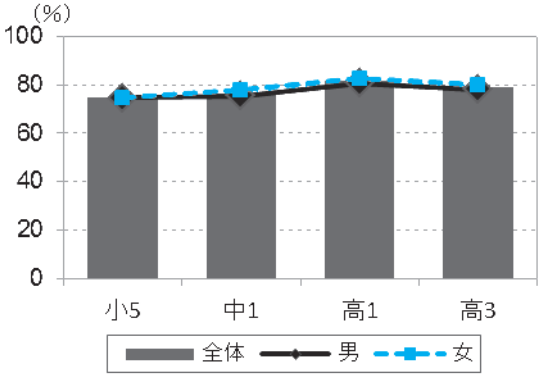
・男女共に，高学年ほど正答率が高かった。

問 28. 地域における犯罪を防止するために，ボランティアの人々によって「見守り活動」などが行われている。

(%)

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	74.6	3.2	21.4	0.7	100.0	*
	女	1,837	74.7	1.9	22.9	0.5	100.0	
	全体	3,764	74.7	2.6	22.1	0.6	100.0	
中1	男	1,983	75.5	2.8	21.0	0.8	100.0	
	女	1,866	77.8	2.0	19.9	0.3	100.0	
	全体	3,849	76.6	2.4	20.5	0.5	100.0	
高1	男	2,262	80.8	3.3	15.5	0.4	100.0	*
	女	2,408	82.5	1.5	15.7	0.3	100.0	
	全体	4,670	81.7	2.4	15.6	0.3	100.0	
高3	男	1,881	78.1	5.5	16.2	0.2	100.0	*
	女	2,231	79.9	2.4	17.5	0.2	100.0	
	全体	4,112	79.1	3.8	16.9	0.2	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：いずれの学年も有意差なし
正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

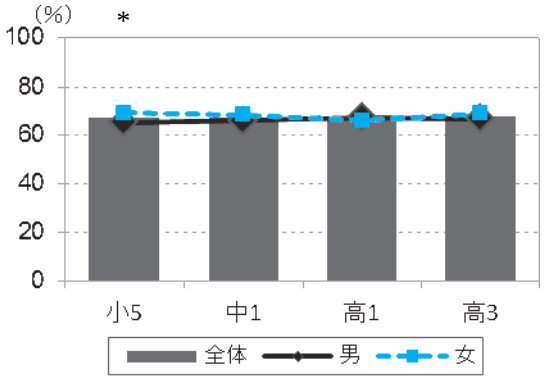
・いずれの学年も，正答率に男女差が示されなかった。
・男女共に，いずれの学年においても 7 割以上の高い正答率を示した。
・男女共に，小 5 から高 1 までは高学年ほど正答率が高いものの，高 3 では正答率が低下した。

問 29. 家にいる時に地震が起きたら，すぐに家の外に出た方が安全である。

(%)

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	19.9	65.2	13.5	1.4	100.0	*
	女	1,837	16.5	69.4	13.4	0.7	100.0	
	全体	3,764	18.3	67.2	13.5	1.0	100.0	
中1	男	1,983	19.1	66.2	14.0	0.7	100.0	
	女	1,866	16.5	68.5	14.5	0.5	100.0	
	全体	3,849	17.8	67.3	14.2	0.6	100.0	
高1	男	2,262	18.5	67.6	13.6	0.4	100.0	*
	女	2,408	16.4	66.1	17.0	0.5	100.0	
	全体	4,670	17.4	66.8	15.4	0.4	100.0	
高3	男	1,881	19.1	67.0	13.7	0.2	100.0	
	女	2,231	16.0	68.9	14.9	0.2	100.0	
	全体	4,112	17.4	68.0	14.4	0.2	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05
正答率の学年間差：男女とも有意差なし

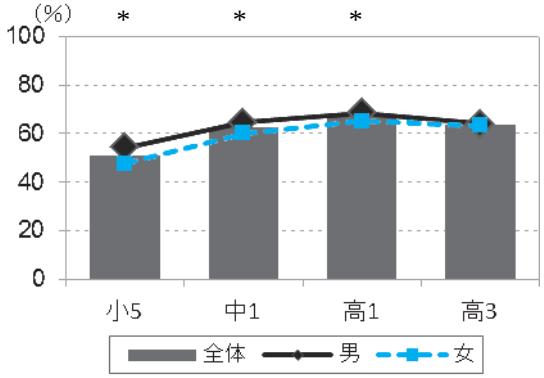
・男女共に，いずれの学年も約 65～69%の正答率を示し，学年間差はみられなかった。

問 30. 緊急地震速報は，気象庁が，地震の大きな揺れの前に，震度や震源などを予測して発表する。

(%)

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	54.2	15.9	29.1	0.8	100.0	*
	女	1,837	47.5	17.7	34.3	0.4	100.0	
	全体	3,764	50.9	16.8	31.7	0.6	100.0	
中1	男	1,983	64.6	17.8	17.1	0.5	100.0	*
	女	1,866	60.0	18.8	21.0	0.3	100.0	
	全体	3,849	62.4	18.3	19.0	0.4	100.0	
高1	男	2,262	68.5	18.3	12.7	0.4	100.0	*
	女	2,408	65.0	19.4	15.2	0.4	100.0	
	全体	4,670	66.7	18.9	14.0	0.4	100.0	
高3	男	1,881	63.9	22.6	13.3	0.1	100.0	
	女	2,231	63.2	23.6	13.1	0.1	100.0	
	全体	4,112	63.5	23.2	13.2	0.1	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05
正答率の学年間差：男女とも有意差なし

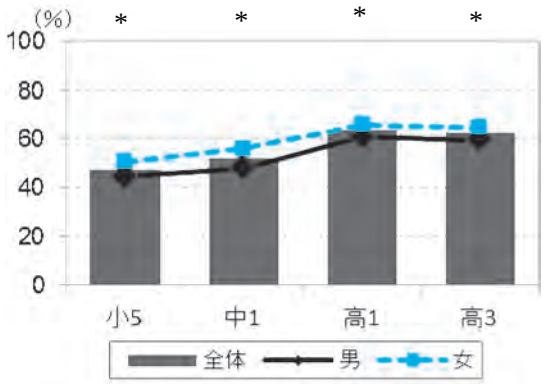
・男子では，小 5 から高 1 までは高学年ほど正答率が高いものの，高 3 では正答率が低下した。

問 31. 鼻血が出た時の応急手当としては，鼻にティッシュペーパーをつめる方法が正しい。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	33.2	44.4	21.3	1.1	100.0	*
	女	1,837	26.7	50.6	22.2	0.5	100.0	
	全体	3,764	30.0	47.4	21.8	0.8	100.0	
中1	男	1,983	29.3	47.9	21.9	0.8	100.0	*
	女	1,866	23.1	56.2	20.3	0.4	100.0	
	全体	3,849	26.3	51.9	21.1	0.6	100.0	
高1	男	2,262	19.9	61.0	18.8	0.3	100.0	*
	女	2,408	13.6	65.8	20.2	0.4	100.0	
	全体	4,670	16.7	63.4	19.6	0.3	100.0	
高3	男	1,881	22.9	59.6	17.3	0.2	100.0	*
	女	2,231	16.6	64.8	18.6	0.0	100.0	
	全体	4,112	19.5	62.4	18.0	0.1	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊ p<0.05



正答率の男女差：＊ p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・いずれの学年も，女子が男子に比して正答率が高かった。

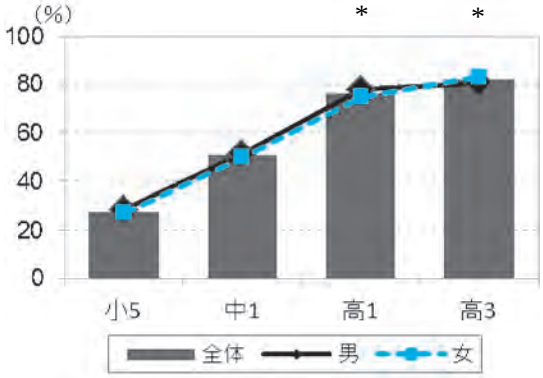
・男女共に，小 5 から高 1 までは高学年ほど正答率が高く，高 1 と高 3 はほぼ同等の正答率であった。

問 32. ＡＥＤ（自動体外式除細動器）を使うことができるのは，その免許（資格）をもつ人だけである。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	26.4	28.4	44.4	0.8	100.0	*
	女	1,837	21.5	27.1	51.0	0.4	100.0	
	全体	3,764	24.0	27.8	47.6	0.6	100.0	
中1	男	1,983	16.8	51.4	30.9	0.8	100.0	
	女	1,866	15.7	49.9	33.8	0.6	100.0	
	全体	3,849	16.3	50.7	32.3	0.7	100.0	
高1	男	2,262	9.8	77.7	12.2	0.3	100.0	*
	女	2,408	8.3	75.0	16.5	0.3	100.0	
	全体	4,670	9.0	76.3	14.4	0.3	100.0	
高3	男	1,881	8.8	80.4	10.6	0.2	100.0	*
	女	2,231	8.2	83.1	8.6	0.0	100.0	
	全体	4,112	8.5	81.9	9.5	0.1	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊ p<0.05



正答率の男女差：＊ p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

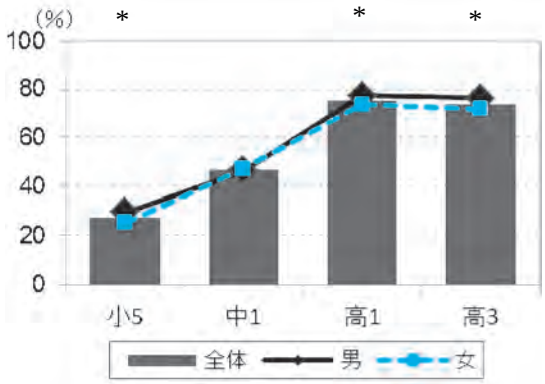
・男女共に，高学年ほど正答率が高かった。

問 33. ストレスを感じることは自然なことであり，適度なストレスは心の発達の上で必要なものである。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	29.4	28.3	41.7	0.6	100.0	*
	女	1,837	25.1	25.7	49.0	0.2	100.0	
	全体	3,764	27.3	27.0	45.2	0.4	100.0	
中1	男	1,983	46.2	22.7	30.7	0.5	100.0	
	女	1,866	47.2	20.3	32.0	0.4	100.0	
	全体	3,849	46.7	21.5	31.3	0.4	100.0	
高1	男	2,262	77.1	8.4	14.2	0.2	100.0	*
	女	2,408	73.7	9.0	17.0	0.3	100.0	
	全体	4,670	75.4	8.7	15.7	0.3	100.0	
高3	男	1,881	76.2	9.4	14.3	0.2	100.0	*
	女	2,231	71.7	9.2	19.0	0.0	100.0	
	全体	4,112	73.8	9.3	16.9	0.1	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊ p<0.05



正答率の男女差：＊ p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

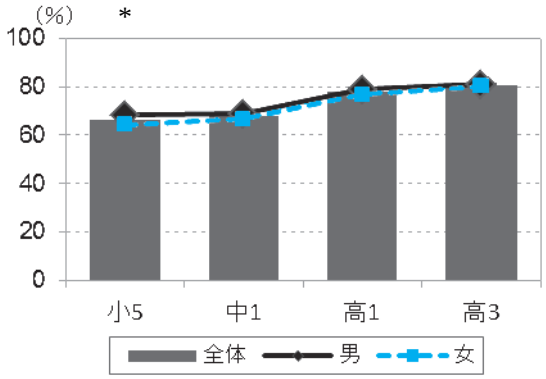
・男女共に，小 5 から高 1 までは高学年ほど正答率が高く，高 1 と高 3 はほぼ同等の正答率であった。

問 34. ストレスは，脳や神経を通して体の働きに影響を与える。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	68.3	3.9	27.6	0.2	100.0	*
	女	1,837	64.2	2.2	33.3	0.2	100.0	
	全体	3,764	66.3	3.1	30.4	0.2	100.0	
中1	男	1,983	68.8	5.4	25.4	0.4	100.0	
	女	1,866	66.7	4.9	28.0	0.4	100.0	
	全体	3,849	67.8	5.2	26.7	0.4	100.0	
高1	男	2,262	79.0	5.7	15.1	0.3	100.0	*
	女	2,408	76.8	4.5	18.3	0.4	100.0	
	全体	4,670	77.8	5.1	16.8	0.3	100.0	
高3	男	1,881	81.0	5.3	13.5	0.2	100.0	
	女	2,231	80.1	4.4	15.5	0.0	100.0	
	全体	4,112	80.5	4.8	14.6	0.1	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

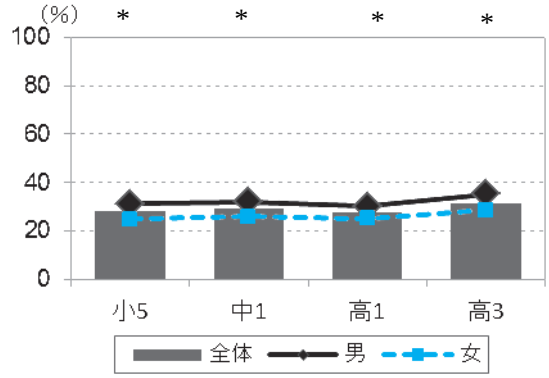
・男女共に，高学年ほど正答率が高かった。

問 35. わが国は，男女ともに世界第 1 位の長生き（長寿）の国である。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	25.2	31.1	43.4	0.3	100.0	*
	女	1,837	20.8	24.9	53.9	0.4	100.0	
	全体	3,764	23.1	28.1	48.5	0.3	100.0	
中1	男	1,983	32.8	32.0	35.0	0.2	100.0	*
	女	1,866	31.9	25.8	42.2	0.1	100.0	
	全体	3,849	32.3	29.0	38.5	0.2	100.0	
高1	男	2,262	55.0	30.1	14.6	0.4	100.0	*
	女	2,408	57.6	25.2	16.8	0.4	100.0	
	全体	4,670	56.3	27.6	15.7	0.4	100.0	
高3	男	1,881	48.9	35.1	15.8	0.2	100.0	*
	女	2,231	53.5	28.5	17.9	0.1	100.0	
	全体	4,112	51.4	31.5	17.0	0.1	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・いずれの学年も，男子が女子に比して正答率が高かった。

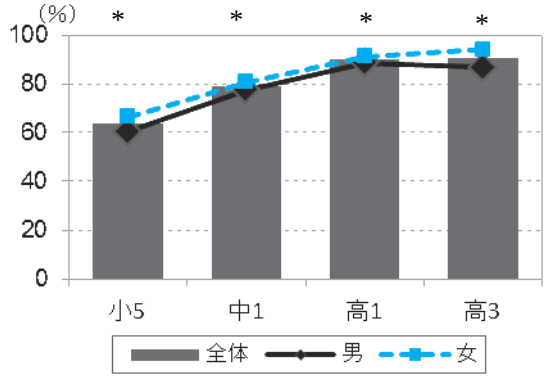
・男子では，いずれの学年も 4 割未満，女子では，いずれの学年も 3 割未満の低い正答率であった。

問 36. 高齢者になると身体機能が衰えるので，できるだけ運動は行わない方がよい。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	14.3	60.4	24.8	0.5	100.0	*
	女	1,837	8.4	66.5	24.7	0.4	100.0	
	全体	3,764	11.4	63.4	24.8	0.4	100.0	
中1	男	1,983	8.7	77.5	13.6	0.3	100.0	*
	女	1,866	6.5	80.7	12.8	0.1	100.0	
	全体	3,849	7.6	79.0	13.2	0.2	100.0	
高1	男	2,262	3.9	88.6	7.0	0.4	100.0	*
	女	2,408	2.0	91.2	6.4	0.3	100.0	
	全体	4,670	3.0	90.0	6.7	0.4	100.0	
高3	男	1,881	4.9	86.8	8.1	0.2	100.0	*
	女	2,231	1.6	94.1	4.1	0.2	100.0	
	全体	4,112	3.1	90.8	5.9	0.2	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・いずれの学年も，女子が男子に比して正答率が高かった。

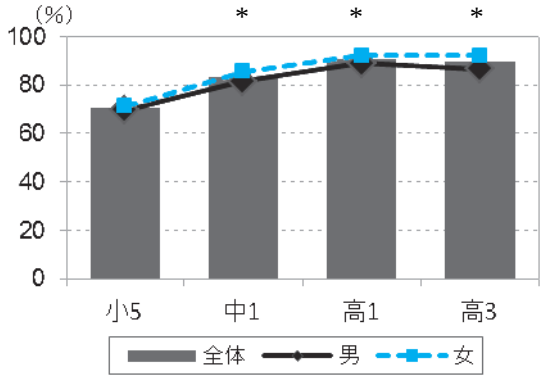
・女子では，高学年ほど正答率が高かった。

問 37.　直射日光の当たらない部屋の中では，熱中症にかかることはない。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	12.6	69.5	17.4	0.5	100.0	*
	女	1,837	8.7	71.3	19.5	0.5	100.0	
	全体	3,764	10.7	70.4	18.5	0.5	100.0	
中1	男	1,983	6.3	81.5	11.7	0.5	100.0	*
	女	1,866	4.9	85.5	9.3	0.3	100.0	
	全体	3,849	5.6	83.5	10.5	0.4	100.0	
高1	男	2,262	4.2	88.9	6.6	0.4	100.0	*
	女	2,408	2.0	92.0	5.7	0.3	100.0	
	全体	4,670	3.0	90.5	6.1	0.4	100.0	
高3	男	1,881	5.5	86.4	7.9	0.2	100.0	*
	女	2,231	2.2	92.1	5.6	0.2	100.0	
	全体	4,112	3.7	89.5	6.6	0.2	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・男子では，小 5 から高 1 までは高学年ほど正答率が高いものの，高 3 では正答率が低下した。

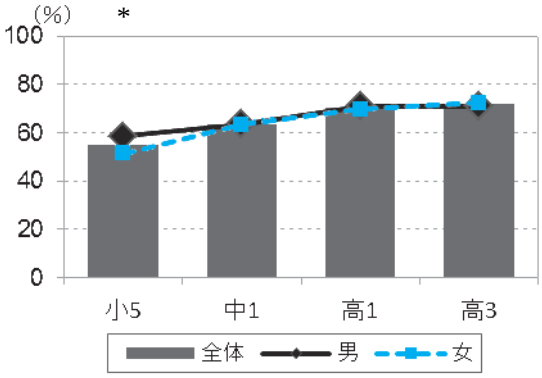
・女子では，いずれの学年においても 7 割以上の高い正答率を示し，高学年ほど正答率が高かった。

問 38.　日常生活において，飲料水として利用される水は，衛生的な検査が必要である。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	58.5	7.6	33.3	0.6	100.0	*
	女	1,837	51.3	6.1	42.1	0.5	100.0	
	全体	3,764	55.0	6.9	37.6	0.6	100.0	
中1	男	1,983	63.7	11.2	24.7	0.4	100.0	*
	女	1,866	63.4	8.7	27.8	0.1	100.0	
	全体	3,849	63.5	10.0	26.2	0.2	100.0	
高1	男	2,262	71.0	12.8	15.9	0.3	100.0	*
	女	2,408	69.8	9.5	20.3	0.3	100.0	
	全体	4,670	70.4	11.1	18.2	0.3	100.0	
高3	男	1,881	71.0	12.5	16.1	0.4	100.0	*
	女	2,231	72.5	10.3	17.2	0.0	100.0	
	全体	4,112	71.8	11.3	16.7	0.2	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・男子では，小 5 から高 1 までは高学年ほど正答率が高く，高 1 と高 3 はほぼ同等の正答率であった。

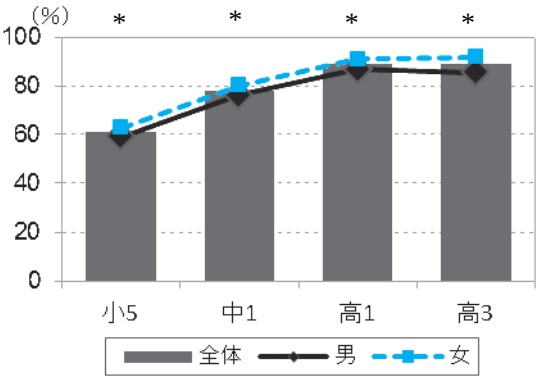
・女子では，高学年ほど正答率が高かった。

問 39.　食中毒は，梅雨時の季節にしか発生しない。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	5.9	59.1	34.5	0.5	100.0	*
	女	1,837	3.2	62.7	33.8	0.3	100.0	
	全体	3,764	4.6	60.9	34.1	0.4	100.0	
中1	男	1,983	3.3	76.1	20.2	0.4	100.0	*
	女	1,866	2.9	80.2	16.7	0.2	100.0	
	全体	3,849	3.1	78.1	18.5	0.3	100.0	
高1	男	2,262	2.3	86.7	10.7	0.3	100.0	*
	女	2,408	0.9	91.0	7.8	0.3	100.0	
	全体	4,670	1.6	89.0	9.2	0.3	100.0	
高3	男	1,881	4.1	85.6	10.1	0.2	100.0	*
	女	2,231	1.5	91.8	6.6	0.0	100.0	
	全体	4,112	2.7	89.0	8.2	0.1	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・いずれの学年も，女子が男子に比して正答率が高かった。

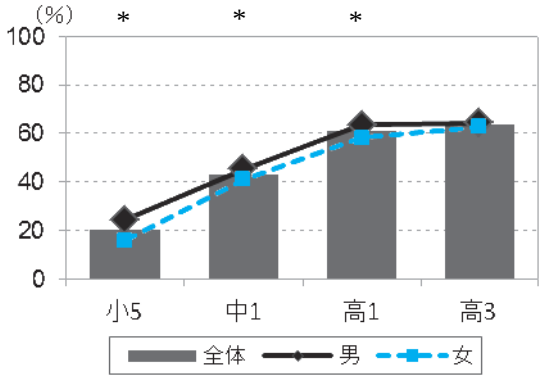
・女子では，高学年ほど正答率が高かった。

問 40. 食品衛生法は，加工食品などの成分や添加物などの規格や基準を定めた法律である。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	24.3	7.1	68.0	0.6	100.0	*
	女	1,837	15.8	4.5	79.3	0.4	100.0	
	全体	3,764	20.2	5.8	73.5	0.5	100.0	
中1	男	1,983	45.2	7.3	46.8	0.6	100.0	*
	女	1,866	41.1	5.4	53.3	0.2	100.0	
	全体	3,849	43.2	6.4	50.0	0.4	100.0	
高1	男	2,262	63.4	10.6	25.6	0.4	100.0	*
	女	2,408	58.2	9.7	31.7	0.4	100.0	
	全体	4,670	60.7	10.1	28.8	0.4	100.0	
高3	男	1,881	64.2	12.8	22.7	0.3	100.0	
	女	2,231	62.8	11.8	25.3	0.1	100.0	
	全体	4,112	63.4	12.3	24.1	0.2	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

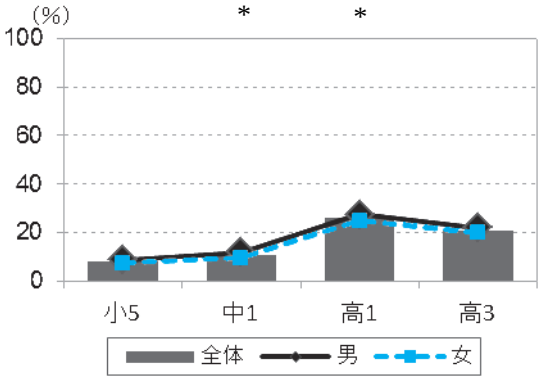
・男女共に，高学年ほど正答率が高かった。

問 41. 医薬品には，副作用のあるものとないものがある。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	53.0	8.7	37.6	0.7	100.0	*
	女	1,837	48.4	7.5	43.2	0.9	100.0	
	全体	3,764	50.8	8.1	40.3	0.8	100.0	
中1	男	1,983	66.9	11.9	20.8	0.4	100.0	
	女	1,866	69.7	9.5	20.5	0.3	100.0	
	全体	3,849	68.3	10.7	20.7	0.3	100.0	
高1	男	2,262	60.3	27.6	11.8	0.3	100.0	
	女	2,408	61.5	24.8	13.3	0.5	100.0	
	全体	4,670	60.9	26.1	12.6	0.4	100.0	
高3	男	1,881	65.5	21.9	12.3	0.3	100.0	
	女	2,231	67.3	19.7	12.7	0.3	100.0	
	全体	4,112	66.5	20.7	12.5	0.3	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・男女共に，いずれの学年も 3 割未満の低い正答率であった。

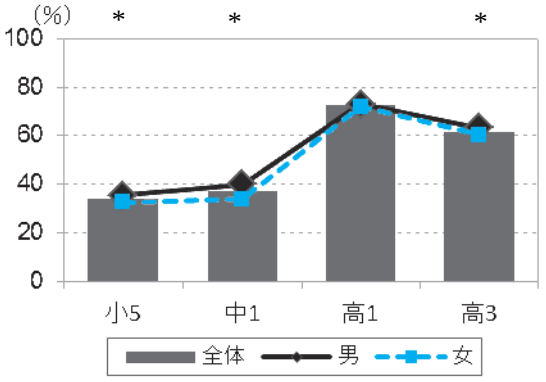
・男女共に，小 5 から高 1 までは高学年ほど正答率が高いものの，高 3 では正答率が低下した。

問 42. 錠剤（ ）の薬は，安全であることが検査などによって確認されているので，つぶして飲みやすくしても問題はない。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	26.2	35.5	37.9	0.4	100.0	*
	女	1,837	24.7	32.4	42.0	0.9	100.0	
	全体	3,764	25.4	34.0	39.9	0.6	100.0	
中1	男	1,983	25.0	40.0	34.4	0.5	100.0	*
	女	1,866	28.5	33.8	37.4	0.3	100.0	
	全体	3,849	26.7	37.0	35.9	0.4	100.0	
高1	男	2,262	11.5	73.2	15.0	0.4	100.0	
	女	2,408	11.8	71.8	16.0	0.4	100.0	
	全体	4,670	11.6	72.5	15.5	0.4	100.0	
高3	男	1,881	17.4	63.4	19.0	0.2	100.0	
	女	2,231	17.3	60.3	22.2	0.2	100.0	
	全体	4,112	17.4	61.7	20.7	0.2	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

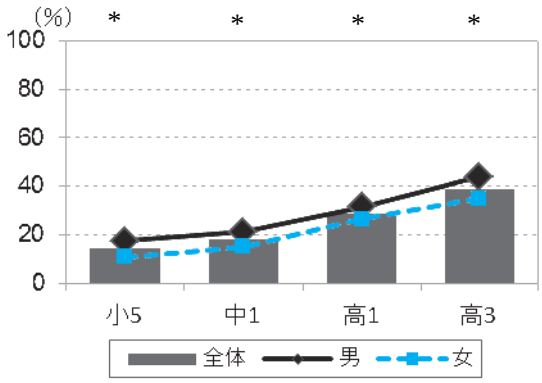
・男女共に，小 5 から高 1 までは高学年ほど正答率が高いものの，高 3 では正答率が低下した。

問 43. わが国では，すべての国民が医療保険に加入することになっている。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	17.5	32.2	49.7	0.6	100.0	＊
	女	1,837	10.8	27.9	60.9	0.4	100.0	
	全体	3,764	14.2	30.1	55.2	0.5	100.0	
中1	男	1,983	21.2	34.8	43.5	0.4	100.0	＊
	女	1,866	15.1	34.8	49.9	0.2	100.0	
	全体	3,849	18.3	34.8	46.6	0.3	100.0	
高1	男	2,262	31.4	39.3	28.9	0.4	100.0	＊
	女	2,408	26.4	36.2	37.0	0.4	100.0	
	全体	4,670	28.8	37.7	33.1	0.4	100.0	
高3	男	1,881	43.9	32.5	23.2	0.3	100.0	＊
	女	2,231	34.8	33.8	31.1	0.3	100.0	
	全体	4,112	39.0	33.2	27.5	0.3	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・いずれの学年も，男子が女子に比して正答率が高かった。

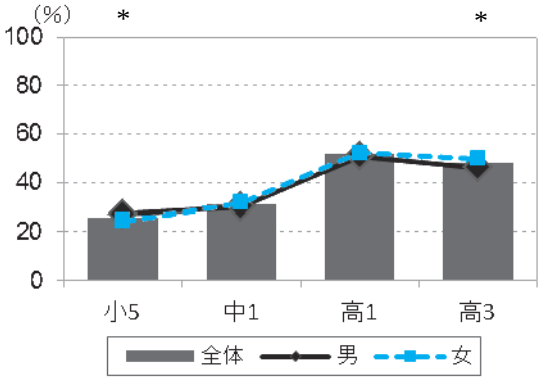
・男女共に，高学年ほど正答率が高かった。

問 44. わが国では，16 歳以上から献血ができる。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	27.3	15.6	56.3	0.8	100.0	＊
	女	1,837	24.5	11.6	63.3	0.6	100.0	
	全体	3,764	26.0	13.7	59.7	0.7	100.0	
中1	男	1,983	30.2	19.3	50.3	0.3	100.0	
	女	1,866	31.8	16.5	51.6	0.2	100.0	
	全体	3,849	30.9	17.9	50.9	0.2	100.0	
高1	男	2,262	51.0	19.5	29.2	0.3	100.0	
	女	2,408	52.1	21.2	26.2	0.4	100.0	
	全体	4,670	51.6	20.4	27.7	0.4	100.0	
高3	男	1,881	46.0	28.5	25.3	0.2	100.0	＊
	女	2,231	49.8	27.7	22.5	0.0	100.0	
	全体	4,112	48.1	28.1	23.7	0.1	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・男子では，小 5 から高 1 までは高学年ほど正答率が高いものの，高 3 では正答率が低下した。

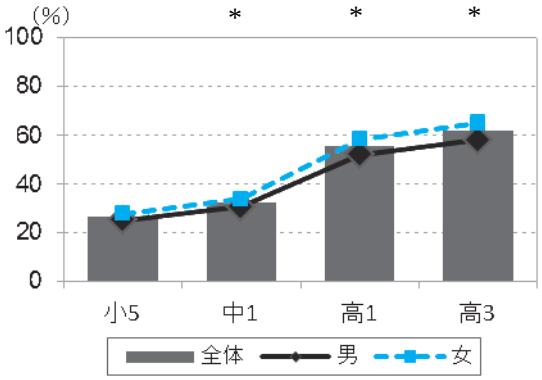
・女子では，小 5 から高 1 までは高学年ほど正答率が高く，高 1 と高 3 はほぼ同等の正答率であった。

問 45. 労働による傷害や職業病などは，働く人自身が注意していれば防ぐことができる。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	25.9	25.2	48.0	0.9	100.0	＊
	女	1,837	17.5	27.7	53.8	1.0	100.0	
	全体	3,764	21.8	26.4	50.8	0.9	100.0	
中1	男	1,983	27.4	30.6	41.4	0.7	100.0	＊
	女	1,866	21.1	34.0	44.7	0.2	100.0	
	全体	3,849	24.3	32.2	43.0	0.4	100.0	
高1	男	2,262	26.2	52.2	21.4	0.3	100.0	＊
	女	2,408	17.4	58.6	23.6	0.4	100.0	
	全体	4,670	21.6	55.5	22.5	0.4	100.0	
高3	男	1,881	25.2	58.3	15.9	0.6	100.0	＊
	女	2,231	18.4	65.2	16.3	0.1	100.0	
	全体	4,112	21.5	62.0	16.1	0.3	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

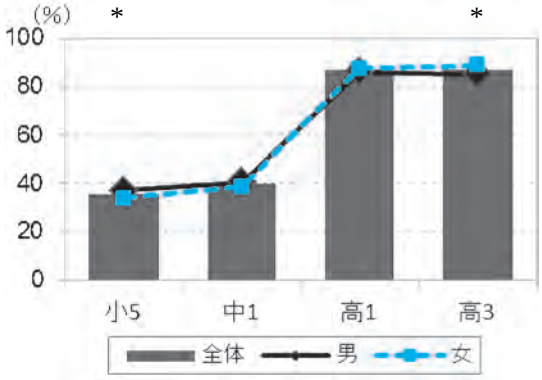
・男女共に，高学年ほど正答率が高かった。

問 46. 働く人々の健康のために，労働時間・休憩時間などが法律で規定されている。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	37.2	18.9	42.9	1.0	100.0	＊
	女	1,837	33.8	17.3	48.1	0.9	100.0	
	全体	3,764	35.5	18.1	45.5	0.9	100.0	
中1	男	1,983	40.6	24.4	34.5	0.5	100.0	
	女	1,866	38.7	25.2	35.7	0.3	100.0	
	全体	3,849	39.7	24.8	35.1	0.4	100.0	
高1	男	2,262	86.1	5.0	8.6	0.4	100.0	
	女	2,408	87.3	4.7	7.6	0.5	100.0	
	全体	4,670	86.7	4.8	8.1	0.4	100.0	
高3	男	1,881	85.0	5.5	9.2	0.4	100.0	＊
	女	2,231	88.6	3.8	7.4	0.2	100.0	
	全体	4,112	86.9	4.6	8.2	0.3	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・男子では，小 5 から高 1 までは高学年ほど正答率が高く，高 1 と高 3 はほぼ同等の正答率であった。

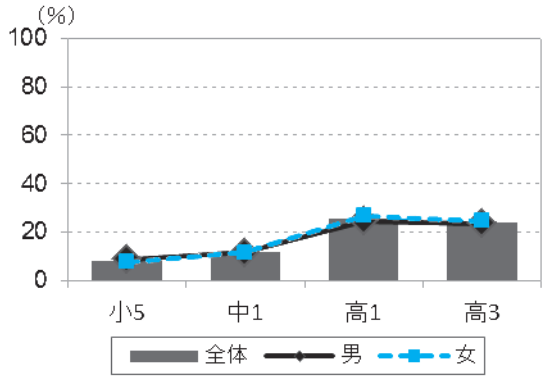
・女子では，高学年ほど正答率が高かった。

問 47. 平均寿命とは，現在の国民が生きることができる寿命の平均のことである。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計
小5	男	1,927	62.3	8.8	28.4	0.5	100.0
	女	1,837	60.0	7.7	31.7	0.5	100.0
	全体	3,764	61.2	8.3	30.0	0.5	100.0
中1	男	1,983	69.4	11.5	18.8	0.3	100.0
	女	1,866	71.4	11.5	16.8	0.3	100.0
	全体	3,849	70.4	11.5	17.8	0.3	100.0
高1	男	2,262	62.4	24.6	12.6	0.4	100.0
	女	2,408	60.6	26.8	12.2	0.4	100.0
	全体	4,670	61.5	25.7	12.4	0.4	100.0
高3	男	1,881	63.0	23.6	13.1	0.3	100.0
	女	2,231	62.9	24.6	12.3	0.2	100.0
	全体	4,112	62.9	24.1	12.7	0.2	100.0

男女差：χ^2検定，df=3，有意差なし



正答率の男女差：いずれの学年も有意差なし

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・いずれの学年も，正答率に男女差が示されなかった。

・男女共に，いずれの学年も 3 割未満の低い正答率であった。

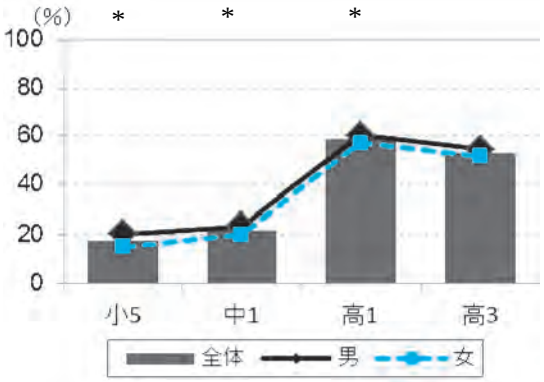
・男女共に，小 5 から高 1 までは高学年ほど正答率が高く，高 1 と高 3 はほぼ同等の正答率であった。

問 48. わが国では，エイズの患者数は増えている。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	20.3	15.2	63.9	0.6	100.0	＊
	女	1,837	15.0	10.0	74.4	0.5	100.0	
	全体	3,764	17.7	12.6	69.0	0.6	100.0	
中1	男	1,983	23.6	23.5	52.3	0.6	100.0	＊
	女	1,866	20.0	21.3	58.6	0.1	100.0	
	全体	3,849	21.8	22.4	55.4	0.3	100.0	
高1	男	2,262	60.3	14.4	25.1	0.3	100.0	＊
	女	2,408	57.1	12.9	29.7	0.3	100.0	
	全体	4,670	58.6	13.6	27.5	0.3	100.0	
高3	男	1,881	54.4	18.3	26.9	0.3	100.0	＊
	女	2,231	51.7	14.2	34.1	0.0	100.0	
	全体	4,112	52.9	16.1	30.8	0.2	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05

正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

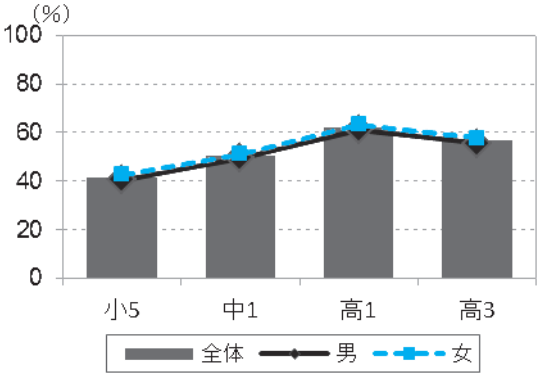
・男女共に，小 5 から高 1 までは高学年ほど正答率が高いものの，高 3 では正答率が低下した。

問 49. わが国では，がんで死亡する人が減っている。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	20.1	40.6	38.9	0.4	100.0	*
	女	1,837	10.9	42.6	46.1	0.5	100.0	
	全体	3,764	15.6	41.6	42.4	0.4	100.0	
中1	男	1,983	14.8	49.6	35.4	0.3	100.0	*
	女	1,866	9.6	51.1	39.2	0.1	100.0	
	全体	3,849	12.3	50.3	37.2	0.2	100.0	
高1	男	2,262	16.9	61.0	21.8	0.2	100.0	*
	女	2,408	11.5	63.1	25.0	0.5	100.0	
	全体	4,670	14.1	62.1	23.4	0.3	100.0	
高3	男	1,881	20.6	55.4	23.8	0.1	100.0	*
	女	2,231	13.3	57.7	29.0	0.0	100.0	
	全体	4,112	16.6	56.7	26.6	0.1	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：いずれの学年も有意差なし
正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

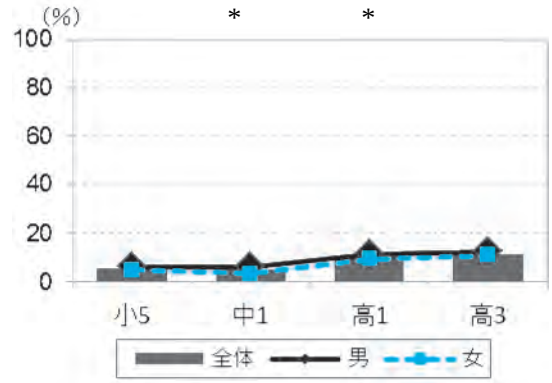
・いずれの学年も，正答率に男女差が示されなかった。
・男女共に，小 5 から高 1 までは高学年ほど正答率が高いものの，高 3 では正答率が低下した。

問 50. わが国では，がんを早期に発見するためにがん検診を受ける人が，近年，急激に増えている。

（%）

		n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
小5	男	1,927	52.6	6.4	40.5	0.5	100.0	*
	女	1,837	46.7	5.0	48.1	0.2	100.0	
	全体	3,764	49.7	5.7	44.2	0.3	100.0	
中1	男	1,983	60.6	6.3	32.8	0.3	100.0	*
	女	1,866	62.3	3.4	34.2	0.1	100.0	
	全体	3,849	61.4	4.9	33.5	0.2	100.0	
高1	男	2,262	61.8	11.6	26.5	0.2	100.0	*
	女	2,408	58.2	9.6	31.9	0.3	100.0	
	全体	4,670	59.9	10.5	29.3	0.3	100.0	
高3	男	1,881	63.1	12.7	23.9	0.4	100.0	*
	女	2,231	63.2	11.0	25.7	0.0	100.0	
	全体	4,112	63.2	11.8	24.9	0.2	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05



正答率の男女差：＊p<0.05
正答率の学年間差：男 p<0.05，女 p<0.05

・男女共に，いずれの学年も 2 割未満の低い正答率であった。

4）小括

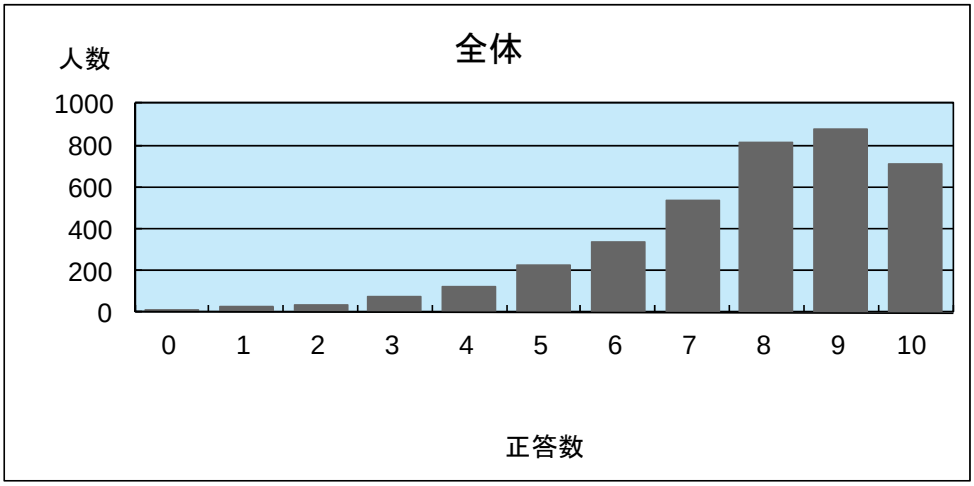
小学校 5 年生，中学校 1 年生，高校 1 年生及び 3 年生を対象とした共通テストは，保健についての幅広い知識の状況を問うたものである。全 50 問の平均正答数は，男女共に学年が上がるにつれ有意に高値を示した。このことから，学校での保健教育や保健に関する生活経験等の影響を受けながら着実に高められている傾向が示唆された。

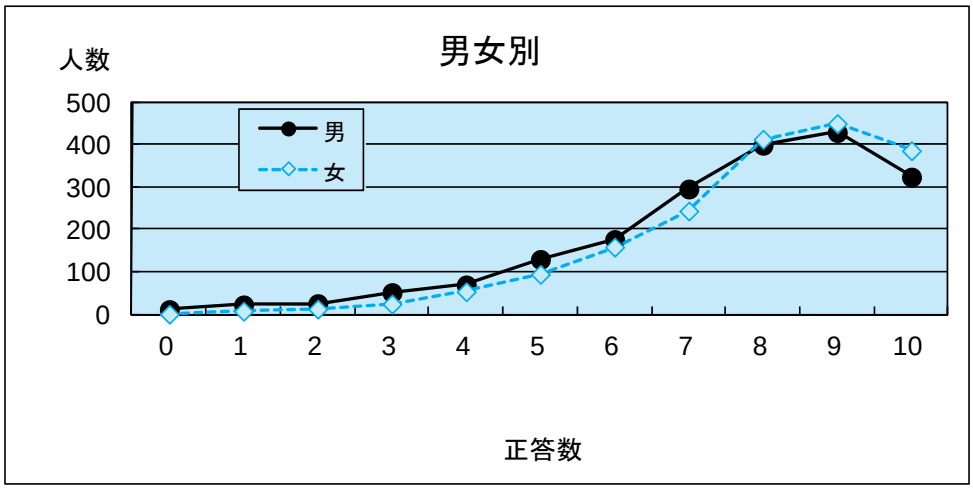
問題別にみると，学習指導要領で系統的に位置づけられている指導内容に関する問題（「12. 思春期の体の変化とホルモン」，「34. 心身相関の仕組み」等）は，高学年ほど正答率が高くなる傾向がみられ，正しい保健の知識を身に付けていく状況が示された。また，正答率がいずれの学年においても高い問題としては，「6. 食事，運動，休養のバランス」，「16. 感染症予防とマスク」，「21. 喫煙の健康影響」などがみられ，これらの知識については低学年においても一般的に広まっていることが分かった。しかし，高 3 の段階での正答率が高 1 よりも低い問題（「2. 健康増進法」，「48. わが国のエイズ患者数の動向」等）も少なからずみられ，高 3 における知識の定着あるいは向上をいかに図るかが課題として示された。また，正答率がいずれの学年でも低い問題（「41. 医薬品の副作用」，「47. 平均寿命の意味」等）もみられ，そうした内容の保健学習における取扱い方等を含めて，今後の検討が望まれる。

（３）保健学習の内容の知識テスト

１）小学校３・４年の内容の知識テスト（小学校５年生対象）

①正答の合計の分布





	男	女	全体
対象人数	1,927	1,837	3,764
平均得点	7.5	8.0	7.7
標準偏差	2.11	1.80	1.97
最大値	10	10	10
最小値	0	1	0

・平均正答数は，全体 7.7 問（男子 7.5 問，女子 8.0 問）であり，女子の方が有意に多かった。

②問題別の正答率

（%）

学習指導要領（平成 20 年）		（調査票番号） 問 題†	男	女	差#	全体
毎日の生活と健康	ア 健康な生活とわたし	（Ⅲ-1-1）健康の考え方（行動と環境の関わり）	72.3	71.9		72.1
	イ 1日の生活の仕方	（Ⅲ-1-2）清潔（汗の始末）	82.7	86.7	＊	84.6
		（Ⅲ-2-1）1日の生活の中での食事・運動・休養のバランス‡	70.4	80.1	＊	75.1
		（Ⅲ-2-2）1日の生活の中での食事・運動・休養のバランスの必要性	79.4	88.1	＊	83.7
	ウ 身の回りの環境	（Ⅲ-1-3）直射日光下での読書	55.8	61.0	＊	58.3
		（Ⅲ-1-4）人ごみの汚れた空気による体調不良	69.0	70.6		69.8
育ちゆく体とわたし	ア 体の発育・発達	（Ⅲ-1-5）思春期における身長の個人差	74.9	78.8	＊	76.8
	イ 思春期の体の変化	（Ⅲ-2-3）思春期の体の変化に悩む友達への適切なアドバイス‡	85.7	93.0	＊	89.3
		（Ⅲ-2-4）思春期における男女の体つきの変化‡	86.6	91.9	＊	89.2
	ウ 体をよりよく発育・発達させるための生活	（Ⅲ-1-6）体の発育のためのバランスの良い食事	75.4	73.7	＊	75.6
		全体（平均）	75.4	79.6		77.5

† Ⅲ-2-2，Ⅲ-2-3は主として「思考・判断」，それ以外は主として「知識・理解」について問う項目
‡ 平成16年調査と同じ問題
# 男女差：χ^2検定，df=1，＊$p<0.05$

・全体の平均正答率は 77.5%（男子 75.4%，女子 79.6%）で，平成 16 年調査（計 24 問）よりも問題数は減っているものの，やや低い割合（平成 16 年調査の正答率 83.9%）であった。
・男女別にみると，10 問中 8 問に有意差が認められ，そのうち 7 問において女子の方が男子に比して高い正答率を示した。

③問題別の回答状況（表中の　　は正答を示す）

『毎日の生活と健康』

（Ⅲ-1-1）健康の考え方（行動と環境の関わり）

「自分の行動や身の回りの環境は，自分の心や体の健康に関係がある。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-1	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計
男	1,927	72.3	6.7	20.3	0.7	100.0
女	1,837	71.9	5.7	21.7	0.8	100.0
全体	3,764	72.1	6.2	21.0	0.7	100.0

男女差：χ^2検定，df=3，有意差なし

・正答率は全体で 72.1%であった。
・男女別による回答状況には，有意差は認められなかった。
・「３．わからない」と回答した者が，全体で約 21%みられた。
・この問題は，小学校学習指導要領（平成 20 年）で新たに示された内容に合わせて設定されたものである。本調査は，小学校学習指導要領（平成 20 年）の全面実施となる平成 23 年度の前年に実施されたものであり，一部には先行実施していた学校も想定されるものの，回答した児童のほとんどは保健学習の内容としては指導を受けていないと考えられるが，正答率は約 7 割であった。

（Ⅲ-1-2）清潔（汗の始末）

「毎日を健康に過ごすためには，汗をふくなど，体の清潔（せいけつ）を保つことが必要である。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-2	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	1,927	82.7	5.3	11.3	0.7	100.0	
女	1,837	86.7	2.6	10.1	0.7	100.0	*
全体	3,764	84.6	4.0	10.7	0.7	100.0	

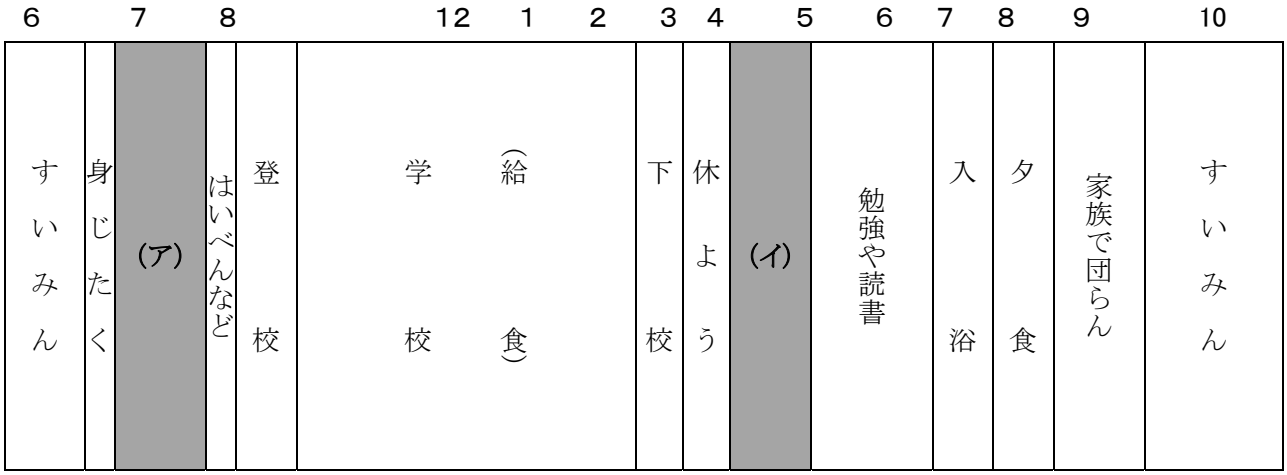
男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

・正答率は全体で 84.6%であり，良好であった。
・男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ-2-1）１日の生活の中での食事・運動・休養のバランス

下の図は，A さんの，健康によい生活ができたある１日を示したものです。（ア），（イ）でそれぞれ何をしたのでしょうか。あてはまる組み合わせを１つ選んで，その番号に○をつけてください。

１．（ア）運動　（イ）運動
２．（ア）運動　（イ）食事
３．（ア）食事　（イ）すいみん
４．（ア）食事　（イ）運動



（%）

Ⅲ-2-1	n	1	2	3	4	無回答等	計	
男	1,927	1.8	3.7	4.9	70.4	19.2	100.0	＊
女	1,837	1.3	2.7	4.2	80.1	11.6	100.0	
全体	3,764	1.6	3.2	4.6	75.1	15.5	100.0	

男女差：χ^2検定，df=4，＊ $p<0.05$

・正答率は全体で 75.1%であった。
・男女別による回答状況には，有意差が認められた。
・無回答等の割合が，全体で約 15%であった。これは，誤った回答方法によるもの（例えば，番号に○をつけないで，（ア）（イ）に○をつけたり，「運動」「食事」に○をつけたりしたもの等）を無回答等に分類したためであった。
・平成 16 年調査と比較すると，平成 16 年度の正答率（男子 76.5%，女子 85.7%，全体 81.0%）に比して，男子，女子，全体のいずれの正答率においても有意に低値を示した（χ^2検定，df=1，$p<0.05$）。

（Ⅲ-2-2）１日の生活の中での食事・運動・休養のバランスの必要性

あなたの（Ⅲ-2-1）での回答の理由は何ですか。あてはまるものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

１．すいみんが健康に必要だから。
２．食事が健康に必要だから。
３．運動が健康に必要だから。
４．食事・運動・すいみんのバランスが健康に必要だから。

（%）

Ⅲ-2-2	n	1	2	3	4	無回答等	計	
男	1,927	4.3	5.8	6.4	79.4	4.1	100.0	＊
女	1,837	2.0	4.0	3.6	88.1	2.2	100.0	
全体	3,764	3.2	4.9	5.0	83.7	3.2	100.0	

男女差：χ^2検定，df=4，＊p<0.05

・正答率は全体で 83.7%であり，良好であった。
・男女別による回答状況には，有意差が認められた。
・この問題は，主として思考・判断を問う問題として設定したものであった。正答率は 8 割を超えており，良好であった。

（Ⅲ-1-3）直射日光下での読書

「太陽の光が直接（ちょくせつ）あたるところは明るいので，読書するのによい。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-3	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	1,927	21.6	55.8	21.8	0.8	100.0	＊
女	1,837	15.1	61.0	23.1	0.8	100.0	
全体	3,764	18.4	58.3	22.4	0.8	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

・正答率は全体で 58.3%であり，低かった。
・男女別による回答状況には，有意差が認められた。
・「３．わからない」と回答した者が，全体で約 22%みられた。

（Ⅲ-1-4）人ごみの汚れた空気による体調の悪化

「人が多く集まる部屋の中は，空気が汚(よご)れやすくなるため，体の調子が悪くなることがある。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-4	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	1,927	69.0	9.2	20.8	1.0	100.0	＊
女	1,837	70.6	6.0	22.5	0.8	100.0	
全体	3,764	69.8	7.7	21.7	0.9	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

・正答率は全体で 69.8%であり，良好ではなかった。
・男女別による回答状況には，有意差が認められた。
・「３．わからない」と回答した者が，全体で約 22%みられた。

『育ちゆく体とわたし』

（Ⅲ-1-5）思春期における身長の個人差

「人の身長は，急に伸びる時期と，ゆっくり伸びる時期とがある。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

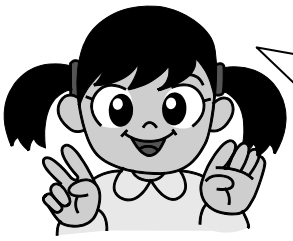
Ⅲ-1-5	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	1,927	74.9	8.5	15.8	0.8	100.0	＊
女	1,837	78.8	7.0	13.6	0.7	100.0	
全体	3,764	76.8	7.7	14.7	0.7	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

・正答率は全体で 76.8%であった。
・男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ-2-3）思春期の体の変化に悩む友達への適切なアドバイス

５年生女子の A さんは，胸（むね）がふくらみはじめて，なやんでいます。正しいアドバイスの組み合わせを一つ選んで，その番号に○をつけてください。



（ア）とてもはずかしいことだね。体の変化なんてなくなればいいね。

（イ）大人の体に一歩近づいたということだね。体を大切にしたいね。

１．（ア）も（イ）も正しい。
２．（ア）は正しい，（イ）は正しくない。
３．（ア）は正しくない，（イ）は正しい。
４．（ア）も（イ）正しくない。

（%）

Ⅲ-2-3	n	1	2	3	4	無回答等	計	
男	1,927	4.7	2.4	85.7	1.7	5.4	100.0	＊
女	1,837	2.1	1.6	93.0	0.9	2.4	100.0	
全体	3,764	3.4	2.0	89.3	1.3	4.0	100.0	

男女差：χ^2検定，df=4，＊p<0.05

・正答率は全体で 89.3%であり，良好であった。
・男女別による回答状況には，有意差が認められた。
・この問題は，主として思考・判断を問う問題として設定したものであった。正答率は約 9 割で，良好であった。
・平成 16 年調査と比較すると，平成 16 年調査の正答率（男子 90.2%，女子 96.3%，全体 93.1%）に比して，男子，女子，全体，いずれの正答率においても有意に低値を示した（χ^2検定，df=1，p<0.05）。

（Ⅲ-2-4）思春期における男女の体つきの変化

思春期には体つきの変化が起こります。体つきの変化について正しいものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

1．男子は丸みがある体つき，女子はがっしりした体つきになる。
2．男子も女子もがっしりした体つきになる。
3．男子も女子も丸みのある体つきになる。
4．男子はがっしりした体つき，女子は丸みがある体つきになる。

（%）

Ⅲ-2-4	n	1	2	3	4	無回答等	計	
男	1,927	2.0	5.7	2.4	86.6	3.4	100.0	＊
女	1,837	1.3	4.0	1.6	91.9	1.2	100.0	
全体	3,764	1.6	4.8	2.0	89.2	2.3	100.0	

男女差：χ^2検定，df=4，＊p<0.05

・正答率は全体で 89.2%であり，良好であった。
・男女別による回答状況には，有意差が認められた。
・平成 16 年調査と比較すると，平成 16 年調査の正答率（男子 86.3%，女子 93.6%，全体 89.8%）に比して低値を示し，女子の正答率において有意に低かった（χ^2検定，df=1，p<0.05）。

（Ⅲ-1-6）体の発育のためのバランスの良い食事

「体をよりよく発育させるためには，たんぱく質やカルシウムなどを取る必要がある。」
＜選択肢＞　1．正しい　2．まちがい　3．わからない

（%）

Ⅲ-1-6	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	1,927	77.4	4.3	17.5	0.7	100.0	＊
女	1,837	73.7	4.1	21.5	0.7	100.0	
全体	3,764	75.6	4.2	19.5	0.7	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

・正答率は全体で 75.6%であった。
・男女別による回答状況には，有意差が認められた。
・「3．わからない」と回答した者が，全体で約 20%みられた。

④小括

小学校 5 年生を対象とした知識テストは計 10 問から構成され，正答数の平均は 7 問を上回った。平均正答率は約 77%であり，おおむね良好な結果を示したといえる。また，多くの問題において女子の正答率の方が男子よりも高かった。

単元別に正答率を比較すると，『毎日の生活と健康』の方がやや低い傾向にある。

『毎日の生活と健康』では，「直射日光下での読書」や「人ごみの汚れた空気による体調の不良」など身の回りの環境に関する内容についてはやや低い正答率が示された。しかしながら，清潔や，一日の生活の仕方に関する内容においては 8 割を上回る高い正答率を示した。そして，新たに保健学習で学ぶことになる「健康の考え方（行動と環境の関わり）」については，正答率が男女ともに 7 割を上回っていた。

『育ちゆく体とわたし』では，思春期の体の変化については 9 割弱の極めて高い正答率を示し，また，体の発育・発達と体をより良く発育発達させるための生活に関しても 8 割弱の正答率であり，良好であった。

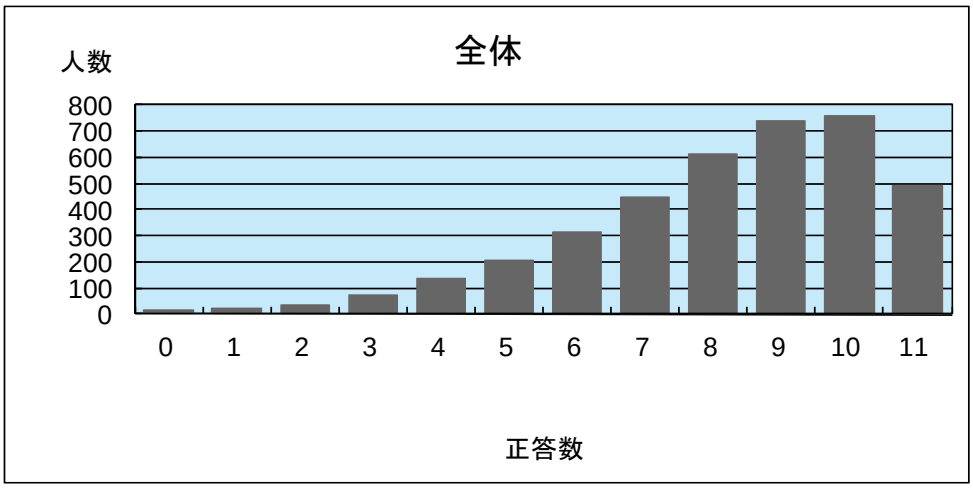
なお，回答の選択肢として「わからない」を含む問題においては，「わからない」という回答の割合が 20%を上回ったものが 4 問みられた。このうち，新しい内容である「健康の考え方（行動と環境の関わり）」において「わからない」と回答の割合が多くなることは，当然の結果とも捉えられる。それ以外の「直射日光下での読書」や「人ごみの汚れた空気による体調の不良」，「体の発育のためのバランスの良い食事」の各問題に共通することは，いわゆる生活経験では補えない知識，まさしく保健学習において学習されるような知識が問われている問題であることと言える。こうした知識について正しく答えられるような授業が展開されることが望まれる。

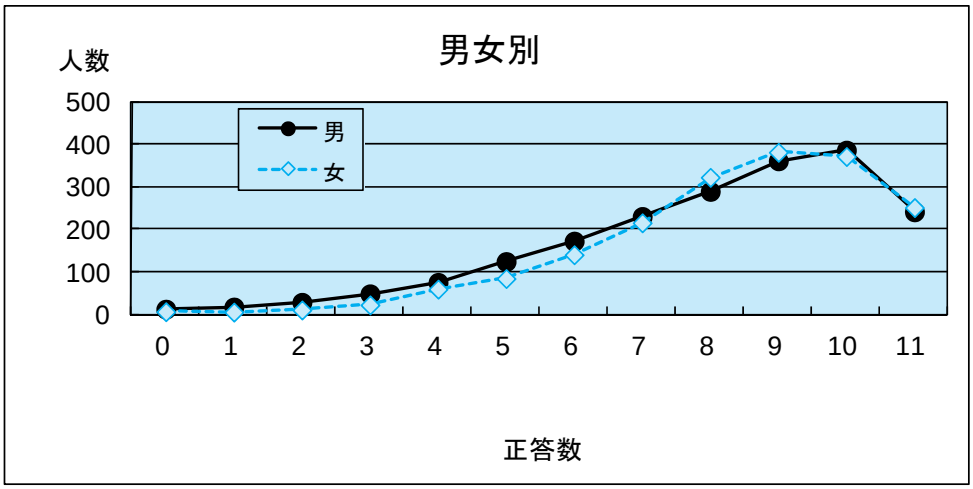
そして，平成 16 年度調査と同じ問題においては，3 問ともに正答率が低下する傾向にあり，うち 2 問で有意に低い割合を示した。ただし，これらの問題は今回の調査結果において，3 問中 2 問で 8 割を上回った。

以上のように，小学校中学年の保健学習の内容に関する知識の習得状況は，概ね良好な結果を示した。しかしながら，「身の回りの環境」，「健康の考え方（行動と環境の関わり）」，「身体をよりよく発育・発達させるための生活」に関する内容等の習得状況が良好とは言えなかった。また，平成 16 年度調査と同じ問題による調査実施年差の比較では，やや低下した問題がみられ，憂慮された。

２）小学校５・６年の内容の知識テスト（中学校１年生対象）

①正答の合計の分布





	男	女	全体
対象人数	1,983	1,866	3,849
平均得点	8.0	8.3	8.2
標準偏差	2.37	2.06	2.23
最大値	11	11	11
最小値	0	0	0

・平均正答数は，全体 8.2 問（男子 8.0 問，女子 8.3 問）で，女子の方が有意に多かった。

②問題別の正答率

（%）

学習指導要領（平成 20 年）		（調査票番号） 問 題†	男	女	差#	全体
心の健康	ア 心の発達	（Ⅲ-1-1） 人との関わりなどによる心の発達	82.1	89.9	＊	85.9
	イ 心と体の相互の影響	（Ⅲ-1-2） 心身の相関（体調不良時にやる気が出ないこと）	52.6	56.4	＊	54.5
	ウ 不安や悩みへの対処	（Ⅲ-2-1） 不安や悩みへの対処	73.0	82.4	＊	77.6
けがの防止	ア 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止	（Ⅲ-2-4） 周囲の危険を避けるための適切な行動	83.2	88.2	＊	85.6
	イ けがの手当	（Ⅲ-2-2-A）打撲の応急手当	84.9	85.6		85.2
		（Ⅲ-2-2-B）すり傷の応急手当	92.3	93.8		93.0
病気の予防	ア 病気の起こり方	（Ⅲ-2-5） 感染症の原因と予防対策	64.7	71.4	＊	67.9
	イ 病原体がもとになって起こる病気の予防	（Ⅲ-1-3） 予防接種の役割	69.5	58.9	＊	64.4
	ウ 生活行動が関わって起こる病気の予防	（Ⅲ-1-4） 生活習慣病と食生活の関係	60.3	63.1		61.7
	エ 喫煙，飲酒，薬物乱用と健康	（Ⅲ-2-3） 飲酒の体への影響‡	74.1	79.5	＊	76.7
	オ 地域の様々な保健活動の取り組み	（Ⅲ-1-5） 地域の様々な保健活動の取り組み	62.7	65.0		63.8
		全体（平均）	72.7	75.8		74.2

† Ⅲ-2-2，Ⅲ-2-3，Ⅲ-2-4は主に「思考・判断」，それ以外は主に「知識・理解」について問う項目
‡ 平成16年調査と同じ問題
# 男女差：χ^2検定，df=1，＊$p<0.05$

・全体の平均正答率は 74.2%（男子 72.7%，女子 75.8%）で，平成 16 年調査（計 20 問）よりも問題数が減っているものの，やや高い割合（平成 16 年調査の正答率 65.2%）であった。
・男女別にみると，11 問中 7 問に有意差が認められ，そのうち 6 問において女子の方が男子に比して高い正答率を示した。

③問題別の回答状況（表中の　　は正答を示す）

『心の健康』

（Ⅲ-1-1）人との関わりなどによる心の発達

「人とのかかわりや，自然とのふれ合いなどの経験は，『心の発達』に関係する。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-1	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	1,983	82.1	1.9	15.1	0.9	100.0	*
女	1,866	89.9	1.1	8.1	0.9	100.0	
全体	3,849	85.9	1.5	11.7	0.9	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

・正答率は全体で 85.9%であり，良好であった。
・男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ-1-2）心身の相関（体調不良時にやる気が出ないこと）

「病気や寝不足などで体調が悪いとき，なにもやる気が起こらないのは，体と心が互いに影響し合っているからである。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-2	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	1,983	52.6	14.4	31.9	1.0	100.0	*
女	1,866	56.4	10.9	31.6	1.1	100.0	
全体	3,849	54.5	12.7	31.8	1.0	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

・正答率は全体で 54.5%であり，低かった。
・男女別による回答状況には，有意差が認められた。
・「３．わからない」と回答した者が，全体で約 32%みられた。

（Ⅲ-2-1）不安や悩みへの対処

不安や悩みが解決できなくてイライラしているとき，気持ちを落ち着かせるための方法について，適切でないものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

１．人と話す。
２．自分のせいだと思うようにする。
３．スポーツや運動などで，体を動かす。
４．音楽を聴くなど，自分の好きなことをする。

（%）

Ⅲ-2-1	n	1	2	3	4	無回答等	計	
男	1,983	5.8	73.0	6.1	13.0	2.1	100.0	＊
女	1,866	3.9	82.4	1.8	9.5	2.4	100.0	
全体	3,849	4.9	77.6	4.0	11.3	2.2	100.0	

男女差：χ^2検定，df=4，＊p<0.05

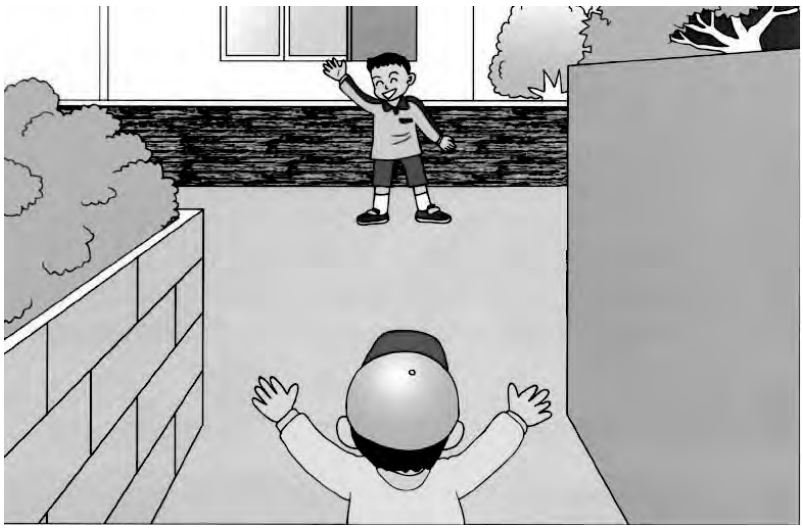
・正答率は全体で 77.6%であった。
・男女別による回答状況には，有意差が認められた。
・誤答である，「４．音楽を聴くなど，自分の好きなことをする」と回答した者が全体で約 11%であった。
・この問題は，主として思考・判断を問う問題として設定したものであった。正答率は女子では 8 割を超えたが，男子はそれに満たず，全体でも 8 割に満たなかった。

『けがの防止』

（Ⅲ-2-4）周囲の危険を避けるための適切な行動

下のイラストのような場面で，次に起こる危険を避(さ)けるための行動について，適切でないものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

道路の向こう側から，友だちがあなたを呼んでいます。



参考資料：文科省学校健康教育課発行「交通安全に関する危険予測学習教材（小学校 4～6 年生用）」を一部改変

1．見通しのよいところまで近づいて，車が来ないことを確認する。
2．友だちが呼んでいて急いでいたとしても，必ず一時停止する。
3．近くの横断歩道まで移動してから，向こう側に渡る。
4．車が見えないので，急いで道路を渡る。

（%）

Ⅲ-2-4	n	1	2	3	4	無回答等	計	
男	1,983	6.1	4.4	3.3	83.2	3.1	100.0	＊
女	1,866	3.6	3.5	2.7	88.2	2.0	100.0	
全体	3,849	4.9	4.0	3.0	85.6	2.5	100.0	

男女差：χ^2検定，df=4，＊p<0.05

・正答率は全体で 85.6%であり，良好であった。
・男女別による回答状況には，有意差が認められた。
・この問題は，小学校学習指導要領（平成 20 年）で新たに示された内容に合わせて設定されたものである。また，この問題は主として思考・判断を問う問題として設定したものであった。正答率は約 8 割を超えており，良好であった。

（Ⅲ-2-2）　応急手当

次のA，Bに示されたけがをしたとき，まず，どのような手当をしたらよいでしょうか。正しいものを１つ選んで，その番号に○をつけてください。

A：だぼくをしたとき

１．動かさないようにして冷やす。

２．動かさないようにして温める。

３．よくもみほぐす。

４．のばしたり，さすったりする。

B：すりきずをしたとき

１．そのままばんそうこうをはる。

２．氷で冷やす。

３．きれいな水で洗う。

４．すぐにくすりをつける。

（Ⅲ-2-2A）打撲の応急手当

（%）

Ⅲ-2-2A	n	1	2	3	4	無回答等	計
男	1,983	84.9	5.3	4.0	4.0	1.8	100.0
女	1,866	85.6	5.5	3.4	3.5	2.0	100.0
全体	3,849	85.2	5.4	3.7	3.8	1.9	100.0

男女差：χ^2検定，df=4，有意差なし

・正答率は全体で85.2%であり，良好であった。

・男女別による回答状況には，有意差が認められなかった。

（Ⅲ-2-2B）すり傷の応急手当

（%）

Ⅲ-2-2B	n	1	2	3	4	無回答等	計	
男	1,983	3.0	0.8	92.3	2.2	1.7	100.0	
女	1,866	2.5	1.1	93.8	0.8	1.8	100.0	＊
全体	3,849	2.8	0.9	93.0	1.5	1.8	100.0	

男女差：χ^2検定，df=4，＊p<0.05

・正答率は全体で93.0%であり，きわめて良好であった。

・男女別による回答状況には，有意差が認められた。

『病気の予防』

（Ⅲ-2-5）感染症の原因と予防対策

病原体がもとになって起こる病気の予防には，①病原体の発生源をなくしたり，②移る道筋を断ち切ったりして病原体が体に入るのを防いだり，③体のていこう力を高めておくことが必要です。それでは，③の「体のていこう力」を高めるために行うこととして最も当てはまるものを一つ選んで，その番号に〇をつけてください。

１．部屋の空気を入れかえる。
２．人ごみを避(さ)ける。
３．手洗いやうがいをする。
４．調和のとれた食事，適切な運動，休養及びすいみんをとる。

（%）

Ⅲ-2-5	n	1	2	3	4	無回答等	計	
男	1,983	7.9	5.5	18.6	64.7	3.3	100.0	＊
女	1,866	5.0	4.8	16.5	71.4	2.3	100.0	
全体	3,849	6.5	5.2	17.6	67.9	2.8	100.0	

男女差：χ^2検定，df=4，＊p<0.05

・正答率は全体で 67.9%であり，良好ではなかった。
・男女別による回答状況には，有意差が認められた。
・誤答である，「３．手洗いやうがいをする」と回答した者は，全体で約 18%であった。
・この問題は，主として思考・判断を問う問題として設定したものであった。正答率は 7 割に満たず，良好ではなかった。

（Ⅲ-1-3）予防接種の役割

「予防接種は，体のていこう力を高めるために行う。」

＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-3	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	1,983	69.5	13.2	16.2	1.1	100.0	*
女	1,866	58.9	18.3	21.8	1.0	100.0	
全体	3,849	64.4	15.7	18.9	1.1	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

・正答率は全体で 64.4%であり，良好ではなかった。

・男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ-1-4）生活習慣病と食生活の関係

「『心臓や脳の血管が固くなったり，つまったりする病気』の予防には，糖分，脂肪分，塩分などが多い食事をとる必要がある。」

＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-4	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	1,983	10.0	60.3	28.6	1.2	100.0	*
女	1,866	7.2	63.1	28.7	1.0	100.0	
全体	3,849	8.6	61.7	28.6	1.1	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

・正答率は全体で 61.7%であり，良好ではなかった。

・男女別による回答状況には，有意差が認められた。

・「３．わからない」と回答した者が，全体で約 29%みられた。

（Ⅲ-2-3）飲酒の体への影響

飲酒の体への影響について，まちがっているものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

1．一度に大量の酒を飲むと死んでしまうこともある。
2．酒に含まれるアルコールは，脳のはたらきを低下させる。
3．若い時期から酒を飲み始めると，健康への害が大きくなる。
4．20 歳を過ぎてから酒を飲むなら，健康への害はほとんどない。

（%）

Ⅲ-2-3	n	1	2	3	4	無回答等	計	
男	1,983	9.3	5.9	8.0	74.1	2.7	100.0	＊
女	1,866	8.0	3.4	6.3	79.5	2.8	100.0	
全体	3,849	8.7	4.7	7.2	76.7	2.8	100.0	

男女差：χ^2検定，df=4，＊p<0.05

・正答率は全体で 76.7%であった。
・男女別による回答状況には，有意差が認められた。
・平成 16 年調査と比較すると，平成 16 年調査の正答率（男子 72.0%，女子 76.9%，全体 74.4%）に比して高値を示し，女子，全体の正答率において有意に高かった（χ^2検定，df=1，p<0.05）。

（Ⅲ-1-5）地域の様々な保健活動の取り組み

「保健所や保健センターでは，地域の人々の健康を守るために様々な保健活動を行っている。」
＜選択肢＞　1．正しい　2．まちがい　3．わからない

（%）

Ⅲ-1-5	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	1,983	62.7	4.7	31.7	1.0	100.0	＊
女	1,866	65.0	2.5	31.6	0.9	100.0	
全体	3,849	63.8	3.6	31.6	0.9	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

・正答率は全体で 63.8%であり，良好であった。
・男女別による回答状況には，有意差が認められた。
・「3．わからない」と回答した者が，全体で約 32%みられた。
・この問題は，小学校学習指導要領（平成 20 年）で新たに示された内容に合わせて設定されたものである。したがって，回答した児童のほとんどは保健学習の内容としては指導を受けていないと考えられるが，正答率は約 6 割で，良好ではなかった。

④小括

中学校 1 年生を対象とした個別テストは計 11 問から構成され，正答数の平均は 8 問を上回った。平均正答率は約 74%であり，おおむね良好な結果を示したといえる。また，多くの問題において女子の正答率の方が男子よりも高かった。

単元別に正答率を比較すると，『けがの防止』が最も良好であり，『病気の予防』が最も低い傾向にある。

『心の健康』では，「心身の相関（体調不良時にやる気が出ないこと）」についての内容でやや低い正答率を示し，男女共に 6 割を下回り，また，「わからない」の割合が男女共に 3 割程度であった。しかしながら，心の発達や，不安や悩みへの対処に関する内容においてはそれぞれ 8 割程度の高い正答率を示した。

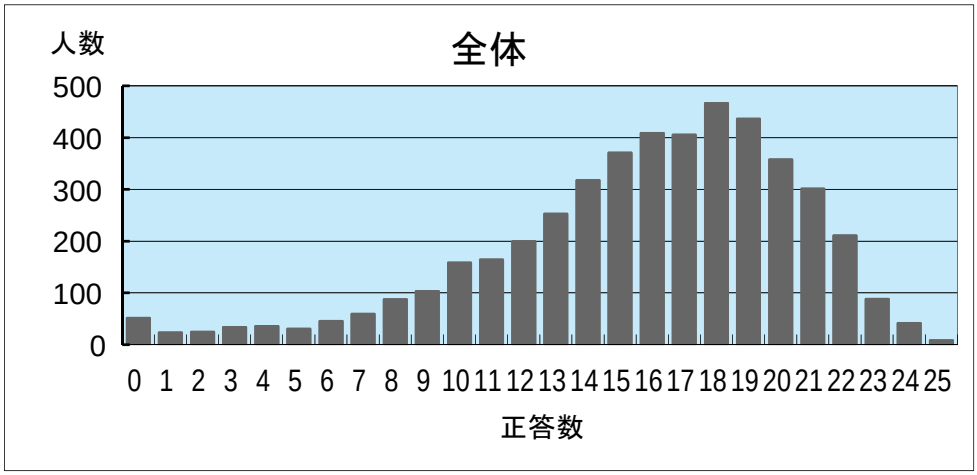
『けがの防止』では，けがの手当や周囲の危険に関する内容については 8 割を上回る高い正答率を示し，良好であった。そして，新たに保健学習で学ぶことになる「周囲の危険を避けるための適切な行動」についても，正答率が男女ともに 8 割を上回っていた。

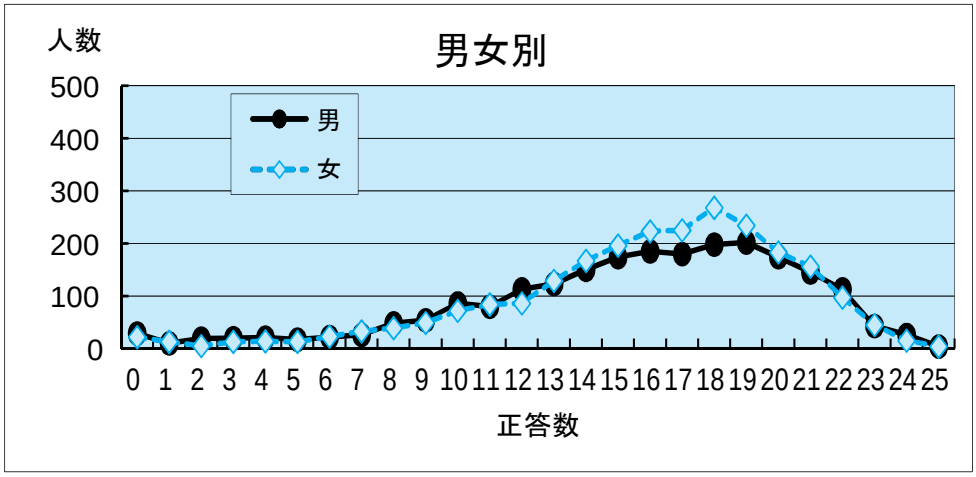
『病気の予防』では，飲酒と健康の内容については 8 割弱の正答率であり，良好であった。しかし，病原体が主な原因となる病気や，生活習慣がかかわって起こる病気の予防などについての内容では 7 割を下回る正答率であった。また，平成 16 年度調査と同じ問題である，「飲酒の体への影響」では，正答率が 8 割弱と良好な結果を示した。そして，新たに保健学習で学ぶことになる「地域の様々な保健活動の取り組み」については，正答率が男女ともに 6 割程度で，「わからない」としたものが 3 割程度であった。

以上のように，小学校高学年の保健学習の内容に関する知識の習得状況は，概ね良好であったと言える。問題別では，単元『けがの防止』の内容ではいずれも高い正答率を示した。しかしながら，単元『心の健康』の「心身の相関（体調不良時にやる気が出ないこと）」や，『病気の予防』の「予防接種の役割」，「生活習慣病と食生活の関係」等において正答率がやや低かった。また，「わからない」と回答した者の割合が 3 割程度みられる問題が目立ち，確かな知識の習得のための指導の工夫が求められていることが，平成 16 年調査に引き続き指摘された。

３）中学校の内容の知識テスト（高校１年生対象）

①正答の合計の分布





	男	女	全体
対象人数	2,262	2,408	4,670
平均得点	15.5	15.8	15.7
標準偏差	5.04	4.58	4.81
最大値	25	25	25
最小値	0	0	0

・ 正答の合計の分布は，男子，女子，全体，いずれにおいても 0～25 問（全 25 問）にわたり，平均正答数は，全体 15.7 問（男子 15.5 問，女子 15.8 問）で，男女ともに同様であった。

②問題別の正答率

（%）

学習指導要領（平成 20 年）		（調査票番号）	問題†	男子	女子	差#	全体
(1) 心身の機能の発達と心の健康	ア 身体機能の発達	(Ⅲ-1-1)	発達による呼吸数の変化	42.3	46.4	＊	44.4
	イ生殖にかかわる機能の成熟	(Ⅲ-1-2)	月経のしくみ	49.7	69.3	＊	59.8
		(Ⅲ-1-3)	生殖機能の発達とホルモン	7.5	5.5	＊	6.4
	ウ精神機能の発達と自己形成	(Ⅲ-1-4)	心の発達に影響する要因	81.8	82.4		82.1
	エ欲求やストレスへの対処と心の健康	(Ⅲ-1-5)	心身相関のしくみ	50.3	47.3	＊	48.7
		(Ⅲ-2-5)	自分にあったストレス対処法	69.2	79.0	＊	74.3
(2) 健康と環境	ア身体の環境に対する適応能力・至適範囲	(Ⅲ-2-1)	身体の環境に対する適応能力や環境の至適範囲‡	66.1	71.6	＊	68.9
	イ飲料水や空気の衛生的管理	(Ⅲ-1-6)	一酸化炭素の健康影響	88.5	86.4	＊	87.4
		(Ⅲ-1-7)	飲料水の衛生的管理	64.5	61.3	＊	62.8
	ウ生活に伴う廃棄物の衛生的管理	(Ⅲ-1-8)	ごみ焼却による健康影響	89.9	91.5		90.7
(3) 傷害の防止	ア交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因	(Ⅲ-1-9)	自然災害による傷害の発生要因	59.8	56.0	＊	57.8
	イ交通事故などによる傷害の防止	(Ⅲ-1-10)	中学生の交通事故の現状	58.2	56.5		57.3
		(Ⅲ-2-6)	自転車の交通事故による傷害の防止	67.0	65.6		66.3
	ウ自然災害による傷害の防止	(Ⅲ-1-11)	地震による傷害の防止	66.8	70.4	＊	68.7
	エ応急手当	(Ⅲ-1-12)	心肺停止に陥った人への対処	59.5	59.0		59.3
(4) 健康な生活と疾病の予防	ア健康の成り立ちと疾病の発生要因	(Ⅲ-2-2)	健康の成立にかかわる環境要因‡	59.9	58.0		58.9
	イ生活行動・生活習慣と健康	(Ⅲ-1-13)	運動の効果	83.1	87.2	＊	85.2
		(Ⅲ-1-14)	動脈硬化のしくみ	65.2	69.3	＊	67.3
	ウ喫煙，飲酒，薬物乱用と健康	(Ⅲ-1-15)	タバコのタールの作用	36.7	25.6	＊	31.0
		(Ⅲ-1-16)	飲酒開始年齢と依存症	57.8	55.0		56.4
		(Ⅲ-2-3)	喫煙，飲酒，薬物乱用のきっかけ‡	68.4	71.8	＊	70.1
	エ感染症の予防	(Ⅲ-1-17)	感染症の予防方法	64.3	63.9		64.1
		(Ⅲ-2-4)	エイズの疾病概念と HIV の感染のしかた‡	69.7	74.6	＊	72.2
	オ保健・医療機関や医薬品の有効利用	(Ⅲ-1-18)	保健所の役割	48.8	53.2	＊	51.0
	カ個人の健康を守る社会の取組	(Ⅲ-1-19)	健康を支える社会的な取組	73.0	78.2	＊	75.7
全体（平均）				61.9	63.4		62.7

† Ⅲ-2-5，Ⅲ-2-6 は主として「思考・判断」，それ以外は主として「知識・理解」について問う項目

‡ 平成16年調査と同じ問題

男女差：χ^2検定，df=1，＊$p<0.05$

- 全体の平均正答率は 62.7%（男子 61.9%，女子 63.4%）で，平成 16 年調査（計 21 問）よりも問題数が増えているものの，同程度（平成 16 年調査の正答率 62.4%）であった。
- 男女別にみると，25 問中 17 問に有意差が認められ，そのうちの 11 問で女子の方が男子に比して高い正答率を示した。

③問題別の回答状況（表中の　　は正答を示す）

『心身の機能の発達と心の健康』

（Ⅲ-1-1）発達による呼吸数の変化

「時間当たりの呼吸数は，年齢とともに増えていく。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-1	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	2,262	22.0	42.3	34.9	0.8	100.0	*
女	2,408	11.7	46.4	41.0	0.8	100.0	
全体	4,670	16.7	44.4	38.1	0.8	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

- 全体でみると，正答した者は約 44%であった。一方，「３．わからない」と回答した者が約 38%，誤答である「１．正しい」と回答した者が約 17%を占めていた。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ-1-2）月経のしくみ

「月経は，子宮内膜がはがれて体外に出される現象である。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-2	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	2,262	49.7	8.6	40.8	0.9	100.0	*
女	2,408	69.3	10.6	19.2	0.8	100.0	
全体	4,670	59.8	9.6	29.7	0.9	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

- 全体でみると，正答した者は 6 割程度であった。一方，「３．わからない」と回答した者が 3 割程度で，誤答である「２．まちがい」と回答した者が約 10%であった。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。特に，男子では，正答した者が 5 割程度である一方で，「３．わからない」と回答した者が約 41%，誤答である「２．まちがい」と回答した者が約 9%であった。

（Ⅲ-1-3）生殖機能の発達とホルモン

「生殖機能の発達は，成長ホルモンの働きによるものである。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-3	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	2,262	73.7	7.5	17.9	0.9	100.0	*
女	2,408	73.0	5.5	20.6	0.9	100.0	
全体	4,670	73.3	6.4	19.3	0.9	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

- 全体でみると，正答した者は約 6%であった。一方，「３．わからない」と回答した者が約 19%で，誤答である「１．正しい」と回答した者が約 73%であった。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ-1-4）心の発達に影響する要因

「心は，生活経験や学習などの影響を受けて発達する。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-4	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計
男	2,262	81.8	5.0	12.3	0.9	100.0
女	2,408	82.4	3.9	12.9	0.9	100.0
全体	4,670	82.1	4.4	12.6	0.9	100.0

男女差：χ^2検定，df=3，有意差なし

- 全体でみると，正答した者は約 82%程度であった。一方，「３．わからない」と回答した者が約 13%で，誤答である「２．まちがい」と回答した者が約 4%であった。

（Ⅲ-1-5）心身相関のしくみ

「心の状態と体の状態が密接にかかわっているのは，神経などの働きによるものである。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-5	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	2,262	50.3	20.0	28.9	0.8	100.0	*
女	2,408	47.3	13.8	38.0	1.0	100.0	
全体	4,670	48.7	16.8	33.6	0.9	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

- 全体でみると，正答した者は約 49%であった。一方，「３．わからない」と回答した者が約 34%で，誤答である「２．まちがい」と回答した者が約 17%であった。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ-2-5）自分にあったストレス対処法

私たちが，心の健康を保つには，ストレスに適切に対処することが必要であり，運動などでリラクセーションの方法を身に付けたり，趣味をもつことなどが効果的であると言われています。そこで，ストレスを感じていたＡさんは，週３回運動することとして，早速１ヶ月間，がんばって運動を続けてみました。けれども，気持ちをリラックスさせる効果はなかなかみられませんでした。１～４に示した理由の中で，最も適切だと思われるものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

＜理由＞

１．週３回だけでは効果が得られないから。
２．行ったストレス対処の方法が自分に合っていないから。
３．心と体は別であり，体を動かしても，心の状態には影響しないから。
４．継続して行わないと効果が得られないから。

（%）

Ⅲ-2-5	n	1	2	3	4	無回答等	計	
男	2,262	4.5	69.2	8.9	12.9	4.5	100.0	*
女	2,408	2.7	79.0	5.9	9.3	3.1	100.0	
全体	4,670	3.6	74.3	7.4	11.0	3.8	100.0	

男女差：χ^2検定，df=4，＊p<0.05

・ この問題は，主として「思考・判断」について問うものとして設定されたが，全体でみると，正答した者は約 74%であった。一方，誤答である「４．継続して行わないと効果が得られないから」と回答した者が 11%，また，誤答である「３．心と体は別であり，体を動かしても，心の状態には影響しないから」と回答した者が約 7%であった。
・ 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

『健康と環境』

（Ⅲ-2-1）身体の環境に対する適応能力や環境の至適範囲

次の各文は，身体の環境に対する適応能力や環境の至適範囲について述べたものです。１～４のうち，まちがっているもの一つに○をつけてください。

１．身体には，環境の変化に対して，一定の範囲内で適応する力がある。
２．環境の変化に対して，子どもは適応できないが，大人は適応できる。
３．環境の至適範囲を超えると，学習や作業の能率の低下が見られる。
４．学習や作業に適した明るさの範囲は，学習や作業の種類によって異なる。

（%）

Ⅲ-2-1	n	1	2	3	4	無回答等	計	
男	2,262	3.4	66.1	16.9	10.2	3.4	100.0	*
女	2,408	3.9	71.6	11.1	10.1	3.3	100.0	
全体	4,670	3.7	68.9	13.9	10.1	3.7	100.0	

男女差：χ^2検定，df=4，＊p<0.05

- この問題は平成 16 年調査と同じもので，全体でみると，正答した者は約 69%であった。一方，誤答である「３．環境の至適範囲を超えると，学習や作業の能率の低下が見られる」と回答した者が約 14%，また，誤答である「４．学習や作業に適した明るさの範囲は，学習や作業の種類によって異なる」と回答した者が１割程度であった。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。
- 平成 16 年調査と比較すると，平成 16 年調査の正答率（男子 54.3%，女子 56.9%，全体 55.7%）に比して，男子，女子，全体，いずれの正答率においても有意に高値を示した（χ^2 検定，df=1, p<0.05）。

（Ⅲ-1-6）一酸化炭素の健康影響

「一酸化炭素を吸い込むと，体の中の酸素が欠乏し，死に至ることがある。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-6	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	2,262	88.5	3.8	6.9	0.9	100.0	*
女	2,408	86.4	3.0	9.7	0.8	100.0	
全体	4,670	87.4	3.4	8.4	0.9	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

- 全体でみると，正答した者は約 87%であった。一方，「３．わからない」と回答した者が約 8%で，誤答である「２．まちがい」と回答した者が約 3%であった。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ-1-7）飲料水の衛生的管理

「透明でにおいのない水は衛生的であり，飲料水にも適している。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-7	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	2,262	15.4	64.5	19.4	0.8	100.0	*
女	2,408	12.8	61.3	24.9	0.9	100.0	
全体	4,670	14.1	62.8	22.2	0.8	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

- 全体でみると，正答した者は約 63%であった。一方，「３．わからない」と回答した者が約 22%で，誤答である「１．正しい」と回答した者が約 14%であった。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ-1-8）ごみ焼却による健康影響

「ごみを燃やして処理する過程では，人体に有害な物質が発生することもある。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-8	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	2,262	89.9	3.2	6.1	0.8	100.0	*
女	2,408	91.5	1.5	6.0	1.0	100.0	
全体	4,670	90.7	2.3	6.1	0.9	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

- 全体でみると，正答した者は約 90%であった。一方，「３．わからない」と回答した者が約 6%で，誤答である「２．まちがい」と回答した者が約 2%であった。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

『傷害の防止』

（Ⅲ-1-9）自然災害による傷害の発生要因

「自然災害による傷害は，環境要因により発生するため，人的要因で発生することはない。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-9	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	2,262	18.9	59.8	20.3	1.0	100.0	＊
女	2,408	16.0	56.0	27.0	1.0	100.0	
全体	4,670	17.4	57.8	23.8	1.0	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

- 全体でみると，正答した者は約 58%であった。一方，「３．わからない」と回答した者が約 24%で，誤答である「１．正しい」と回答した者が約 17%であった。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ-1-10）中学生の交通事故の現状

「中学生の交通事故による傷害は，自転車に乗車中の場合よりも，歩行中の場合に多い。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-10	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	2,262	15.0	58.2	25.9	0.9	100.0	＊
女	2,408	11.7	56.5	30.9	0.9	100.0	
全体	4,670	13.3	57.3	28.5	0.9	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

- 全体でみると，正答した者は約 57%であった。一方，「３．わからない」と回答した者が約 29%で，誤答である「１．正しい」と回答した者が約 13%であった。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ-2-6）自転車の交通事故による傷害の防止

次の文は，Ａさんが自転車の事故でケガをしたときについて述べたものです。１～４に示した対策例の中で，Ａさんの傷害を防ぐために最も適切と思われる方法を一つ選んで，その番号に○をつけてください。

塾が始まる時間に間に合わせようと自転車で急いでいたＡさんは，交差点にさしかかりました。一時停止の標識が見えて，「止まらなければいけない...」と思ったものの，急いでいたので，「いつも車が通らないから，大丈夫だろう...」と思って，交差点に進入しました。すると，左側から直進してきた自動車と接触し，ケガをしてしまいました。

＜対策例＞

１．一時停止の標識を増やすこと。
２．自分が乗っている自転車の特性を知ること。
３．自分の心身の状態を把握すること。
４．自動車の特性を知ること。

（%）

Ⅲ-2-6	n	1	2	3	4	無回答等	計	
男	2,262	11.8	5.7	67.0	10.9	4.6	100.0	
女	2,408	13.0	4.8	65.6	13.4	3.2	100.0	＊
全体	4,670	12.5	5.2	66.3	12.2	3.9	100.0	

男女差：χ^2検定，df=4，＊p<0.05

・ この問題は，主として「思考・判断」について問うものとして設定されたが，全体でみると，正答した者は約 66%であった。一方，誤答である「１．一時停止の標識を増やすこと」と回答した者が約 13%，また，誤答である「４．自動車の特性を知ること」と回答した者が約 12%であった。
・ 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ-1-11）地震による傷害の防止

「地震が発生した後では，二次災害を防ぐためにも，海岸などの広い場所へ速やかに逃げる必要がある。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-11	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	2,262	21.3	66.8	10.9	1.0	100.0	*
女	2,408	15.4	70.4	13.4	0.9	100.0	
全体	4,670	18.2	68.7	12.2	0.9	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

- 全体でみると，正答した者は約 69%であった。一方，「３．わからない」と回答した者が約 12%で，誤答である「１．正しい」と回答した者が約 18%であった。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ-1-12）心肺停止に陥った人への対処

「心肺停止に陥った人に対しては，まず安静にし，体を動かさないで様子を見る。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-12	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	2,262	21.4	59.5	18.2	0.8	100.0	*
女	2,408	18.5	59.0	21.6	0.9	100.0	
全体	4,670	19.9	59.3	20.0	0.9	100.0	

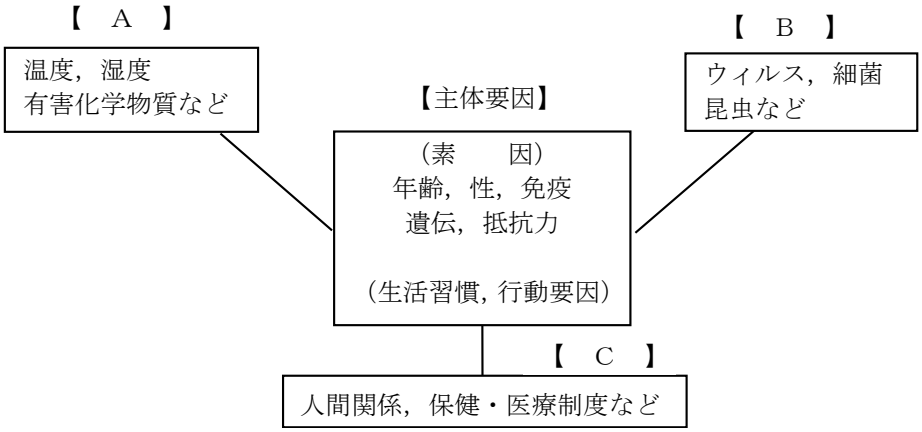
男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

- 全体でみると，正答した者は約 59%であった。一方，「３．わからない」と回答した者が 20%で，誤答である「１．正しい」と回答した者が約 20%であった。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

『健康な生活と疾病の予防』

（Ⅲ-2-2）健康の成立にかかわる環境要因

下の図のように，健康は，主体要因と，環境要因である【A】～【C】から成り立っています。【A】～【C】には，社会的要因，物理・化学的要因，生物学的要因のいずれかが当てはまります。１～６の組み合わせのうち，正しいもの一つに○をつけてください。



【組み合わせ】

	A	B	C
1	社会的要因	物理・化学的要因	生物学的要因
2	社会的要因	生物学的要因	物理・化学的要因
3	物理・化学的要因	社会的要因	生物学的要因
4	物理・化学的要因	生物学的要因	社会的要因
5	生物学的要因	物理・化学的要因	社会的要因
6	生物学的要因	社会的要因	物理・化学的要因

（%）

Ⅲ-2-2	n	1	2	3	4	5	6	無回答等	計	
男	2,262	3.6	7.7	17.2	59.9	4.0	1.4	6.3	100.0	*
女	2,408	5.2	6.9	17.7	58.0	5.3	2.0	4.9	100.0	
全体	4,670	4.5	7.3	17.5	58.9	4.7	1.7	5.6	100.0	

男女差：χ^2検定，df=6，＊p<0.05

- この問題は平成 16 年調査と同じもので，全体でみると，正答した者は約 59%であった。一方，誤答である「３」と回答した者が約 18%，また，誤答である「２」と回答した者が約 7%であった。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。
- 平成 16 年調査と比較すると，平成 16 年調査の正答率（男子 65.5%，女子 68.2%，全体 66.9%）に比して，男子，女子，全体，いずれの正答率においても有意に低値を示した（χ^2 検定，df=1, p<0.05）。

（Ⅲ-1-13）運動の効果

「運動には，各器官の機能の発達を促すだけでなく，精神的にもよい効果がある。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-13	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	2,262	83.1	4.0	11.8	1.2	100.0	*
女	2,408	87.2	1.4	10.3	1.1	100.0	
全体	4,670	85.2	2.7	11.0	1.1	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

- 全体でみると，正答した者は約 85%であった。一方，「３．わからない」と回答した者が 11%で，誤答である「２．まちがい」と回答した者が約 3%であった。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ-1-14）動脈硬化のしくみ

「動脈硬化は，血管にコレステロールがたまり，血管がかたくもろくなった状態のことである。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-14	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	2,262	65.2	16.2	17.6	0.9	100.0	*
女	2,408	69.3	9.4	20.4	0.9	100.0	
全体	4,670	67.3	12.7	19.1	0.9	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

- 全体でみると，正答した者は約 67%であった。一方，「３．わからない」と回答した者が約 19%で，誤答である「２．まちがい」と回答した者が約 13%であった。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ-1-15）タバコのタールの作用

「たばこの煙の中に含まれるタールには，喫煙を止めることを難しくする作用がある。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-15	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	2,262	50.0	36.7	12.3	1.0	100.0	*
女	2,408	59.3	25.6	14.0	1.0	100.0	
全体	4,670	54.8	31.0	13.2	1.0	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

- 全体でみると，正答した者は約 31%であった。一方，「３．わからない」と回答した者が約 13%で，誤答である「１．正しい」と回答した者が約 55%であった。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ-1-16）飲酒開始年齢と依存症

「未成年からの飲酒も，成人からの飲酒も，依存症へのなりやすさは変わらない。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-16	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計
男	2,262	27.8	57.8	13.5	1.0	100.0
女	2,408	30.6	55.0	13.5	0.9	100.0
全体	4,670	29.3	56.4	13.5	0.9	100.0

男女差：χ^2検定，df=3，有意差なし

・ 全体でみると，正答した者は約 56%であった。一方，「３．わからない」と回答した者が約 14%で，誤答である「１．正しい」と回答した者が約 29%であった。

（Ⅲ-2-3）喫煙，飲酒，薬物乱用のきっかけ

次の各文は，喫煙，飲酒，薬物乱用のきっかけについて述べたものです。１～４のうち，まちがっているもの一つに○をつけてください。

１．過度のストレスは，喫煙，飲酒，薬物乱用のきっかけの一つとなる。
２．喫煙や飲酒の広告は，好奇心をあおるが，ほとんどの国で規制されていない。
３．たばこ，酒，薬物の入手のしやすさは，乱用を促す要因の一つである。
４．喫煙，飲酒，薬物乱用のきっかけには，なげやりな気持ちなど共通するものがある。

（%）

Ⅲ-2-3	n	1	2	3	4	無回答等	計
男	2,262	8.1	68.4	10.5	10.5	2.5	100.0
女	2,408	7.4	71.8	9.3	9.5	2.0	100.0
全体	4,670	7.8	70.1	9.9	10.0	2.2	100.0

男女差：χ^2検定，df=4，有意差なし

・ この問題は平成 16 年調査と同じもので，全体でみると，正答した者は約 70%であった。一方，誤答である「４．喫煙，飲酒，薬物乱用のきっかけには，なげやりな気持ちなど共通するものがある」と回答した者が 10%，また，誤答である「３．たばこ，酒，薬物の入手のしやすさは，乱用を促す要因の一つである」と回答した者が約 10%であった。
・ 平成 16 年調査と比較すると，男子，女子，全体，いずれの正答率においても，調査実施年の間に有意差は認められなかった（χ^2検定，df=1，有意差なし）。

（Ⅲ-1-17）感染症の予防方法

「感染症を予防する方法には，発生源をなくすこと，感染経路を遮断すること，身体の抵抗力を高めることの３つがある。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-17	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	2,262	64.3	12.5	22.2	1.0	100.0	*
女	2,408	63.9	10.0	25.1	0.9	100.0	
全体	4,670	64.1	11.2	23.7	0.9	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

- 全体でみると，正答した者は約 64%であった。一方，「３．わからない」と回答した者が約 24%で，誤答である「２．まちがい」と回答した者が約 11%を占めていた。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ-2-4）エイズの疾病概念と HIV の感染のしかた

次の各文は，エイズ（後天性免疫不全症候群）とエイズを引き起こす HIV（ヒト免疫不全ウイルス）について述べています。１～５のうち，まちがっているもの一つに○をつけてください。

１．HIV に感染すると，体の抵抗力が低下して，いろいろな感染症やがんにかかりやすくなる。
２．HIV は，感染者の血液や精液，膣分泌液に含まれている。
３．HIV の感染経路として，性的接触によるものの割合が少なくなってきている。
４．HIV に感染しても，すぐには発病しない。
５．HIV の感染力は弱く，握手やプール，風呂などでは感染しない。

（%）

Ⅲ-2-4	n	1	2	3	4	5	無回答等	計	
男	2,262	6.2	3.1	69.7	7.2	9.2	4.7	100.0	*
女	2,408	6.7	2.5	74.6	5.3	7.8	3.2	100.0	
全体	4,670	6.5	2.7	72.2	6.2	8.5	3.9	100.0	

男女差：χ^2検定，df=5，＊p<0.05

- この問題は平成 16 年調査と同じもので，全体でみると，正答した者は約 72%であった。一方，誤答である「５．HIV の感染力は弱く，握手やプール，風呂などでは感染しない」と回答した者が約 9%，また，誤答である「１．HIV に感染すると，体の抵抗力が低下して，いろいろな感染症やがんにかかりやすくなる。」と回答した者が約 7%であった。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。
- 平成 16 年調査と比較すると，男子，女子，全体，いずれの正答率においても，調査実施年の間に有意差は認められなかった（χ^2検定，df=1，有意差なし）。

（Ⅲ-1-18）保健所の役割

「保健所は，感染症にかかった人を治療することが主な役割である。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-18	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	2,262	22.1	48.8	28.1	1.0	100.0	*
女	2,408	13.9	53.2	32.1	0.8	100.0	
全体	4,670	17.9	51.0	30.2	0.9	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

- 全体でみると，正答した者は 51%であった。一方，「３．わからない」と回答した者が約 30%で，誤答である「１．正しい」と回答した者が約 18%であった。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ-1-19）健康を支える社会的な取組

「人々の健康を支える社会的な取組には，住民の健康診断，心や体の健康相談などがある。」
＜選択肢＞　１．正しい　２．まちがい　３．わからない

（%）

Ⅲ-1-19	n	正しい	まちがい	わからない	無回答等	計	
男	2,262	73.0	3.9	22.2	0.9	100.0	*
女	2,408	78.2	1.7	19.2	0.8	100.0	
全体	4,670	75.7	2.8	20.7	0.9	100.0	

男女差：χ^2検定，df=3，＊p<0.05

- この問題は，中学校学習指導要領（平成 20 年）で示された新しい内容であるが，全体でみると，正答した者は約 76%程度であった。一方，「３．わからない」と回答した者が約 21%で，誤答である「２．まちがい」と回答した者が約 3%であった。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

④小括

全体（計 25 問）の平均正答率は約 63%で，平成 16 年調査（計 21 問，全体の平均正答率：約 62%）よりも問題数が増えているものの，同程度であった。男女別にみると，25 問中 17 問に有意差が認められ，そのうちの 11 問で女子の方が男子に比して高い正答率を示した。

『心身の機能の発達と心の健康』では，正答率が比較的高かった項目が「心の発達に影響する要因」約 82%と主として「思考・判断」について問う問題「自分にあったストレス対処法」約 74%で，次いで「月経のしくみ」約 60%であった。他の 3 項目は，いずれも正答率が 5 割に満たず,「心身相関のしくみ」約 49%,「発達による呼吸数の変化」約 44%,「生殖機能の発達とホルモン」約 6%であった。

『健康と環境』では,「ごみ焼却による健康影響」約 90%と「一酸化炭素の健康影響」約 87%と，これらの正答率がいずれも良好であった。他の 2 項目の正答率については，いずれも 6 割を超え,「飲料水の衛生的管理」約 63%,「身体の環境に対する適応能力や環境の至適範囲」約 69%であった。

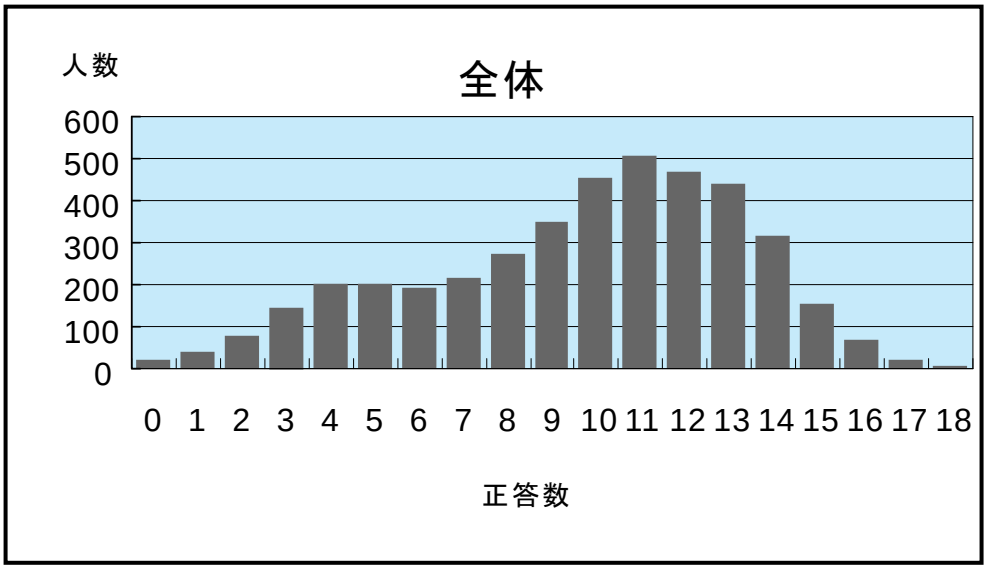
『傷害の防止』では，いずれの正答率も 7 割に満たず,「地震による傷害の防止」約 69%，主に「思考・判断」について問う問題「自転車の交通事故による傷害の防止」約 66%,「心肺停止に陥った人への対処」約 59%,「自然災害による傷害の発生要因」約 58%,「中学生の交通事故の現状」約 57%であった。

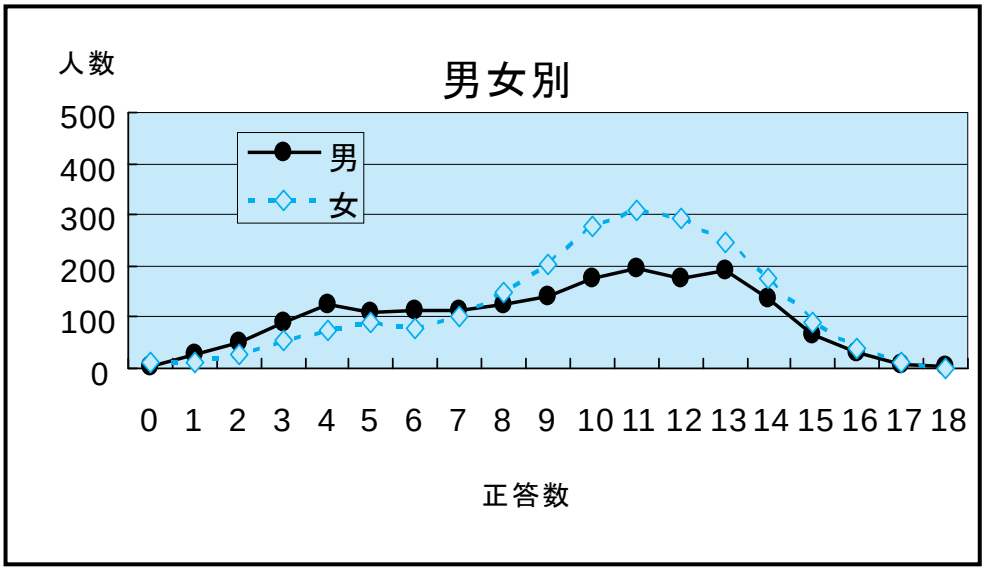
『健康な生活と疾病の予防』では，正答率が比較的高かった項目が「運動の効果」約 85%,「健康を支える社会的な取組」約 76%,「エイズの疾病概念と HIV の感染のしかた」約 72%,「喫煙，飲酒，薬物乱用のきっかけ」約 70%の 4 項目であった。一方，正答率が低かった項目は,「タバコのタールの作用」約 31%で，次いで「保健所の役割」約 51%,「飲酒開始年齢と依存症」約 56%等であった。

以上のように,中学校保健学習の内容に関する知識の習得状況は,必ずしも十分とは言えず，特に，思春期における心身の機能の発達，傷害の防止等に関する内容の習得状況が良好ではなかった。これらの内容は，概念や原理等の抽象的な知識を問う問題であり，平成 16 年調査においても正答率が総じて高くない内容であった。

４）高校の内容の知識テスト（高校３年生対象）

①正答の合計の分布





	男	女	全体
対象人数	1,881	2,231	4,112
平均得点	9.2	10.1	9.7
標準偏差	3.86	3.33	3.61
最大値	18	17	18
最小値	0	0	0

・ 正答の合計の分布は，男子は 0～18 問，女子は 0～17 問であり，平均正答数は，全体 9.7 問（男子 9.2 問，女子 10.1 問）で，女子の方が有意に多かった。

②問題別の正答率

（%）

学習指導要領（平成 21 年）		（調査票番号）	問題†	男子	女子	差#	全体
（1）現代社会と健康	ア健康の考え方	（Ⅲ-1）	平均寿命の年次推移とその説明	49.1	54.7	＊	52.1
		（Ⅲ-2）	ヘルスプロモーションの意味‡	26.7	25.9		26.2
		（Ⅲ-3）	生活改善のための計画・実施・評価	53.7	66.2	＊	60.5
	イ健康の保持増進と疾病の予防	（Ⅲ-4）	生活習慣病の予防方法	71.7	83.1	＊	77.9
		（Ⅲ-5）	わが国の喫煙や飲酒に対する防止対策の特徴	38.7	38.1		38.4
		（Ⅲ-6）	感染症や感染症対策の現状	43.4	41.1		42.2
	ウ精神の健康	（Ⅲ-7）	適応機制の特徴	37.4	42.6	＊	40.2
		（Ⅲ-8）	ストレスへの対処の適切さ	77.1	87.4	＊	82.7
		（Ⅲ-9）	自己実現において大切にすべき事柄	57.4	69.3	＊	63.8
	エ交通安全	（Ⅲ-10）	交通事故を起こすと生じる責任	73.4	79.0	＊	76.4
	オ応急手当	（Ⅲ-11）	人工呼吸と胸骨圧迫（心臓マッサージ）の方法	29.9	28.1		28.9
（2）生涯を通じる健康	ア生涯の各段階における健康	（Ⅲ-12）	女性の性周期（基礎体温・子宮内膜の変化と排卵）‡	35.8	45.9	＊	41.3
	イ保健・医療制度及び地域の保健・医療機関	（Ⅲ-13）	リハビリテーションの意味	68.0	76.2	＊	72.5
		（Ⅲ-14）	セカンド・オピニオンの意味	55.2	56.6		56.0
（3）社会生活と健康	ア環境と健康	（Ⅲ-15）	環境基本法に定められた対策の内容	46.6	49.7		48.3
		（Ⅲ-16）	大気汚染物質の健康への影響	46.8	43.8		45.2
	イ環境と食品の保健	（Ⅲ-17）	食中毒予防の三原則と予防のポイント‡	49.7	55.0	＊	52.6
	ウ労働と健康	（Ⅲ-18）	労働者の健康課題やそれに対する対策の現状	56.9	69.8	＊	63.9
全体（平均）				51.0	56.3		53.8

† Ⅲ-1，Ⅲ-3，Ⅲ-17 は主として「思考・判断」，それ以外は主として「知識・理解」について問う問題

‡ 平成 16 年調査と同じ問題

男女差：χ^2検定，df=1，＊ $p<0.05$

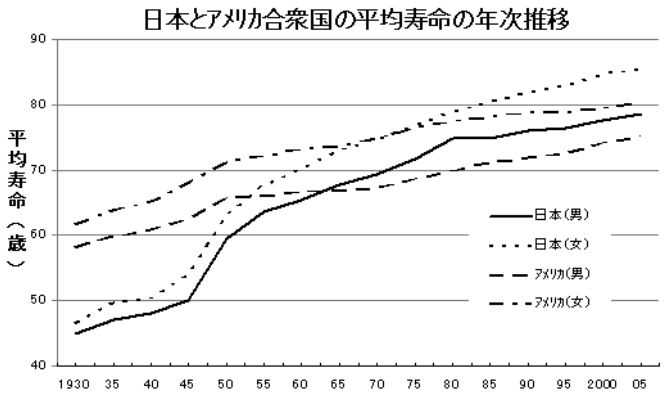
・ 全体の平均正答率は 53.8%（男子 51.0%，女子 56.3%）であった。

・ 男女別にみると，18 問中 11 問に有意差が認められ，いずれも女子の方が男子に比して高い正答率を示した。

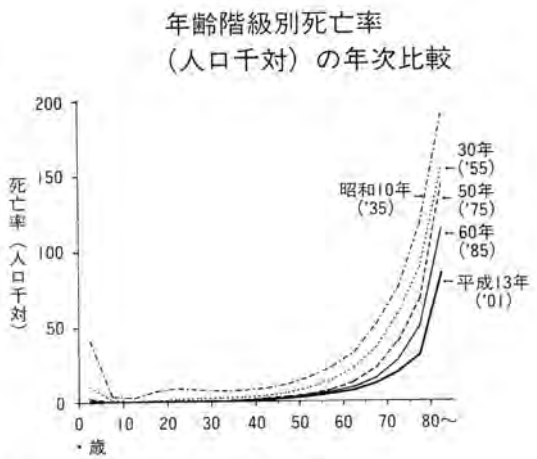
③問題別の回答状況（表中の　　は正答を示す）

『現代社会と健康』
（Ⅲ－１）平均寿命の年次推移とその説明

次の図は，わが国とアメリカ合衆国の平均寿命の年次推移と，わが国の年齢別にみた死亡率について示したものです。これを説明した文で最も適切なものはどれですか。１～４のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。



資料　厚生労働省「完全生命表」と「National Center for Health Statistics, National Vital Statistics Reports, vol. 54, no. 19, June 28, 2006.」より作図



資料　厚生労働省「人口動態統計」

１．1945 年以降の日本人の平均寿命における急激な伸びは，新生児と高齢者の死亡率の改善によるもので，衛生状態の改善や医療の普及が進んだことによる。
２．平均寿命におけるアメリカ合衆国と日本の逆転が起こったのは，国民皆保険体制が実現されたことにより生活水準が向上したことによる。
３．1935 年から 1955 年までの平均寿命の改善は，80 歳代高齢者の死亡率の改善が大きく寄与している。
４．今後日本の平均寿命をさらに延ばすには，新生児の死亡率の改善に力を入れることが最も有効と考えられている。

（%）

Ⅲ-1	n	1	2	3	4	無回答等	計	
男	1,881	49.1	20.4	22.8	6.9	0.9	100.0	*
女	2,231	54.7	18.0	20.2	6.0	1.1	100.0	
全体	4,112	52.1	19.1	21.4	6.4	1.0	100.0	

男女差：χ^2検定，df=4，＊p＜0.05

・ 全体でみると，正答した者は約 52%であった。一方，誤答である「３．1935 年から 1955 年までの平均寿命の改善は，80 歳代高齢者の死亡率の改善が大きく寄与している。」と回答した者が約 21%であった。
・ 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ－２）ヘルスプロモーションの意味

世界保健機関（WHO）は，1986 年に健康づくりのために「ヘルスプロモーション」の考え方を提唱しています。その意味としてふさわしいものはどれですか。１～５のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

１．人々がみずからの健康をコントロールし，改善できるようにする活動であり，個人に対して，特に運動やスポーツの面での支援が重要であるとする考え方。
２．人々がみずからの健康をコントロールし，改善できるようにする活動であり，特に心の健康面の支援が重要であるとする考え方。
３．人々がみずからの健康をコントロールし，改善できるようにする活動であり，特に病気やけがをした後の処置への支援が重要であるとする考え方。
４．人々がみずからの健康をコントロールし，改善できるようにする活動であり，個人に対しての教育や環境の支援が重要であるとする考え方。
５．人々がみずからの健康をコントロールし，改善できるようにする活動であり，個人に対して適切な医療や薬の支援が重要であるとする考え方。

（%）

Ⅲ-2	n	1	2	3	4	5	無回答等	計	
男	1,881	16.5	27.1	16.4	26.7	12.4	0.9	100.0	＊
女	2,231	16.8	25.0	12.8	25.9	18.2	1.3	100.0	
全体	4,112	16.7	25.9	14.5	26.2	15.6	1.1	100.0	

男女差：χ^2検定，df=5，＊p＜0.05

- この問題は平成 16 年調査と同じもので，全体でみると，正答した者は約 26%であった。一方，誤答である「２．人々がみずからの健康をコントロールし，改善できるようにする活動であり，特に心の健康面の支援が重要であるとする考え方。」と回答した者が約 26%と同程度みられた。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。
- 平成 16 年調査と比較すると，平成 16 年調査の正答率（男子 26.1%，女子 26.9%，全体 26.9%）に比して，男子，女子，全体，いずれの正答率においても有意差は認められなかった（χ^2検定，df=1，有意差なし）。なお，平成 16 年調査でも，誤答である「２．人々がみずからの健康をコントロールし，改善できるようにする活動であり，特に心の健康面の支援が重要であるとする考え方。」を回答した者が約 29%みられた。

（Ⅲ－３）生活改善のための計画・実施・評価

次の文は，「Ａさん」が日頃の生活を振り返って考えていることについてのものです。これを読んで，問に回答してください。

「Ａさん」は，自分の生活を振り返ってみると，夜ふかしをすること，ゲームを始めるとなかなか止められなくなること，時々朝食を食べないことなどが気になっています。そこで，健康な生活にするために，次の（ア）～（ウ）を行おうと考えています。

（ア）自分の生活のうち，何が良くて，何が悪いのかを分析する。
（イ）最近３日間の，自分の生活の仕方を記録する。
（ウ）ゲームをするのは金曜日と土曜日だけに決め，行ってみて，でき具合を振り返る。

問　Ａさんが，健康な生活をできるようになるための(ア)～(ウ)の順序について，最も適切なものはどれですか。１～６のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

１．（ア）→（イ）→（ウ）
２．（ア）→（ウ）→（イ）
３．（イ）→（ア）→（ウ）
４．（イ）→（ウ）→（ア）
５．（ウ）→（ア）→（イ）
６．（ウ）→（イ）→（ア）

（%）

Ⅲ-3	n	1	2	3	4	5	6	無回答等	計	
男	1,881	12.1	11.3	53.7	7.4	9.2	4.5	1.8	100.0	*
女	2,231	9.8	9.9	66.2	5.6	4.3	3.6	0.7	100.0	
全体	4,112	10.8	10.5	60.5	6.4	6.6	4.0	1.2	100.0	

男女差：χ^2検定，df=6，＊p＜0.05

・ 全体でみると，正答した者は約 61%であった。
・ 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ－４）生活習慣病の予防方法

次の文は，生活習慣病の予防について述べたものです。誤りのあるものはどれですか。１～４のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

１．食事のかたよりや運動不足を自分なりに気にして，日頃からサプリメントや市販の薬で病気にかからないようにする。
２．健康的なライフスタイルを送るよう心がけ，発病しないようにする。
３．自覚症状がなくても定期的に健康診断を受けて，早期発見・早期治療をする。
４．病気になった場合は治療に専念し早期の回復をはかり，再発防止のための健康的なライフスタイルを送るようにする。

（%）

Ⅲ-4	n	1	2	3	4	無回答等	計	
男	1,881	71.7	10.7	8.6	7.9	1.1	100.0	*
女	2,231	83.1	5.7	5.7	4.3	1.2	100.0	
全体	4,112	77.9	8.0	7.1	5.9	1.1	100.0	

男女差：χ^2検定，df=4，＊p＜0.05

・ 全体でみると，正答したものは約 78%であった。
・ 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ－５）わが国の喫煙や飲酒に対する防止対策の特徴

次の文は，喫煙や飲酒による健康課題に対するわが国の防止対策について述べたものです。正しいものはどれですか。１～４のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

１．たばこやアルコール飲料は，「健康日本２１」によって製造が規制されている。
２．近年，たばこやアルコールの健康課題へ関心が集まるようになり，販売や広告に関する規制は欧米諸国に比べて厳しくなっている。
３．たばこやアルコールの健康課題は，これまでの法律にもとづく規制や国民の努力により改善され，関心が薄れている。
４．たばこやアルコール飲料の宣伝・広告は，業界団体やマスメディアの自主規制によるところが大きく，販売に関する規制は欧米諸国に比べて緩やかである。

（%）

Ⅲ-5	n	1	2	3	4	無回答等	計	
男	1,881	13.9	33.5	12.9	38.7	1.0	100.0	*
女	2,231	13.9	39.2	8.0	38.1	0.8	100.0	
全体	4,112	13.9	36.6	10.2	38.4	0.9	100.0	

男女差：χ^2検定，df=4，＊p＜0.05

・ 全体でみると，正答した者は約 38%であった。一方，誤答である「２．近年，たばこやアルコールの健康課題への関心が集まるようになり，販売や広告に関する規制は欧米諸国に比べて厳しくなっている。」と回答した者が，約 37%であった。
・ 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ－６）感染症や感染症対策の現状

次の文は，感染症について述べたものです。誤りのあるものはどれですか。１～４のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

１．近年，特定の抗生物質が効かない菌が出現し，医療機関内で広がる院内感染が問題となっている。
２．わが国では，法律に基づいて対策がとられ，近年ではもはや結核で死亡する人はいなくなった。
３．天然痘は，予防接種による対策が効果をあげ，全世界において患者の発生がなくなった。
４．インフルエンザのウイルスは変異を繰り返し，近年，強い感染力と毒性をもつ新型インフルエンザの出現が危ぶまれている。

（%）

Ⅲ-6	n	1	2	3	4	無回答等	計
男	1,881	16.7	43.4	28.3	10.3	1.3	100.0
女	2,231	16.7	41.1	31.3	9.8	1.1	100.0
全体	4,112	16.7	42.2	29.9	10.0	1.2	100.0

男女差：χ^2検定，df=4，有意差なし

・ 全体でみると，正答した者は約 42%であった。一方，誤答である「３．天然痘は，予防接種による対策が効果をあげ，全世界において患者の発生がなくなった。」と回答した者が約 30%であった。
・ 男女別による回答状況には，有意差が認められなかった。

（Ⅲ－７）適応機制の特徴

次の文は，適応機制について述べたものです。最も適切なものはどれですか。１～４のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

１．日常の心の不安や悩みを和らげるもので，それによる心の安定は一時的な場合もある。
２．長期にわたるもので，ひとたび起きた心の安定は永続的なものである。
３．心の健康を損なう重大な原因となるもので，精神的な病気を引き起こす場合もある。
４．体がリラックスすることによって自然と心の中におこるもので，生まれつきのものである。

（%）

Ⅲ-7	n	1	2	3	4	無回答等	計	
男	1,881	37.4	10.6	28.3	22.1	1.6	100.0	*
女	2,231	42.6	6.5	26.0	23.2	1.7	100.0	
全体	4,112	40.2	8.4	27.1	22.7	1.7	100.0	

男女差：χ^2検定，df=4，＊p＜0.05

- 全体でみると，正答した者は約 40%であった。一方，誤答である「３．心の健康を損なう重大な原因となるもので,精神的な病気を引き起こす場合もある。」と回答した者が約27%，また，誤答である「４．体がリラックスすることによって自然と心の中におこるもので，生まれつきのものである。」と回答した者が約 23%であった。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ－８）ストレスへの対処の適切さ

次の文は，ストレスへの対処について述べたものです。適切ではない対処はどれですか。１～４のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

１．他人に相談することなく自分自身で抱え込むこと。
２．ストレスの原因になっていることを克服したり問題を解決したりすること。
３．現在の状況を冷静に客観的に見直すこと。
４．自分にあった趣味などで気分転換を図ること。

（%）

Ⅲ-8	n	1	2	3	4	無回答等	計	
男	1,881	77.1	9.2	6.9	5.4	1.4	100.0	*
女	2,231	87.4	3.9	4.3	3.3	1.2	100.0	
全体	4,112	82.7	6.3	5.5	4.3	1.3	100.0	

男女差：χ^2検定，df=4，＊p＜0.05

- 全体でみると，正答した者は約 83%であった。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ－９）自己実現において大切にすべき事柄

次の文は，自己実現において大切にすべき事柄について述べたものです。誤りのあるものはどれですか。１～４のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

１．自分の自己実現に集中するあまり周りの人を犠牲にしたりしないよう，お互いの自己実現を尊重することがあげられる。
２．生涯をとおしての目標であるから，ときには現時点での到達点を評価し，計画を修正したり，新たな目標を設定したりしてみることがあげられる。
３．人それぞれで違いがあるのは当然のことであり，自己理解を深め自分なりの目標を見つけることがあげられる。
４．目標を達成することによって得られる達成感や充実感によって成立するものであるから，最終的な結果をより重視することがあげられる。

（%）

Ⅲ-9	n	1	2	3	4	無回答等	計	
男	1,881	14.0	14.5	12.9	57.4	1.2	100.0	*
女	2,231	11.7	10.2	7.8	69.3	1.2	100.0	
全体	4,112	12.7	12.2	10.1	63.8	1.2	100.0	

男女差：χ^2検定，df=4，＊p＜0.05

・ 全体でみると，正答した者は約 64%であった。
・ 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ-10）交通事故を起こすと生じる責任

次の文は，交通事故を起こすと生じる責任について述べたものです。誤りのあるものはどれですか。１～４のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

１．罰金刑や懲役刑などが科せられることがある。
２．人や物の損害に対する賠償を求められることがある。
３．自動車の所有を禁止されることがある。
４．免許の停止や取り消しがおこなわれることがある。

（%）

Ⅲ-10	n	1	2	3	4	無回答等	計	
男	1,881	12.1	7.2	73.4	5.7	1.6	100.0	*
女	2,231	10.5	5.5	79.0	3.5	1.5	100.0	
全体	4,112	11.2	6.3	76.4	4.5	1.6	100.0	

男女差：χ^2検定，df=4，＊p＜0.05

・ 全体でみると，正答した者は約 76%であった。
・ 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ-11）人工呼吸と胸骨圧迫（心臓マッサージ）の方法

次の文は，人工呼吸と胸骨圧迫（心臓マッサージ）について述べたものです。正しいものはどれですか。１～５のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

１．人工呼吸で一回に吹き込む量は，多ければ多いほどよい。
２．胸骨圧迫（心臓マッサージ）は，下が固（かた）いところで行う。
３．胸骨圧迫（心臓マッサージ）をおこなう際の手の組み方は，必ず右手を上にする。
４．人工呼吸と胸骨圧迫（心臓マッサージ）は，おおむね 20 分間をめやすに行う。
５．人工呼吸と胸骨圧迫（心臓マッサージ）は，必ず 2 人でおこなう。

（%）

Ⅲ-11	n	1	2	3	4	5	無回答等	計	
男	1,881	14.5	29.9	16.1	28.6	9.0	1.9	100.0	*
女	2,231	9.2	28.1	19.5	28.5	13.2	1.4	100.0	
全体	4,112	11.6	28.9	18.0	28.6	11.3	1.6	100.0	

男女差：χ^2 検定，df=5，＊ $p<0.05$

・ 全体でみると，正答した者は約 29%であった。一方，誤答である「４．人工呼吸と胸骨圧迫（心臓マッサージ）は，おおむね 20 分間をめやすに行う。」と回答した者が，約 29%と同程度であった。
・ 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

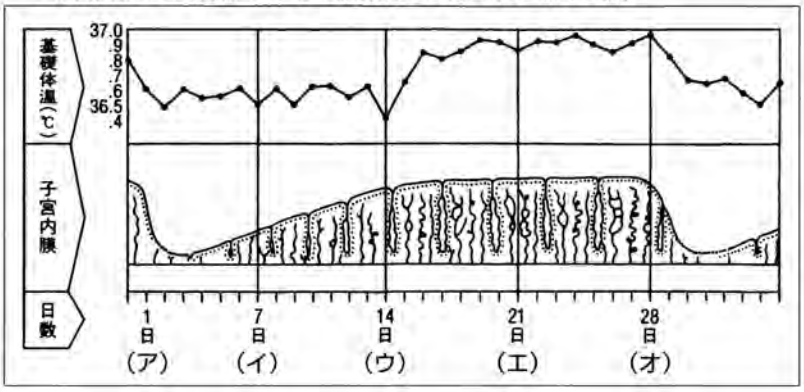
『生涯を通じる健康』

（Ⅲ-12）女性の性周期（基礎体温・子宮内膜の変化と排卵）

次の図は，女性の性周期を基礎体温と子宮内膜の様子について示したものです。図の中で排卵日と考えられるのはいつですか。１～５のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。（性周期を 28 日とした場合の例である）

１．（ア）
２．（イ）
３．（ウ）
４．（エ）
５．（オ）

・子宮内膜と基礎体温の変化（周期を28日とした場合の例）



（%）

Ⅲ-12	n	1	2	3	4	5	無回答等	計	
男	1,881	6.8	4.3	35.8	14.2	34.1	4.8	100.0	*
女	2.231	6.2	6.4	45.9	15.0	23.7	2.9	100.0	
全体	4.112	6.4	5.4	41.3	14.6	28.5	3.8	100.0	

男女差：χ^2 検定，df=5，＊ $p<0.05$

- この問題は平成 16 年調査と同じもので，全体でみると，正答した者は約 41%であった。一方，誤答である「４．（エ）」と回答した者が約 29%であった。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。
- 平成 16 年調査と比較すると，平成 16 年調査の正答率（男子 36.0%，女子 51.9%，全体 44.3%）に比して，女子と全体の正答率が有意に低値を示した（χ^2 検定，df=1，$p<0.05$）。

（Ⅲ-13）リハビリテーションの意味

次の文のうち，「リハビリテーション」について説明しているものはどれですか。１～５のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

１．生活を物質的な面から量的にとらえるのではなく，個人の生きがいや精神的な豊かさを重視して質的にとらえようとする考え方。
２．治療の後，病気や障害の後遺症を持つ人に対して，医学的・心理学的な指導や機能訓練をし，機能回復や社会復帰をはかること。
３．障害の有無，年齢等にかかわらず誰もが普通の生活を営むことを当然とする福祉の基本的な考え方。
４．身体に障害のある人や高齢者が生活を営むうえで支障がないように商品をつくったり建物を設計したりすること。
５．資源を節約したり，環境汚染を防止したりするために，不要品・廃棄物などを再生利用すること。

（%）

Ⅲ-13	n	1	2	3	4	5	無回答等	計	
男	1,881	7.7	68.0	12.0	7.9	2.7	1.8	100.0	*
女	2,231	5.0	76.2	8.9	5.6	3.0	1.2	100.0	
全体	4,112	6.2	72.5	10.3	6.7	2.8	1.5	100.0	

男女差：χ^2検定，df=5，＊p＜0.05

・ 全体でみると，正答した者は約 73%であった。
・ 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ-14）セカンド・オピニオンの意味

次の文は，セカンド・オピニオンについて説明したものです。正しいものはどれですか。１～４のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

１．診断や治療方法について，家族が提示する医療上の意見のこと。
２．診断や治療方法について，同じ病気にかかった人が提示する医療上の意見のこと。
３．診断や治療方法について，主治医以外の第三者の医師が提示する医療上の意見のこと。
４．診断や治療方法について，インターネット上の情報が提示する医療上の意見のこと。

（%）

Ⅲ-14	n	1	2	3	4	無回答等	計	
男	1,881	20.4	15.6	55.2	6.6	2.1	100.0	*
女	2,231	23.7	13.9	56.6	4.3	1.5	100.0	
全体	4,112	22.2	14.7	56.0	5.4	1.8	100.0	

男女差：χ^2検定，df=4，＊p＜0.05

・ 全体でみると，正答した者は 56%であった。一方，誤答である「１．診断や治療方法について，家族が提示する医療上の意見のこと。」と回答した者が約 22%であった。
・ 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

『社会生活と健康』

（Ⅲ-15）環境基本法に定められた対策の内容

次の文は，環境基本法に定められた対策について述べたものです。誤りのあるものはどれですか。１～４のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

１．環境を守るための基本的な計画を作成すること。
２．公害で被害を受けた人を認定すること。
３．環境基準を設定すること。
４．環境基準が守られているか監視すること。

（%）

Ⅲ-15	n	1	2	3	4	無回答等	計	
男	1,881	19.9	46.6	14.8	16.5	2.1	100.0	*
女	2,231	16.8	49.7	12.1	19.9	1.6	100.0	
全体	4,112	18.2	48.3	13.4	18.4	1.8	100.0	

男女差：χ^2検定，df=4，＊p＜0.05

・ 全体でみると，正答した者は約 48%であった。
・ 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

（Ⅲ-16）大気汚染物質の健康への影響

次の文は，大気汚染物質と健康への影響について述べたものです。汚染物質（A）～（C）と健康への影響（ア）～（ウ）との正しい組み合わせはどれですか。１～４のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

【汚染物質】
（A）二酸化いおう（SO_2）　（B）浮遊粒子状物質　（C）光化学オキシダント
【健康への影響】
（ア）さまざまな刺激性物質がふくまれており，目を刺激したり，呼吸困難，手足のしびれをおこしたりする。
（イ）気道・気管支の粘膜にとけて，刺激する。慢性気管支炎，気管支ぜんそくなどをおこす。
（ウ）気管支や肺胞に沈着し，長い年月にわたると肺繊維症などをおこす。

１．（A）と（ア），（B）と（イ），（C）と（ウ）
２．（A）と（ア），（B）と（ウ），（C）と（イ）
３．（A）と（イ），（B）と（ウ），（C）と（ア）
４．（A）と（イ），（B）と（ア），（C）と（ウ）

（%）

Ⅲ-16	n	1	2	3	4	無回答等	計
男	1,881	14.5	24.5	46.8	11.4	2.9	100.0
女	2,231	16.5	24.4	43.8	13.0	2.4	100.0
全体	4,112	15.5	24.4	45.2	12.2	2.6	100.0

男女差：χ^2検定，df=4，有意差なし

- 全体でみると，正答した者は約 45%であった。一方，誤答である「２．二酸化いおう（SO_2）はさまざまな刺激性物質がふくまれており，目を刺激したり，呼吸困難，手足のしびれをおこしたりする。光化学オキシダントは気管支や肺胞に沈着し，長い年月にわたると肺繊維症などをおこす。」という間違いの組み合わせを含む回答をした者が，約 24%であった。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められなかった。

（Ⅲ-17）食中毒予防の三原則と予防のポイント

次の文は，食中毒の三原則とそのポイントについて述べたものです。三原則（A）～（C）と予防のポイント（ア）～（ウ）との正しい組み合わせはどれですか。１～４のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

【三原則】
（A）細菌を食品につけない　（B）細菌をふやさない　（C）細菌を殺す
【予防のポイント】
（ア）手や指に傷があり化膿しているときは，手洗いを十分にし，ゴム手袋をして調理する。また，調理中に口・目・鼻・髪などを手でさわらない。
（イ）まな板，ほう丁，食器，ふきん，スポンジなどのキッチン用具は，熱湯や塩素系消毒剤で消毒する。
（ウ）十分に加熱したものでも素早くさましてから，小分けして冷蔵庫で保存する。

１．（A）と（ア），（B）と（イ），（C）と（ウ）
２．（A）と（ア），（B）と（ウ），（C）と（イ）
３．（A）と（イ），（B）と（ウ），（C）と（ア）
４．（A）と（イ），（B）と（ア），（C）と（ウ）

（%）

Ⅲ-17	n	1	2	3	4	無回答等	計	
男	1,881	24.7	49.7	12.4	10.5	2.7	100.0	*
女	2,231	24.5	55.0	7.2	10.8	2.5	100.0	
全体	4,112	24.6	52.6	9.6	10.7	2.6	100.0	

男女差：χ^2検定，df=4，＊p＜0.05

- この問題は平成 16 年調査と同じもので，全体でみると，正答した者は約 53%であった。一方，誤答である「１．細菌をふやさないとは，まな板，ほう丁，食器，ふきん，スポンジなどのキッチン用具は，熱湯や塩素系消毒剤で消毒する。細菌を殺すとは，十分に加熱したものでも素早くさましてから，小分けして冷蔵庫で保存する。」という間違いの組み合わせを含む回答をした者が約 25%であった。なお，平成 16 年調査結果では，1 の誤答を選択した者が 27.1%（男 26.9%，女 27.3%）であり，同様の傾向を示していた。
- 男女別による回答状況には，有意差が認められた。
- 平成 16 年調査と比較すると，平成 16 年調査の正答率（男子 47.0%，女子 51.7%，全体 49.5%）に比して，女子と全体の正答率が有意に高値を示した（χ^2検定，df=1，p＜0.05）。

（Ⅲ-18）労働者の健康課題やそれに対する対策の現状

次の文は，働く人の健康について述べたものです。誤りのあるものはどれですか。１～５のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

１．過剰な仕事量と休養の不足が続いて，過労死にいたることがある。
２．職場での健康管理や健康づくりを推進するために，トータル・ヘルス・プロモーション・プランと呼ばれる活動が展開されている。
３．近年，コンピュータなどの画面を見つめながら行う作業が増えてきたため，VDT 障害が発生している。
４．近年，生産工程のオートメーション化やコンピュータの普及などにより，労働者の精神的ストレスは減少している。
５．労働者にとって，より健康的に働き，豊かで充実した人生が送れるよう，生活の質（クオリティ・オブ・ライフ）の向上を目指すことが求められている。

（%）

Ⅲ-18	n	1	2	3	4	5	無回答等	計	
男	1,881	8.6	12.3	13.3	56.9	6.6	2.2	100.0	*
女	2,231	5.4	7.3	10.4	69.8	5.3	1.8	100.0	
全体	4,112	6.9	9.6	11.7	63.9	5.9	2.0	100.0	

男女差：χ^2検定，df=5，＊p＜0.05

・ 全体でみると，正答した者は約 64%であった。
・ 男女別による回答状況には,有意差が認められた。

④小括

全体（計 18 問）の平均正答率は約 54%であった。男女別にみると，18 問中 11 問に有意差が認められ，いずれも女子の方が男子に比して高い正答率を示した。

問題別にみると,単元『現代社会と健康』の内容では,「ストレスへの対処の適切さ」(約 83%),「生活習慣病の予防方法」（約 78%),「交通事故を起こすと生じる責任」（約 76%）の各正答率が 7 割以上の高率を示した。一方で,「感染症や感染症対策の現状」（約 42%),「適応機制の特徴」（約 40%),「わが国の喫煙や飲酒に対する防止対策の特徴」（約 38%),「人工呼吸と胸骨圧迫（心臓マッサージ）の方法」（約 29%),「ヘルスプロモーションの意味」（約 26%）の 5 問はいずれも正答率が 5 割に満たなかった。主に「思考・判断」について問う問題である「平均寿命の年次推移とその説明」（約 52%),「生活改善のための計画・実施・評価」（約 61%）の正答率は 5～6 割程度であった。

単元『生涯を通じる健康』の内容では,「リハビリテーションの意味」（約 73%）で 7 割以上の高率を示した。「セカンド・オピニオンの意味」（約 56%),「女性の性周期（基礎体温・子宮内膜の変化と排卵)」（約 42%）の各正答率は 4～6 割程度であった。

単元『社会生活と健康』の内容では,「労働者の健康課題やそれに対する対策の現状」(約 64%),主に「思考・判断」を問う問題である「食中毒予防の三原則と予防のポイント」（約 53%),「環境基本法に定められた対策の内容」（約 48%),「大気汚染物質の健康への影響」（約 45%）のいずれの正答率も 7 割に満たなかった。

以上のように，高校の内容の知識テスト（高 3 対象）の平均正答率は 5 割程度にとどまっており，十分とは言えなかった。問題別にみると，正答率が 5 割に満たない問題は 8 問みられ，特に保健の基本的な概念や実践的な知識に関する問題である「ヘルスプロモーションの意味」と「人工呼吸と胸骨圧迫（心臓マッサージ）の方法」は 3 割に満たなかった。総じて，高校の保健学習では，健康の社会的側面に関する体系的な理解や課題の解決につながる思考力・判断力等を身に付ける指導が今後も一層求められることが示された。なお今後，高い割合で誤答された選択肢についても注目して分析し，指導の工夫，改善等について検討する必要があると思われる。

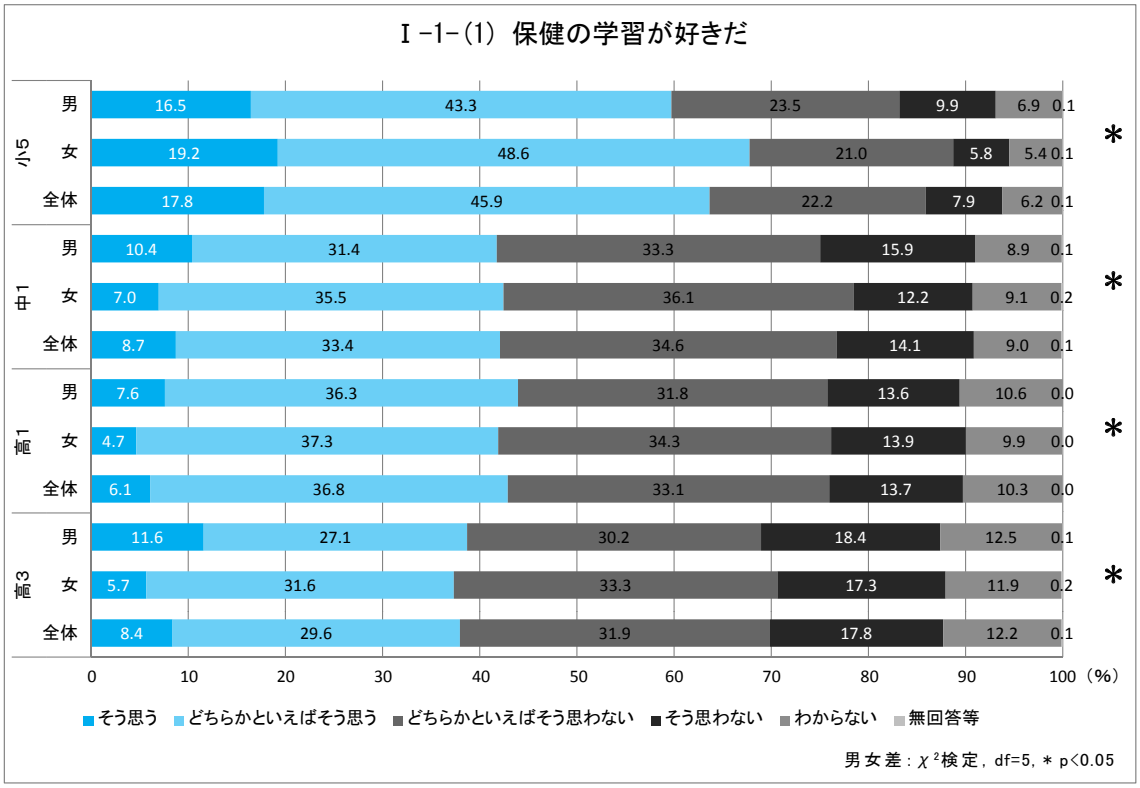
（４）保健の学習意欲

保健の学習意欲，健康の価値の認知，日常生活での実践状況については，小 5～高 3 で共通の質問項目とし，各質問項目数は，保健の学習意欲が 11 問（感情 3 問，価値 3 問，期待 5 問），健康の価値の認知が 3 問，日常生活での実践状況が 3 問となった。選択肢は前述と同様に「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階で問い，かつ選択肢に「わからない」を加え，5 択とした。

経験した保健学習の状況では，学習した保健学習の単元別に，「好きでしたか」「考えたり工夫したりできましたか」「学習した内容はわかりましたか」について，児童生徒は次の選択肢から一つ選んだ。具体的には，例えば，「好きでしたか」の場合，「好きだった」～「きらいだった」の 4 段階に「おぼえていない」を加え，5 択とした。他の 2 項目についても，同様に 5 択とした。

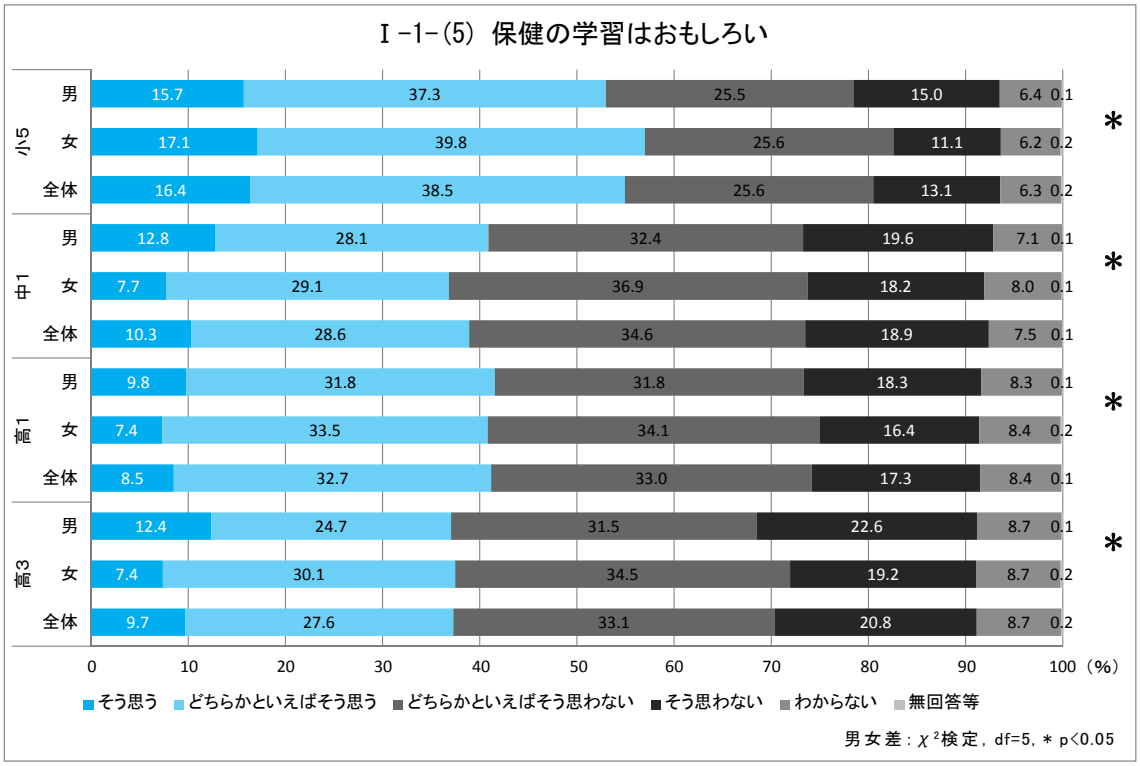
分析方法は，平成 22 年の結果については，各質問の選択肢の内訳％を学年別，男女別に示し，男女差の χ^2 検定では，選択肢の分布について検定した。一方，本文では，複雑になることを避けるため，5 択のうちの最初の 2 択をまとめて肯定的な回答とし，それ以外の選択肢は，無効回答等も含めて，肯定的な回答以外を，否定的な回答とした。そして，肯定的な回答の割合を学年別，男女別に集計した。男女別とするのは，ほとんどの項目で男女差が見られたためである。さらに，平成 16 年調査と平成 22 年調査と比較についても，複雑になることを避け，肯定的な回答の割合を比べた。その際の両年の調査結果の比較では，肯定的な回答の割合を χ^2 検定で調べた。

1） 保健学習に対する感情



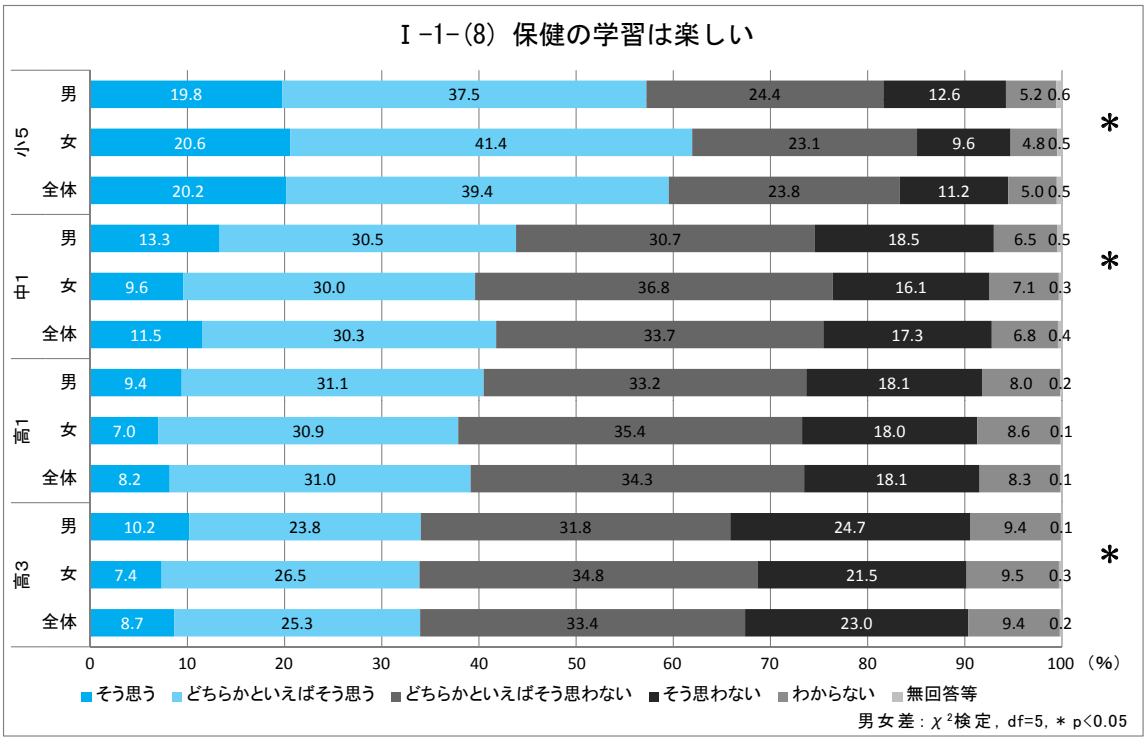
・学年別では，肯定的な回答の割合は，小 5 が最も高く 60%を超えたが，中 1 以降は 40%程度にとどまった。

・男女別では，全学年で有意な男女差が認められた。ただし，男女間に一定の傾向はみられなかった。



・学年別では，肯定的な回答の割合は，小 5 が最も高く 60%に近い値であったが，中 1 以降は 40%程度にとどまった。また，「そう思わない」が学年とともに増え高 3 では 20%程度を占めた。

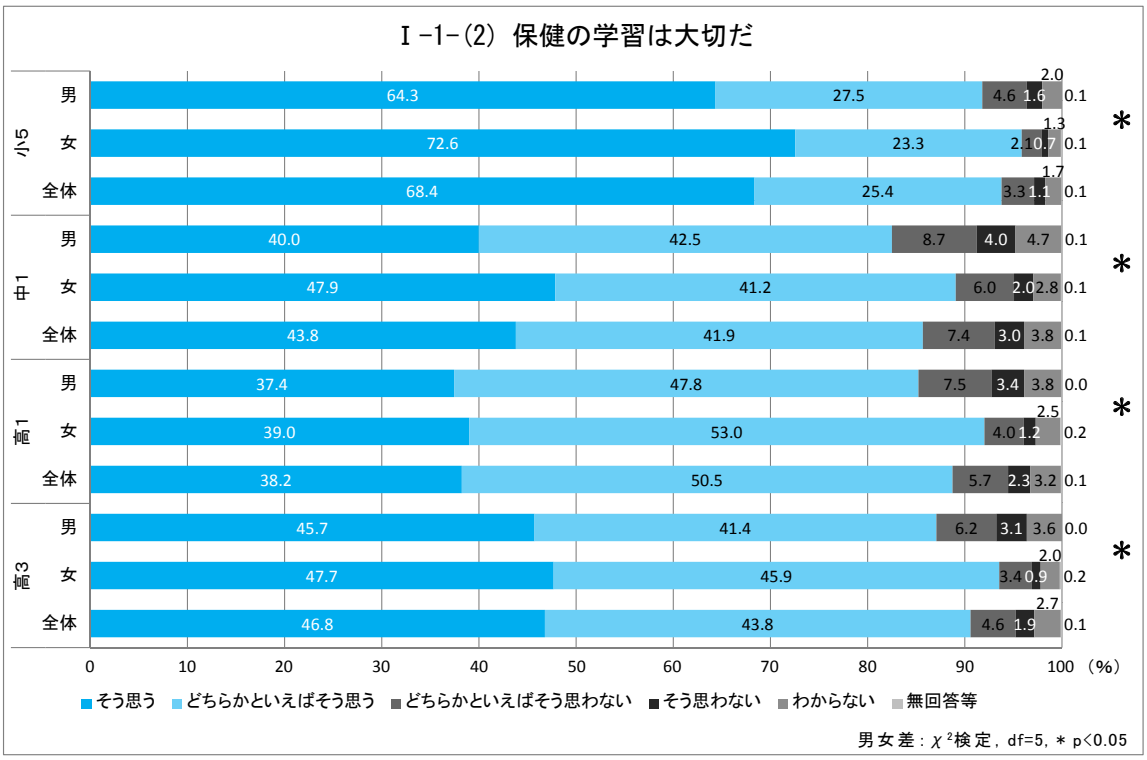
・男女別では，全学年で有意な男女差が認められたが，男女間に一定の傾向はみられなかった。



・学年別では，肯定的な回答の割合は，小 5 が最も高く 60%程度であったが，中 1 以降は 40%程度にとどまり，高 3 では 30%半ばであった。また，「そう思わない」が学年とともに増え，高 3 では 20%を超えた。

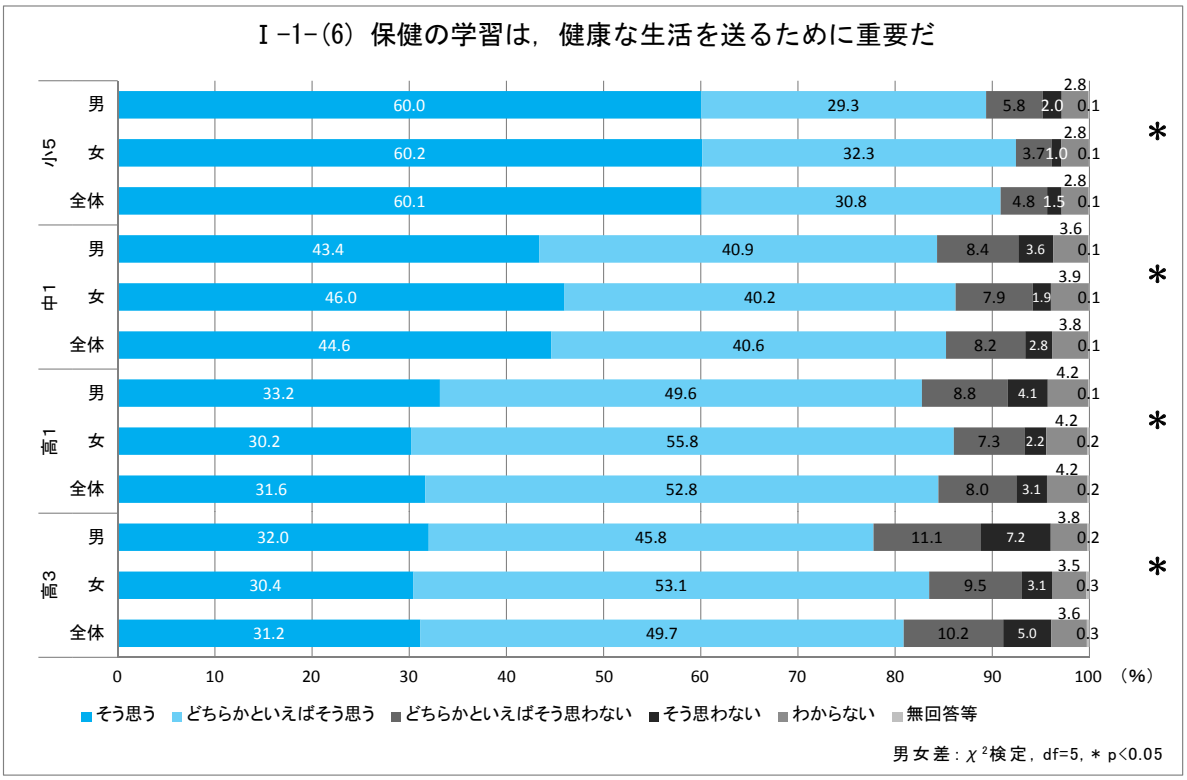
・男女別では，高 1 を除き有意な男女差が認められたが，男女間に一定の傾向はみられなかった。

2）保健学習の価値



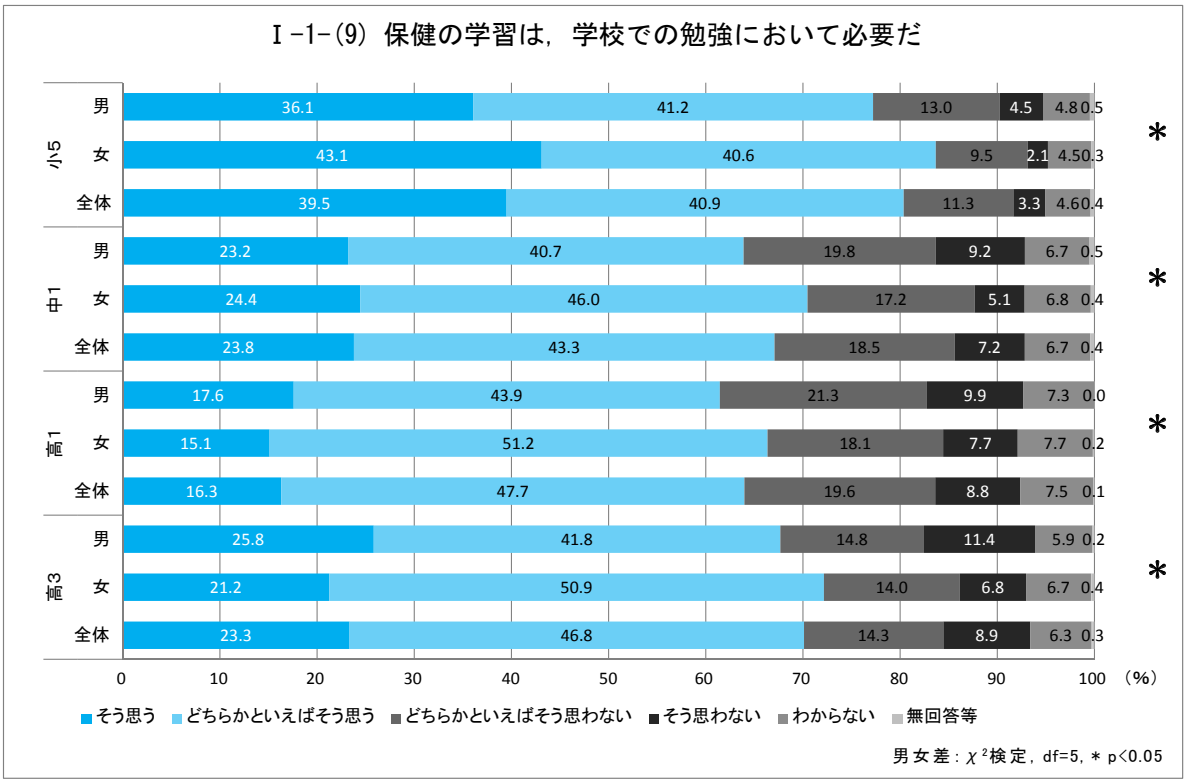
・すべての学年で肯定的な回答が 80%を超えた。特に小 5 では，「そう思う」が 60%を超え，その割合は他学年より 20%以上高かった。他の学年では，「そう思う」は 40%程度であった。

・男女別では，全学年で有意な男女差が認められ，いずれも女子の方がより肯定的であった。



・肯定的な回答は小 5 が最も高く，90%程度を示した。その割合は学年とともに低下した。特に「そう思う」は低下が大きく，小 5 で 60%，中 1 で 45%，高校で 30%程度となった。

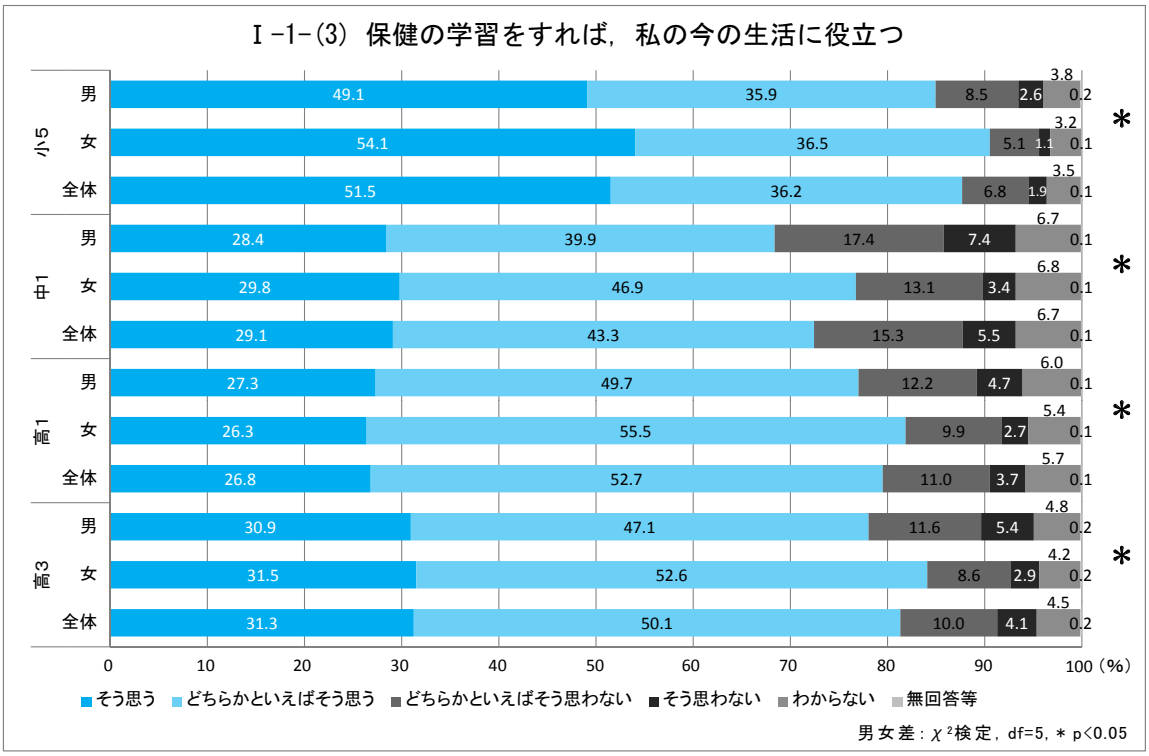
・男女別では，全学年で有意な男女差が認められたが，男女間に一定の傾向はみられなかった。



・肯定的な回答は小 5 が最も高く，80%程度を示した。その割合は学年とともに下がり，高 1 で最低となり，高 3 ではやや増えた。

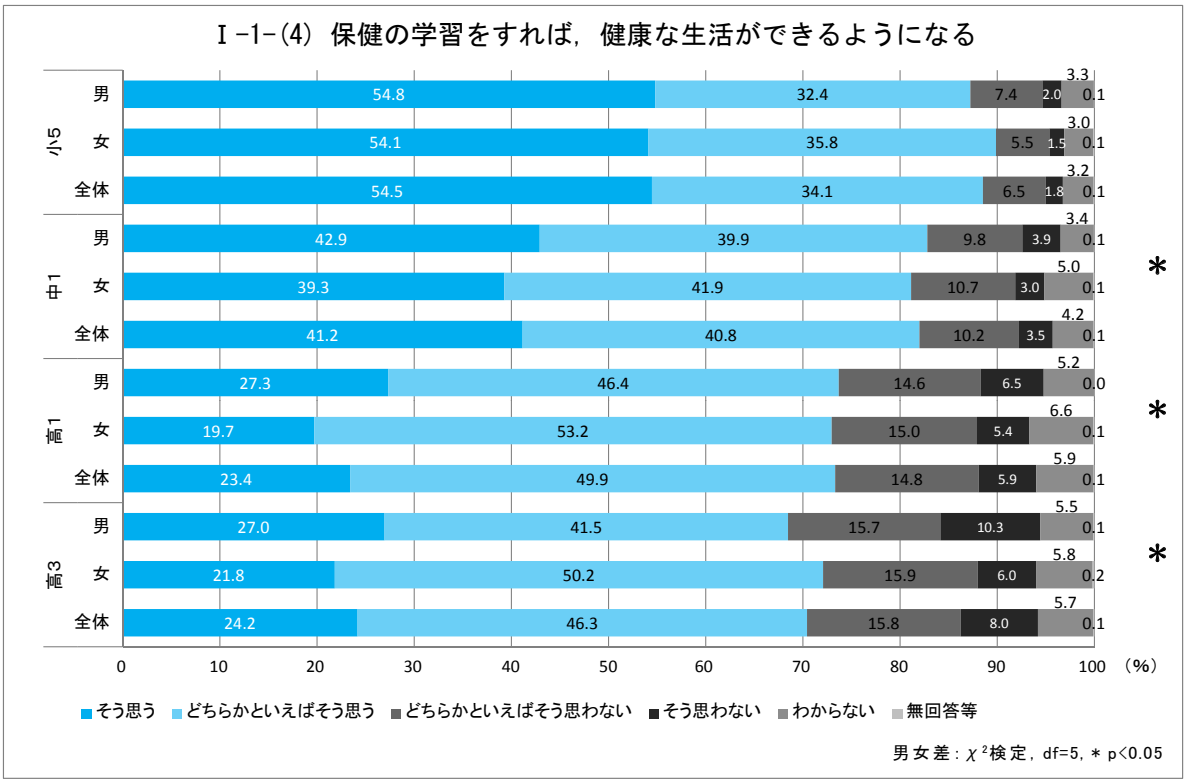
・男女別では，全学年で有意な男女差が認められ，小・中学校では女子の方がより肯定的であったが，高校では明確な傾向はみられなかった。

３）保健学習に対する期待



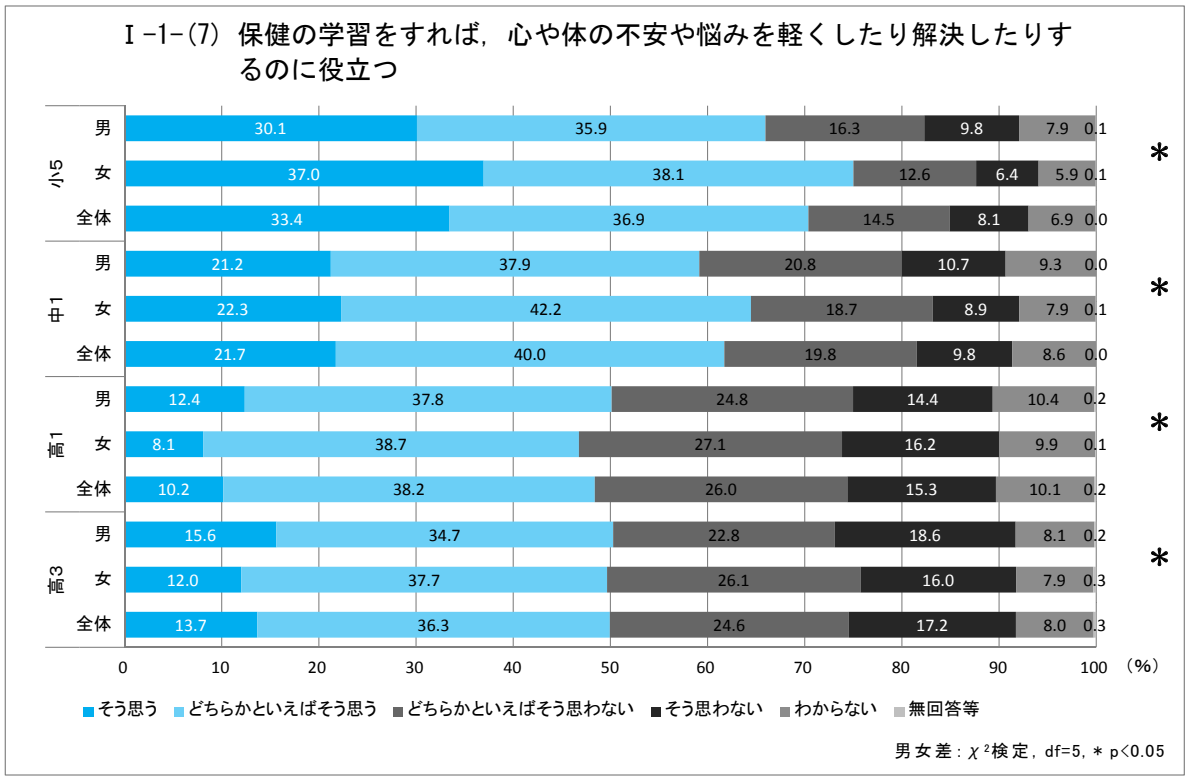
・すべての学年で肯定的な回答が 70%程度以上であった。特に小 5 では，「そう思う」が 50%程度であり，その割合は他学年より 20%程度以上高かった。他の学年では，「そう思う」は 30%程度であった。

・男女別では，全学年で有意な男女差が認められ，いずれも女子の方がより肯定的であった。



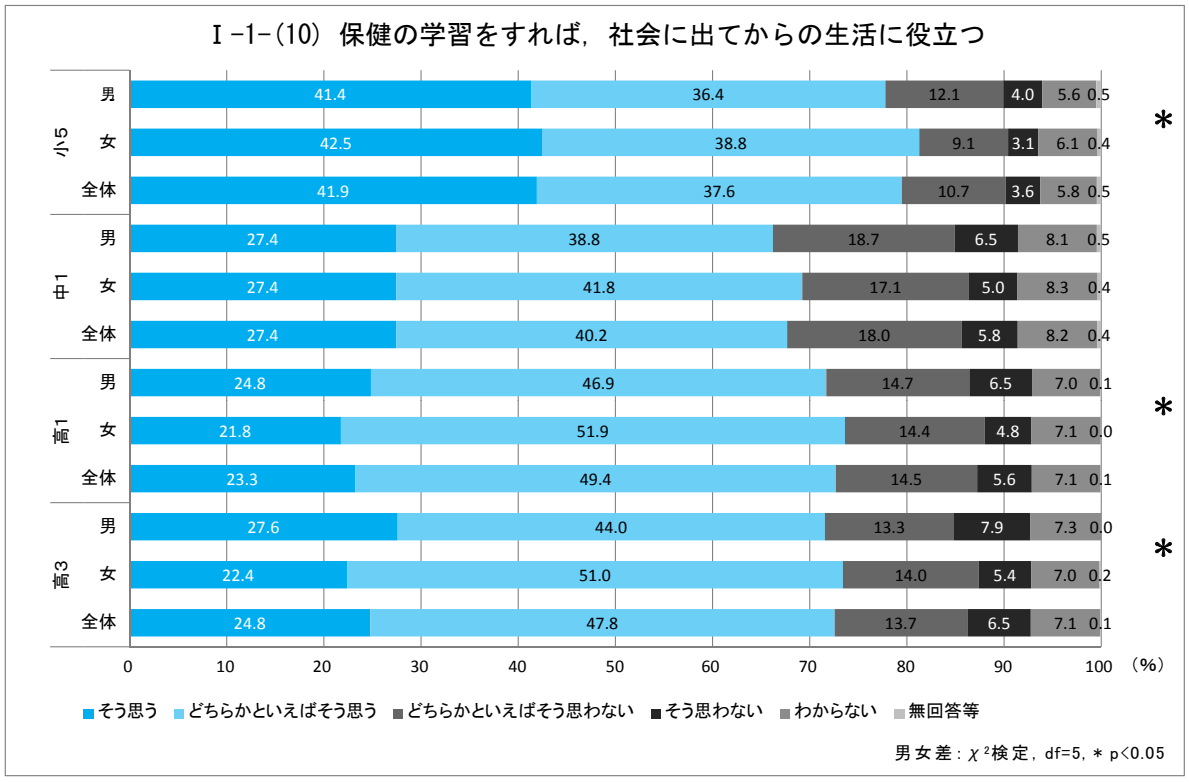
・肯定的な回答は小 5 が最も高く，90%程度を示した。その割合は学年とともに低下し，高校では 70%程度であった。

・男女別では，小 5 を除く学年で有意な男女差が認められ，男子の方がより肯定的傾向にあった。



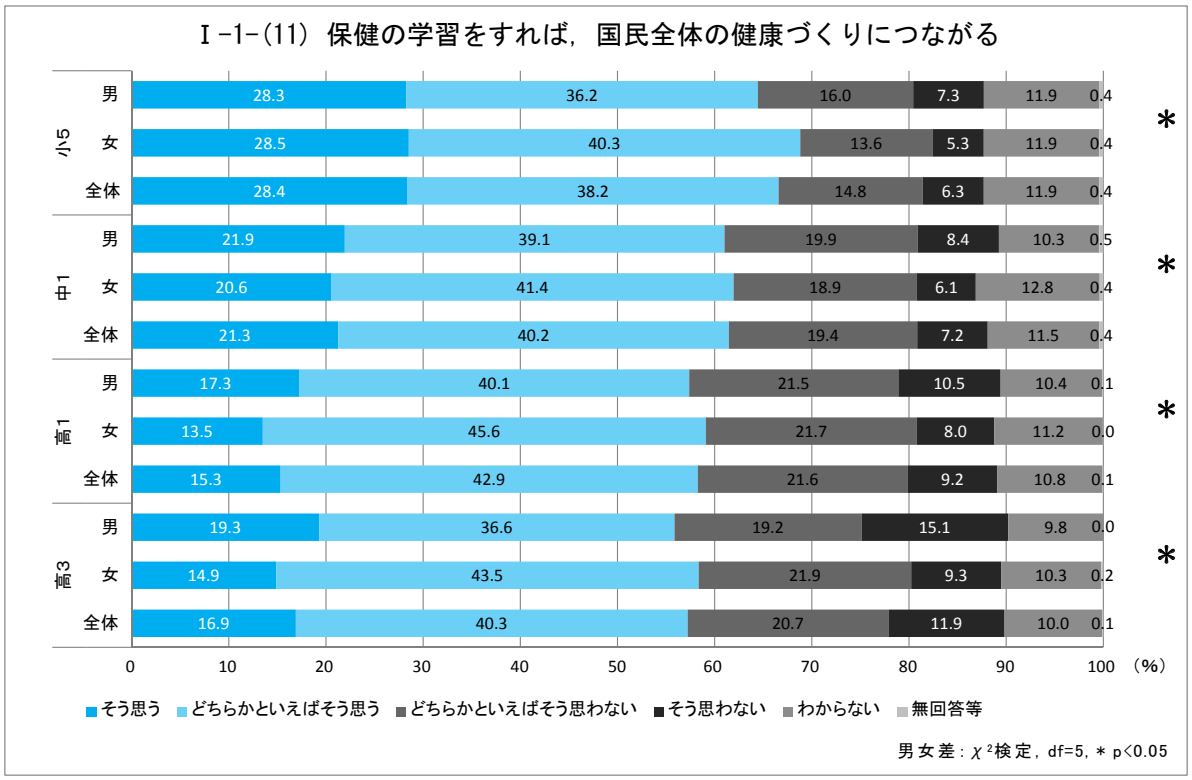
・肯定的な回答は小 5 が最も高く，70%程度を示した。その割合は学年とともに下がり，高 1 で最低となり，高 3 ではやや増えた。

・男女別では，全学年で有意な男女差が認められ，小・中学校では女子の方がより肯定的であったが，高校では明確な傾向はみられなかった。



・肯定的な回答は小 5 が最も高く 80%程度であり，他の学年は 70%程度でほぼ同じであった。特に，小 5 では「そう思う」が 40%程度であり，その割合は他学年より 10%以上高かった。

・男女別では，中 1 以外の学年で有意な男女差が認められ，小学校では女子の方がより肯定的であったが，高校では明確な傾向はみられなかった。



・肯定的な回答は小５が最も高く 60%程度であり，学年とともに漸減した。特に「そう思う」の減少が顕著であった。

・男女別では，全学年で有意な男女差が認められたが，高校では明確な傾向はみられなかった。

４）平成 16 年調査と平成 22 年調査の比較

保健学習に対する感情 3 問，価値 3 問，期待 5 問の肯定的な回答の割合について，平成 22 年調査の結果を平成 16 年調査と比較する。

肯定的な回答の割合については，男子において，小 5，中 1，高 1 の各学年においては，感情，価値，期待の全 11 問で，高 3 においては，価値と期待の全 8 問で，平成 22 年調査の方が平成 16 年に比して有意に高く，その割合の差は，小 5～高 1 で最大 15%程度，高 3 で最大 10%程度であった。女子でも同様の結果であり，小 5，中 1，高 1 においては全 11 問で，高 3 では価値 1 問，期待 5 問で，平成 22 年調査の方が平成 16 年に比して有意に高かった。

10%以上の増大は，感情については，男子で多く，小 5 で 3 項目全て，中 1 では「おもしろい」「楽しい」においてみられた。女子では，小 5，中 1 の「楽しい」でみられた。価値については，小 5 男子，中 1 女子に各 1 項目みられた。期待については，小 5～高 1 まで複数項目で認められたが，全学年の男女で「国民全体の健康づくりにつながる」が，高 3 を除く学年の男女で「心や体の不安や悩みを軽くしたり解決したりするのに役立つ」がみられたことが特徴的であった。

５）小括

保健学習に対する感情については，「好きだ」，「おもしろい」，「楽しい」の肯定的な回答がいずれも小 5 でやや高く，約 6 割を占めたが，他の学年では 4 割程度にとどまった。価値については，全般的に肯定的な回答の割合が高く，特に「保健学習は大切だ」では 9 割程度を示した。児童生徒は，保健学習の重要性や必要性は高く評価していると考えられる。期待については，「保健の学習をすれば，私の今の生活に役立つ」など，生活場面に対する有益性について問うた項目については，肯定的な回答の割合がいずれの学年も 7 割以上の高率であった。しかし，「国民全体の健康づくりにつながる」および「心や体の不安や悩みを軽くしたり解決したりするのに役立つ」ではやや低率であり，特に中 1 以降では 5～6 割程度であった。

学年別にみると，いずれの項目も，小 5 の肯定的な回答の割合は，他の学年に比して顕著に高率を示した。この傾向は平成 16 年調査でも認められたことであり，小学校 3・4 年での保健学習の充実がうかがえる一方で，小学校高学年以降においても児童生徒の保健の学習意欲を維持できるような取り組みが引き続き求められる。

平成 22 年調査の結果を平成 16 年調査と比較すると，保健学習に対する感情，価値，期待いずれも，ほとんどの項目で肯定的な回答の割合が有意に高率を示した。特に，平成 16 年調査では低率であった「保健の学習は楽しい」，「国民全体の健康づくりにつながる」，「心や体の不安や悩みを軽くしたり解決したりするのに役立つ」においての増加は顕著であった。

保健の学習意欲に対する肯定的な回答の変化 （%）

		小5			中1			高1			高3		
		H16	H22		H16	H22		H16	H22		H16	H22	
感情													
1-1 保健の学習が好きだ。	男	47.6	59.7	↑	33.4	41.8	↑	36.2	43.9	↑	40.5	38.7	
	女	59.1	67.8	↑	32.9	42.4	↑	37.8	41.9	↑	39.5	37.3	
1-5 保健の学習はおもしろい。	男	39.8	53.0	↑	28.7	40.9	↑	34.9	41.6	↑	36.0	37.1	
	女	47.7	57.0	↑	27.8	36.8	↑	35.1	40.8	↑	38.4	37.5	
1-8 保健の学習は楽しい。	男	42.7	57.2	↑	31.1	43.8	↑	32.2	40.5	↑	34.8	34.0	
	女	51.0	61.9	↑	29.2	39.6	↑	32.6	37.9	↑	34.6	33.9	
価値													
1-2 保健の学習は大切だ。	男	85.4	91.8	↑	75.8	82.5	↑	81.6	85.2	↑	84.6	87.1	↑
	女	92.3	95.9	↑	82.7	89.1	↑	87.0	92.0	↑	92.2	93.5	
1-6 保健の学習は，健康な生活を送るために重要だ。	男	84.1	89.4	↑	76.3	84.4	↑	76.2	82.8	↑	71.9	77.8	↑
	女	87.1	92.4	↑	76.6	86.2	↑	77.3	86.0	↑	78.4	83.5	↑
1-9 保健の学習は，学校での勉強において必要だ。	男	67.1	77.2	↑	54.2	63.9	↑	55.4	61.5	↑	62.9	67.7	↑
	女	75.9	83.7	↑	57.5	70.5	↑	59.3	66.4	↑	69.6	72.2	
期待													
1-3 保健の学習をすれば，私の今の生活に役立つ。	男	74.7	85.0	↑	58.8	68.4	↑	70.0	77.0	↑	71.8	78.1	↑
	女	82.7	90.5	↑	64.8	76.7	↑	73.4	81.9	↑	79.5	84.1	↑
1-4 保健の学習をすれば，健康な生活ができるようになる。	男	79.7	87.2	↑	70.9	82.8	↑	64.9	73.7	↑	62.3	68.5	↑
	女	83.4	89.9	↑	71.3	81.1	↑	61.4	73.0	↑	63.6	72.1	↑
1-7 保健の学習をすれば，心や体の不安や悩みを軽くしたり解決したりするのに役立つ。	男	52.3	66.0	↑	45.7	59.2	↑	39.5	50.2	↑	43.8	50.3	↑
	女	64.3	75.0	↑	49.5	64.5	↑	35.8	46.8	↑	43.4	49.7	↑
1-10 保健の学習をすれば，社会に出てからの生活に役立つ。	男	67.8	77.8	↑	57.8	66.2	↑	61.7	71.7	↑	63.9	71.6	↑
	女	73.4	81.3	↑	57.0	69.2	↑	61.1	73.6	↑	65.8	73.4	↑
1-11 保健の学習をすれば，国民全体の健康づくりにつながる。	男	54.4	64.5	↑	48.8	61.0	↑	45.4	57.4	↑	45.8	55.9	↑
	女	55.2	68.8	↑	46.2	62.0	↑	45.2	59.1	↑	47.8	58.4	↑

↑肯定的な回答の割合の調査年による差 $p<0.05$ （平成 16 年調査に比べて平成 22 年調査が有意に高いことを示す。有意に低い項目はなかった。）

※ 　は，平成 16 年に比べて 10%以上増えた項目を示す。

調査実施年による肯定的な割合の差の検定にあたっては，母数から無効回答を除いた。

（５）経験した保健学習の状況

本結果については，学習した保健学習の単元別に，「好きでしたか」「考えたり工夫したりできましたか」「学習した内容はわかりましたか」について，児童生徒は次の選択肢から一つ選んだ。ただし，結果の図示においては，煩雑さを避けるため，項目を「好きだったか」「考えたり工夫できたか」「わかったか」とした。そして，この 3 つの項目共通に，選択肢を「そう」「どちらかといえばそう」「どちらかといえばそうではない」「そうではない」「おぼえていない」 とした。

調査票における質問文と選択肢

（1）好きでしたか

1．好きだった

2．どちらかといえば好きだった

3．どちらかといえばきらいだった

4．きらいだった

5．おぼえていない

（2）考えたり工夫したりできましたか

1．考えたり工夫したりできた

2．どちらかといえば考えたり工夫したりできた

3．どちらかといえば考えたり工夫したりできなかった

4．考えたり工夫したりできなかった

5．おぼえていない

（3）学習した内容はわかりましたか

1．わかった

2．どちらかといえばわかった

3．どちらかといえばわからなかった

4．わからなかった

5．おぼえていない

調査票の選択肢と図における選択肢の対応関係

（1）好きでしたか

1．好きだった　→　そう

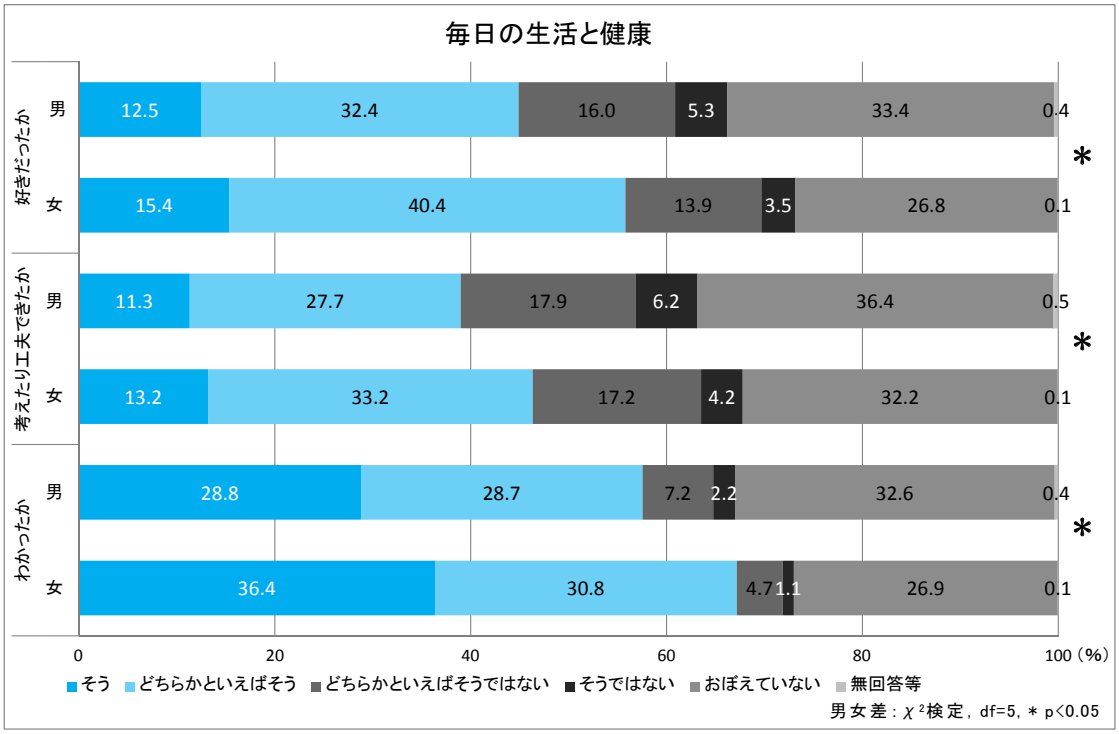
2．どちらかといえば好きだった　→　どちらからといえばそう

3．どちらかといえばきらいだった　→　どちらからといえばそうではない

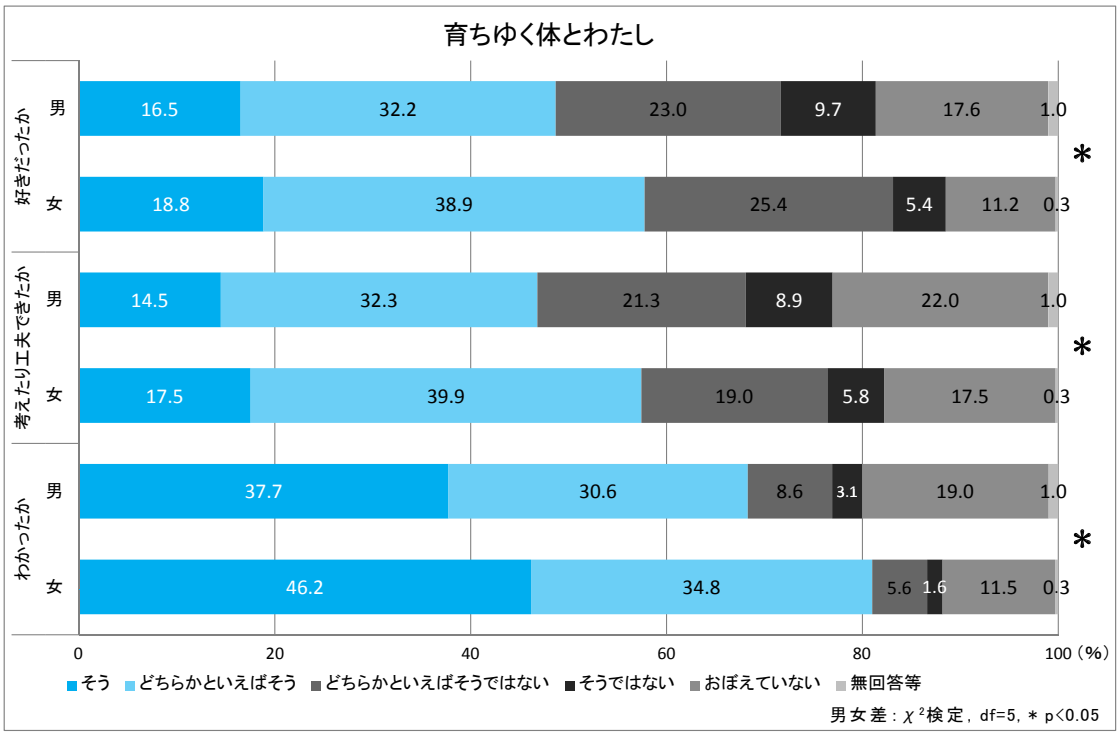
4．きらいだった　→　そうではない

5．おぼえていない　→　おぼえていない

１）小学校３・４年の保健学習（小学校５年生対象）



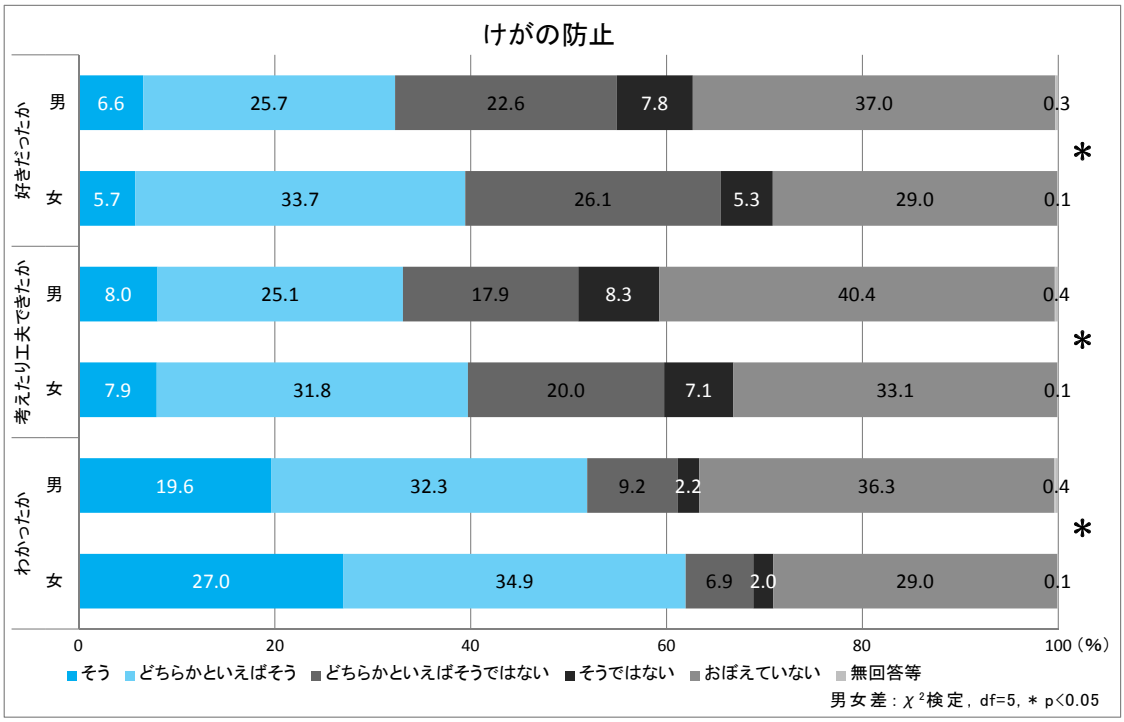
・「好きだったか」の肯定的な回答は，男子 44.9%，女子 55.8%であり，半ば程度であった。
・「考えたり工夫したりできたか」では，男子 39.0%，女子 46.4%であり，男女とも否定的な回答の方が高かった。
・「わかったか」では，男子 57.5%，女子 67.2%であり，男女とも肯定的な回答の方が高かった。
・男女を比べると，肯定的な割合は，女子の方が数%～10%程度多かった。
・「おぼえていない」は，3 項目いずれについても 30%程度であり，それは男子の方が多かった。



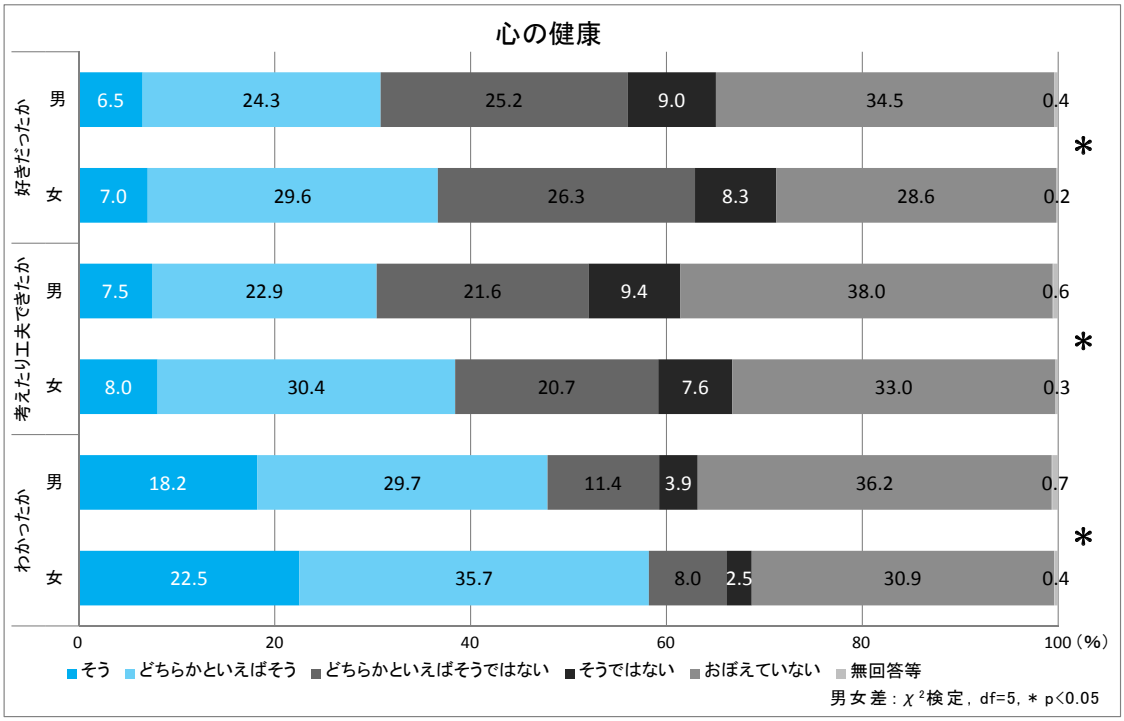
・「好きだったか」の肯定的な回答は，男子 48.7%，女子 57.7%であり，女子では肯定的な回答の方が高かった。
・「考えたり工夫したりできたか」では，男子 46.8%，女子 57.4%であり，女子では肯定的な回答の方が高かった。
・「わかったか」では，男子 68.3%，女子 81.0%であり，男女とも肯定的な回答の方が高かった。

・男女を比べると，肯定的な割合は，女子の方が数%～10%程度多かった。
・「おぼえていない」は，3 項目いずれについても 10～20%程度であり，それは男子の方が多かった。なお，単元間の比較については，「育ちゆく体とわたし」の方が，3 項目いずれも肯定的な割合が高く，「おぼえていない」が少なかった。

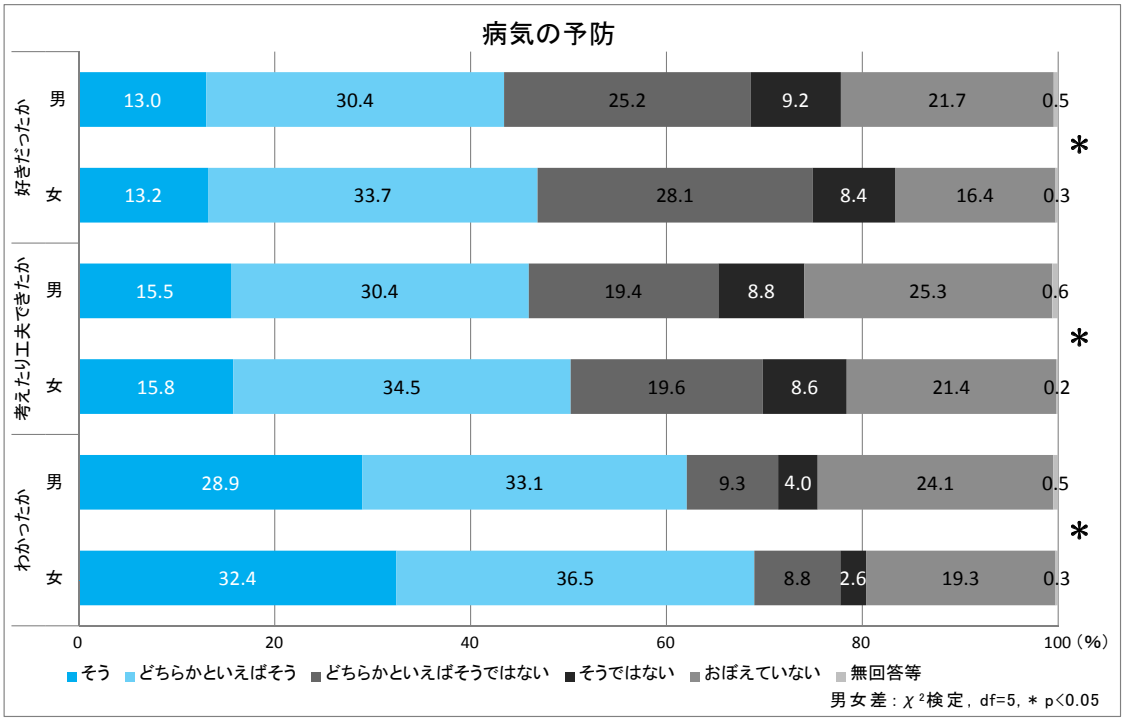
２）小学校５・６年の保健学習（中学校１年生対象）



・「好きだったか」の肯定的な回答は，男子 32.3%，女子 39.4%であり，男女とも否定的な回答の方が高かった。
・「考えたり工夫したりできたか」では，男子 33.1%，女子 39.7%であり，男女とも否定的な回答の方が高かった。
・「わかったか」では，男子 51.9%，女子 61.9%であり，男女とも肯定的な回答の方が高かった。
・男女を比べると，肯定的な割合は，女子の方が数%～10%程度多かった。
・「おぼえていない」は，3 項目いずれについても 30～40%程度であり，それは男子の方が多かった。



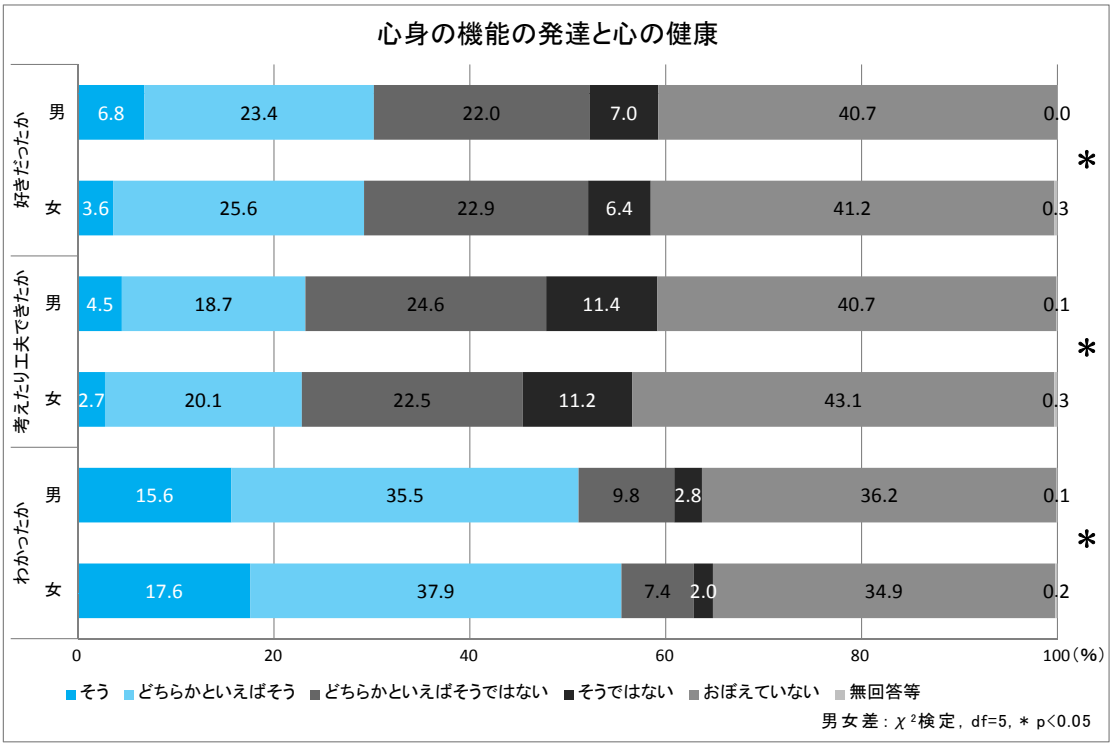
・「好きだったか」の肯定的な回答は，男子 30.8%，女子 36.6%であり，男女とも否定的な回答の方が高かった。
・「考えたり工夫したりできたか」では，男子 30.4%，女子 38.4%であり，男女とも否定的な回答の方が高かった。
・「わかったか」では，男子 47.9%，女子 58.2%であり，女子では肯定的な回答の方が高かった。
・男女を比べると，肯定的な割合は，女子の方が数%～10%程度多かった。
・「おぼえていない」は，3 項目いずれについても 30～40%程度であり，それは男子の方が多かった。



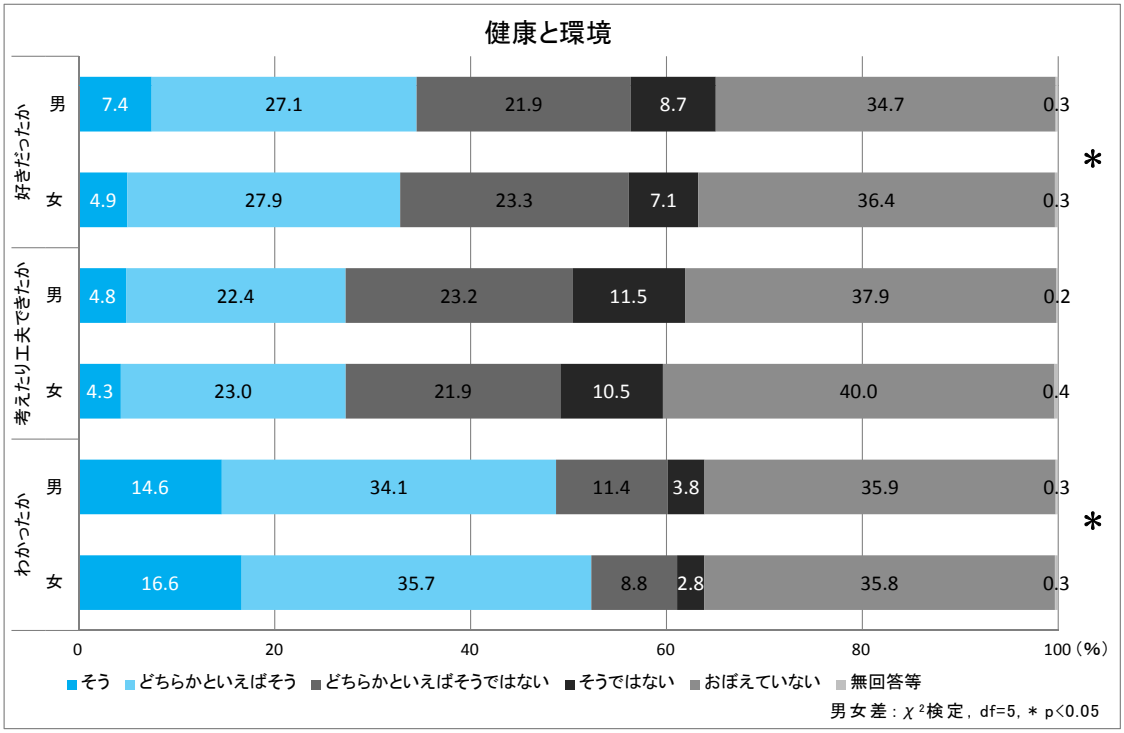
・「好きだったか」の肯定的な回答は，男子 43.4%，女子 46.9%であり，男女とも否定的な回答の方が高かった。
・「考えたり工夫したりできたか」では，男子 45.9%，女子 50.3%であり，男子では否定的な回答の方が高かった。
・「わかったか」では，男子 62.0%，女子 68.9%であり，男女とも肯定的な回答の方が高かった。
・男女を比べると，肯定的な割合は，女子の方が多かった。
・「おぼえていない」は，3 項目いずれについても 20%程度であり，それは男子の方が多かった。

単元間の比較については，「病気の予防」が，3 項目いずれについても，肯定的な割合が多く，「おぼえていない」が少なかった。

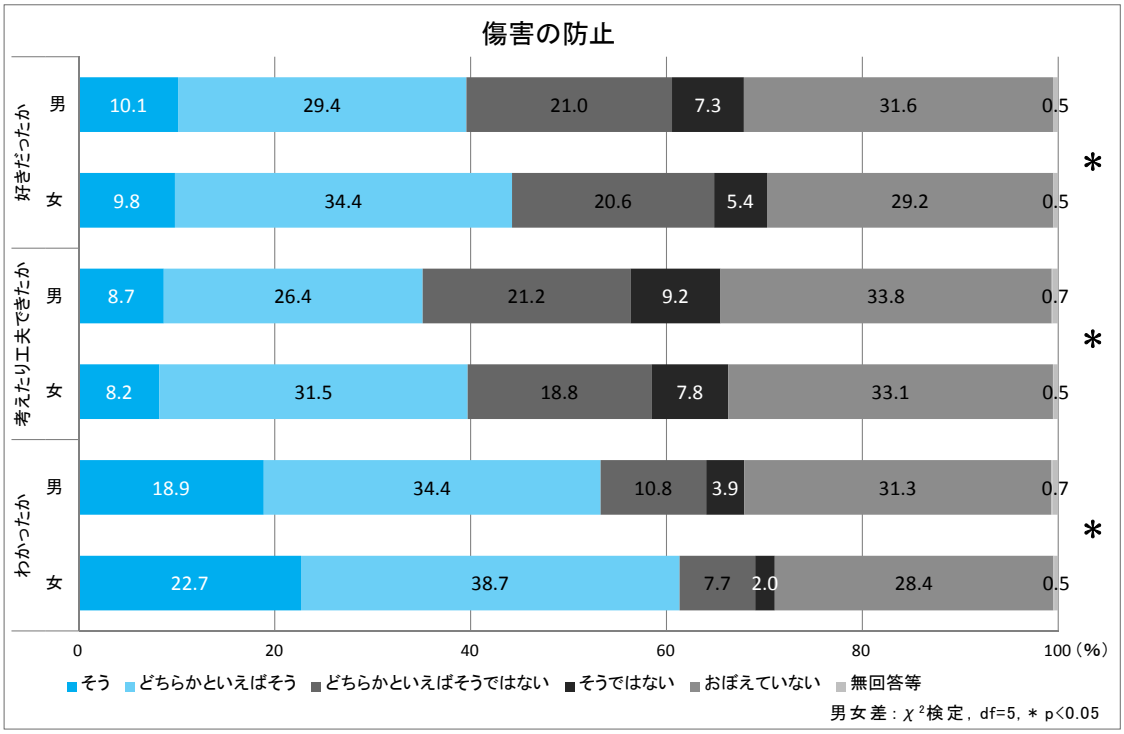
3）中学校の保健学習（高校 1 年生対象）



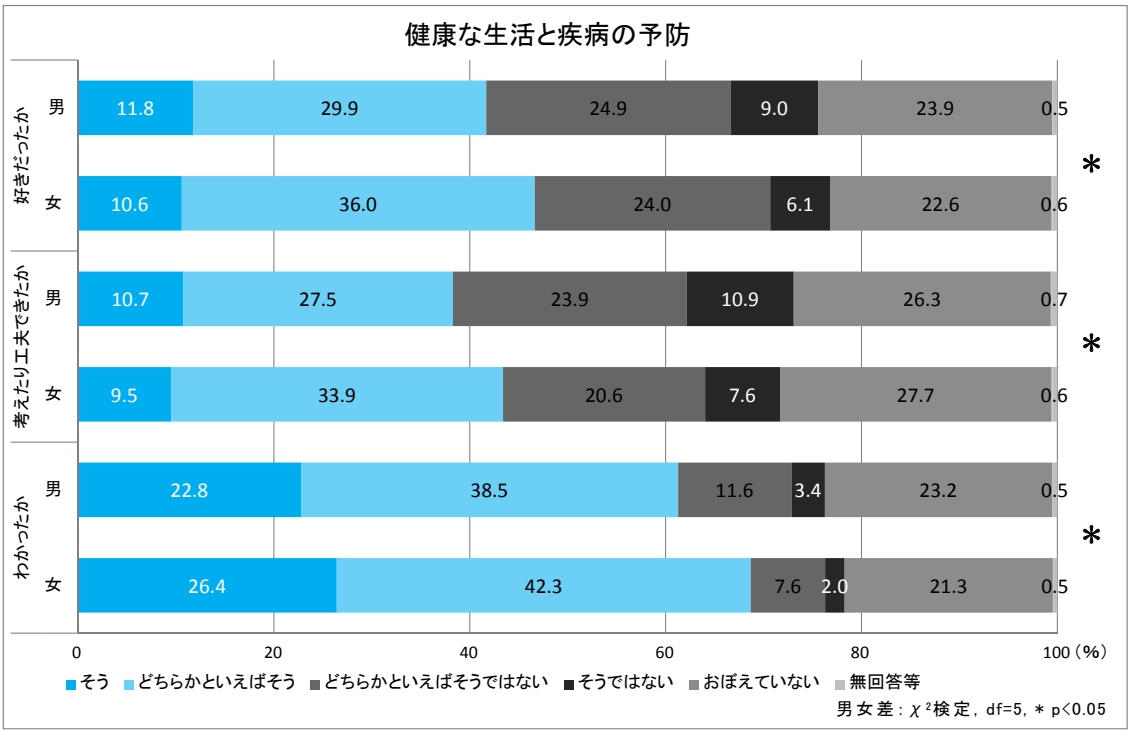
・「好きだったか」の肯定的な回答は，男子 30.2%，女子 29.2%であり，男女とも否定的な回答の方が高かった。
・「考えたり工夫したりできたか」では，男子 23.2%，女子 22.8%であり，男女とも否定的な回答の方が高かった。
・「わかったか」では，男子 51.1%，女子 55.5%であり，男女とも肯定的な回答の方が高かった。
・男女を比べると，肯定的な割合は，「わかったか」のみ女子の方がやや多かった。
・「おぼえていない」は，3 項目いずれについても 35～40%程度であった。



・「好きだったか」の肯定的な回答は，男子 34.5%，女子 32.8%であり，男女とも否定的な回答の方が高かった。
・「考えたり工夫したりできたか」では，男子 27.2%，女子 27.3%であり，男女とも否定的な回答の方が高かった。
・「わかったか」では，男子 48.7%，女子 52.3%であり，男女とも半ば程度であった。
・男女を比べると，肯定的な割合について，一定の傾向はみられなかった。
・「おぼえていない」は，3 項目いずれについても 35～40%程度であった。

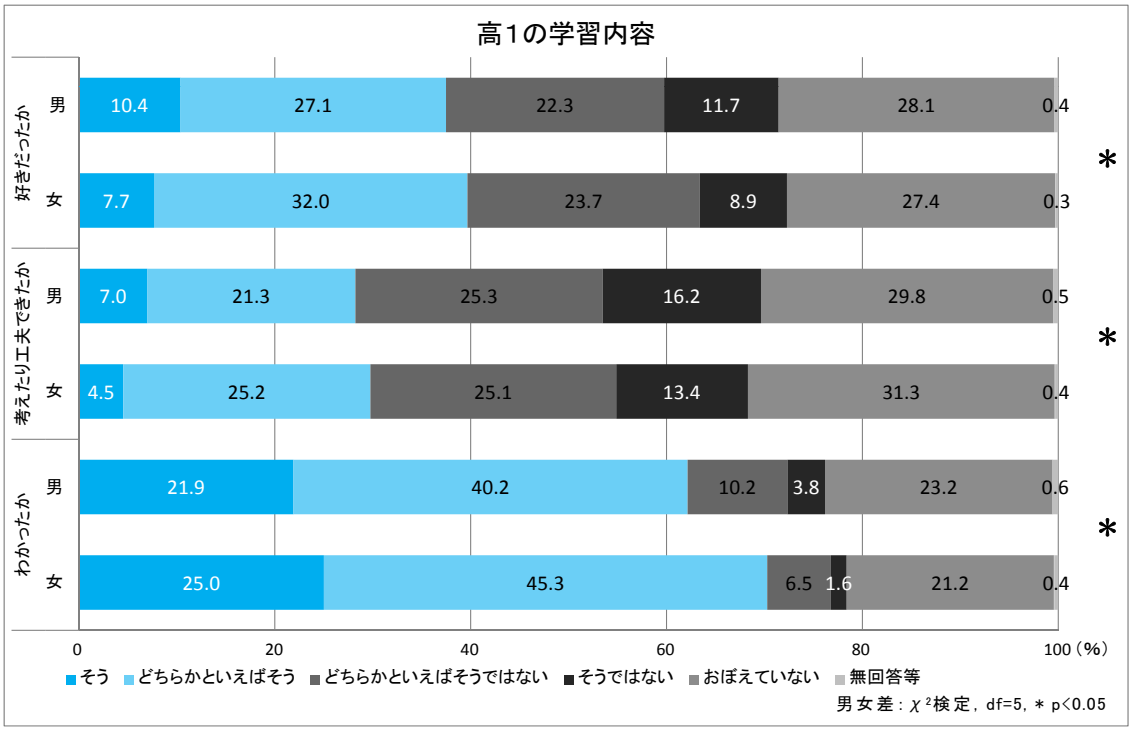


・「好きだったか」の肯定的な回答は，男子 39.5%，女子 44.2%であり，男女とも否定的な回答の方が高かった。
・「考えたり工夫したりできたか」では，男子 35.1%，女子 39.7%であり，男女とも否定的な回答の方が高かった。
・「わかったか」では，男子 53.3%，女子 61.4%であり，男女とも肯定的な回答の方が高かった。
・男女を比べると，肯定的な割合は，女子の方が数%程度多かった。
・「おぼえていない」は，3 項目いずれについても 30%程度であった。

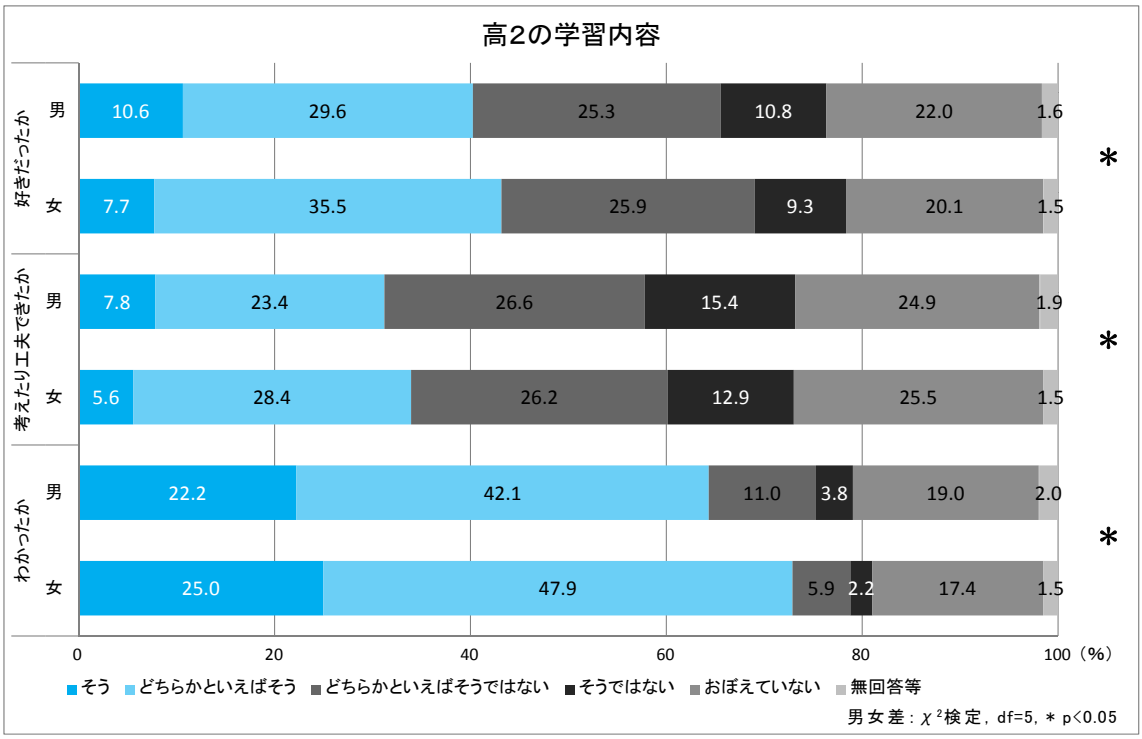


・「好きだったか」の肯定的な回答は，男子 41.7%，女子 46.6%であり，男女とも否定的な回答の方が高かった。
・「考えたり工夫したりできたか」では，男子 38.2%，女子 43.4%であり，男女とも否定的な回答の方が高かった。
・「わかったか」では，男子 61.3%，女子 68.7%であり，男女とも肯定的な回答の方が高かった。
・男女を比べると，肯定的な割合は，女子の方が数%程度多かった。
・「おぼえていない」は，3 項目いずれについても 20～30%程度であった。
単元間の比較については，「健康な生活と疾病の予防」が，3 項目いずれについても，肯定的な割合が多く，「おぼえていない」が少なかった。

4）高校の保健学習（高校３年生対象）



・「好きだったか」の肯定的な回答は，男子 37.5%，女子 39.7%であり，男女とも否定的な回答の方が高かった。
・「考えたり工夫したりできたか」では，男子 28.3%，女子 29.7%であり，男女とも否定的な回答の方が高かった。
・「わかったか」では，男子 62.1%，女子 70.3%であり，男女とも肯定的な回答の方が高かった。
・男女を比べると，肯定的な割合は，女子の方がやや多かった。
・「おぼえていない」は，3 項目いずれについても 20～30%程度であった。



・「好きだったか」の肯定的な回答は，男子 40.2%，女子 43.2%であり，男女とも否定的な回答の方が高かった。
・「考えたり工夫したりできたか」では，男子 31.2%，女子 34.0%であり，男女とも否定的な回答の方が高かった。
・「わかったか」では，男子 64.3%，女子 72.9%であり，男女とも肯定的な回答の方が高かった。
・男女を比べると，肯定的な割合は，女子の方がやや高かった。
・「おぼえていない」は，3 項目いずれについても 20%程度であった。

全学年を通して，「好きだったか」「考えたり工夫したりできたか」「わかったか」の肯定的な回答を比べると，いずれの単元においても，「わかったか」の割合が最も高かった。続いては，概ね，「好きだったか」「考えたり工夫したりできたか」の順であった。そのうち，高 3 では，「好きだった」や「考えたり工夫したりできたか」の肯定的な回答は低いものの，「わかったか」の割合は高く，両者の差が大きいことが特徴的であった。

５）平成 16 年調査と平成 22 年調査との比較

小５ （%）

毎日の生活と健康		H16	H22	
4-1 好きでしたか	男	30.9	44.9	↑
	女	43.5	55.8	↑
4-2 考えたり工夫したりできましたか	男	26.5	39.0	↑
	女	34.3	46.3	↑
4-3 学習した内容はわかりましたか	男	45.3	57.6	↑
	女	57.1	67.2	↑
育ちゆく体とわたし				
5-1 好きでしたか	男	37.3	48.7	↑
	女	47.7	57.8	↑
5-2 考えたり工夫したりできましたか	男	33.3	46.8	↑
	女	44.1	57.4	↑
5-3 学習した内容はわかりましたか	男	59.2	68.3	↑
	女	76.6	81.0	↑

中１ （%）

けがの防止		H16	H22	
4-1 好きでしたか	男	29.0	32.3	↑
	女	33.9	39.4	↑
4-2 考えたり工夫したりできましたか	男	27.4	33.1	↑
	女	29.6	39.7	↑
4-3 学習した内容はわかりましたか	男	51.4	51.9	
	女	58.3	62.0	↑
心の健康				
5-1 好きでしたか	男	21.9	30.8	↑
	女	29.9	36.7	↑
5-2 考えたり工夫したりできましたか	男	21.5	30.4	↑
	女	27.6	38.4	↑
5-3 学習した内容はわかりましたか	男	40.3	47.9	↑
	女	53.2	58.2	↑
病気の予防				
6-1 好きでしたか	男	39.0	43.4	↑
	女	42.2	46.9	↑
6-2 考えたり工夫したりできましたか	男	38.6	46.0	↑
	女	41.4	50.2	↑
6-3 学習した内容はわかりましたか	男	59.1	62.1	↑
	女	63.8	69.0	↑

↑肯定的な回答の割合の調査年による差 $p<0.05$ （平成 22 年調査が平成 16 年調査に比べて有意に高いことを示す。有意に低い項目はなかった。）

※ は，平成 16 年に比べて 10%以上増えた項目を示す。

調査実施年による肯定的な割合の差の検定にあたっては，母数から無効回答を除いた。

高1　　（%）

心身の機能の発達と心の健康		H16	H22	
4-1 好きでしたか	男	26.2	30.2	↑
	女	25.8	29.2	↑
4-2 考えたり工夫したりできましたか	男	17.3	23.2	↑
	女	18.3	22.9	↑
4-3 学習した内容はわかりましたか	男	51.4	51.1	
	女	53.4	55.5	
健康と環境				
5-1 好きでしたか	男	26.8	34.5	↑
	女	25.2	32.8	↑
5-2 考えたり工夫したりできましたか	男	20.8	27.2	↑
	女	20.0	27.3	↑
5-3 学習した内容はわかりましたか	男	45.4	48.8	↑
	女	44.3	52.4	↑
傷害の防止				
6-1 好きでしたか	男	36.1	39.6	↑
	女	40.2	44.2	↑
6-2 考えたり工夫したりできましたか	男	29.2	35.1	↑
	女	34.2	39.7	↑
6-3 学習した内容はわかりましたか	男	52.2	53.3	
	女	58.6	61.4	↑
健康な生活と疾病の予防				
7-1 好きでしたか	男	36.3	41.7	↑
	女	43.5	46.7	↑
7-2 考えたり工夫したりできましたか	男	31.1	38.3	↑
	女	37.4	43.4	↑
7-3 学習した内容はわかりましたか	男	58.4	61.3	↑
	女	65.8	68.7	↑

↑肯定的な回答の割合の調査年による差 $p<0.05$　（平成 22 年調査が平成 16 年調査に比べて有意に高いことを示す。有意に低い項目はなかった。）

調査実施年による肯定的な割合の差の検定にあたっては，母数から無効回答を除いた。

高 3　　（%）

高1の保健学習		H16	H22	
4-11 好きでしたか	男	36.8	37.5	
	女	36.0	39.7	↑
4-12 考えたり工夫したりできましたか	男	23.3	28.2	↑
	女	21.3	29.8	↑
4-13 学習した内容はわかりましたか	男	57.4	62.1	↑
	女	61.4	70.3	↑
高 2 の保健学習				
4-21 好きでしたか	男	38.3	40.2	
	女	42.6	43.2	
4-22 考えたり工夫したりできましたか	男	26.2	31.2	↑
	女	27.3	34.0	↑
4-23 学習した内容はわかりましたか	男	59.0	64.4	↑
	女	67.1	72.9	↑

↑肯定的な回答の割合の調査年による差 $p<0.05$　（平成 22 年調査が平成 16 年調査に比べて有意に高いことを示す。有意に低い項目はなかった。）

調査実施年による肯定的な割合の差の検定にあたっては，母数から無効回答を除いた。

平成 22 年調査の肯定的な回答の割合は，平成 16 年調査に比べると，ほとんどの単元のほとんどの項目で，有意に増加した。

具体的には，小 5 において，男女とも，『毎日の生活と健康』および『育ちゆく体とわたし』のすべての項目（計 6 項目）で，平成 22 年調査の方が平成 16 年調査に比して有意に高く，その割合の差は，ほとんどの項目において 10%以上を示し，最大 14%程度であった。中 1 においては，肯定的な回答の割合について，男子で『けがの防止』の「好きだったか」と「考えたり工夫したりできたか」について，『心の健康』および『病気の予防』の全 3 項目で，また，女子で全単元の全 3 項目で，平成 22 年調査の方が平成 16 年調査に比して有意に高く，その割合の差は，最大 11%程度であった。高 1 においては，男子で，『心身の機能の発達と心の健康』と『傷害の防止』の「好きだったか」と「考えたり工夫したりできたか」および，『健康と環境』と『健康な生活と疾病の予防』の全 3 項目で，女子で『心身の機能の発達と心の健康』の「好きだったか」と「考えたり工夫したりできたか」および『健康と環境』，『傷害の防止』，『健康な生活と疾病の予防』の全 3 項目で，平成 22 年調査の方が平成 16 年調査に比して有意に高く，その割合の差は，最大 8%程度であった。高 3 においては，男子で高 1 および高 2 の保健学習の「考えたり工夫したりできたか」と「わかったか」について，女子では，高 1 の保健学習の全 3 項目，高 2 の保健学習の「考えたり工夫したりできたか」と「わかったか」について，平成 22 年調査の方が平成 16 年調査に比して有意に高く，その割合の差は最大 9%程度であった。

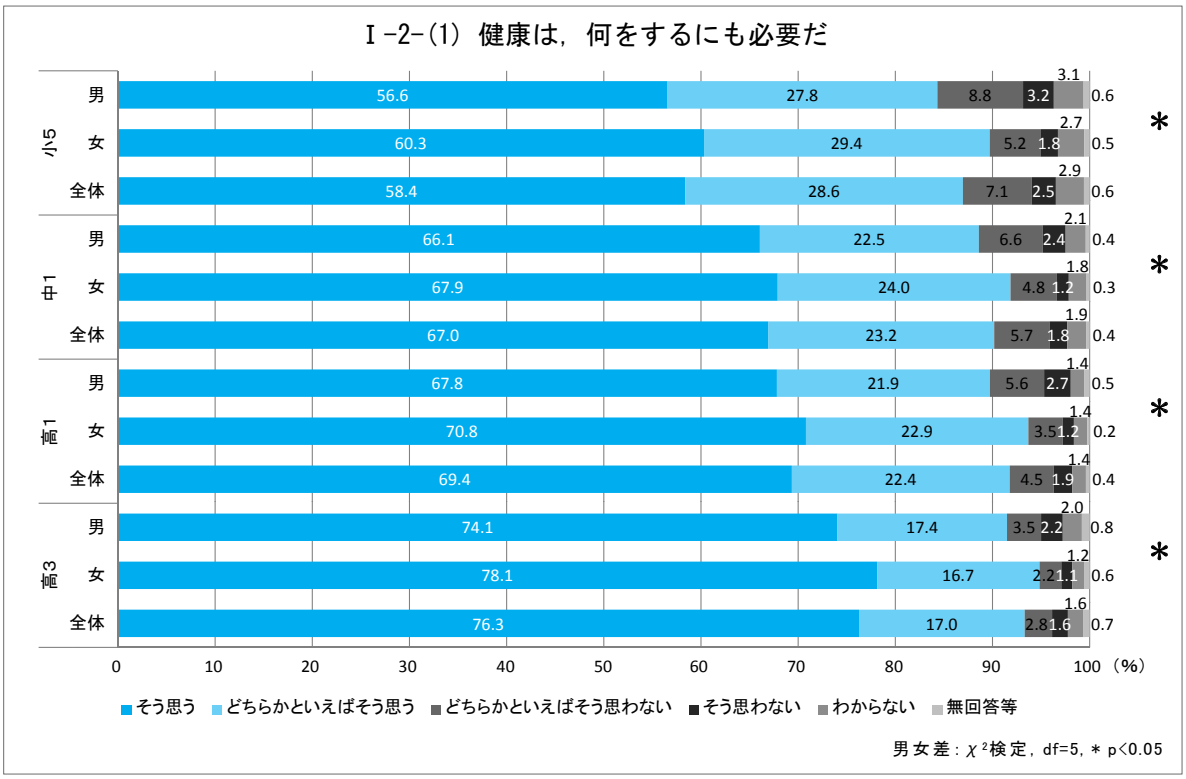
６）小括

各校種の単元における「好きだったか」，「考えたり工夫したりできたか」，「わかったか」に対する肯定的な回答の割合をみると，「好きだったか」および「考えたり工夫したりできたか」では 2～5 割程度であったのに対し，「わかったか」では 5～7 割程度であり，やや高率であった。また，全ての単元において，女子の方が高率を示した。また，単元間で比較すると，概ね，各調査の対象学年に近い学年で学

習した単元の方が，高率を示した。なお，「おぼえていない」の回答の割合が 4 割を超える単元もみられた。この割合は，概ね，調査の対象学年に近い学年で学習した単元ほど低率を示す傾向がみられることから記憶の影響も考えられるが，児童生徒の印象に残らないような保健の授業が少なくないことがうかがわれた。児童生徒の興味・関心を喚起したり，思考を促したりするような指導方法の工夫，学習内容の系統性を意識した展開の工夫を行っていく必要性が示唆された。

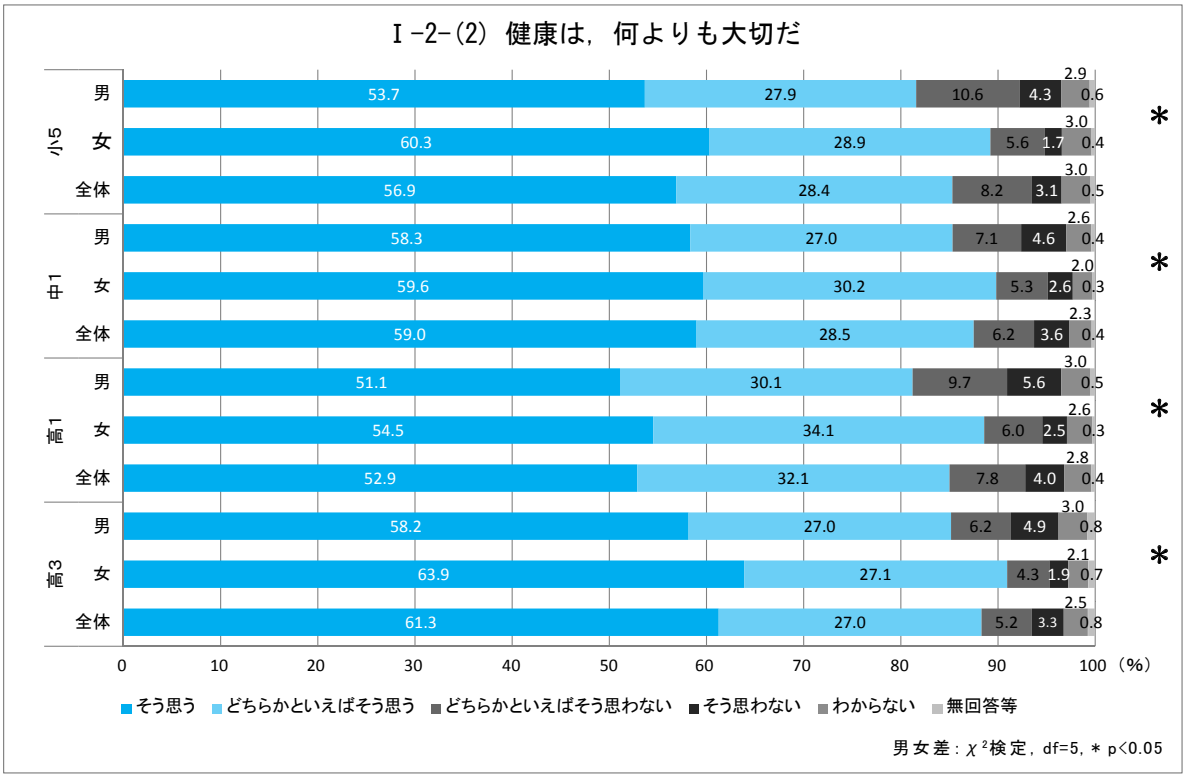
平成 22 年調査の結果を平成 16 年調査と比較すると，ほとんどの単元において，男女とも「好きだったか」，「考えたり工夫したりできたか」，「わかったか」に対する肯定的な回答が有意に高率を示し，保健の授業改善の成果が示唆された。特に「考えたり工夫したりできたか」では，男女とも，全単元において有意に高率を示した。「好きだったか」および「わかったか」もほとんどの単元で男女とも有意に高率を示した。これは，授業において思考・判断が重視されつつあることを意味するのかもしれない。

（６）健康の価値の認知



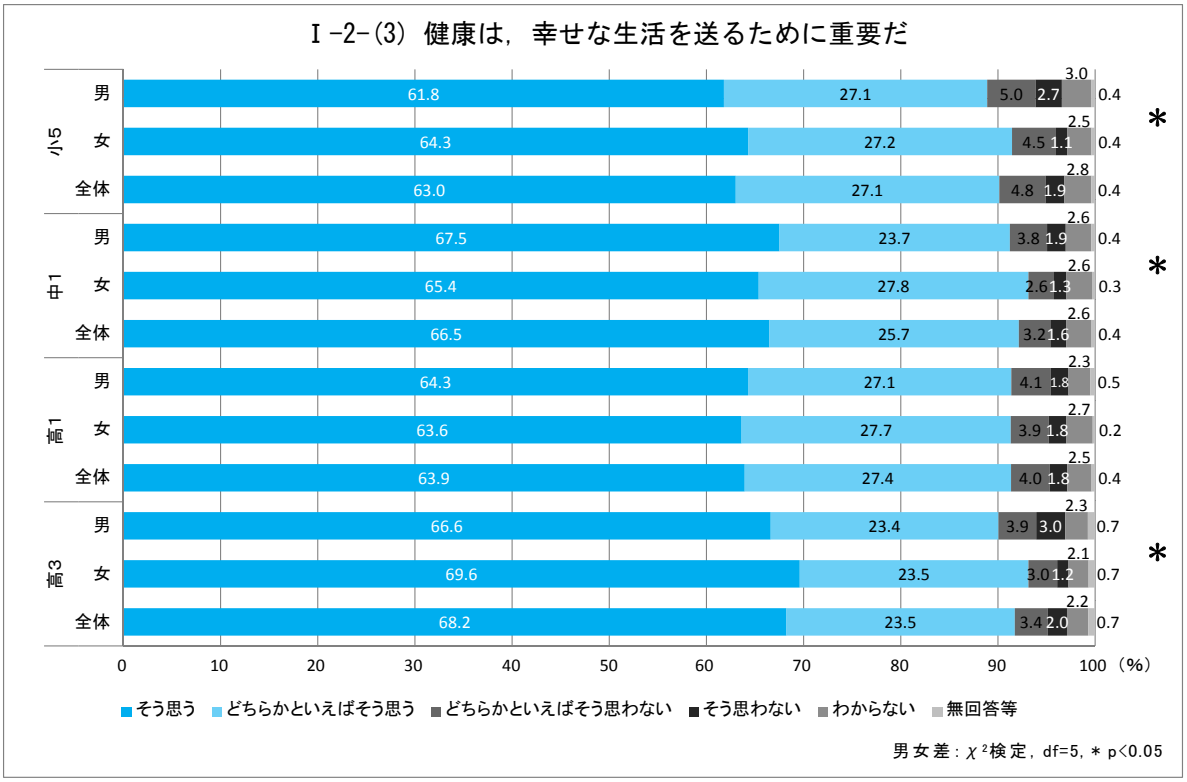
・肯定的な回答が，全学年で 90%程度を占めた。そのうち「そう思う」については，学年とともに割合が増大し，高 3 では 70%半ばであった。

・男女別では，全学年で有意な男女差が認められ，いずれの学年も女子の方がより肯定的であった。



・肯定的な回答が，全学年で 80～90%程度を占めた。学年による差は小さかった。

・男女別では，全学年で有意な男女差が認められ，いずれの学年も女子の方がより肯定的であった。



・肯定的な回答が，全学年で概ね 90%以上を占めた。学年による差は小さかった。

・男女別では，高 1 以外の学年で有意な男女差が認められ，小 5 と高 3 では女子の方がより肯定的であった。

1）平成 16 年調査と平成 22 年調査の比較

肯定的な回答の割合については，男子では，全学年を通して，「健康は，幸せな生活を送るために重要だ」の項目で，平成 22 年調査の方が平成 16 年調査に比して有意に高く，その割合の差は，最大 5%程度であった。一方，女子においては，傾向がやや異なり，有意差が認められた項目は，小 5 で 2 問，中 1 および高 1 で全 3 問であったが，高 3 ではいずれの項目でも有意差が認められなかった。高 3 の結果については，平成 16 年調査の結果が，いずれも 90%以上であり，他学年より高かったことが関係している可能性がある。

2）小括

健康の価値の認知については，全 3 項目の肯定的な回答は 9 割程度以上を占め，極めて高率であった。また，ほとんどの学年で女子が男子に比して有意に高率を示した。一方，学年による割合の差は大きくなかった。児童生徒は，健康の重要性や必要性について，高く評価していると考えられた。この傾向は平成 16 年調査と同様の結果であったが，平成 22 年調査においては，平成 16 年調査に比して有意に高率を示した項目が複数認められ，特に「健康は，幸せな生活を送るために重要だ」では，高 1 までの全学年の男女で有意に高率を示した。児童生徒が，このように健康の価値を高く評価していることは，保健学習の推進に大いに資するものと考えられる。

「健康の価値の認知」に対する肯定的な回答の変化

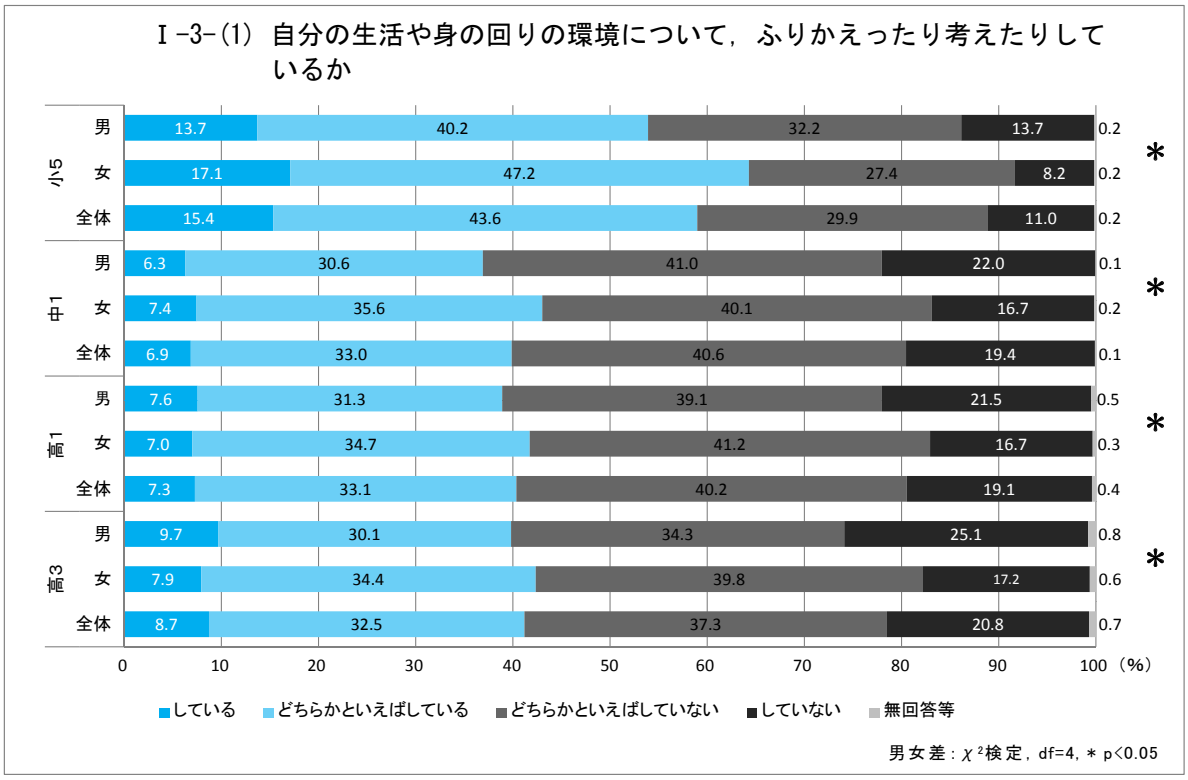
（%）

		小5			中1			高1			高3		
		H16	H22		H16	H22		H16	H22		H16	H22	
2-1 健康は，何をするにも必要だ。	男	83.6	84.3		87.2	88.6		88.3	89.7		90.3	91.5	
	女	88.6	89.7		87.7	91.9	↑	92.0	93.7	↑	94.2	94.8	
2-2 健康は，何よりも大切だ。	男	80.2	81.6		84.6	85.3		80.9	81.2		83.0	85.2	
	女	86.1	89.3	↑	85.4	89.8	↑	85.9	88.6	↑	90.2	91.0	
2-3 健康は，幸せな生活を送るために重要だ。	男	85.2	88.9	↑	86.5	91.2	↑	87.6	91.4	↑	87.8	90.1	↑
	女	86.9	91.5	↑	86.5	93.1	↑	88.2	91.3	↑	92.1	93.1	

↑肯定的な回答の割合の調査年による差 $p<0.05$ （平成 16 年調査に比べて平成 22 年調査が有意に高いことを示す。有意に低い項目はなかった。）

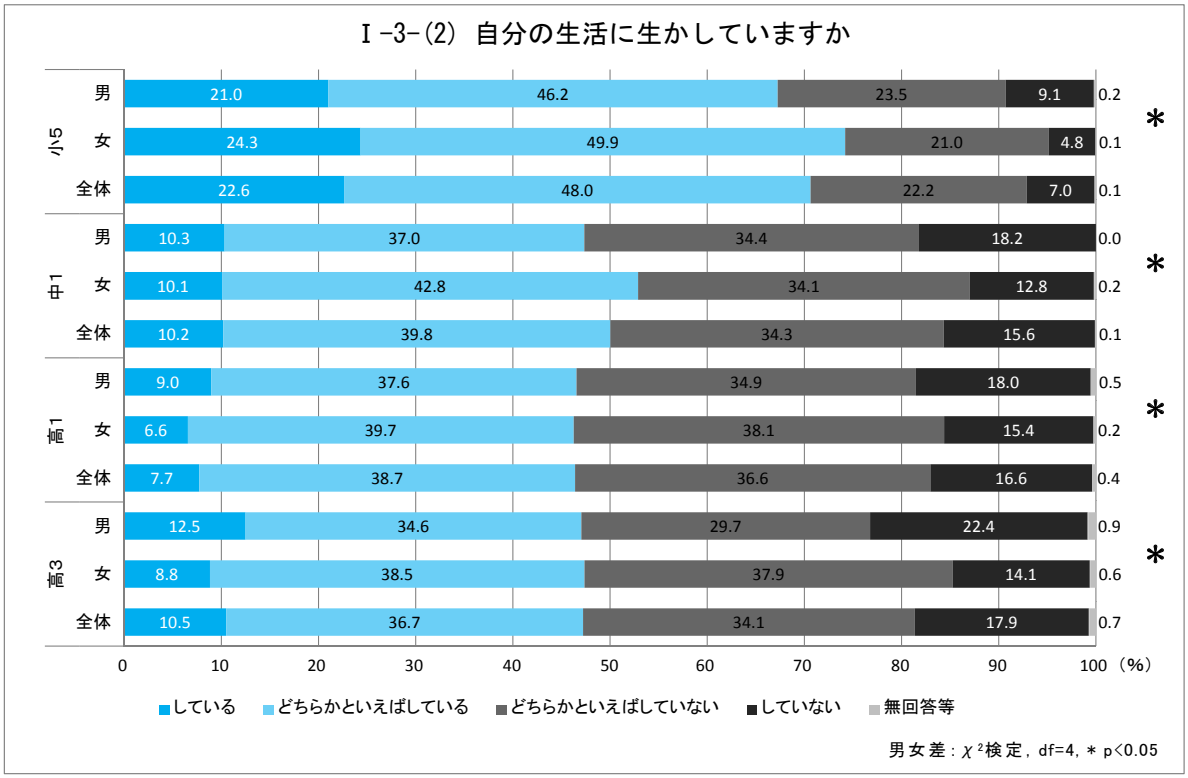
調査実施年による肯定的な割合の差の検定にあたっては，母数から無効回答を除いた。

（７）日常生活における実践状況



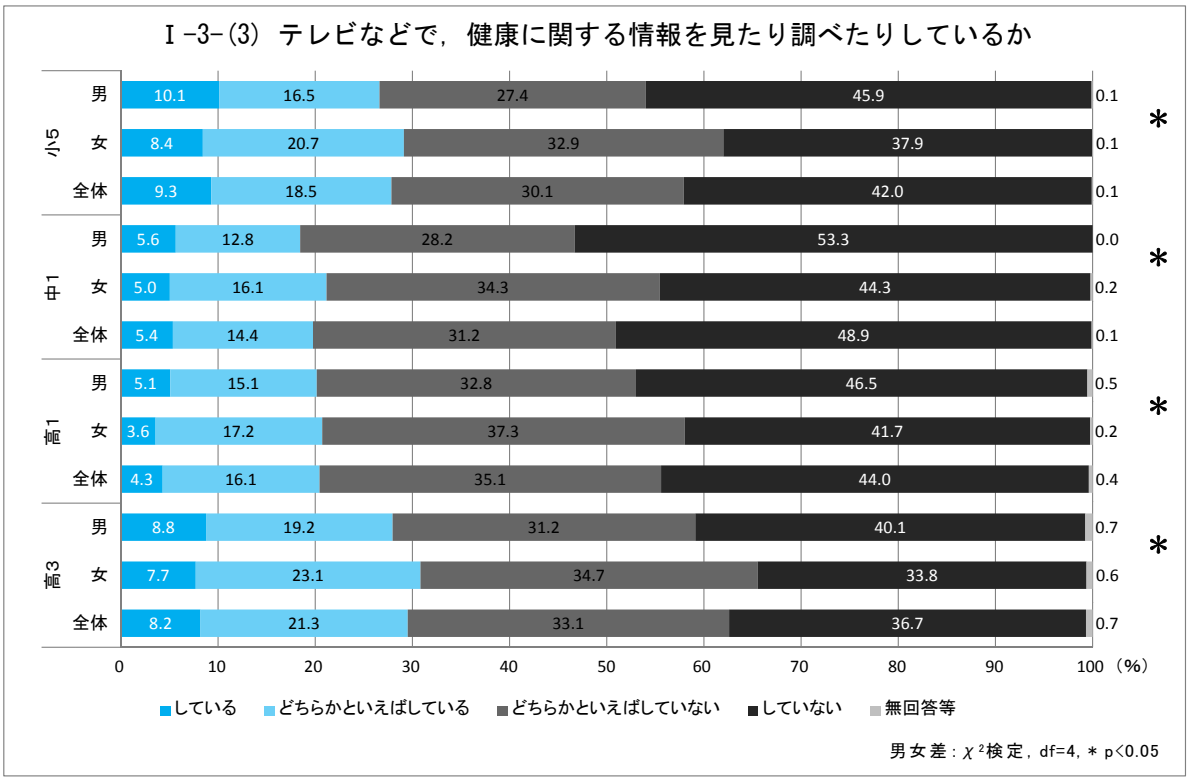
・学年別では，肯定的な回答の割合は小５が最も高く 60%に近い値であったが，中１以降は，40%程度にとどまった。また，「していない」が中１以降，20%程度を占めた。

・男女別では，全学年で有意な男女差が認められ，いずれの学年も女子の方がより肯定的であった。



・学年別では，肯定的な回答の割合は小５が最も高く 70%程度であったが，中１以降は，50%弱にとどまった。また，「していない」が中１以降，20%弱を占めた。

・男女別では，全学年で有意な男女差が認められ，小５と中１では女子の方がより肯定的であった。



・学年別では，肯定的な回答の割合は全学年で 30%程度以下と低かった。特に中 1 と高 1 は 20%程度にとどまった。また，「していない」が，全学年で 40%程度を占め，特に中 1 では 50%弱に及んだ。
・男女別では，全学年で有意な男女差が認められ，女子の方が肯定的な傾向にあった。

1）平成 16 年調査と平成 22 年調査の比較

肯定的な回答の割合については，男子において，小 5，中 1，高 1 の各学年における全 3 問で，高 3 では 2 問で，平成 22 年調査の方が平成 16 年調査に比して有意に高かった。また，10%以上の増加を示した項目は，小 5 の「自分の生活や身の回りの環境について，ふりかえったり考えたりしているか」であった。一方，女子においては，傾向がやや異なり，有意差が認められた項目は，小 5 で 2 問，中 1 および高 1 で全 3 問，高 3 では 2 問であり，10%以上の増加を示した項目は，中 1 および高 1 の「自分の生活に生かしているか」であった。

2）小括

日常生活における実践状況については，肯定的な回答の割合は小 5 では 7 割を超える項目もみられたものの，総じて低率であった。特に，中 1 以降では，2～5 割程度にとどまった。特に「健康に関する情報を見たり調べたりしているか」では，全学年で 3 割程度以下であった。この項目では，否定的な回答（「していない」と「どちらかといえばしていない」の合算）の割合が 7～8 割程度を占めており，実践されていない状況がうかがえた。

平成 22 年調査の結果を平成 16 年調査と比較すると，総じて良好な傾向を示していたが，思考力・判断力の育成のためにも，引き続き改善の方策が必要である。

「日常生活における実践状況」に対する肯定的な回答の変化

（%）

		小5			中1			高1			高3		
		H16	H22		H16	H22		H16	H22		H16	H22	
3-1 自分の生活や身の回りの環境について，ふりかえったり考えたりしていますか。	男	43.1	53.9	↑	28.2	36.9	↑	30.4	38.9	↑	37.1	39.8	
	女	56.4	64.3	↑	33.6	43.0	↑	34.5	41.7	↑	41.3	42.4	
3-2 自分の生活に生かしていますか	男	57.7	67.3	↑	38.0	47.4	↑	37.6	46.6	↑	42.2	47.1	↑
	女	67.3	74.2	↑	41.1	52.9	↑	35.1	46.3	↑	40.1	47.4	↑
3-3 テレビや新聞，インターネットなどで，健康に関する情報を見たり調べたりしていますか。	男	22.7	26.6	↑	16.0	18.5	↑	15.8	20.2	↑	22.5	28.0	↑
	女	26.4	29.1		15.3	21.2	↑	16.7	20.7	↑	26.1	30.8	↑

↑肯定的な回答の割合の調査年による差 $p<0.05$ （平成 16 年調査に比べて平成 22 年調査が有意に高いことを示す。有意に低い項目はなかった。）

※ は，平成 16 年調査に比べて 10%以上増えた項目を示す。

調査実施年による肯定的な割合の差の検定にあたっては，母数から無効回答を除いた。

2. 保護者調査

（１）対象者の属性

表1　保護者の学年別回答者数

			子どもの学年				計
			小5	中1	高1	高3	
調査年	H16	人数	3,996	3,935	4,068	3,635	15,634
		%	25.6	25.2	26.0	23.3	100
	H22	人数	3,771	3,737	4,320	3,969	15,797
		%	23.9	23.7	27.3	25.1	100

表 2　回答者と子どもとの関係

			子どもとの関係				計
			母	父	祖父母	その他	
調査年	H16	人数	14,059	1,284	140	151	15,634
		%	89.9	8.2	0.9	1.0	100
	H22	人数	14,220	1,321	140	116	15,797
		%	90.0	8.4	0.9	0.7	100

平成 22 年調査の回収率は，回答のあった児童生徒 18,171 人に対して保護者 16,653 人であるため，91.6%であった。また，有効回答数は 15,797 人（有効回答率 94.9%）であった。学年別の回答者数や属性の割合には，平成 16 年調査と平成 22 年調査で特に差異はみられなかった。

（２）保健の授業への関心，考え

表 3　保健の授業への関心についての平成 16 年調査と平成 22 年調査との比較

数値は「あてはまる」への回答（%）

質　問　内　容		全体	小 5	中 1	高 1	高 3
(1)　学校で保健の授業があることを知っている。	H16	95.3	96.5	96.9	95.2	92.5
	H22	96.3	97.5	97.9	95.8	94.3
(2)　保健の授業を参観したことがある。	H16	25.0	30.8	25.8	24.6	18.4
	H22	20.2	24.0	18.2	19.8	18.6
(3)　子どもが使っている保健の教科書をみたことがある。	H16	32.6	43.9	33.5	27.9	24.7
	H22	35.5	43.4	38.6	32.1	28.7
(4)　保健の授業で学んだ内容について，子どもから聞いたことがある。	H16	44.6	64.0	40.7	37.4	35.8
	H22	45.7	62.9	44.7	39.3	37.3
(5)　保健の授業で学んだ内容について，教師との話し合いで話題にしたことがある。	H16	10.1	13.3	9.1	9.4	8.3
	H22	7.2	9.2	5.8	7.2	6.6
(6)　保健の授業で学ぶ内容に関心がある。	H16	52.0	63.4	53.0	47.0	44.2
	H22	56.7	67.0	58.1	52.5	50.1

実施年（平成 16 年調査・平成 22 年調査）と回答間の χ^2 検定で，(4) を除いて有意（df=3，p<0.05）

保健の授業への関心については，(2) 保健の授業参観および (5) 教師との話題を除いて，「あてはまる」の回

答の割合が，平成 22 年調査で上昇した。特に「保健の授業で学ぶ内容に関心がある」については，他の項目に比べて「あてはまる」の割合が大きく上昇した。また学年別では，児童生徒の学年が低いほど「あてはまる」の割合が高い傾向があり，平成 16 年調査の結果と同様であった。

表 4　保健の授業に対する考えについての平成 16 年調査と平成 22 年調査との比較

（%）

質　問　内　容		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
(1)　保健の授業は，学校教育の中で大切だ。	H16	67.2	29.3	2.5	0.6	0.4
	H22	65.9	31.5	1.9	0.4	0.3
(2)　保健で学んだことは，子どもの今の生活に役立つ。	H16	50.9	42.2	5.4	1.1	0.5
	H22	50.0	44.2	4.9	0.6	0.4
(3)　保健で学んだことは，子どもが社会に出てからの生活に役立つ。	H16	49.6	41.2	7.2	1.4	0.6
	H22	50.9	42.2	5.7	0.8	0.3
(4)　保健の授業時間はもっと増やしたほうがよい。	H16	10.8	37.8	38.0	12.4	1.0
	H22	10.6	38.6	40.0	10.3	0.6

全項目において実施年（平成 16 年調査・平成 22 年調査）と回答間の χ^2 検定で有意（df=4，p<0.05）

保健の授業に関する考えについては，平成 16 年調査と平成 22 年調査では（1）～（4）で「そう思う」の回答答は若干減少している。しかし「どちらかといえばそう思う」が増加しており，「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」の合計は減少している。

（３）保健学習の内容に関する要望

表 5　保健学習の内容に関する要望についての平成 16 年調査と平成 22 年調査との比較

（%）

質　問　内　容		学校で，ぜひ教えてほしい	学校で，できれば教えてほしい	学校で，教えてもらう必要はない	無回答
(1)　健康の考え方・大切さについて	H16	66.1	32.0	1.4	0.5
	H22	65.7	31.8	2.1	0.4
(2)　食生活について	H16	56.6	39.3	3.8	0.3
	H22	57.8	38.5	3.6	0.2
(3)　運動習慣について	H16	51.4	44.0	4.2	0.4
	H22	54.8	41.4	3.5	0.3
(4)　睡眠などの休養について	H16	49.2	43.2	7.1	0.5
	H22	53.9	40.0	5.7	0.4
(5)　体の発育や発達について	H16	72.5	25.8	1.4	0.2
	H22	73.5	25.2	1.2	0.2
(6)　思春期の体の変化について	H16	75.2	23.2	1.4	0.2
	H22	75.5	23.3	1.1	0.1

質　問　内　容		学校で，ぜひ教えてほしい	学校で，できれば教えてほしい	学校で，教えてもらう必要はない	無回答
(7)　妊娠や避妊法について	H16	66.7	30.0	3.1	0.2
	H22	68.0	29.4	2.5	0.1
(8)　感染症とその予防について	H16	69.9	28.0	1.9	0.2
	H22	69.7	28.4	1.7	0.2
(9)　生活習慣病とその予防について	H16	58.1	38.8	2.8	0.3
	H22	54.7	41.3	3.7	0.3
(10)　むし歯や歯周病の予防について	H16	52.4	41.9	5.3	0.4
	H22	51.9	42.3	5.6	0.3
(11)　喫煙，飲酒，薬物乱用の防止について	H16	76.3	21.4	2.1	0.2
	H22	77.7	20.8	2.0	0.1
(12)　けがの防止について	H16	43.7	48.7	7.2	0.4
	H22	43.8	48.6	7.2	0.4
(13)　交通安全について	H16	47.6	44.4	7.4	0.5
	H22	52.9	41.3	5.7	0.2
(14)　防犯について	H16	－	－	－	－
	H22	55.5	39.8	4.4	0.2
(15)　自然災害と避難について	H16	－	－	－	－
	H22	49.0	45.6	5.0	0.3
(16)　応急手当の意義や方法について	H16	64.1	34.0	1.6	0.3
	H22	64.4	33.9	1.5	0.3
(17)　不安・悩み，ストレスへの対処について	H16	60.5	36.4	2.8	0.3
	H22	63.6	33.6	2.5	0.3
(18)　高齢者と健康について	H16	－	－	－	－
	H22	32.6	55.4	11.7	0.3
(19)　環境と健康について	H16	43.6	50.7	5.2	0.5
	H22	38.0	54.2	7.5	0.3
(20)　食品の安全について	H16	44.7	48.8	6.2	0.3
	H22	42.9	49.1	7.7	0.3
(21)　医薬品の正しい利用について	H16	－	－	－	－
	H22	40.7	45.2	13.8	0.2
(22)　保健・医療機関の利用について	H16	38.7	49.9	11.1	0.3
	H22	33.0	50.2	16.5	0.3
(23)　労働と健康について	H16	－	－	－	－
	H22	34.9	51.5	13.2	0.4

「保健学習の内容に対する要望」では，項目により「学校でぜひ教えてほしい」という回答率の上昇，低下が異なっていた（表 5）。要望が高まった項目としては食生活・運動・休養等の生活習慣に関する内容，思春期の体の変化や妊娠等の性に関する内容，けがの防止や応急手当等の安全に関する学習内容などであった。逆に，感染症，生活習慣病，むし歯・歯周病等の病気の予防についての学習内容は要望が低下した。

また平成 22 年調査では「高齢者と健康」,「医薬品の正しい利用について」,「保健・医療機関の利用について」,「労働と健康について」において,「学校で，教えてもらう必要はない」の回答が 10%を超えていた。ただし表 6 に示すように,「高齢者と健康」,「医薬品の正しい利用について」,「保健・医療機関の利用について」,「労働と健康について」については, いずれも学年が上がるにつれて「ぜひ教えてほしい」の回答の割合も上がっている。保護者は現在の児童生徒の健康増進や疾病予防に役立つ保健学習を求める傾向があるものの，生涯を通じて健康を守ることについての学習への要望も，学年とともに高まると思われる。

表 6　平成 22 年調査の学年別「ぜひ教えてほしい」回答の割合

（%）

保健の授業で学ぶ内容	小 5	中 1	高 1	高 3
(1)　健康の考え方・大切さについて	70.4	64.8	62.5	65.4
(2)　食生活について	62.1	56.1	55.8	57.3
(3)　運動習慣について	60.1	56.1	51.4	52.0
(4)　睡眠などの休養について	58.2	53.7	51.9	52.2
(5)　体の発育や発達について	80.7	75.8	67.9	70.4
(6)　思春期の体の変化について	81.5	78.0	70.9	72.6
(7)　妊娠や避妊法について	62.1	68.7	69.8	71.2
(8)　感染症とその予防について	65.4	70.2	70.7	72.2
(9)　生活習慣病とその予防について	53.9	53.2	54.5	57.2
(10) むし歯や歯周病の予防について	61.8	50.8	46.4	49.3
(11) 喫煙，飲酒，薬物乱用の防止について	73.0	79.8	79.1	78.7
(12) けがの防止について	52.0	43.3	40.3	40.3
(13) 交通安全について	67.6	51.3	46.1	47.7
(14) 防犯について	66.8	55.8	50.0	50.4
(15) 自然災害と避難について	56.4	50.2	44.4	45.9
(16) 応急手当の意義や方法について	59.9	65.2	65.7	66.6
(17) 不安・悩み，ストレスへの対処について	62.1	64.6	63.9	63.9
(18) 高齢者と健康について	32.0	31.8	33.0	33.5
(19) 環境と健康について	40.5	37.2	36.4	38.0
(20) 食品の安全について	42.2	41.1	42.7	45.5
(21) 医薬品の正しい利用について	34.8	39.7	42.5	45.5
(22) 保健・医療機関の利用について	28.0	31.3	34.8	37.4
(23) 労働と健康について	30.3	33.8	36.5	38.6

の部分は回答率が最も高い学年

平成 22 年調査において学年別に回答を比較すると，全体的に小 5 の保護者において「ぜひ教えてほしい」との回答率が高かった。特に生活習慣に関わる項目と安全に関わる項目において顕著であった（表 6)。またそれぞれの項目で「ぜひ教えてほしい」の数値が高い学年をみると，実際に保健学習で取り上げている項目とほぼ一致しており，現在の保健学習が保護者の要望と合致していることがうかがえる。

（４）学校教育で育成すべき児童生徒の能力について

表７　学校教育で育成すべき児童生徒の能力で「1 番」と回答した割合

（%）

	母　親				父　親			
	小５	中１	高１	高３	小５	中１	高１	高３
日本語の能力	58.0	53.2	51.7	53.4	56.8	54.5	54.6	51.9
計算する能力	6.1	6.0	4.2	3.4	13.6	7.6	6.7	5.6
コンピュータを使う能力	3.0	4.8	5.1	4.7	3.3	6.0	6.5	6.1
英語の能力	5.3	6.6	8.8	6.9	4.9	7.3	9.0	7.7
健康・安全に生活する能力	29.5	30.5	31.0	34.0	24.7	26.9	26.7	31.1

上記の 5 つの能力のうち，学校教育で育成すべき児童生徒の能力について，順に 1～5 の番号をつけるよう回答を求めた。表では，各能力に対して 1 番と回答した者の割合を示す。なお 1 位を複数回答している者がいるため，各学年の合計は 100%を超える場合がある。

学校教育で育成すべき児童生徒の能力について，「1 番」と回答した能力を母親・父親別，子どもの学年別に示したものが表 7 である。その結果，母親・父親とも，どの学年においても，最も多い回答が「日本語の能力」，次いで「健康・安全に生活する能力」であった。

（５）小括

保護者の保健学習への関心，考え，要望に対する肯定的な回答の割合は，平成 16 年調査と同様に高率を示した。多くの保護者が保健学習に対して肯定的に捉え，支持していることが引き続き確かめられたことは，保健学習を一層強力に推進していく上で，極めて有意義なデータと言える。また，保護者は保健学習の役割として，児童生徒の学校生活の時期における健康増進や疾病予防に役立つ内容に関する指導を求める傾向がみられた。今後は，生涯を通じて健康を保持増進するための基礎・基本となる内容を学ぶという保健学習の意義も保護者に広く啓発していくことが必要であると思われた。

3.　児童生徒調査と保護者調査のペアリングによる分析

３．児童生徒調査と保護者調査のペアリングによる分析

(1) 対象者の属性

（%）

児童生徒の学年		n	保護者の属性				
			母	父	祖父母	その他	計
小5	男	1,766	91.3	6.8	1.1	0.8	100.0
	女	1,700	92.8	6.2	0.6	0.5	100.0
	計	3,466	92.0	6.5	0.9	0.6	100.0
中1	男	1,717	91.0	7.7	1.0	0.3	100.0
	女	1,674	90.9	7.8	1.2	0.2	100.0
	計	3,391	90.9	7.7	1.1	0.3	100.0
高1	男	1,830	87.8	10.2	0.8	1.3	100.0
	女	2,061	91.2	7.2	0.7	0.9	100.0
	計	3,891	89.6	8.6	0.7	1.1	100.0
高3	男	1,439	86.4	11.1	1.2	1.3	100.0
	女	1,866	90.9	8.0	0.5	0.6	100.0
	計	3,305	89.0	9.3	0.8	0.9	100.0
全体	男	6,752	89.2	8.9	1.0	0.9	100.0
	女	7,301	91.4	7.3	0.7	0.6	100.0
	計	14,053	90.4	8.0	0.9	0.7	100.0

児童生徒調査の保護者調査の各解析対象者のうち，暗号番号によるペアリングが可能であった 14,053 組を対象とした。校種別の内訳は小 5 が 3,466 組，中 1 が 3,391 組，高 1 が 3,891 組，高 3 が 3,305 組であった。児童生徒調査の解析対象者 16,395 人（小 5 : 3,764 人，中 1 : 3,849 人，高 1 : 4,670，高 3 : 4,112 人）を母数とした有効回答率は 85.7%（小 5 が 92.1%，中 1 が 88.1%，高 1 が 83.3%，高 3 が 80.4%）であった。保護者の属性については，いずれの学年も母親が約 86～93%を占めて最も多く，次いで父親が約 6～11%であった。

(2) 保護者の「保健学習への関心」と児童生徒の「保健の学習意欲」との関連

以下に，保護者の「保健学習への関心」の有無別にみた，児童生徒の「保健の学習意欲」の平均得点（「感情」，「価値」，「期待」および合計）を示す。

小学校 5 年生

児童生徒の「保健の学習意欲」	保護者の「保健学習への関心」※	得点範囲	男 n	男 Mean	男 SD		女 n	女 Mean	女 SD	
「感情」得点	あてはまる	0-6	1,174	2.3	1.98	*	1,141	2.4	1.95	
	あてはまらない・わからない	0-6	572	2.1	1.97		544	2.6	2.02	
「価値」得点	あてはまる	0-6	1,175	4.3	1.62	*	1,145	4.5	1.53	
	あてはまらない・わからない	0-6	573	4.0	1.74		545	4.4	1.51	
「期待」得点	あてはまる	0-10	1,175	6.0	2.77	*	1,145	6.3	2.65	
	あてはまらない・わからない	0-10	571	5.6	2.84		543	6.1	2.74	
合計得点	あてはまる	0-22	1,169	12.7	5.44	*	1,139	13.2	5.15	
	あてはまらない・わからない	0-22	570	11.7	5.63		542	13.1	5.34	

※「保健の授業で学ぶ内容に関心がある」の質問に対する回答

＊ $p<0.05$（t検定）

・男子では，「保健学習への関心」がある保護者をもつ群がそうでない群に比して，「保健の学習意欲」の「感情」，「価値」，「期待」の各得点および合計得点のいずれにおいても，有意の高得点を示した。

・女子では，保護者の「保健学習への関心」の有無別で「保健の学習意欲」の得点に有意差は認められなかった。

中学校 1 年生

児童生徒の「保健の学習意欲」	保護者の「保健学習への関心」※	得点範囲	男 n	男 Mean	男 SD		女 n	女 Mean	女 SD	
「感情」得点	あてはまる	0-6	1,012	1.7	1.95		974	1.5	1.71	
	あてはまらない・わからない	0-6	689	1.6	1.88		688	1.4	1.71	
「価値」得点	あてはまる	0-6	1,012	3.5	1.81	*	974	3.8	1.75	*
	あてはまらない・わからない	0-6	689	3.3	1.78		689	3.5	1.72	
「期待」得点	あてはまる	0-10	1,012	4.9	2.87	*	974	5.1	2.82	*
	あてはまらない・わからない	0-10	687	4.6	2.79		689	4.7	2.70	
合計得点	あてはまる	0-22	1,008	10.1	5.62	*	972	10.4	5.35	*
	あてはまらない・わからない	0-22	685	9.5	5.53		686	9.6	5.16	

※「保健の授業で学ぶ内容に関心がある」の質問に対する回答

＊ $p<0.05$（t検定）

・男女共に，「保健学習への関心」がある保護者をもつ群がそうでない群に比して，「保健の学習意欲」の「価値」，「期待」の各得点および合計得点において，有意の高得点を示した。

高校１年生

児童生徒の「保健の学習意欲」	保護者の「保健学習への関心」※	得点範囲	男 n	男 Mean	男 SD		女 n	女 Mean	女 SD	
「感情」得点	あてはまる	0−6	922	1.6	1.81		1,106	1.5	1.71	
	あてはまらない・わからない	0−6	894	1.5	1.75		943	1.3	1.56	
「価値」得点	あてはまる	0−6	921	3.3	1.66		1,102	3.5	1.54	*
	あてはまらない・わからない	0−6	893	3.2	1.73		943	3.2	1.53	
「期待」得点	あてはまる	0−10	920	4.6	2.64	*	1,107	4.5	2.51	*
	あてはまらない・わからない	0−10	892	4.3	2.73		941	4.1	2.46	
合計得点	あてはまる	0−22	919	9.5	5.19	*	1,100	9.4	4.81	*
	あてはまらない・わからない	0−22	888	9.0	5.21		936	8.6	4.58	

※「保健の授業で学ぶ内容に関心がある」の質問に対する回答

＊ $p<0.05$（t検定）

・男子では，「保健学習への関心」がある保護者をもつ群がそうでない群に比して，「保健の学習意欲」の「期待」得点および合計得点において，有意の高得点を示した。

・女子では，「保健学習への関心」がある保護者をもつ群がそうでない群に比して保健の学習意欲の「価値」，「期待」の各得点および合計得点において，有意の高得点を示した。

高校３年生

児童生徒の「保健の学習意欲」	保護者の「保健学習への関心」※	得点範囲	男 n	男 Mean	男 SD		女 n	女 Mean	女 SD	
「感情」得点	あてはまる	0−6	702	1.6	1.98	*	921	1.3	1.69	
	あてはまらない・わからない	0−6	725	1.3	1.81		925	1.3	1.67	
「価値」得点	あてはまる	0−6	701	3.6	1.76	*	919	3.6	1.56	*
	あてはまらない・わからない	0−6	721	3.4	1.76		925	3.4	1.63	
「期待」得点	あてはまる	0−10	700	4.7	2.85	*	921	4.6	2.63	*
	あてはまらない・わからない	0−10	723	4.4	2.90		925	4.3	2.69	
合計得点	あてはまる	0−22	697	9.9	5.76	*	917	9.6	5.00	*
	あてはまらない・わからない	0−22	717	9.1	5.60		922	9.0	5.10	

※「保健の授業で学ぶ内容に関心がある」の質問に対する回答

＊ $p<0.05$（t検定）

・男子では，「保健学習への関心」がある保護者をもつ群がそうでない群に比して，「保健の学習意欲」の「感情」，「価値」，「期待」の各得点および合計得点のいずれにおいても，有意の高得点を示した。

・女子では，「保健学習への関心」がある保護者をもつ群がそうでない群に比して，「保健の学習意欲」の「価値」，「期待」の各得点および合計得点において，有意の高得点を示した。

(3) 保護者の「保健学習への関心」と児童生徒の「保健学習の内容に関する知識の習得状況」との関連

以下に，保護者の「保健学習への関心」の有無別にみた，児童生徒の「保健学習の内容に関する知識テスト」の平均正答数を示す。

	保護者の「保健学習への関心」※	正答数の範囲	男 n	男 Mean	男 SD	女 n	女 Mean	女 SD	
小5	あてはまる	0-10	1,184	7.6	2.10	1,147	8.0	1.75	*
	あてはまらない・わからない	0-10	573	7.5	2.04	548	7.8	1.88	
中1	あてはまる	0-11	1,017	8.1	2.35	976	8.5	2.01	*
	あてはまらない・わからない	0-11	694	7.9	2.35	694	8.2	2.08	
高1	あてはまる	0-25	923	15.9	4.75	1,108	16.3	4.30	*
	あてはまらない・わからない	0-25	896	15.7	4.78	947	15.9	4.36	
高3	あてはまる	0-18	703	9.52	3.76	925	10.3	3.17	
	あてはまらない・わからない	0-18	726	9.44	3.75	928	10.2	3.22	

※「保健の授業で学ぶ内容に関心がある」の質問に対する回答
＊ $p<0.05$（t検定）

・小 5，中 1，高 1 では，いずれも女子においてのみ「保健学習への関心」がある保護者をもつ群がそうでない群に比して，「保健学習の内容に関する知識テスト」の正答数が有意に高かった。
・高 3 では，男女共に保護者の「保健学習への関心」の有無別で「保健学習の内容に関する知識テスト」の正答数に有意差は認められなかった。

(4) 保護者の「学校教育で育成すべき能力としての『健康・安全に生活する能力』の評価」と児童生徒の「保健の学習意欲」との関連

以下に，「学校教育で育成すべき能力としての『健康・安全に生活する能力』の評価」の順位別にみた，児童生徒の「保健の学習意欲」の平均得点（「感情」，「価値」，「期待」および合計）を示す。

小学校 5 年生

児童生徒の「保健の学習意欲」	保護者の「健康・安全への評価」※	得点範囲	男 n	男 Mean	男 SD		女 n	女 Mean	女 SD
「感情」得点	1 番	0-6	533	2.4	2.02	*	484	2.3	1.98
	5 番	0-6	343	2.1	1.87		354	2.5	2.01
「価値」得点	1 番	0-6	533	4.3	1.65		486	4.5	1.58
	5 番	0-6	343	4.2	4.65		355	4.4	1.56
「期待」得点	1 番	0-10	531	6.1	2.75		485	6.3	2.74
	5 番	0-10	344	5.8	2.69		355	6.1	2.67
合計得点	1 番	0-22	530	12.8	5.47	*	483	13.1	5.40
	5 番	0-22	342	12.0	5.40		352	13.0	5.26

※ 学校教育で育成すべき児童生徒の能力として，「日本語の能力」，「計算する能力」，「コンピュータを使う能力」，「英語の能力」「健康・安全に生活する能力」の中から1～5番で順位づけした。

＊ $p<0.05$（t検定）

・男子では，「健康・安全に生活する能力」を 1 番とした保護者をもつ群が 5 番とした親をもつ群に比して「保健の学習意欲」の「感情」得点および合計得点において，有意の高得点を示した。

・女子では，保護者の「健康・安全に生活する能力」の評価別で，「保健の学習意欲」の得点に有意差は認められなかった。

中学校 1 年生

児童生徒の「保健の学習意欲」	保護者の「健康・安全への評価」※	得点範囲	男 n	男 Mean	男 SD	女 n	女 Mean	女 SD
「感情」得点	1 番	0-6	525	1.6	1.91	497	1.6	1.83
	5 番	0-6	376	1.5	1.87	343	1.4	1.67
「価値」得点	1 番	0-6	525	3.3	1.78	497	3.7	1.76
	5 番	0-6	377	3.2	1.73	344	3.6	1.82
「期待」得点	1 番	0-10	526	4.8	2.82	497	5.1	2.72
	5 番	0-10	375	4.6	2.75	344	4.9	2.96
合計得点	1 番	0-22	522	9.7	5.44	495	10.5	5.34
	5 番	0-22	374	9.4	5.43	343	10.0	5.65

※ 学校教育で育成すべき児童生徒の能力として，「日本語の能力」，「計算する能力」，「コンピュータを使う能力」，「英語の能力」「健康・安全に生活する能力」の中から1～5番で順位づけした。

＊ $p<0.05$（t検定）

・男女共に，保護者の「健康・安全に生活する能力」の評価別で，「保健の学習意欲」の得点に有意差は認められなかった。

高校１年生

児童生徒の「保健の学習意欲」	保護者の「健康・安全への評価」※	得点範囲	男 n	男 Mean	男 SD		女 n	女 Mean	女 SD	
「感情」得点	1 番	0−6	571	1.6	1.79		618	1.5	1.68	
	5 番	0−6	436	1.6	1.80		507	1.3	1.57	
「価値」得点	1 番	0−6	569	3.4	1.69	*	614	3.5	1.55	*
	5 番	0−6	436	3.1	1.78		507	3.2	1.50	
「期待」得点	1 番	0−10	570	4.7	2.65	*	619	4.4	2.48	*
	5 番	0−10	434	4.3	2.76		507	4.1	2.47	
合計得点	1 番	0−22	569	9.7	5.18	*	609	9.4	4.74	*
	5 番	0−22	433	9.0	5.39		506	8.5	4.52	

※ 学校教育で育成すべき児童生徒の能力として，「日本語の能力」，「計算する能力」，「コンピュータを使う能力」，「英語の能力」「健康・安全に生活する能力」の中から1～5番で順位づけした。

＊ $p<0.05$（t検定）

・男女共に，「健康・安全に生活する能力」を 1 番とした保護者をもつ群が 5 番とした親をもつ群に比して「保健の学習意欲」の「感情」，「価値」の各得点および合計得点において，有意の高得点を示した。

高校３年生

児童生徒の「保健の学習意欲」	保護者の「健康・安全への評価」※	得点範囲	男 n	男 Mean	男 SD		女 n	女 Mean	女 SD	
「感情」得点	1 番	0−6	489	1.6	1.94		626	1.3	1.76	
	5 番	0−6	314	1.5	1.86		390	1.2	1.60	
「価値」得点	1 番	0−6	490	3.5	1.78		625	3.5	1.69	
	5 番	0−6	313	3.4	1.77		389	3.4	1.53	
「期待」得点	1 番	0−10	490	4.7	2.89		625	4.6	2.74	*
	5 番	0−10	314	4.4	2.86		391	4.0	2.54	
合計得点	1 番	0−22	489	9.8	5.74		624	9.5	5.32	*
	5 番	0−22	311	9.2	5.67		388	8.6	4.74	

※ 学校教育で育成すべき児童生徒の能力として，「日本語の能力」，「計算する能力」，「コンピュータを使う能力」，「英語の能力」「健康・安全に生活する能力」の中から1～5番で順位づけした。

＊ $p<0.05$（t検定）

・男子では，保護者の「健康・安全に生活する能力」の評価別で，「保健の学習意欲」の得点に有意差は認められなかった。

・女子では，「健康・安全に生活する能力」を 1 番とした保護者をもつ群が 5 番とした親をもつ群に比して「保健の学習意欲」の「期待」得点および合計得点において，有意の高得点を示した。

(5) 保護者の「学校教育で育成すべき能力としての『健康・安全に生活する能力』の評価」と児童生徒の「保健学習の内容に関する知識の習得状況」との関連

以下に，「学校教育で育成すべき能力としての『健康・安全に生活する能力』の評価」の順位別にみた，児童生徒の「保健学習の内容に関する知識テスト」の平均正答数を示す。

	保護者の「健康・安全への評価」※	得点範囲	男 n	男 Mean	男 SD	女 n	女 Mean	女 SD	
小5	1 番	0-10	535	7.7	2.09	486	8.1	1.64	*
	5 番	0-10	344	7.6	2.04	358	7.8	1.87	
中1	1 番	0-11	528	8.1	2.39	500	8.4	2.10	
	5 番	0-11	381	7.9	2.35	344	8.4	2.04	
高1	1 番	0-25	571	15.8	4.73	621	16.2	4.12	
	5 番	0-25	437	15.9	4.89	508	16.2	4.19	
高3	1 番	0-18	490	9.5	3.71	628	10.2	2.97	
	5 番	0-18	315	9.2	3.74	392	10.3	3.40	

※ 学校教育で育成すべき児童生徒の能力として，「日本語の能力」，「計算する能力」，「コンピュータを使う能力」，「英語の能力」，「健康・安全に生活する能力」の中から1～5番で順位づけした。

＊ $p<0.05$（t検定）

・小 5 の女子において，「健康・安全に生活する能力」を 1 番とした保護者をもつ群が 5 番とした親をもつ群に比して，「保健学習の内容に関する知識テスト」の正答数が有意に高かった。

・小 5 の男子および中 1，高 1，高 3 の男女においては，保護者の「健康・安全に生活する能力」の評価別で，「保健学習の内容に関する知識テスト」の正答数に有意差は認められなかった。

(6) 小括

保護者の「保健学習への関心」は，小 5 の男子，中 1，高 1 および高 3 の男女における「保健の学習意欲」と，小 5，中 1，高 3 の女子における「保健学習の内容に関する知識の習得状況」と，それぞれ関連していることが示された。他方，保護者の「学校教育で育成すべき能力としての『健康・安全に生活する能力』の評価」は，小 5 の男子，高 1 の男女，高 3 の女子における「保健の学習意欲」と，小 5 の女子における「保健学習の内容に関する知識の習得状況」と，それぞれ関連していることが示された。

保護者の「保健学習への関心」と児童生徒の「保健の学習意欲」との間においては，小 5 女子を除いてすべて有意の関連が示され，注目される結果が得られた。なお，保護者の「保健学習への関心」や「学校教育で育成すべき能力としての『健康・安全に生活する能力』の評価」は，「保健学習の内容に関する知識の習得状況」に影響を与えていることも予想されたが，総じて部分的な関連にとどまり，この点については明確にされなかった。

4.　教 師 調 査

４．教師調査

（1）対象者の属性

表 1 男女別校種別の人数，割合

	男		女		全 体	
	n	%	n	%	n	%
小学校	478		562		1,040	
		46.0		54.0		100.0
中学校	252		108		360	
		70.0		30.0		100.0
高 校	500		132		632	
		79.1		20.9		100.0
計	1,230		802		2,032	
		60.5		39.5		100.0

表 2 年齢別の割合（男女別校種別）

（%）

		n	27歳未満	27歳以上 37歳未満	37歳以上 47歳未満	47歳以上	計
小学校	男	478	8.2	31.8	34.9	25.1	100.0
	女	562	10.1	18.7	30.8	40.4	100.0
	全体	1,040	9.2	24.7	32.7	33.4	100.0
中学校	男	252	6.3	25.4	32.1	36.1	100.0
	女	108	7.4	30.6	29.6	32.4	100.0
	全体	360	6.7	26.9	31.4	35.0	100.0
高校	男	500	7.4	23.6	24.2	44.8	100.0
	女	132	12.1	31.8	29.5	26.5	100.0
	全体	632	8.4	25.3	25.3	41.0	100.0

表 3 教職経験年数別の割合（男女別校種別）

（%）

		n	5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上	計
小学校	男	478	18.4	18.4	26.4	36.8	100.0
	女	562	16.7	14.8	20.3	48.2	100.0
	全体	1,040	17.5	16.4	23.1	43.0	100.0
中学校	男	252	12.7	14.7	27.8	44.8	100.0
	女	108	16.7	16.7	22.2	44.4	100.0
	全体	360	13.9	15.3	26.1	44.7	100.0
高校	男	500	12.0	13.8	22.8	51.4	100.0
	女	132	25.8	18.9	21.2	34.1	100.0
	全体	632	14.9	14.9	22.5	47.8	100.0

表 4　現在の職種別の割合（男女別校種別）

（%）

		n	小学校の学級担任	小学校の学級担任以外	中学校の保健体育科教諭	中学校の保健体育科教諭以外	高等学校の保健体育科教諭	高等学校の保健体育科教諭以外	計
小学校	男	478	96.4	3.6	0	0	0	0	100.0
	女	562	98.0	2.0	0	0	0	0	100.0
	全体	1,040	97.3	2.7	0	0	0	0	100.0
中学校	男	252	0	0	91.3	8.7	0	0	100.0
	女	108	0	0	82.4	17.6	0	0	100.0
	全体	360	0	0	88.6	11.4	0	0	100.0
高校	男	500	0	0	0	0	93.2	6.8	100.0
	女	132	0	0	0	0	87.9	12.1	100.0
	全体	632	0	0	0	0	92.1	7.9	100.0

表 5　各種教員免許の取得者の割合（男女別校種別）

（%）

		n	小学校免許	中学校・保健体育	中学校・保健	高等学校・保健体育	高等学校・保健	養護教諭
小学校	男	478	98.5	16.7	1.3	12.8	1.0	0.2
	女	562	97.9	9.1	2.7	6.0	1.2	1.2
	全体	1,040	98.2	12.6	2.0	9.1	1.2	0.8
中学校	男	252	31.7	94.0	21.0	92.1	16.7	0.0
	女	108	28.7	87.0	28.7	75.9	19.4	8.3
	全体	360	30.8	91.9	23.3	87.2	17.5	2.5
高校	男	500	10.6	92.4	39.6	99.2	39.0	0.2
	女	132	10.6	93.9	42.4	96.2	42.4	3.0
	全体	632	10.6	92.7	40.2	98.6	39.7	0.8

表 6　平成 21 年度の保健学習の担当状況（男女別校種別）

（%）

		n	担当した	担当しなかった	計
小学校	男	478	73.4	26.6	100.0
	女	562	58.7	41.3	100.0
	全体	1,040	65.5	34.5	100.0
中学校	男	252	89.3	10.7	100.0
	女	108	80.6	19.4	100.0
	全体	360	86.7	13.3	100.0
高校	男	500	89.2	10.8	100.0
	女	132	86.4	13.6	100.0
	全体	632	88.6	11.4	100.0

(2) 保健学習の実施状況 (表 7～12)

※平成 21 年度に保健学習を担当した者のみ回答

1) 保健学習の計画的な実施

表 7「あなたは，保健学習をどのように行いましたか」

(%)

		毎週あるいは隔週というように規則的に行った	冬季・梅雨時期などある時期に集中して行った	雨の日に行うことが多かった	その他	無回答	計	
小学校	H16	5.5	60.9	12.3	20.2	1.0	100.0	
	H22	4.9	61.6	11.3	21.0	1.2	100.0	
中学校	H16	23.3	53.3 +	8.0 -	13.9	1.4	100.0	*
	H22	22.1	40.1 -	17.3 +	18.9	1.6	100.0	
高 校	H16	97.6	0.4	0.5	1.1	0.4	100.0	
	H22	98.9	0.5	0.0	0.2	0.4	100.0	

調査間差：＊ $p<0.05$（χ^2検定），＋－（残差分析）

・小学校では，「冬季・梅雨時期などある時期に集中して実施」が 61.6%で最も多く，次いで「雨の日に行うことが多かった」が 11.3%であり，この割合，傾向は平成 16 年調査と同様であった。

・中学校では，「冬季・梅雨時期などある時期に集中して実施」が 40.1%で最も多かったが，平成 16 年調査に比して約 13%有意に低下した。一方，「雨の日に行うことが多かった」が 17.3%と平成 16 年調査の 8.0%から著しく増加し憂慮された。

・高校では，「毎週あるいは隔週というように計画的に実施」が 98.9%でほとんどを占め，この割合は平成 16 年調査と同様であった。

2) 保健学習の内容の実施程度

表 8「あなたは，保健学習の内容をどの程度実施できましたか」

(%)

		ほぼ予定どおり	予定の7～8割ぐらい	予定の5～6割ぐらい	予定の半分未満	無回答	計	
小学校	H16	65.4 -	21.5 +	9.2 +	3.4	0.5	100.0	*
	H22	80.5 +	12.6 -	4.0 -	1.5	1.5	100.0	
中学校	H16	50.9 -	31.7 +	13.9 +	2.1	1.4	100.0	*
	H22	65.7 +	23.7 -	7.7 -	1.9	1.0	100.0	
高 校	H16	67.5 -	29.1 +	3.1 +	0.0	0.4	100.0	*
	H22	80.7 +	18.2 -	0.5 -	0.2	0.4	100.0	

調査間差：＊ $p<0.05$（χ^2検定），＋－（残差分析）

・「ほぼ予定通り」が小学校 80.5%，中学校 65.7%，高校 80.7%であり，いずれも平成 16 年調査に比して 15%前後の有意の増加を示したものの，保健学習の全ての内容が必修として位置づけられていることを考えると，中学校をはじめさらなる改善が求められる。

・「予定の 7～8 割」は小学校 12.6%，中学校 23.7%，高校 18.2%であり，いずれも平成 16 年調査に比して 10%前後の有意の低下を，「予定の 5～6 割」は小学校 4.0%，中学校 7.7%，高校 0.5%であり，いずれも平成 16 年調査に比して約 2～6%前後の低下を示した。

以下の結果については，各質問項目に対する肯定的な回答（例：「利用した」と「どちらかといえば利用した」の合計，「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計など）の割合について示す。

また，平成 16 年調査結果と比較可能な項目については，両調査結果を並べて表示する。その際，平成 22 年調査の割合が平成 16 年調査の割合に比して有意に高率を示したものについては四角囲みで，有意に低率を示したものについては下線で，それぞれ示す。

3）保健学習の指導の準備状況

表 9　保健学習の指導の準備状況についての肯定的な回答

（%）

		男			女			全 体		
		小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
「本や新聞・雑誌などを利用した」	H16	55.4	61.2	83.4	59.5	71.8	89.6	57.2	64.1	84.5
	H22	43.3	62.2	85.7	44.8	69.0	93.0	44.1	64.1	87.1
「指導方法を工夫した」	H16	77.9	75.6	89.8	81.5	80.8	89.6	79.5	77.0	89.8
	H22	72.9	78.7	91.5	80.3	78.2	94.7	76.5	78.5	92.1

各質問の肯定的な回答（例：「利用した」と「どちらかといえば利用した」と回答した者の合計）の割合を示した。

下線：平成22調査が平成16調査に比して有意に低率を示したもの。（χ^2検定，$p<0.05$）

・「教科書や教師用指導書以外に，本や新聞・雑誌などの資料を利用した」の肯定的な回答は，全体で小学校 44.1%，中学校 64.1%，高校 87.1%で，校種が進むほど高率を示した。また，小学校では男，女，全体のいずれも平成 16 年調査に比して約 12～15%有意に低下した。

・「児童・生徒の反応を予想して，指導方法を工夫した」の肯定的な回答は，全体で小学校 76.5%，中学校 78.5%，高校 92.1%で，概ね良好であった。

4）保健学習の評価

表 10　保健学習の評価についての肯定的な回答

（%）

		男			女			全 体		
		小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
「多様な評価を用いた」	H16	41.3	40.2	71.2	41.7	51.3	66.7	41.5	43.2	70.4
	H22	42.2	49.3	72.2	46.1	41.4	77.2	44.1	47.1	73.2
「評価を次の指導に生かした」	H16	61.5	57.9	78.0	70.2	74.4	71.9	65.4	62.4	77.0
	H22	68.1	71.1	83.2	74.8	67.8	86.8	71.4	70.2	83.9

各質問の肯定的な回答（例：「用いた」と「どちらかといえば用いた」と回答した者の合計）の割合を示した。

□：平成22調査が平成16調査に比して有意に高率を示したもの。（χ^2検定，$p<0.05$）

・「多様な評価方法を用いた」の肯定的な回答は，全体で小学校 44.1%，中学校 47.1%，高校 73.2%であった。

・「評価を次の指導に生かした」の肯定的な回答は，全体で小学校 71.4%，中学校 70.2%，高校 83.9%であり，いずれも平成 16 年調査に比して約 6～8%の増加を有意に示した。

・2 項目とも，高校が小・中学校に比して高率であった。

5）保健学習の指導方法の工夫

表 11　保健学習の指導方法の工夫についての肯定的な回答

（%）

		男			女			全　体		
		小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
「TTや少人数指導を実施した」	H16	24.4	10.0	9.5	28.1	16.7	8.3	26.1	11.8	9.3
	H22	21.9	8.0	9.2	23.6	18.4	14.9	22.8	10.9	10.4
「学習グループを編成した」	H16	14.1	17.7	24.2	15.6	29.5	26.0	14.7	20.9	24.5
	H22	17.9	18.7	22.0	20.0	32.2	28.9	18.9	22.4	23.4
「授業以外で調べるよう指導した」	H16	40.4	38.3	49.4	51.8	52.6	51.0	45.4	42.2	49.7
	H22	33.9	35.6	48.7	40.3	33.3	57.0	37.0	34.9	50.4
「コンピュータを活用した」	H16	14.6	11.0	15.7	4.2	14.1	13.5	10.0	11.8	15.4
	H22	18.2	16.1	19.1	9.4	21.8	21.1	14.0	17.7	19.5
「学校図書館を活用した」	H16	27.7	12.9	29.9	28.0	32.1	37.5	27.8	18.1	31.3
	H22	16.0	8.9	20.2	20.4	18.4	17.5	18.1	11.6	19.6
「課題解決的な学習を取り入れた」	H16	29.1	30.3	36.4	30.4	47.4	39.6	29.7	35.0	36.9
	H22	34.9	29.3	35.4	37.4	29.9	41.2	36.1	29.5	36.6
「発展的な課題を取り入れた」	H16	18.8	26.8	36.1	28.0	28.2	35.4	22.8	27.2	36.0
	H22	22.8	28.4	38.6	26.1	27.6	38.6	24.4	28.2	38.6
「実験・実習を取り入れた」	H16	29.6	45.9	35.0	30.4	53.8	42.7	29.9	48.1	36.4
	H22	24.2	39.7	36.5	30.3	49.4	43.0	27.2	42.4	37.9
「学習ｶｰﾄﾞや学習資料を工夫した」	H16	82.6	62.7	43.7	89.3	66.7	59.4	85.6	63.8	46.4
	H22	84.9	64.9	55.2	83.3	78.2	71.9	84.1	68.6	58.6
「児童生徒への補充指導を行った」	H16	19.2	11.5	25.1	28.0	14.1	26.0	23.1	12.2	25.2
	H22	22.5	8.4	21.3	28.5	11.6	33.3	25.4	9.3	23.8

各質問の肯定的な回答（例：「多くの時間で実施した」と「どちらかといえば実施した」と回答した者の合計）の割合を示した。

□：平成22調査が平成16調査に比して有意に高率を示したもの。（χ^2検定，$p<0.05$）

下線：平成22調査が平成16調査に比して有意に低率を示したもの。（χ^2検定，$p<0.05$）

・10 項目の指導方法のうち，「学習カード（ワークシート）や学習資料などを工夫した」の肯定的な回答が全体で小学校 84.1%，中学校 68.6%，高校 58.6%で，全ての校種で最も高率を示した。

・次いで，「授業以外で調べるよう指導した」（全体：小学校 37.0%，中学校 34.9%，高校 50.4%），「実験・実習を取り入れた」（全体：小学校 27.2%，中学校 42.4%，高校 37.9%），「課題解決的な学習を取り入れた」（全体：小学校 36.1%，中学校 29.5%，高校 36.6%）の 3 項目がいずれの校種でも約 30～50%を示し，比較的高率であった。

・平成 16 年調査と比較すると，全体では小学校の「課題解決的な学習を取り入れた」が 29.7%→36.1%，中学校の「コンピュータを活用した」が 11.8%→17.7%，高校の「学習カード（ワークシート）や学習資料などを工夫した」が 46.4%→58.6%で増加した一方，小学校の「授業以外で調べるよう指導した」が 45.4%→37.0%，「学校図書館の活用」が小学校，中学校，高校でいずれも低下した（小学校 27.8%→18.1%，中学校 18.1%→11.6%，高校 31.3%→19.6%）。

6）児童・生徒への影響に対する自己評価

表 12　児童・生徒への影響に対する自己評価についての肯定的な回答

（%）

		男			女			全　体		
		小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
「好感を持たれていた」	H16	71.8	57.9	69.2	83.3	62.3	71.9	76.9	59.1	69.7
	H22	71.8	61.3	74.4	79.4	63.2	81.6	75.5	61.9	75.9
「考えたり工夫したりしていた」	H16	63.8	51.2	49.2	69.0	52.6	65.6	66.1	51.6	52.1
	H22	65.0	54.7	56.3	70.0	54.0	69.3	67.4	54.5	58.9
「内容を理解していた」	H16	93.0	88.5	88.9	97.0	88.5	87.5	94.8	88.5	88.7
	H22	94.3	90.7	92.6	95.8	89.7	90.4	95.0	90.4	92.1
「生活や行動を振り返っていた」	H16	83.0	71.3	78.3	88.7	79.5	78.1	85.5	73.5	78.2
	H22	81.5	75.1	80.0	89.1	71.3	81.6	85.2	74.0	80.4

各質問の肯定的な回答（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答した者の合計）の割合を示した。

□：平成22調査が平成16調査に比して有意に高率を示したもの。（χ^2検定，$p<0.05$）

- 「児童・生徒が内容について理解したと思いますか」と「児童・生徒が自分の生活や行動の仕方について，健康の面から振り返ったり考えたりして取り組んでいたと思いますか」の 2 項目では，肯定的な回答が全体で小学校 85.2～95.0%，中学校 74.0～90.4%，高校 80.4～92.1%で，いずれも 7 割以上を示し，概ね良好であった。
- 「児童・生徒に好感を持たれていたと思いますか」，「児童・生徒が考えたり工夫したりしていたと思いますか」，「児童・生徒が内容について理解したと思いますか」の 3 項目は，いずれも高校において平成 16 年調査に比して全体で約 4～6%有意に増加しており，改善が示唆された。

(3) 保健学習の指導意欲

表 13 保健学習の指導意欲についての肯定的な回答

(%)

		男			女			全 体		
		小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
1) 保健学習の指導に関する感情										
「好きだ」	H16	66.0	66.5	67.1	70.5	61.9	70.5	68.2	65.2	67.7
	H22	64.2	64.3	74.8	69.6	75.0	76.5	67.1	67.5	75.2
「おもしろい」	H16	71.2	73.0	73.8	80.6	68.4	77.7	75.9	71.7	74.5
	H22	69.6	69.8	75.8	73.7	78.7	79.4	71.8	72.5	76.5
「興味深い」	H16	76.7	86.3	88.0	86.1	85.6	87.5	81.4	86.1	87.9
	H22	78.2	84.1	86.6	81.7	92.6	90.2	80.1	86.7	87.3
2) 保健学習の指導の価値										
「体育科または保健体育科を担当する教師として重要だ」	H16	94.8	96.3	93.5	95.5	96.9	95.5	95.1	96.5	93.9
	H22	91.4	93.7	91.6	94.1	95.4	95.5	92.9	94.2	92.4
「教科としてより充実することが必要だ」	H16	75.7	87.1	92.1	88.2	93.9	89.3	81.9	89.1	91.6
	H22	72.0	89.7	88.6	74.7	90.7	90.9	73.5	90.0	89.1
「学校教育の中で大切だ」	H16	93.8	95.9	94.7	94.8	96.9	93.8	94.3	96.2	94.5
	H22	90.4	94.0	94.2	94.8	97.2	98.5	92.8	95.0	95.1
3) 保健学習の指導による児童・生徒への期待										
「児童・生徒の今の生活に役立つ」	H16	97.2	97.9	95.3	98.6	96.9	95.5	97.9	97.6	95.3
	H22	92.9	96.8	95.6	97.2	97.2	97.0	95.2	96.9	95.9
「児童・生徒が健康な生活を送れるようになる」	H16	85.1	87.1	89.2	90.9	88.8	90.2	88.0	87.6	89.3
	H22	85.1	90.5	89.2	87.7	89.8	90.2	86.5	90.3	89.4
「児童・生徒の心身の不安や悩みを軽くしたり，解決したりするのに役立つ」	H16	86.1	88.8	83.6	93.4	88.8	83.0	89.8	88.8	83.5
	H22	86.6	90.1	86.2	89.7	88.9	87.1	88.3	89.7	86.4
「児童・生徒が社会に出てからの生活に役立つ」	H16	92.7	92.9	94.5	95.5	92.9	90.2	94.1	92.9	93.7
	H22	88.3	94.8	95.4	95.4	95.4	94.7	92.1	95.0	95.3

各質問の肯定的な回答(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答した者の合計)の割合を示した。

□ : 平成22調査が平成16調査に比して有意に高率を示したもの。(χ^2検定, $p<0.05$)

下線: 平成22調査が平成16調査に比して有意に低率を示したもの。(χ^2検定, $p<0.05$)

・保健学習の指導に対する感情について，保健学習の指導は「好きだ」，「おもしろい」，「興味深い」の 3 項目の肯定的な回答は，全体で小学校 67.1～80.1%，中学校 67.5～86.7%，高校 75.2～87.3%であり，平成 16 年調査とほぼ同様の割合であった。その中で，高校の教師における「保健学習の指導は好きだ」（75.2%）は，平成 16 年調査の結果（67.7%）に比して有意に高率を示した。

・保健学習の指導の価値における肯定的な回答は，総じて平成 16 年調査と同様に高率であり，保健学習の指導は「体育科または保健体育科を担当する教師として重要だ」(全体:小学校 92.9%, 中学校 94.2%, 高校 92.4%)，「学校教育の中で大切だ」（全体：小学校 92.8%，中学校 95.0%，高校 95.1%）の 2 項目はいずれの校種も顕著に高率であった。

・保健学習の指導による児童・生徒への期待における肯定的な回答も，総じて平成 16 年調査と同様に高率であり，4 項目における肯定的な回答は，小学校 86.5～95.2%，中学校 89.7～96.9%，高校 86.4～95.9%を示し，良好であった。

(4) 健康の価値の認知

表 14 健康の価値の認知についての肯定的な回答

(%)

		男			女			全 体		
		小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
「健康は，何をするにも必要だ」	H16	99.0	98.3	98.6	98.6	99.0	95.5	98.8	98.5	98.1
	H22	98.7	100.0	99.2	99.6	100.0	99.2	99.2	100.0	99.2
「健康は，何よりも大切だ」	H16	96.5	98.3	99.0	97.9	98.0	95.5	97.2	98.2	98.4
	H22	96.0	97.6	98.4	98.6	98.1	99.2	97.4	97.8	98.6
「健康は，幸せな生活を送るために重要だ」	H16	98.3	99.2	98.6	98.6	99.0	95.5	98.4	99.1	98.1
	H22	97.9	98.8	98.8	99.5	98.1	98.5	98.8	98.6	98.7

各質問の肯定的な回答（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答した者の合計）の割合を示した。

□：平成22調査が平成16調査に比して有意に高率を示したもの。（χ^2検定，$p<0.05$）

・健康は「何をするにも必要だ」，「何よりも大切だ」および「幸せな生活を送るために重要だ」の 3 項目における肯定的な回答は，小学校 97.4～99.2%，中学校 97.8～100%，高校 98.6～99.2%であり，いずれも極めて良好であった。

(5) 学校教育で育成すべき児童生徒の能力について（平成 22 年調査のみ）

表 15 学校教育で育成すべき能力について，5 つの能力の中で 1 番重要と回答した者

(%)

	男			女			全 体		
	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
日本語の能力	62.6	34.9	36.4	53.9	37.0	38.6	57.9	35.6	36.9
計算をする能力	1.9	0.0	0.6	1.1	0.0	0.0	1.4	0.0	0.5
コンピュータ使う能力	0.4	0.8	1.0	0.2	0.0	0.0	0.3	0.6	0.8
英語の能力	0.4	0.0	1.8	0.0	0.0	2.3	0.2	0.0	1.9
健康･安全に生活する能力	33.7	61.9	61.6	44.3	63.0	58.3	39.4	62.2	60.9

上記の5つの能力について，児童生徒に学校教育で育成されるべき能力として重要と思うものから順に1～5の番号をつけるよう回答を求めた。そのうち，各能力に対して1番と回答した者の割合を示す。

・全体をみると，小学校の教師では，「日本語の能力」を 1 番とした者が 57.9%と最も多く，次いで「健康・安全に生活する能力」が 39.4%であった。なお，「計算する能力」，「コンピュータを使う能力」，「英語の能力」を 1 番重要とした者は，全体で 0.2～1.4%と前述の 2 つの能力に比して著しく低率であった。

・中学校および高校の教師では，「健康・安全に生活する能力」を 1 番とした者が全体で中学校 62.2%，高校 60.9%といずれも最も多く，注目された。次いで「日本語の能力」が中学校 35.6%，高校 36.9%であり，「計算する能力」，「コンピュータを使う能力」，「英語の能力」については，小学校教師と同様に著しく低率であった。

・中学校および高校においては，対象の殆どが保健体育科の教師のため，「健康・安全に生活する能力」を重視していることは予想できたが，学級担任制を基本とする小学校の教師においても約 4 割が「健康・安全に生活する能力」を最も重要と回答しており，注目された。

(6) 保健学習の指導に関わる周囲の状況

表 16 保健学習の指導に関わる周囲の状況についての肯定的な回答

(%)

		男			女			全 体		
		小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
「保健学習の指導に熱心な教師を知っている」	H16	73.2	72.2	84.5	70.5	69.4	86.6	71.8	71.4	84.9
	H22	63.4	71.8	83.0	69.8	81.5	89.4	66.8	74.7	84.3
「保健学習に関して，相談できる教師がいる」	H16	86.5	78.8	83.6	92.4	83.7	88.4	89.4	80.2	84.5
	H22	83.9	82.1	84.6	88.8	88.0	91.7	86.5	83.9	86.1
「保健学習の指導で利用できる教材や教具が身近にある」	H16	80.9	77.6	88.7	79.4	79.6	92.0	80.1	78.2	89.3
	H22	81.8	86.1	92.8	80.1	78.7	93.2	80.9	83.9	92.9

各質問の肯定的な回答（例：「2人以上知っている」と「1人知っている」，「十分ある」と「少しある」と回答した者の合計）の割合を示した。

□：平成22調査が平成16調査に比して有意に高率を示したもの。（χ^2検定，$p<0.05$）

下線：平成22調査が平成16調査に比して有意に低率を示したもの。（χ^2検定，$p<0.05$）

・「保健学習の指導に熱心な教師を学校内外でどのくらい知っていますか」の質問に対する，「1 人知っている」と「2 人以上知っている」の回答を合算すると，全体では小学校 66.8%，中学校 74.7%，高校 84.3%であり，校種が進むにつれて高率となった。

・「保健学習に関して，相談できる教師がいますか」の質問に対する，「1 人いる」と「2 人以上いる」の回答を合算すると，全体では小学校 86.5%，中学校 83.9%，高校 86.1%と，いずれも 8 割以上を示し，良好であった。

・「保健学習の指導で利用できる教材や教具が身近にありますか」の質問に対する，「少しある」と「十分ある」の回答を合算すると，小学校 80.9%，中学校 83.9%，高校 92.9%と，いずれも 8 割以上を示し，良好であった。なお，高校においては平成 16 年調査に比して全体で約 3%有意に増加した。

(7) 保健科教育法または体育科・保健体育科教育法の履修状況

表 17 保健科教育法または体育科・保健体育科教育法の履修状況についての肯定的な回答

(%)

		男			女			全 体		
		小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
「保健科教育法ないし体育科・保健体育科教育法（保健科教育含む）を履修」	H16	40.2	74.3	70.9	44.6	73.5	75.5	42.4	74.0	71.8
	H22	51.8	78.1	78.1	46.3	67.3	80.3	48.8	74.9	78.5
「履修した保健科教育法等は興味深かった」	H16	29.1	42.7	43.0	33.7	43.9	50.5	31.4	43.1	44.3
	H22	37.2	49.6	50.9	37.4	52.8	54.5	37.3	50.6	51.7
「履修した保健科教育法等は理解できた」	H16	46.5	59.8	59.6	49.5	63.3	62.2	48.0	60.8	60.0
	H22	56.7	70.6	67.8	52.0	61.1	75.8	54.1	67.8	69.5

各質問の肯定的な回答（例：「興味深かった」と「どちらかといえば興味深かった」と回答した者の合計）の割合を示した。

□：平成22調査が平成16調査に比して有意に高率を示したもの。（χ^2検定，$p<0.05$）

・「大学あるいは認定講習等で保健科教育法ないし体育科・保健体育科教育法を履修しましたか」の質問に対する，「保健科教育法を履修した」と「体育科・保健体育科教育法を履修し，その中に保健科教育法の内容も含まれていた」の回答を合算すると，全体では小学校 48.8%，中学校 74.9%，高校 78.5%であ

り，十分とは言えない状況であるものの，小学校および高校では約 6～7%有意に増加した。

・「履修した保健科教育法等の授業は，興味深かった」の肯定的な回答は，全体で小学校 37.3%，中学校 50.6%，高校 51.7%と低調な状況ながらも，小，中，高のいずれの校種も平成 16 年調査より約 6～7%有意に増加し，やや改善の傾向がみられた。

・「履修した保健科教育法等で学んだ内容は，理解できた」の肯定的な回答は，全体で小学校 54.1%，中学校 67.8%，高校 69.5%であった。各校種で平成 16 年調査より約 6～10%増加し，小学校および高校では有意に増加した。

（8）教育実習での保健学習の担当状況

表 18 教育実習での保健学習の指導の経験についての肯定的な回答

（%）

		男			女			全 体		
		小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
「教育実習において，保健学習を担当した」	H16	14.6	72.6	91.3	13.2	69.4	87.4	13.9	71.7	90.6
	H22	13.6	68.3	93.0	12.6	61.1	84.1	13.1	66.1	91.1
「担当した保健学習の指導をうまく行うことができた」	H16	4.2	22.5	34.2	6.3	23.5	39.3	5.2	22.8	35.1
	H22	5.2	21.0	34.8	6.6	17.6	31.1	6.0	20.0	34.0
「教育実習において，保健学習の指導に興味をもつことができた」	H16	4.9	38.6	57.6	10.4	34.7	59.8	7.7	37.5	58.0
	H22	10.5	38.5	64.0	9.4	31.5	63.6	9.9	36.4	63.9

各質問の肯定的な回答（例：「興味深かった」と「どちらかといえば興味深かった」と回答した者の合計）の割合を示した。

□：平成22調査が平成16調査に比して有意に高率を示したもの。（χ^2検定，$p<0.05$）

・「教育実習の全期間において，保健学習の指導を何時間担当しましたか」の質問に対する，「1 時間担当した」と「2 時間以上担当した」の回答を合算すると，全体では小学校 13.1%，中学校 66.1%，高校 91.1%であった。平成 16 年調査時と同様に，小学校は極めて低率を示し，中学校，高校と校種が進むにつれて高率を示す傾向がみられた。

・「教育実習で，保健学習の指導をうまく行うことができましたか」（全解析対象者が母数）の肯定的な回答は，全体で小学校 6.0%，中学校 20.0%，高校 34.0%であり，いずれも平成 16 年調査時と同様，低率であった。

・「教育実習で，保健学習の指導に興味をもつことができましたか」（全解析対象者が母数）の肯定的な回答は，全体で小学校 9.9%，中学校 36.4%，高校 63.9%であった。いずれも良好とは言い難いが，高校においては，平成 16 年調査に比して約 6%有意に増加し，注目された。

（9）過去 5 年間の保健学習に関する研修への参加状況

表 19　保健学習に関する研修についての肯定的な回答

（%）

		男			女			全　体		
		小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
「過去5年間に，公的機関が主催する研修に参加した」	H16	34.7	50.8	57.0	29.2	52.0	55.0	31.9	51.2	56.6
	H22	31.2	47.2	60.0	26.7	57.4	65.9	28.7	50.3	61.2
「過去5年間に，校内の研修に参加した」	H16	44.4	62.2	73.0	43.8	63.3	66.1	44.1	62.5	71.7
	H22	46.2	65.1	78.8	41.1	69.4	79.5	43.5	66.4	79.0
「研修は保健学習の内容や指導方法の理解を深めるのに有意義だった」	H16	41.7	56.0	64.1	40.3	58.2	61.6	41.0	56.6	63.7
	H22	48.5	66.9	73.5	43.6	69.4	81.1	45.9	67.7	75.1
「研修は保健学習の指導を実践するのに役立った」	H16	40.3	53.9	63.7	38.5	54.1	58.0	39.4	54.0	62.7
	H22	45.8	67.1	72.7	40.7	65.7	81.1	43.1	66.7	74.5

各質問の肯定的な回答（例：「興味深かった」と「どちらかといえば興味深かった」と回答した者の合計）の割合を示した。

□：平成22調査が平成16調査に比して有意に高率を示したもの。（χ^2検定，$p<0.05$）

・「過去 5 年間に，教育委員会や研修センター等の公的な機関が主催する保健学習に関する研修に参加したことがありますか」の質問に対する，「1 回ある」と「2 回以上ある」の回答を合算すると，全体では小学校 28.7%，中学校 50.3%，高校 61.2%であった。同様に，「過去 5 年間に，校内の保健学習に関する研修に参加したことがありますか」については，全体で小学校 43.5%，中学校 66.4%，高校 79.0%であった。いずれも研修状況は十分とは言えず，特に小学校では低率であった。しかしながら，高校では平成 16 年調査に比して，公的研修に参加した者が約 5%，校内研修に参加した者が約 7%それぞれ増加していた。

・保健学習に関する研修は「保健学習の内容や指導方法の理解を深めるのに有意義でしたか」（全解析対象者が母数）の肯定的な回答は，全体で中学校が 56.6%→67.7%，高校が 63.7%→75.1%，「あなたが保健学習の指導を実践するのに役立ちましたか」（全解析対象者が母数）の肯定的な回答は，全体で中学校が 54.0%→66.7%，高校が 62.7%→74.5%にそれぞれ有意に増加しており，やや改善の傾向がみられた。

（10）体育学習の指導意欲（平成 22 年調査のみ）

※体育学習を担当している者のみ回答

表 20 体育学習の指導意欲についての肯定的な回答

（%）

	男			女			全 体		
	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
1）体育学習の指導に関する感情									
「好きだ」	94.7	98.0	98.0	75.8	98.0	98.4	84.7	98.0	98.1
「おもしろい」	95.3	98.8	98.0	83.5	96.9	99.2	89.1	98.3	98.2
「興味深い」	95.7	98.8	98.8	89.4	100.0	97.7	92.4	99.1	98.6
2）体育学習の指導の価値									
「体育科または保健体育科を担当する教師として重要だ」	98.1	99.2	99.6	97.0	100.0	100.0	97.5	99.4	99.7
「教科としてより充実することが必要だ」	92.5	98.4	98.4	91.5	100.0	98.4	92.0	98.8	98.4
「学校教育の中で大切だ」	96.6	99.2	99.6	97.0	100.0	99.2	96.8	99.4	99.5
3）体育学習の指導による児童・生徒への期待									
「児童・生徒の今の生活に役立つ」	97.2	98.4	98.2	95.7	100.0	99.2	96.4	98.8	98.4
「児童・生徒は友だちと協力し合えるようになる」	94.9	96.8	95.8	92.4	100.0	97.7	93.6	97.7	96.1
「児童・生徒は運動をすることを好きになる」	96.2	95.1	94.3	97.0	100.0	96.9	96.6	96.5	94.9
「児童・生徒が社会に出てからの生活に役立つ」	93.8	96.4	96.6	89.8	100.0	97.7	91.7	97.4	96.8

各質問の肯定的な回答（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答した者の合計）の割合を示した。

・体育学習の指導に対する感情について，体育学習の指導は「好きだ」，「おもしろい」，「興味深い」の 3 項目の肯定的な回答は，全体で小学校 84.7～92.4%，中学校 98.0～99.1%，高校 98.1～98.6%であり，いずれも良好であった。特に中学，高校の教師においては顕著であった。

・体育学習の指導の価値における肯定的な回答は，「体育科または保健体育科を担当する教師として重要だ」，「教科の指導としてより充実することが必要だ」，「学校教育の中で大切だ」の 3 項目における肯定的な回答は，全体で小学校 92.0～97.5%，中学校 98.8～99.4%，高校 98.4～99.7%であり，いずれも 9 割以上を示し，良好であった。特に「体育科または保健体育科を担当する教師として重要だ」，「学校教育の中で大切だ」と思う教師は，いずれの校種も約 97%以上を示し，注目された。

・体育学習の指導による生徒への期待における肯定的な回答は，「児童・生徒の今の生活に役立つ」，「児童・生徒は友だちと協力し合えるようになる」，「児童・生徒は運動することを好きになる」および「児童・生徒が社会に出てからの生活に役立つ」の 4 項目における肯定的な回答は，全体で小学校 91.7～96.6%，中学校 96.5～98.8%，高校 94.9～98.4%であり，いずれも 9 割以上を示し，良好であった。

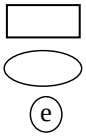
（11）保健学習の指導意欲に関する構造モデル

ここでは，本調査で取り上げた「保健学習の指導意欲（感情，価値，期待）」，「保健学習の実施状況」，「保健学習に関する研修状況」，「保健学習の指導に関わる周囲の状況」，「保健科教育法等の履修」，「教育実習での保健学習の指導」，「体育学習の指導意欲」，「属性（性，年齢）」などの相互の関連について，構造的に明らかにするために仮説モデルを設定し，共分散構造分析を行った。

その結果，小・中・高に共通しておおよそ次のことが推察できた。

感情，価値，期待で構成される保健学習の指導意欲が高い教師は，保健学習を指導する際の準備，適切な評価，指導方法の工夫，児童生徒に対して良い影響をもたらす授業などの実施状況が良好であった。そして，そうした教師の保健学習の指導意欲は，保健学習に熱心な教師仲間がいること，有用な教材や教具が容易に利用できること，研修状況が良好であること，養成課程での保健科教育法等の履修や教育実習での保健学習の指導の状況が良好であること等によって高められることが示された。また，保健学習の指導意欲は，体育学習の指導意欲との間で正の関連があること等も示された。

モデル図中の用語の説明



直接測定される観測変数

観測変数で構成される潜在変数（構成概念）

誤差変数

GFI（Goodness of Fit Index）

モデルの適合度の指標の一つ。基準値は 0.9 で，それ以上の場合に適合度が良好と判断される。

AGFI（Adjusted Goodness of Fit Index）

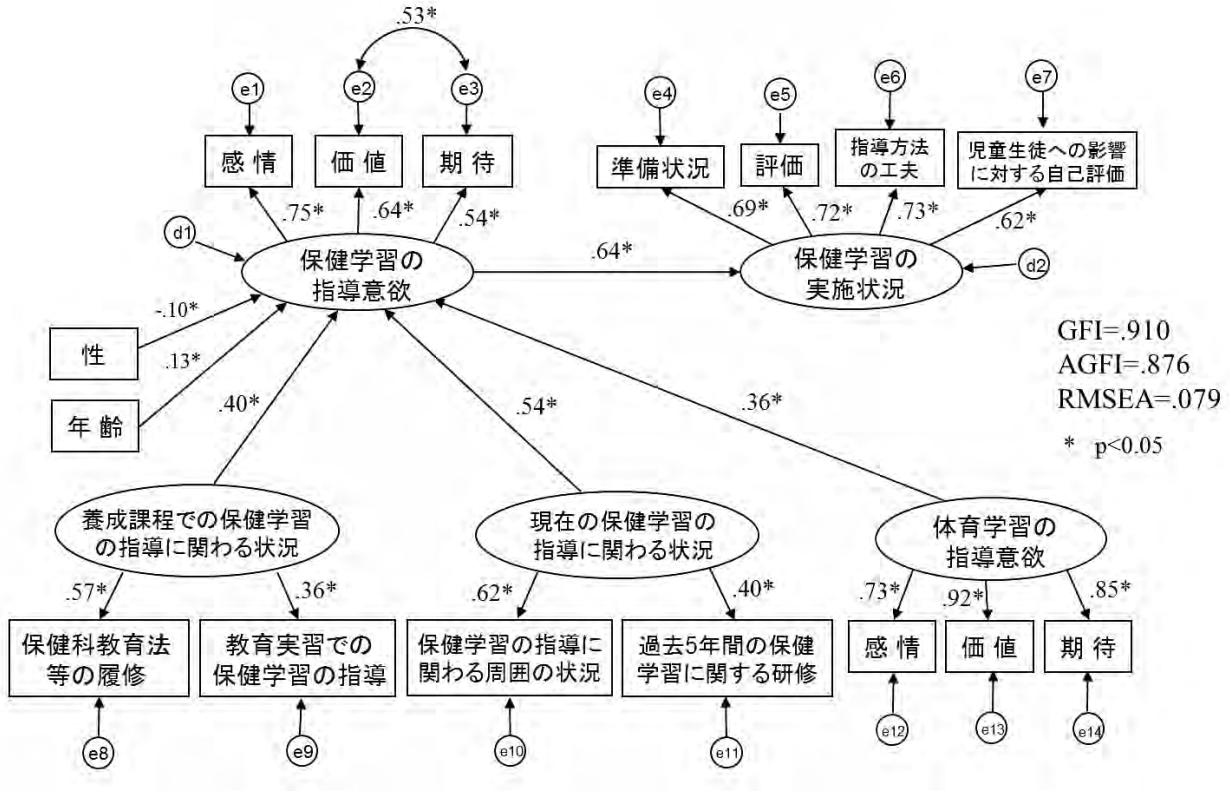
GFI と同様のモデルの適合度の指標の一つで，自由度に影響されないように修正したもの。基準値は 0.9 で，それ以上の場合に，適合度が良好と判断される。

RMSEA（Root Mean Square Error of Approximation）

見かけ上の適合度を調整した指標の一つ。基準値は 0.1 で，それ未満の場合に採択可能と判断される。

校種別モデルの説明

1） 小学校教師（学級担任）の構造モデル（n=502）

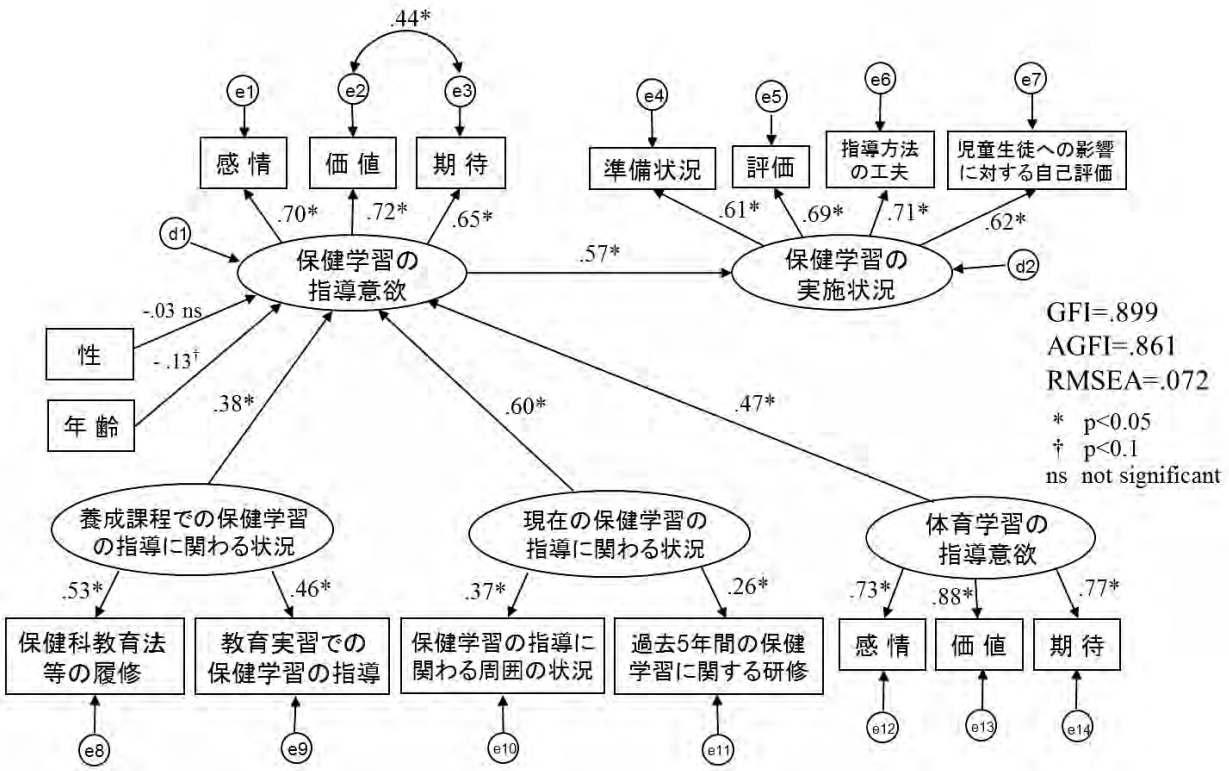


「感情」,「価値」,「期待」を観測変数とする「保健学習の指導意欲」は,「準備状況」,「評価」,「指導方法の工夫」,「児童生徒への影響に対する自己評価」を観測変数とする「保健学習の実施状況」(因果係数.64,以下同じ）に対して有意の正の影響を示した。

また,「保健学習の指導意欲」に対しては,「保健科教育法等の履修」と「教育実習での保健学習の指導」を観測変数とする「養成課程での保健学習の指導に関わる状況」（.40）が有意の正の影響を示した。同様に,「過去 5 年間の保健学習に関する研修」と「保健学習の指導に関わる周囲の状況」を観測変数とする「現在の保健学習の指導に関わる状況」（.54）が有意の正の影響を示した。さらに,「感情」,「価値」,「期待」を観測変数とする「体育学習の指導意欲」（.36）が有意の正の影響を示した。なお,「性」（-.10）が有意の負の影響を,「年齢」（.13）が有意の正の影響を示し，男性より女性の教師の方が，年配の教師の方が，それぞれ良好の傾向が認められた。

モデルの適合度は，GFI .910，AGFI .876，RMSEA .079 をそれぞれ示した。

2）中学校の保健体育教師の構造モデル（n=250）

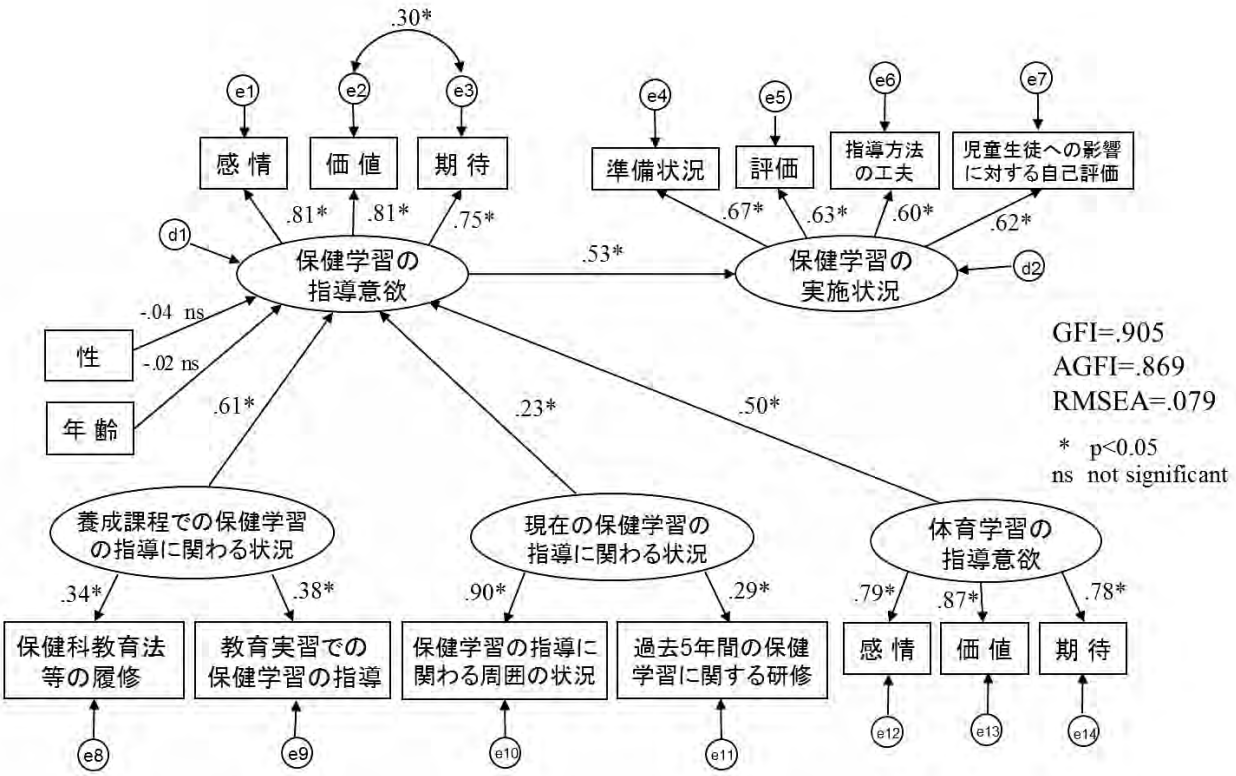


「感情」,「価値」,「期待」を観測変数とする「保健学習の指導意欲」は,「準備状況」,「評価」,「指導方法の工夫」,「児童生徒への影響に対する自己評価」を観測変数とする「保健学習の実施状況」（.57）に対して有意の正の影響を示した。

また,「保健学習の指導意欲」に対しては,「保健科教育法等の履修」と「教育実習での保健学習の指導」を観測変数とする「養成課程での保健学習の指導に関わる状況」（.38）が有意の正の影響を示した。同様に,「過去 5 年間の保健学習に関する研修」と「保健学習の指導に関わる周囲の状況」を観測変数とする「現在の保健学習の指導に関わる状況」（.60）が有意の正の影響を示した。さらに,「感情」,「価値」,「期待」を観測変数とする「体育学習の指導意欲」（.47）が有意の正の影響を示した。なお,「性」（-.03）,「年齢」（-.13）は有意の影響を示さなかった。

モデルの適合度は，GFI .899，AGFI .861，RMSEA .072 をそれぞれ示した。

3）高校の保健体育教師の構造モデル（n=483）



「感情」,「価値」,「期待」を観測変数とする「保健学習の指導意欲」は,「準備状況」,「評価」,「指導方法の工夫」,「児童生徒への影響に対する自己評価」を観測変数とする「保健学習の実施状況」（.53）に対して有意の正の影響を示した。

また,「保健学習の指導意欲」に対しては,「保健科教育法等の履修」と「教育実習での保健学習の指導」を観測変数とする「養成課程での保健学習指導に関わる状況」（.61）が有意の正の影響を示した。同様に,「過去 5 年間の保健学習に関する研修」と「保健学習の指導に関わる周囲の状況」を観測変数とする「現在の保健学習の指導に関わる状況」（.23）が有意の正の影響を示した。さらに,「感情」,「価値」,「期待」を観測変数とする「体育学習の指導意欲」（.50）が有意の正の影響を示した。なお,「性」（-.04）,「年齢」（-.02）は有意の影響を示さなかった。

モデルの適合度は，GFI .905，AGFI .869，RMSEA .079 をそれぞれ示した。

（12）小括

保健学習の実施状況については，保健学習の内容を「ほぼ予定どおり実施できた」が小学校 80.5%，中学校 65.7%，高校 80.7%で，いずれの校種も平成 16 年調査に比して 15%前後の有意の増加がみられた。また，評価では「評価を次の指導に生かした」が全校種において平成 16 年調査より 7%前後の有意の増加（小学校 65.4%→71.4%，中学校 62.4%→70.2%，高校 77.0%→83.9%），指導方法の工夫では，小学校の「課題解決的な学習」（29.7%→36.1%），中学校の「コンピュータの活用」（11.8%→17.7%），高校の「学習カードや学習資料の工夫」（46.4%→58.6%）においてそれぞれ約 6～12%の有意の増加等がみられ，注目に値する改善が示された。しかしながら，総じて未だ十分な状況とは言えず，引き続き改善の努力が求められる。なお，中学校においては特に，保健学習の実施を推進するための手だてが必要であると思われる。

保健学習の指導意欲については，各項目の肯定的な回答が「感情」（67.1～87.3%），「価値」（73.5～95.1%），「期待」（86.4～96.9%）ともに，全校種において平成 16 年調査とほぼ同様の状況であった。しかしその中で，肯定的な回答が比較的低率であった「感情」の項目「保健学習の指導は好きだ」に関して，高校においては平成 16 年調査よりも約 8%（67.7%→75.2%）の有意の増加を示し，指導意欲の向上の兆しがうかがわれた。

この他，養成課程での保健科教育法または体育科・保健体育科教育法の履修状況について，履修した授業は「興味深かった」が全校種において（小学校 31.4%→37.3%，中学校 43.1%→50.6%，高校 44.3%→51.7%），「理解できた」が小学校および高校において（小学校 48.0%→54.1%，高校 60.0%→69.5%），それぞれ平成 16 年調査に比して良好な状況が示されたが，それらの回答の割合は約 4～7 割にとどまった。また，保健学習に関する研修の状況も「有意義だった」（中学校 56.6%→67.7%，高校 63.7%→75.1%）や「役立った」（中学校 54.0%→66.7%，高校 62.7%→74.5%）の回答が，中学校および高校で平成 16 年調査に比して良好な状況が示されたが，全教科を担当する小学校教師においてはやや低調のままであった。養成課程での保健科教育法等の授業内容の改善や指導方法の工夫，現職教員の研修体制等の改善が引き続き求められる。

共分散構造分析により，仮説モデルを検証した結果，保健学習の指導意欲が高い教師は，保健学習の実施状況が良好であった。また，そうした教師の保健学習の指導意欲は，養成課程での保健学習に関わる状況や，現在の保健学習の指導に関わる状況が良好であること等によって高められることが推察された。さらに，保健学習の指導意欲は，体育学習の指導意欲との間で正の関連があること等も示された。

今後は，担当教員における保健学習の指導意欲を高めることに焦点を当て，検証された重要な関連要因について包括的に改善，充実を図っていくことが強く望まれる。

Ⅲ. ま と め

Ⅲ．まとめ

① 小中高校共通の保健の知識テストについて

全 50 問の平均正答数は，男女共に学年が上がるにつれて高値を示した。

問題別にみると，学習指導要領で系統的に位置づけられている指導内容に関する問題（「思春期の体の変化とホルモン」，「心身相関の仕組み」等）は，高学年ほど正答率が高くなる傾向がみられ，正しい保健知識を身に付けていく状況が示された。しかし，高 3 の段階での正答率が高 1 よりも低い問題（「健康増進法」，「わが国のエイズ患者数の動向」等）も少なからずみられ，高 3 における知識の定着あるいは向上をいかに図るかが課題として示された。また，正答率がいずれの学年でも低い問題（「医薬品の副作用」，「平均寿命の意味」等）もみられ，そうした内容の保健学習における取扱い方等を含めて，今後の検討が望まれる。

② 保健学習の内容に関する知識の習得状況について

小 3・4 の内容の知識テスト（小 5 対象）の平均正答率は約 77%であった。「直射日光下での読書」や「人ごみの汚れた空気による体調の不良」等，身の回りの環境に関する内容についてはやや低い正答率が示されたが，総じて，おおむね良好な結果であった。 ただし，平成 16 年調査と同じ問題における正答率の比較では，やや低下した問題がみられ，憂慮された。

小 5・6 の内容の知識テスト（中 1 対象）の平均正答率は約 74%であり，おおむね良好であった。問題別にみると，単元『けがの防止』の内容ではいずれも高い正答率を示した一方で，単元『心の健康』の「心身の相関（体調不良時にやる気が出ないこと）」や，単元『病気の予防』の「予防接種の役割」，「生活習慣病と食生活の関係」においては，正答率がやや低かった。また，「わからない」と回答した者の割合が 3 割程度みられる問題が目立ち，確かな知識の習得のための指導の工夫が求められていることが，平成 16 年調査に引き続き指摘された。なお，平成 20 年改訂の学習指導要領から新たに学ぶ内容である「地域の様々な保健活動の取り組み」については，正答率が男女とも 6 割程度であった。

中学校の内容の知識テスト（高 1 対象）の平均正答率は約 63%であり，必ずしも十分とは言えなかった。問題別にみると，思春期における心身の機能の発達に関する内容（「発達による呼吸数の変化」，「生殖機能の発達とホルモン」等）や，傷害の防止等に関する内容（「自然災害による傷害の発生要因」，「中学生の交通事故による傷害」等）の習得状況が良好ではなかった。特に，概念や原理等の抽象的な知識を問う問題では正答率が低く，具体的にわかりやすく指導する工夫がさらに必要であることが示唆された。

高校の内容の知識テスト（高 3 対象）の平均正答率は約 54%であり，十分とは言えなかった。問題別にみると，正答率が 5 割に満たない問題は 8 問みられ，特に，保健の基本的な概念や実践的な知識に関する問題である「ヘルスプロモーションの意味」と「人工呼吸と胸骨圧迫（心臓マッサージ）の方法」は 3 割に満たなかった。高校の保健学習では，健康の社会的側面に関する体系的な理解や課題の解決につながる思考力・判断力等を身に付ける指導が今後も一層求められることが示された。なお今後，高い割合で誤答された選択肢についても注目して分析し，指導の工夫，改善等について検討する必要があると思われる。

③ 児童生徒における保健学習への意欲，経験した保健学習の状況，健康の価値の認知，日常生活における実践状況について

保健の学習意欲については，保健学習に対する感情，価値，期待いずれも，平成 16 年調査に比してほとんどの項目で肯定的な回答の割合が有意に高率を示した。特に，平成 16 年調査では低率であった「保健の学習は楽しい」，「国民全体の健康づくりにつながる」，「心や体の不安や悩みを軽くしたり解決したりするのに役立つ」においての増加は顕著であった。

経験した保健学習の状況については，各校種のほとんどの単元において，「好きだったか」，「考えたり工夫したりできたか」，「わかったか」に対する肯定的な回答が平成 16 年調査に比して有意に高率を示し，保健の授業改善の成果が示唆された。特に「考えたり工夫したりできたか」での改善は顕著であった。

健康の価値の認知については，全 3 項目の肯定的な回答は 9 割程度以上を占め，平成 16 年調査と同様に極めて高率であった。

日常生活における実践状況については，肯定的な回答は「健康に関する情報を見たり調べたりしているか」が各学年とも 3 割程度以下である等，全体的に低率であったが，平成 16 年調査と比べると，やや良好な傾向を示した。

以上より，本調査結果は，平成 16 年調査に比して総じて肯定的な回答が増加し，特に保健の学習意欲および経験した保健学習の状況については顕著であり，高く評価できる。

④ 保護者がもつ保健学習への関心，考え，要望等について

保護者の保健学習への関心，考え，要望に対する肯定的な回答の割合は，平成 16 年調査と同様に高率を示した。多くの保護者が保健学習に対して肯定的に捉え，支持していることが引き続き確かめられたことは，保健学習を一層強力に推進していく上で，極めて有意義なデータと言える。また，保護者は保健学習の役割として，児童生徒の学校生活の時期における健康増進や疾病予防に役立つ内容に関する指導を求める傾向がみられた。今後は，生涯を通じて健康を保持増進するための基礎・基本となる内容を学ぶという保健学習の意義も保護者に広く啓発していくことが必要であると思われる。

⑤ 保護者における保健学習への関心と，児童生徒における保健学習への意欲，保健学習の内容の習得状況との関連性について

保護者の保健学習への関心と児童生徒の保健の学習意欲との間においては，小 5 女子を除いてすべて有意の関連が示され，注目される結果が得られた。なお，保護者の保健学習への関心等は，保健学習の内容に関する知識の習得状況に影響を与えていることも予想されたが，総じて部分的な関連にとどまり，この点については明確にされなかった。

⑥ 保健担当教師における保健学習の実施状況や指導意欲等について

保健学習の実施状況については，保健学習の内容を「ほぼ予定どおり実施できた」が小学校 80.5%，中学校 65.7%，高校 80.7%で，いずれの校種も平成 16 年調査に比して 15%前後の有意の増加がみられた。

また，評価では「評価を次の指導に生かした」が全校種において平成 16 年調査より 7%前後の有意の増加，指導方法の工夫では，小学校の「課題解決的な学習」，中学校の「コンピュータの活用」，高校の「学習カードや学習資料の工夫」においてそれぞれ約 6～12%の有意の増加等がみられ，注目に値する改善が示された。しかしながら，総じて未だ十分な状況とは言えず，引き続き改善の努力が求められる。なお，中学校においては特に，保健学習の実施を推進するための手だてが必要であると思われる。

保健学習の指導意欲については，各項目の肯定的な回答が「感情」，「価値」，「期待」ともに，全校種において平成 16 年調査とほぼ同様の状況であった。しかしその中で，肯定的な回答が比較的低率であった「感情」の項目「保健学習の指導は好きだ」に関して，高校においては平成 16 年調査よりも約 8%（67.7%→75.2%）の有意の増加を示し，指導意欲の向上の兆しがうかがわれた。

この他，養成課程での保健科教育法または体育科・保健体育科教育法の履修状況について，履修した授業は「興味深かった」が全校種において，「理解できた」が小学校および高校において，それぞれ平成 16 年調査に比して良好な状況が示されたが，それらの回答の割合は約 4～7 割にとどまった。また，保健学習に関する研修の状況も「有意義だった」や「役立った」の回答が，中学校および高校で平成 16 年調査に比して良好な状況が示されたが，全教科を担当する小学校教師においてはやや低調のままであった。養成課程での保健科教育法等の授業内容の改善や指導方法の工夫，現職教員の研修体制等の改善が引き続き求められる。

⑦ 保健担当教師における保健学習の指導意欲と，それらを高める上で重要と考えられる各要因との構造的な関連性について

共分散構造分析により，仮説モデルを検証した結果，保健学習の指導意欲が高い教師は，保健学習の実施状況が良好であった。また，そうした教師の保健学習の指導意欲は，養成課程での保健学習に関わる状況や，現在の保健学習の指導に関わる状況が良好であること等によって高められることが推察された。さらに，保健学習の指導意欲は，体育学習の指導意欲との間で正の関連があること等も示された。

今後は，担当教員における保健学習の指導意欲を高めることに焦点を当て，検証された重要な関連要因について包括的に改善，充実を図っていくことが強く望まれる。

以上，第 2 回目の全国調査である本報告書の終わりにあたって，次の第 3 回全国調査の必要性を付言しておきたい。時期としては，平成 20・21 年に改訂された学習指導要領に基づく保健学習が全学年に実施されることになる平成 27 年以降が望ましいと考えられる。

付　　録

保健学習に関する調査
（小学校５年生用）

性別（　男　・　女　）

お願い

この調査は，小学生，中学生，高校生を対象にした全国調査です。

1. 最初に，あなたの性別を○で囲んでください。
2. 次に，以下の注意をよく読んでください。
3. 調査は，Ⅰ，Ⅱ，Ⅲに分かれています。必ず，すべての問いに答えてください。

　　Ⅰ．保健学習に対する考えなどに関する質問

　　Ⅱ．小学生，中学生，高校生に共通の問題

　　Ⅲ．小学校３・４年の保健学習の内容の問題

4. 他の人と相談しないで，答えてください。
5. 質問がある場合には，先生にたずねてください。
6. 先生の「始め」の合図で，回答を始めてください。

Ⅰ．1～5の質問は，あなたの保健学習に対する考えなどをたずねるものです。

1　（1）～（11）のそれぞれについて，あなたの考えに一番近いものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

（1）保健の学習が好きだ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（2）保健の学習は大切だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（3）保健の学習をすれば，私の今の生活に役立つ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（4）保健の学習をすれば，健康な生活ができるようになる。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（5）保健の学習はおもしろい。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（6）保健の学習は，健康な生活を送るために重要だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（7）保健の学習をすれば，心や体の不安や悩みを軽くしたり解決したりするのに役立つ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（8）保健の学習は楽しい。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（9）保健の学習は，学校での勉強において必要だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（10）保健の学習をすれば，社会に出てからの生活に役立つ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（11）保健の学習をすれば，国民全体の健康づくりにつながる。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

2　（1）～（3）のそれぞれについて，あなたの考えに一番近いものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

（1）健康は，何をするにも必要だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（2）健康は，何よりも大切だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（3）健康は，幸せな生活を送るために重要だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

3　（1）～（3）のそれぞれについて，あてはまるものを一つ選んで，その番号に□をつけてください。

（1）保健で学習したことから，自分の生活や身の回りの環境について，ふりかえったり考えたりしていますか。

1. している　2. どちらかといえばしている　3. どちらかといえばしていない　4. していない

（2）保健で学習したことを，自分の生活に生かしていますか。

1. 生かしている　2. どちらかといえば生かしている
3. どちらかといえば生かしていない　4. 生かしていない

（3）テレビや新聞，インターネットなどで，健康に関する情報を見たり調べたりしていますか。

1. している　2. どちらかといえばしている　3. どちらかといえばしていない　4. していない

4　小学校３年の保健学習「毎日の生活と健康」（１日の生活の仕方，身の回りの清潔や生活環境など）の授業を思い出して回答してください。（1）～（3）のそれぞれについて，あてはまるものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

小学校３年の保健学習 「毎日の生活と健康」（１日の生活の仕方，身の回りの清潔や生活環境など）	（1）好きでしたか					（2）考えたり工夫したりできましたか					（3）学習した内容はわかりましたか				
	好きだった	どちらかといえば好きだった	どちらかといえばきらいだった	きらいだった	おぼえていない	考えたり工夫したりやきた	考えたり工夫したりできた	どちらかといえば考えたり工夫したりできなかった	考えたり工夫したりできなかった	おぼえていない	わかった	どちらかといえばわかった	どちらかといえばわからなかった	わからなかった	おぼえていない
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

6 小学校4年の保健学習「育ちゆく体とわたし」（体の発育・発達と食事，運動などの大切さ，思春期の体の変化など）の授業を思い出して回答してください。（1）～（3）のそれぞれについて，あてはまるものを一つ選んで，その番号に□をつけてください。

小学校4年の保健学習 「育ちゆく体とわたし」 （体の発育・発達と食事，運動などの大切さ，思春期の体の変化など）	（1）好きでしたか					（2）考えたり工夫したりできましたか					（3）学習した内容はわかりましたか				
	好きだった	どちらかといえば好きだった	どちらかといえばきらいだった	きらいだった	おぼえていない	考えたり工夫したりできた	どちらかといえば考えたり工夫したりできた	どちらかといえば考えたり工夫したりできなかった	考えたり工夫したりできなかった	おぼえていない	わかった	どちらかといえばわかった	どちらかといえばわからなかった	わからなかった	おぼえていない
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

4

Ⅱ：次の1～50の文章は，小学生，中学生，高校生に対する共通の問題です。各文章について，「正しい」内容には「1」を，「まちがい」の内容には「2」を，それぞれ選んで○をつけてください。なお，文章が「正しい」か「まちがい」かがわからない内容には「3」に○をつけてください。みなさんが習っていない内容の問題も含まれています。

	正しい	まちがい	わからない
1．WHO（世界保健機関）は，国際的な保健活動を行っている機関である。	1	2	3
2．日本では，人々の健康を増進するための法律として健康増進法がある。	1	2	3
3．人は，できるだけいろいろな種類の食品を食べた方が健康によい。	1	2	3
4．食育とは，食物を育てることである。	1	2	3
5．心臓病や脳卒中などの血管の病気の予防には，ウォーキング，ジョギング，水泳などの有酸素運動がよい。	1	2	3
6．体力を高めるには，運動を行うばかりでなく，食事と休養・睡眠についても考えてとることが必要である。	1	2	3
7．人は，眠る時間が長ければ長いほど，健康によい。	1	2	3
8．体の成長を促すホルモンは，睡眠中に多く出る（分泌する）。	1	2	3
9．体のとの筋肉も，20歳頃までは年齢とともに大きくなる。	1	2	3
10．脳は，各部分（部位）によって，それぞれ違った働きをもっている。	1	2	3
11．思春期には，男子では初潮，女子では精通という現象が起こる。	1	2	3
12．思春期の変声や発毛などの体の変化は，ホルモンの働き（作用）によって起こる。	1	2	3
13．家族計画とは，出産する人の健康や年齢，子どもを育てる環境，家庭の経済状態などを考えて，子どもの数や産む間隔を計画的に調節することをいう。	1	2	3
14．お腹に赤ちゃんがいる時（妊娠中）や赤ちゃんを産んだ後（出産後）には，特にまわりの人の支援や保健・医療機関での定期的な受診が必要である。	1	2	3
15．エイズは，蚊やくしゃみでうつる。	1	2	3

5

	正しい	まちがい	わからない
16．インフルエンザなどの感染症の予防には，マスクを着ければ十分である。	1	2	3
17．わが国の死亡原因は，近年では第1位はがん，第2位は心疾患，第3位は脳卒中である。	1	2	3
18．生活習慣病は，20歳頃からの不健康な生活習慣が原因となって起こる。	1	2	3
19．むし歯は，飴などの糖分が歯を溶かしてできる。	1	2	3
20．歯周病とは，歯を支えている歯ぐきなどの病気のことである。	1	2	3
21．人は，たばこを吸い始めた時期が早く，吸っている期間が長いほど，がんにかかりやすくなる。	1	2	3
22．覚せい剤は，一度だけなら乱用しても，すぐにやめることができる。	1	2	3
23．けがが起こる人的要因としては，人の心や体の状態，行動の仕方などがある。	1	2	3
24．同じ場所であっても，時刻や天候によって危険な場所になることがある。	1	2	3
25．車の後部座席に座っている人も，必ず，シートベルトをすることが法律によって決められている。	1	2	3
26．わが国では，様々な交通安全対策が行われているので，近年では交通事故の発生件数は減少している。	1	2	3
27．公園のようにいつも人が出入りできる場所では，犯罪にあう危険ははとんどない。	1	2	3
28．地域における犯罪を防止するために，ボランティアの人々によって「見守り活動」などが行われている。	1	2	3
29．家にいる時に地震が起きたら，すぐに家の外に出た方が安全である。	1	2	3
30．緊急地震速報は，気象庁が，地震の大きな揺れの前に，震度や震源などを予測して発表する。	1	2	3
31．鼻血が出た時の応急処置としては，鼻にティッシュペーパーをつめる方法が正しい。	1	2	3
32．AED（自動体外式除細動器）を使うことができるのは，その免許（資格）をもつ人だけである。	1	2	3
33．ストレスを感じることは自然なことであり，適度なストレスは心の発達の上で必要なものである。	1	2	3

6

	正しい	まちがい	わからない
34．ストレスは，脳や神経を通して体の働きに影響を与える。	1	2	3
35．わが国は，男女とも世界第1位の長生き（長寿）の国である。	1	2	3
36．高齢者になると身体機能が衰えるので，できるだけ運動は行わない方がよい。	1	2	3
37．直射日光の当たらない部屋の中では，熱中症にかかることはない。	1	2	3
38．日常生活において，飲料水として利用される水は，衛生的な検査が必要である。	1	2	3
39．食中毒は，梅雨時の半月にしか発生しない。	1	2	3
40．食品衛生法は，加工食品などの成分や添加物などの規格や基準を定めた法律である。	1	2	3
41．医薬品には，副作用のあるものとないものがある。	1	2	3
42．綿棒（◎）の棒は，安全であることが検査などによって確認されているので，つぶして飲みやすくしても問題はない。	1	2	3
43．わが国では，すべての国民が医療保険に加入することになっている。	1	2	3
44．わが国では，16歳以上から献血ができる。	1	2	3
45．労働による騒音や職業病などは，働く人自身が注意していれば防ぐことができる。	1	2	3
46．働く人々の健康のために，労働時間・休憩時間などが法律で規定されている。	1	2	3
47．平均寿命とは，現在の国民が生きることができる寿命の平均のことである。	1	2	3
48．わが国では，エイズの患者数は増えている。	1	2	3
49．わが国では，がんで死亡する人が減っている。	1	2	3
50．わが国では，がんを早期に発見するためにがん検診を受ける人が，近年，急激に増えている。	1	2	3

7

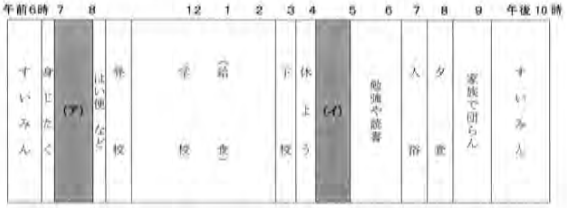
Ⅲ－1．以下の質問は，小学校３・４年の保健学習の内容の問題です。（1）～（6）のそれぞれの文章を読んで，「正しい」内容には「1」を，「まちがい」の内容には「2」を，それぞれ選んで○をつけてください。なお，文章が「正しい」か「まちがい」かがわからない内容には「3」に○をつけてください。

		正しい	まちがい	わからない
（1）	自分の行動や身の回りの環境は，自分の心や体の健康に関係がある。	1	2	3
（2）	毎日を健康に過ごすためには，汗をふくなど，体の清潔を保つことが必要である。	1	2	3
（3）	太陽の光が直接あたるところは明るいので，読書するのによい。	1	2	3
（4）	人が多く集まる部屋の中は，空気が汚れやすくなるため，体の調子が悪くなることがある。	1	2	3
（5）	人の身長は，急に伸びる時期と，ゆっくり伸びる時期とがある。	1	2	3
（6）	体をよりよく発育させるためには，たんぱく質やカルシウムなどを取る必要がある。	1	2	3

Ⅲ－2．以下の質問は，小学校３・４年の保健学習の内容の問題です。（1）～（4）のそれぞれについて，答えてください。

（1）下の図は，Ａさんの，健康によい生活ができたある１日を示したものです。（ア），（イ）でそれぞれ何をしたのでしょうか。あてはまる組み合わせを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

1．（ア）運動　（イ）運動
2．（ア）運動　（イ）食事
3．（ア）食事　（イ）すいみん
4．（ア）食事　（イ）運動



（2）あなたの（1）での回答の理由は何ですか。あてはまるものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

1．すいみんが健康に必要だから。
2．食事が健康に必要だから。
3．運動が健康に必要だから。
4．食事・運動・すいみんのバランスが健康に必要だから。

（3）５年生女子のＡさんは，胸がふくらみはじめて，なやんでいます。正しいアドバイスの組み合わせを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

1．（ア）も（イ）も正しい。
2．（ア）は正しい，（イ）は正しくない。
3．（ア）は正しくない，（イ）は正しい。
4．（ア）も（イ）も正しくない。

（4）思春期には体つきの変化が起こります。体つきの変化について正しいものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

1．男子は丸みがある体つき，女子はがっしりした体つきになる。
2．男子も女子もがっしりした体つきになる。
3．男子も女子も丸みのある体つきになる。
4．男子はがっしりした体つき，女子は丸みがある体つきになる

保健学習に関する調査
（中学校１年生用）

性別（　男　・　女　）

お願い

この調査は，小学生，中学生，高校生を対象にした全国調査です。

1. 最初に，あなたの性別を◎で囲んでください。
2. 次に，以下の注意をよく読んでください。
3. 調査は，Ⅰ，Ⅱ，Ⅲに分かれています。必ず，すべての問いに答えてください。
   - Ⅰ．保健学習に対する考えなどに関する質問
   - Ⅱ．小学生，中学生，高校生に共通の問題
   - Ⅲ．小学校５・６年の保健学習の内容の問題
4. 他の人と相談しないで，答えてください。
5. 質問文では，正しいものや適切なもの等を選ぶ場合には，　　で示し，まちがっているものや適切でないもの等を選ぶ場合には，＿＿で示しています。注意深く読んで，回答してください。
6. 質問がある場合には，先生にたずねてください。
7. 先生の「始め」の合図で，回答を始めてください。

1　1～6の質問は，あなたの保健学習に対する考えなどをたずねるものです。

1　（1）～（11）のそれぞれについて，あなたの考えに一番近いものを一つ選んで，その番号に○を付けてください。

（1）保健の学習が好きだ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（2）保健の学習は大切だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（3）保健の学習をすれば，私の今の生活に役立つ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（4）保健の学習をすれば，健康な生活ができるようになる。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（5）保健の学習はおもしろい。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（6）保健の学習は，健康な生活を送るために重要だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（7）保健の学習をすれば，心や体の不安や悩みを軽くしたり解決したりするのに役立つ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（8）保健の学習は楽しい。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（9）保健の学習は，学校での勉強において必要だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（10）保健の学習をすれば，社会に出てからの生活に役立つ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（11）保健の学習をすれば，国民全体の健康づくりにつながる。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

2　（1）～（3）のそれぞれについて，あなたの考えに一番近いものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

（1）健康は，何をするにも必要だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（2）健康は，何よりも大切だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（3）健康は，幸せな生活を送るために重要だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

3　（1）～（3）のそれぞれについて，あてはまるものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

（1）保健で学習したことから，自分の生活や身の回りの環境について，ふり返ったり考えたりしていますか。

1. している　2. どちらかといえばしている　3. どちらかといえばしていない　4. していない

（2）保健で学習したことを，自分の生活に生かしていますか。

1. 生かしている　2. どちらかといえば生かしている
3. どちらかといえば生かしていない　4. 生かしていない

（3）テレビや新聞，インターネットなどで，健康に関する情報を見たり調べたりしていますか。

1. している　2. どちらかといえばしている　3. どちらかといえばしていない　4. していない

4　小学校５年の保健学習「けがの防止」（交通事故や学校生活の事故などの原因とその防止，けがの手当など）の授業を思い出して回答してください。（1）～（3）のそれぞれについて，あてはまるものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

小学校５年の保健学習 「けがの防止」 （交通事故や学校生活の事故などの原因とその防止，けがの手当など）	（1）好きでしたか					（2）考えたり工夫したりできましたか					（3）学習した内容はわかりましたか				
	好きだった	どちらかといえば好きだった	どちらかといえばきらいだった	きらいだった	おぼえていない	考えたり工夫したりできた	考えたり工夫したりできた	どちらかといえば考えたり工夫したりできなかった	考えたり工夫したりできなかった	おぼえていない	わかった	どちらかといえばわかった	どちらかといえばわからなかった	わからなかった	おぼえていない
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

5 小学校5年の保健学習「心の健康」（心の発達，心と体の密接な関係，不安や悩みへの対処など）の授業を思い出して回答してください。（1）～（3）のそれぞれについて，あてはまるものを一つ選んで，その番号に□をつけてください。

小学校5年の保健学習 「心の健康」（心の発達，心と体の密接な関係，不安や悩みへの対処など）	（1）好きでしたか					（2）考えたり工夫したりできましたか					（3）学習した内容はわかりましたか				
	好きだった	どちらかといえば好きだった	どちらかといえばきらいだった	きらいだった	おぼえていない	考えたり工夫したりできた	考えたり工夫したりできたどちらかといえば	どちらかといえば考えたり工夫したりできなかった	考えたり工夫したりできなかった	おぼえていない	わかった	どちらかといえばわかった	どちらかといえばわからなかった	わからなかった	おぼえていない
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

6 小学校6年の保健学習「病気の予防」（病気の起こり方，病原体がもとになって起こる病気の予防，生活行動がかかわって起こる病気の予防など）の授業を思い出して回答してください。（1）～（3）のそれぞれについて，あてはまるものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

小学校6年の保健学習 「病気の予防」（病気の起こり方，病原体がもとになって起こる病気の予防，生活行動がかかわって起こる病気の予防など）	（1）好きでしたか					（2）考えたり工夫したりできましたか					（3）学習した内容はわかりましたか				
	好きだった	どちらかといえば好きだった	どちらかといえばきらいだった	きらいだった	おぼえていない	考えたり工夫したりできた	考えたり工夫したりできたどちらかといえば	どちらかといえば考えたり工夫したりできなかった	考えたり工夫したりできなかった	おぼえていない	わかった	どちらかといえばわかった	どちらかといえばわからなかった	わからなかった	おぼえていない
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

Ⅱ．次の1～50の文章は，小学生，中学生，高校生に対する共通の問題です。各文章について，「正しい」内容には「1」を，「まちがい」の内容には「2」を，それぞれ選んで○をつけてください。なお，文章が「正しい」か「まちがい」かがわからない内容には「3」に○をつけてください。みなさんが習っていない内容の問題も含まれています。

	正しい	まちがい	わからない
1．WHO（世界保健機関）は，国際的な保健活動を行っている機関である。	1	2	3
2．日本では，人々の健康を増進するための法律として健康増進法がある。	1	2	3
3．人は，できるだけいろいろな種類の食品を食べた方が健康によい。	1	2	3
4．食育とは，食物を育てることである。	1	2	3
5．心臓病や脳卒中などの血管の病気の予防には，ウォーキング，ジョギング，水泳などの有酸素運動がよい。	1	2	3
6．体力を高めるには，運動を行うばかりでなく，食事と休養・睡眠についても考えてとることが必要である。	1	2	3
7．人は，眠る時間が長ければ長いほど，健康によい。	1	2	3
8．体の成長を促すホルモンは，睡眠中に多く出る（分泌する）。	1	2	3
9．体のどの部分も，20歳頃までは年齢とともに大きくなる。	1	2	3
10．脳は，各部分（部位）によって，それぞれ違った働きをもっている。	1	2	3
11．思春期には，男子では初潮，女子では精通という現象が起こる。	1	2	3
12．思春期の変声や発毛などの体の変化は，ホルモンの働き（作用）によって起こる。	1	2	3
13．家族計画とは，出産する人の健康や生命，子どもを育てる環境，家庭の経済状況などを考えて，子どもの数や産む間隔を計画的に調節することをいう。	1	2	3
14．お腹に赤ちゃんがいる時（妊娠中）や赤ちゃんを産んだ後（出産後）には，特にまわりの人の支援や保健・医療機関での定期的な受診が必要である。	1	2	3
15．エイズは，蚊やしょうじょうばえによって，うつる。	1	2	3
16．インフルエンザなどの感染症の予防には，マスクを着ければ十分である。	1	2	3

	正しい	まちがい	わからない
17．わが国の死亡原因は，近年では第1位はがん，第2位は心疾患，第3位は脳血管疾患である。	1	2	3
18．生活習慣病は，20歳頃からの不健康な生活習慣が原因となって起こる。	1	2	3
19．むし歯は，砂糖などの糖分が歯を溶かしてできる。	1	2	3
20．歯周病とは，歯を支えている歯ぐきなどの病気のことである。	1	2	3
21．人は，たばこを吸い始めた時期が早く，吸っている期間が長いほど，がんにかかりやすくなる。	1	2	3
22．覚せい剤は，一度だけなら試用しても，すぐにやめることができる。	1	2	3
23．けがが起こる人的要因としては，人の心や体の状態，行動の仕方などがある。	1	2	3
24．同じ場所であっても，時間や天候によって危険な場所になることがある。	1	2	3
25．車の後部座席に座っている人も，必ず，シートベルトをすることが法律によって決められている。	1	2	3
26．わが国では，様々な交通安全対策が行われているので，近年では交通事故の発生件数は減少している。	1	2	3
27．公園のようにいつも人が出入りできる場所では，犯罪にあう危険はほとんどない。	1	2	3
28．地域における犯罪を防止するために，ボランティアの人々によって「見守り活動」などが行われている。	1	2	3
29．寝ている時に地震が起きたら，すぐに家の外に出た方が安全である。	1	2	3
30．緊急地震速報は，気象庁が，地震の大きな揺れの前に，震度や震源などを予測して発表する。	1	2	3
31．鼻血が出た時の応急手当としては，鼻にティッシュペーパーをつめる方法が正しい。	1	2	3
32．AED（自動体外式除細動器）を使うことができるのは，その免許（資格）をもつ人だけである。	1	2	3
33．ストレスを感じることは自然なことであり，適度なストレスは心の健康の上で必要なものである。	1	2	3
34．ストレスは，脳や神経を通して体の働きに影響を与える。	1	2	3

	正しい	まちがい	わからない
35．わが国は，男女ともに世界第1位の長生き（長寿）の国である。	1	2	3
36．高齢者になると身体機能が衰えるので，できるだけ運動は行わない方がよい。	1	2	3
37．蛍光灯光の当たらない部屋の中では，紫外線にかかることはない。	1	2	3
38．日常生活において，飲料水として利用される水は，衛生的な検査が必要である。	1	2	3
39．食中毒は，梅雨時の季節にしか発生しない。	1	2	3
40．食品衛生法は，加工食品などの成分や添加物などの規格や基準を定めた法律である。	1	2	3
41．医薬品には，副作用のあるものとないものがある。	1	2	3
42．錠剤（ﾀﾌﾞﾚｯﾄ）の薬は，安全であることが検査などによって確認されているので，つぶして飲みやすくしても問題はない。	1	2	3
43．わが国では，すべての国民が医療保険に加入することになっている。	1	2	3
44．わが国では，16歳以上から献血ができる。	1	2	3
45．労働による傷害や職業病などは，働く人自身が注意していれば防ぐことができる。	1	2	3
46．働く人々の健康のために，労働時間・休憩時間などが法律で規定されている。	1	2	3
47．平均寿命とは，現在の国民が生きることができる寿命の平均のことである。	1	2	3
48．わが国では，エイズの患者数は増えている。	1	2	3
49．わが国では，がんで死亡する人が減っている。	1	2	3
50．わが国では，がんを早期に発見するためにがん検診を受ける人が，近年，急激に増えている。	1	2	3

Ⅲ－1．以下の質問は，小学校５・６年の保健学習の内容の問題です。（1）～（5）のそれぞれの文章を読んで，「正しい」内容には「1」を，「まちがい」の内容には「2」を，それぞれ選んで○をつけてください。なお，文章が「正しい」か「まちがい」かがわからない内容には「3」に○をつけてください。

		正しい	まちがい	わからない
（1）	人とのかかわりや，自然とのふれ合いなどの経験は，「心の発達」に関係する。	1	2	3
（2）	病気や疲不足などで体調が悪いとき，なにもやる気が起こらないのは，体と心が互いに影響し合っているからである。	1	2	3
（3）	予防接種は，体のていこう力を高めるために行う。	1	2	3
（4）	「心臓や脳の血管が固くなったり，つまったりする病気」の予防には，糖分，脂肪分，塩分などが多い食事をとる必要がある。	1	2	3
（5）	保健所や保健センターでは，地域の人々の健康を守るために様々な保健活動を行っている。	1	2	3

Ⅲ－2．以下の質問は，小学校５・６年の保健学習の内容の問題です。（1）～（5）のそれぞれについて，答えてください。

(1)不安や悩みが解決できなくてイライラしているとき，気持ちを落ち着かせるための方法について，適切でないものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

1．人と話す。
2．自分のせいだと思うようにする。
3．スポーツや運動などで，体を動かす。
4．音楽を聴くなど，自分の好きなことをする。

(2) 次のA，Bに示されたけがをしたとき，まず，どのような手当をしたらよいでしょうか。正しいものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

A：だぼくをしたとき
1．動かさないようにして冷やす。
2．動かさないようにして温める。
3．よくもみほぐす。
4．のばしたり，さすったりする。

B：すりきずをしたとき
1．そのままばんそうこうをはる。
2．水で冷やす。
3．きれいな水で洗う。
4．すぐにくすりをつける。

(3)飲酒の体への影響について，まちがっているものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

1．一度に大量の酒を飲むと死んでしまうこともある。
2．酒に含まれるアルコールは，脳のはたらきを低下させる。
3．若い時期から酒を飲み始めると，健康への害が大きくなる。
4．20歳を過ぎてから酒を飲むなら，健康への害ははとんどない。

(4) 下のイラストのような場面で，次に起こる危険を避けるための行動について，適切でないものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

道路の向こう側から，友だちがあなたを呼んでいます。

参考資料：文科省学校健康教育課発行「交通安全に関する危険予測学習教材（小学校4・6年生用）」を一部改変

1．見通しのよいところまで近づいて，車が来ないことを確認する。
2．友だちが呼んでいて急いでいたとしても，必ず一時停止する。
3．近くの横断歩道まで移動してから，向こう側に渡る。
4．車が見えないので，急いで道路を渡る。

(5) 病原体がもとになって起こる病気の予防には，①病原体の発生源をなくしたり，②移る道筋を断ち切ったりして病原体が体に入るのを防いだり，③体のていこう力を高めておくことが必要です。それでは，③の「体のていこう力」を高めるために行うこととして最も当てはまるものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

1．部屋の空気を入れかえる。
2．人ごみを避ける。
3．手洗いやうがいをする。
4．栄養のとれた食事，適切な運動，休養及びすいみんをとる。

保健学習に関する調査

（高校１年生用）

性別（　男　・　女　）

お願い

この調査は，小学生，中学生，高校生を対象にした全国調査です。

1. 最初に，あなたの性別を○で囲んでください。
2. 次に，以下の注意をよく読んでください。
3. 調査は，Ⅰ，Ⅱ，Ⅲに分かれています。必ず，すべての問いに答えてください。
   - Ⅰ．保健学習に対する考えなどに関する質問
   - Ⅱ．小学生，中学生，高校生に共通の問題
   - Ⅲ．中学校の保健学習の内容の問題
4. 他の人と相談しないで，答えてください。
5. 質問文では，正しいものや適切なものなどを選ぶ場合には，　　で示し，まちがっているものや適切でないものなどを選ぶ場合には，＿＿＿で示しています。注意深く読んで，回答してください。
6. 質問がある場合には，先生にたずねてください。
7. 先生の「始め」の合図で，回答を始めてください。

Ⅰ．1～7の質問は，あなたの保健学習に対する考えなどをたずねるものです。

1　（1）～（11）のそれぞれについて，あなたの考えに一番近いものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

（1）保健の学習が好きだ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（2）保健の学習は大切だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（3）保健の学習をすれば，私の今の生活に役立つ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（4）保健の学習をすれば，健康な生活ができるようになる。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（5）保健の学習はおもしろい。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（6）保健の学習は，健康な生活を送るために重要だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（7）保健の学習をすれば，心や体の不安や悩みを軽くしたり解決したりするのに役立つ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（8）保健の学習は楽しい。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（9）保健の学習は，学校での勉強において必要だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（10）保健の学習をすれば，社会に出てからの生活に役立つ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（11）保健の学習をすれば，国民全体の健康づくりにつながる。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

2　（1）～（3）のそれぞれについて，あなたの考えに一番近いものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

（1）健康は，何をするにも必要だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（2）健康は，何よりも大切だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（3）健康は，幸せな生活を送るために重要だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

3　（1）～（3）のそれぞれについて，あてはまるものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

（1）保健で学習したことから，自分の生活や身の回りの環境について，ふりかえったり考えたりしていますか。

1. している　2. どちらかといえばしている　3. どちらかといえばしていない　4. していない

（2）保健で学習したことを，自分の生活に生かしていますか。

1. 生かしている　2. どちらかといえば生かしている
3. どちらかといえば生かしていない　4. 生かしていない

（3）テレビや新聞，インターネットなどで，健康に関する情報を見たり調べたりしていますか。

1. している　2. どちらかといえばしている　3. どちらかといえばしていない　4. していない

4　中学校１年の保健学習「心身の機能の発達と心の健康」（身体機能の発達，生殖にかかわる機能の成熟，精神機能の発達と自己形成，欲求やストレスへの対処と心の健康など）の授業を思い出して回答してください。（1）～（3）のそれぞれについて，あてはまるものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

中学校1年の保健学習 「心身の機能の発達と心の健康」（身体機能の発達，生殖にかかわる機能の成熟，精神機能の発達と自己形成，欲求やストレスへの対処と心の健康など）	（1）好きでしたか					（2）考えたり工夫したりできましたか					（3）学習した内容はわかりましたか				
	好きだった	どちらかといえば好きだった	どちらかといえばきらいだった	きらいだった	おぼえていない	考えたり工夫したりできた	どちらかといえば考えたり工夫したりできた	どちらかといえば考えたり工夫したりできなかった	考えたり工夫したりできなかった	おぼえていない	わかった	どちらかといえばわかった	どちらかといえばわからなかった	わからなかった	おぼえていない
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

5　中学校２年の保健学習「健康と環境」（身体の環境に対する適応能力・順応範囲，空気や飲料水の衛生的管理，生活に伴う廃棄物の衛生的管理など）の授業を思い出して回答してください。（1）～（3）のそれぞれについて，あてはまるものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

中学校2年の保健学習 「健康と環境」（身体の環境に対する適応能力・順応範囲，空気や飲料水の衛生的管理，生活に伴う廃棄物の衛生的管理など）	（1）好きでしたか					（2）考えたり工夫したりできましたか					（3）学習した内容はわかりましたか				
	好きだった	どちらかといえば好きだった	どちらかといえばきらいだった	きらいだった	おぼえていない	考えたり工夫したりできた	どちらかといえば考えたり工夫したりできた	どちらかといえば考えたり工夫したりできなかった	考えたり工夫したりできなかった	おぼえていない	わかった	どちらかといえばわかった	どちらかといえばわからなかった	わからなかった	おぼえていない
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

6　中学校２年の保健学習「傷害の防止」（自然災害や交通事故などによる傷害の防止，応急手当など）の授業を思い出して回答してください。（１）～（３）のそれぞれについて，あてはまるものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

中学校２年の保健学習「傷害の防止」（自然災害や交通事故などによる傷害の防止，応急手当など）	（１）好きでしたか					（２）考えたり工夫したりできましたか					（３）学習した内容はわかりましたか				
	好きだった	どちらかといえば好きだった	どちらかといえばきらいだった	きらいだった	おぼえていない	考えたり工夫したりできた	どちらかといえば考えたり工夫したりできた	どちらかといえば考えたり工夫したりできなかった	考えたり工夫したりできなかった	おぼえていない	わかった	どちらかといえばわかった	どちらかといえばわからなかった	わからなかった	おぼえていない
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

7　中学校３年の保健学習「健康な生活と疾病の予防」（健康の成り立ちと疾病の発生要因，生活習慣・生活習慣と健康，喫煙，飲酒，薬物乱用と健康，感染症の予防，個人の健康と集団の健康など）の授業を思い出して回答してください。（１）～（３）のそれぞれについて，あてはまるものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

中学校３年の保健学習「健康な生活と疾病の予防」（健康の成り立ちと疾病の発生要因，生活習慣・生活習慣と健康，喫煙，飲酒，薬物乱用と健康，感染症の予防，個人の健康と集団の健康など）	（１）好きでしたか					（２）考えたり工夫したりできましたか					（３）学習した内容はわかりましたか				
	好きだった	どちらかといえば好きだった	どちらかといえばきらいだった	きらいだった	おぼえていない	考えたり工夫したりできた	どちらかといえば考えたり工夫したりできた	どちらかといえば考えたり工夫したりできなかった	考えたり工夫したりできなかった	おぼえていない	わかった	どちらかといえばわかった	どちらかといえばわからなかった	わからなかった	おぼえていない
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

Ⅱ．次の１～50の文章は，小学生，中学生，高校生に対する共通の問題です。各文章について，「正しい」内容には「１」を，「まちがい」の内容には「２」を，それぞれ選んで○をつけてください。なお，文章が「正しい」か「まちがい」かがわからない内容には「３」に○をつけてください。みなさんが習っていない内容の問題も含まれています。

	正しい	まちがい	わからない
1．WHO（世界保健機関）は，国際的な保健活動を行っている機関である。	1	2	3
2．日本では，人々の健康を増進するための法律として健康増進法がある。	1	2	3
3．人は，できるだけいろいろな種類の食品を食べた方が健康によい。	1	2	3
4．食習とは，食物を習ってることである。	1	2	3
5．心臓病や脳卒中などの生活習慣病の予防には，ウォーキング，ジョギング，体操などの有酸素運動がよい。	1	2	3
6．体力を高めるには，運動を行うばかりでなく，食事と休養・睡眠についても考えてとることが必要である。	1	2	3
7．人は，眠る時間が長ければ長いほど，健康によい。	1	2	3
8．体の成長を促すホルモンは，睡眠中に多く出る（分泌する）。	1	2	3
9．体のどの臓器も，20歳頃までは年齢とともに大きくなる。	1	2	3
10．脳は，各部分（部位）によって，それぞれ違った働きをもっている。	1	2	3
11．思春期には，男子では初経，女子では精通という現象が起こる。	1	2	3
12．思春期の変声や発毛などの体の変化は，ホルモンの働き（作用）によって起こる。	1	2	3
13．家族計画とは，出産する人の健康や年齢，子どもを育てる環境，家庭の経済状況などを考えて，子どもの数や産む間隔を計画的に調節することをいう。	1	2	3
14．母親に赤ちゃんがいる時（妊娠中）や赤ちゃんを産んだ後（出産後）には，特にまわりの人の支援や保健・医療機関での定期的な受診が必要である。	1	2	3
15．エイズは，蚊やくしゃみでうつる。	1	2	3

	正しい	まちがい	わからない
16．インフルエンザなどの感染症の予防には，マスクを着ければ十分である。	1	2	3
17．わが国の死亡原因は，近年では第１位はがん，第２位は心疾患，第３位は糖尿病である。	1	2	3
18．生活習慣病は，20歳頃からの不健康な生活習慣が原因となって起こる。	1	2	3
19．ひし歯は，砂糖などの糖分が歯を溶かしてできる。	1	2	3
20．歯周病とは，歯を支えている歯ぐきなどの病気のことである。	1	2	3
21．人は，たばこを吸い始めた時期が早く，吸っている期間が長いほど，がんにかかりやすくなる。	1	2	3
22．覚せい剤は，一度だけなら乱用しても，すぐにやめることができる。	1	2	3
23．けがが起こる人的要因としては，人の心や体の状態，行動の仕方などがある。	1	2	3
24．同じ場所であっても，時刻や天候によって危険な場所になることがある。	1	2	3
25．車の後部座席に座っている人も，必ず，シートベルトをすることが法律によって決められている。	1	2	3
26．わが国では，様々な交通安全対策が行われているので，近年では交通事故の発生件数は減少している。	1	2	3
27．公園のようにいつも人が出入りできる場所では，危険にあう危険はほとんどない。	1	2	3
28．地域における犯罪を防止するために，ボランティアの人々によって「見守り活動」などが行われている。	1	2	3
29．家にいる時に地震が起きたら，すぐに家の外に出た方が安全である。	1	2	3
30．緊急地震速報は，気象庁が，地震の大きな揺れの前に，震度や震源などを予測して発表する。	1	2	3
31．鼻血が出た時の応急手当としては，鼻にティッシュペーパーをつめる方法が正しい。	1	2	3
32．AED（自動体外式除細動器）を使うことができるのは，その免許（資格）をもつ人だけである。	1	2	3

	正しい	まちがい	わからない
33．ストレスを感じることは自然なことであり，適度なストレスは心の発達の上で必要なものである。	1	2	3
34．ストレスは，脳や神経を通して体の働きに影響を与える。	1	2	3
35．わが国は，男女ともに世界第1位の長生き（長寿）の国である。	1	2	3
36．高齢者になると身体機能が衰えるので，できるだけ運動は行わない方がよい。	1	2	3
37．成熟自覚の当たらない細菌の中では，感染症にかかることはない。	1	2	3
38．自然生活において，飲料水として利用される水は，衛生的な検査が必要である。	1	2	3
39．食中毒は，梅雨時の季節にしか発生しない。	1	2	3
40．食品衛生法は，加工食品などの成分や添加物などの規格や基準を定めた法律である。	1	2	3
41．医薬品には，副作用のあるものとないものがある。	1	2	3
42．錠剤（ﾀﾞﾝｻﾞｲ）の薬は，安全であることが検査などによって証明されているので，つぶして飲みやすくしても問題はない。	1	2	3
43．わが国では，すべての国民が医療保険に加入することになっている。	1	2	3
44．わが国では，16歳以上から献血ができる。	1	2	3
45．労働による傷害や職業病などは，働く人自身が注意していれば防ぐことができる。	1	2	3
46．働く人々の健康のために，労働時間・休憩時間などが法律で規定されている。	1	2	3
47．平均寿命とは，現在の国民が生きることができる寿命の平均のことである。	1	2	3
48．わが国では，エイズの患者数は増えている。	1	2	3
49．わが国では，がんで死亡する人が減っている。	1	2	3
50．わが国では，がんを早期に発見するためにがん検診を受ける人が，近年，急激に増えている。	1	2	3

Ⅲ－1．中学校の保健学習の内容に関する各文章について，「正しい」内容には「1」を，「まちがい」の内容には「2」を，それぞれ選んで○をつけてください。なお，文章が「正しい」か「まちがい」かがわからない内容には「3」に○をつけてください。

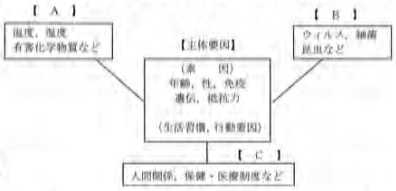
	正しい	まちがい	わからない
1．時間当たりの呼吸数は，年齢とともに増えていく。	1	2	3
2．月経は，子宮内膜がはがれて体外に出される現象である。	1	2	3
3．生殖機能の発達は，成長ホルモンの働きによるものである。	1	2	3
4．心は，生活経験や学習などの影響を受けて発達する。	1	2	3
5．心の状態と体の状態が密接にかかわっているのは，神経などの働きによるものである。	1	2	3
6．一酸化炭素を吸い込むと，体の中の酸素が欠乏し，死に至ることがある。	1	2	3
7．透明でにおいのない水は衛生的であり，飲料水にも適している。	1	2	3
8．ごみを燃やして処理する過程では，人体に有害な物質が発生することもある。	1	2	3
9．自然災害による傷害は，環境要因により発生するため，人的要因で発生することはない。	1	2	3
10．中学生の交通事故による傷害は，自転車に乗車中の場合よりも，歩行中の場合に多い。	1	2	3
11．地震が発生した後では，二次災害を防ぐためにも，海岸などの広い場所へ速やかに逃げる必要がある。	1	2	3
12．心肺停止に陥った人に対しては，まず安静にし，体を動かさないで様子を見る。	1	2	3
13．運動には，各器官の機能の発達を促すだけでなく，精神的にもよい効果がある。	1	2	3
14．動脈硬化は，血管にコレステロールがたまり，血管がかたくもろくなった状態のことである。	1	2	3
15．たばこの煙の中に含まれるタールには，喫煙を止めることを難しくする作用がある。	1	2	3
16．未成年からの飲酒も，成人からの飲酒も，依存症へのなりやすさは変わらない。	1	2	3
17．感染症を予防する方法には，発生源をなくすこと，感染経路を遮断すること，身体の抵抗力を高めることの3つがある。	1	2	3
18．保健所は，感染症にかかった人を治療することが主な役割である。	1	2	3
19．人々の健康を支える社会的な取組には，住民の健康診断，心や体の健康相談などがある。	1	2	3

Ⅲ－2．中学校の保健学習の内容に関するそれぞれの問題について，答えてください。

（1）次の各文は，身体の環境に対する適応能力や環境の至適範囲について述べたものです。1～4のうち，まちがっているもの一つに○をつけてください。

1．身体には，環境の変化に対して，一定の範囲内で適応する力がある。
2．環境の変化に対して，子どもは適応できないが，大人は適応できる。
3．環境の至適範囲を超えると，学習や作業の能率の低下が見られる。
4．学習や作業に適した明るさの範囲は，学習や作業の種類によって異なる。

（2）下の図のように，健康は，主体要因と，環境要因である【A】～【C】から成り立っています。【A】～【C】には，社会的要因，物理・化学的要因，生物学的要因のいずれかが当てはまります。1～6の組み合わせのうち，正しいもの一つに○をつけてください。



【組み合わせ】

	A	B	C
1	社会的要因	物理・化学的要因	生物学的要因
2	社会的要因	生物学的要因	物理・化学的要因
3	物理・化学的要因	社会的要因	生物学的要因
4	物理・化学的要因	生物学的要因	社会的要因
5	生物学的要因	物理・化学的要因	社会的要因
6	生物学的要因	社会的要因	物理・化学的要因

（3）次の各文は，喫煙，飲酒，薬物乱用のきっかけについて述べたものです。1～4のうち，まちがっているもの一つに○をつけてください。

1．過度のストレスは，喫煙，飲酒，薬物乱用のきっかけの一つとなる。
2．喫煙や飲酒の広告は，好奇心をあおるが，ほとんどの国で規制されていない。
3．たばこ，酒，薬物の入手のしやすさは，乱用を促す要因の一つである。
4．喫煙，飲酒，薬物乱用のきっかけには，なげやりな気持ちなど共通するものがある。

（4）次の各文は，エイズ（後天性免疫不全症候群）とエイズを引き起こすHIV（ヒト免疫不全ウイルス）について述べています。1～5のうち，まちがっているもの一つに○をつけてください。

1．HIVに感染すると，体の抵抗力が低下して，いろいろな感染症やがんにかかりやすくなる。
2．HIVは，感染者の血液や精液，膣分泌液に含まれている。
3．HIVの感染経路として，性的接触によるものの割合が少なくなってきている。
4．HIVに感染しても，すぐには発病しない。
5．HIVの感染力は弱く，握手やプール，風呂などでは感染しない。

（5）私たちが，心の健康を保つには，ストレスに適切に対処することが必要であり，運動などでリラクセーションの方法を身に付けたり，趣味をもつことなどが効果的であると言われています。そこで，ストレスを感じていたAさんは，週3回運動することとして，早速1ヶ月間，がんばって運動を続けてみました。けれども，気持ちをリラックスさせる効果はなかなかみられませんでした。1～4に示した理由の中で，最も適切だと思われるものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

＜理由＞
1．週3回だけでは効果が得られないから。
2．行ったストレス対処の方法が自分に合っていないから。
3．心と体は別であり，体を動かしても，心の状態には影響しないから。
4．継続して行わないと効果が得られないから。

（6）次の文は，Aさんが自転車の事故でケガをしたときについて述べたものです。1～4に示した対策例の中で，Aさんの傷害を防ぐために最も適切と思われる方法を一つ選んで，その番号に○をつけてください。

塾が始まる時間に間に合わせようと自転車で急いでいたAさんは，交差点にさしかかりました。一時停止の標識が見えて，「止まらなければいけない…」と思ったものの，急いでいたので，「いつも車が通らないから，大丈夫だろう…」と思って，交差点に進入しました。すると，左側から直進してきた自動車と接触し，ケガをしてしまいました。

＜対策例＞
1．一時停止の標識を増やすこと。
2．自分が乗っている自転車の特性を知ること。
3．自分の心身の状態を把握すること。
4．自動車の特性を知ること。

保健学習に関する調査

（高校３年生用）

性別（　男　・　女　）

お願い

この調査は，小学生，中学生，高校生を対象にした全国調査です。

1. 最初に，あなたの性別を○で囲んでください。
2. 次に，以下の注意をよく読んでください。
3. 調査は，Ⅰ，Ⅱ，Ⅲに分かれています。必ず，すべての問いに答えてください。
   Ⅰ．保健学習に対する考えなどに関する質問
   Ⅱ．小学生，中学生，高校生に共通の問題
   Ⅲ．高校１・２年の保健学習の内容の問題
4. 他の人と相談しないで，答えてください。
5. 質問文では，正しいものや適切なものなどを選ぶ場合には，　　で示し，まちがっているものや適切でないものなどを選ぶ場合には，＿＿＿で示しています。注意深く読んで，回答してください。
6. 質問がある場合には，先生にたずねてください。
7. 先生の「始め」の合図で，回答を始めてください。

Ⅰ．1～4の質問は，あなたの保健学習に対する考えなどをたずねるものです。

1　（1）～（11）のそれぞれについて，あなたの考えに一番近いものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

（1）保健の学習が好きだ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（2）保健の学習は大切だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（3）保健の学習をすれば，私の今の生活に役立つ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（4）保健の学習をすれば，健康な生活ができるようになる。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（5）保健の学習はおもしろい。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（6）保健の学習は，健康な生活を送るために重要だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（7）保健の学習をすれば，心や体の不安や悩みを軽くしたり解決したりするのに役立つ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（8）保健の学習は楽しい。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（9）保健の学習は，学校での勉強において必要だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（10）保健の学習をすれば，社会に出てからの生活に役立つ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（11）保健の学習をすれば，国民全体の健康づくりにつながる。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

2　（1）～（3）のそれぞれについて，あなたの考えに一番近いものを一つ選んで，その番号に○を○付けてください。

（1）健康は，何をするにも必要だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（2）健康は，何よりも大切だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

（3）健康は，幸せな生活を送るために重要だ。

1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　5. わからない

3　（1）～（3）のそれぞれについて，あてはまるものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

（1）保健で学習したことから，自分の生活や身の回りの環境について，ふりかえったり考えたりしていますか。

1. している　2. どちらかといえばしている　3. どちらかといえばしていない　4. していない

（2）保健で学習したことを，自分の生活に生かしていますか。

1. 生かしている　2. どちらかといえば生かしている
3. どちらかといえば生かしていない　4. 生かしていない

（3）テレビや新聞，インターネットなどで，健康に関する情報を見たり調べたりしていますか。

1. している　2. どちらかといえばしている　3. どちらかといえばしていない　4. していない

4　高校１年と２年の保健学習の授業をそれぞれ思い出して回答してください。（1）～（3）のそれぞれについて，あてはまるものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

	（1）好きでしたか					（2）考えたり工夫したりできましたか					（3）学習した内容はわかりましたか				
	好きだった	どちらかといえば好きだった	どちらかといえばきらいだった	きらいだった	おぼえていない	考えたり工夫したりできた	考えたり工夫したりできたどちらかといえば	どちらかといえば考えたり工夫したりできなかった	考えたり工夫したりできなかった	おぼえていない	わかった	どちらかといえばわかった	どちらかといえばわからなかった	わからなかった	おぼえていない
高1の保健学習	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
高2の保健学習	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

Ⅱ．次の１～50 の文章は，小学生，中学生，高校生に対する共通の問題です。各文章について，「正しい」内容には「1」を，「まちがい」の内容には「2」を，それぞれ選んで○をつけてください。なお，文章が「正しい」か「まちがい」かがわからない内容には「3」に○をつけてください。みなさんが習っていない内容の問題も含まれています。

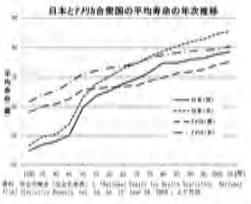
	正しい	まちがい	わからない
1．WHO（世界保健機関）は，国際的な保健活動を行っている機関である。	1	2	3
2．日本では，人々の健康を増進するための法律として健康増進法がある。	1	2	3
3．人は，できるだけいろいろな種類の食品を食べた方が健康によい。	1	2	3
4．食育とは，食物を育てることである。	1	2	3
5．不健康な風を中心とした風潮の回復の手段には，クォーキング，ジョギング，水泳などの有酸素運動がよい。	1	2	3
6．体力を高めるには，運動を行うばかりでなく，食事と休養・睡眠についても考えておくことが必要である。	1	2	3
7．人は，眠る時間が長ければ長いほど，健康によい。	1	2	3

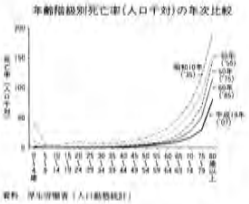
	正しい	まちがい	わからない
8. 体の成長を促すホルモンは，睡眠中に多く出る（分泌する）。	1	2	3
9. 体のどの部分も，20歳頃までは年齢とともに大きくなる。	1	2	3
10. 脳は，各部分（部位）によって，それぞれ違った働きをもっている。	1	2	3
11. 思春期には，男子では初経，女子では精通という現象が起こる。	1	2	3
12. 思春期の変声や発毛などの体の変化は，ホルモンの働き（作用）によって起こる。	1	2	3
13. 家族計画とは，出産する人の健康や年齢，子どもを育てる環境，家族の経済状況などを考えて，子どもの数や産む間隔を計画的に調節することをいう。	1	2	3
14. お腹に赤ちゃんがいる時（妊娠中）や赤ちゃんを産んだ後（出産後）には，妊にまわりの人の支援や保健・医療機関での定期的な受診が必要である。	1	2	3
15. エイズは，早やくしゃみでうつる。	1	2	3
16. インフルエンザなどの感染症の予防には，マスクを着ければ十分である。	1	2	3
17. 我が国の死亡原因は，近年では第1位はがん，第2位は心疾患，第3位は脳血管疾患である。	1	2	3
18. 生活習慣病は，20歳頃からの不健康な生活習慣が原因となって起こる。	1	2	3
19. むし歯は，砂糖などの糖分が歯を溶かしてできる。	1	2	3
20. 歯周病とは，歯を支えている歯ぐきなどの病気のことである。	1	2	3
21. 人は，たばこを吸い始めた時期が早く，続けている期間が長いほど，がんにかかりやすくなる。	1	2	3
22. 使せい剤は，一度だけなら試用しても，すぐにやめることができる。	1	2	3
23. けがが起こる大きな原因としては，人の心や体の状態，行動の仕方などがある。	1	2	3
24. 同じ場所であっても，時間や天候によって危険な場所になることがある。	1	2	3
25. 車の後部座席に乗っている人も，必ず，シートベルトをすることが法律によって決められている。	1	2	3
26. わが国では，様々な交通安全対策が行われているので，近年では交通事故の発生件数は減少している。	1	2	3
27. 公園のようにいつも人が出入りできる場所では，犯罪にあう危険はほとんどない。	1	2	3
28. 地域における犯罪を防止するために，ボランティアの人々によって「見守り活動」などが行われている。	1	2	3
29. 家にいる時に地震が起きたら，すぐに家の外に出た方が安全である。	1	2	3

	正しい	まちがい	わからない
30. 熱帯地域感染症は，熱帯地方が，地域の大きな偏れの前に，蚊などを媒介として発生する。	1	2	3
31. 熱中症が出た時の応急手当としては，熱にディクシャツを一つ一つ脱ぐ方法が正しい。	1	2	3
32. AED（自動体外式除細動器）を使うことができるのは，その免許（資格）をもった人だけである。	1	2	3
33. ストレスを感じることは自然なことであり，適度なストレスは心の成長の上で必要なものである。	1	2	3
34. ストレスは，脳や神経を通して体の働きに影響を与える。	1	2	3
35. わが国は，男女ともに世界第1位の長生き（長寿）の国である。	1	2	3
36. 高齢者になると身体機能が衰えるので，できるだけ運動は行わない方がよい。	1	2	3
37. 紫外線や光のあたらない部屋の中では，熱中症にかかることはない。	1	2	3
38. 日常生活において，飲料水として利用される水は，衛生的な保護が必要である。	1	2	3
39. 食中毒は，梅雨時の季節にしか発生しない。	1	2	3
40. 食品衛生法は，加工食品などの成分や添加物などの規格や基準を定めた法律である。	1	2	3
41. 医薬品には，副作用のあるものとないものがある。	1	2	3
42. 錠剤（ジョウザイ）の薬は，薬効であることが保護などによって被覆されているので，つぶして飲みやすくしても問題はない。	1	2	3
43. わが国では，すべての国民が医療保険に加入することになっている。	1	2	3
44. わが国では，16歳以上から献血ができる。	1	2	3
45. 労働による疲労や職業病などは，働く人自身が注意していれば防ぐことができる。	1	2	3
46. 働く人々の健康のために，労働時間・休憩時間などが法律で規定されている。	1	2	3
47. 平均寿命とは，現在の国民が生きることができる寿命の平均のことである。	1	2	3
48. わが国では，エイズの患者数は増えている。	1	2	3
49. わが国では，がんで死亡する人が減っている。	1	2	3
50. わが国では，がんを早期に発見するためにがん検診を受ける人が，近年，急激に増えている。	1	2	3

Ⅲ．高等学校の保健学習の内容に関するそれぞれの問題について，答えてください。

（1）次の図は，わが国とアメリカ合衆国の平均寿命の年次推移と，わが国の年齢別にみた死亡率について示したものです。これを説明した文で最も適切なものはどれですか。1～4のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。





資料：厚生労働省（人口動態統計）

1．1945年以降の日本人の平均寿命における急激な伸びは，新生児と高齢者の死亡率の改善によるもので，衛生状態の改善や医療の普及が進んだことによる。
2．平均寿命におけるアメリカ合衆国と日本の逆転が起こったのは，国民皆保険体制が実現されたことにより生活水準が向上したことによる。
3．1935年から1955年までの平均寿命の改善は，80歳代高齢者の死亡率の改善が大きく寄与している。
4．今後，日本の平均寿命をさらに延ばすには，新生児の死亡率の改善に力を入れることが最も有効と考えられている。

（2）世界保健機関（WHO）は，1986年に健康づくりのために「ヘルスプロモーション」の考え方を提唱しています。その意味としてふさわしいものはどれですか。1～5のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

1．人々がみずからの健康をコントロールし，改善できるようにする活動であり，個人に対して，特に運動やスポーツの面での支援が重要であるとする考え方。
2．人々がみずからの健康をコントロールし，改善できるようにする活動であり，特に心の健康面の支援が重要であるとする考え方。
3．人々がみずからの健康をコントロールし，改善できるようにする活動であり，特に病気やけがをした後の処置への支援が重要であるとする考え方。
4．人々がみずからの健康をコントロールし，改善できるようにする活動であり，個人に対しての教育や環境の支援が重要であるとする考え方。
5．人々がみずからの健康をコントロールし，改善できるようにする活動であり，個人に対して適切な医療や薬の支援が重要であるとする考え方。

（3）次の文は，「Aさん」が日頃の生活を振り返って考えていることについてのものです。これを読んで，問に回答してください。

「Aさん」は，自分の生活を振り返ってみると，夜ふかしをすること，ゲームを始めるとなかなかやめられなくなること，時々朝食を食べないことなどが気になっています。そこで，健康な生活にするために，次の（ア）～（ウ）を行おうと考えています。
（ア）自分の生活のうち，何が良くて，何が悪いのかを分析する。
（イ）最近3日間の，自分の生活の仕方を記録する。
（ウ）ゲームをするのは金曜日と土曜日だけに決め，行ってみて，できた点を振り返る。

問　Aさんが，健康な生活をできるようになるための（ア）～（ウ）の順序について，最も適切なものはどれですか。1～6のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

1．（ア）→（イ）→（ウ）
2．（ア）→（ウ）→（イ）
3．（イ）→（ア）→（ウ）
4．（イ）→（ウ）→（ア）
5．（ウ）→（ア）→（イ）
6．（ウ）→（イ）→（ア）

（4）次の文は，生活習慣病の予防について述べたものです。誤りのあるものはどれですか。1～4のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

1．食事のかたよりや運動不足を自分なりに気にして，日頃からサプリメントや市販の薬で病気にかからないようにする。
2．健康的なライフスタイルを送るよう心がけ，発病しないようにする。
3．自覚症状がなくても定期的に健康診断を受けて，早期発見・早期治療をする。
4．病気になった場合は治療に専念し早期の回復をはかり，再発防止のための健康的なライフスタイルを送るようにする。

（5）次の文は，喫煙や飲酒による健康課題に対するわが国の防止対策について述べたものです。正しいものはどれですか。1～4のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

1．たばこやアルコール飲料は，「健康日本21」によって販売が規制されている。
2．近年，たばこやアルコールの健康課題へ関心が集まるようになり，販売や広告に関する規制は欧米諸国に比べて厳しくなっている。
3．たばこやアルコールの健康課題は，これまでの法律にもとづく規制や国民の努力により改善され，関心が薄れている。
4．たばこやアルコール飲料の宣伝・広告は，業界団体やマスメディアの自主規制によるところが大きく，販売に関する規制は欧米諸国に比べて緩やかである。

（6）次の文は，感染症について述べたものです。誤りのあるものはどれですか。1～4のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

1．近年，特定の抗生物質が効かない菌が出現し，医療機関内で広がる院内感染が問題となっている。
2．わが国では，法律に基づいて対策がとられ，近年ではもはや結核で死亡する人はいなくなった。
3．天然痘は，予防接種による対策が効果をあげ，全世界において患者の発生がなくなった。
4．インフルエンザのウイルスは変異を繰り返し，近年，強い感染力と毒性をもつ新型インフルエンザの出現が危ぶまれている。

(7) 次の文は，適応機制について述べたものです。最も適切なものはどれですか。1～4のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

1．日常の心の不安や悩みを和らげるもので，それによる心の安定は一時的な場合もある。
2．長期にわたるもので，ひとたび起きた心の安定は永続的なものである。
3．心の健康を損なう重大な原因となるもので，精神的な病気を引き起こす場合もある。
4．体がリラックスすることによって自然と心の中におこるもので，生まれつきのものである。

(8) 次の文は，ストレスへの対処について述べたものです。適切ではない対処はどれですか。1～4のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

1．他人に相談することなく自分自身で抱え込むこと。
2．ストレスの原因になっていることを克服したり問題を解決したりすること。
3．現在の状況を冷静に客観的に見直すこと。
4．自分にあった趣味などで気分転換を図ること。

(9) 次の文は，自己実現において大切にすべき事柄について述べたものです。誤りのあるものはどれですか。1～4のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

1．自分の自己実現に集中するあまり周りの人を犠牲にしたりしないより，お互いの自己実現を尊重することがあげられる。
2．生涯をとおしての目標であるから，ときには現時点での到達点を評価し，計画を修正したり，新たな目標を設定したりしてみることがあげられる。
3．人それぞれで違いがあるのは当然のことであり，自己理解を深め自分なりの目標を見つけることがあげられる。
4．目標を達成することによって得られる達成感や充実感によって成立するものであるから，最終的な結果をより重視することがあげられる。

(10) 次の文は，交通事故を起こすと生じる責任について述べたものです。誤りのあるものはどれですか。1～4のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

1．罰金刑や懲役刑などが科せられることがある。
2．人や物の損害に対する賠償を求められることがある。
3．自動車の所有を禁止されることがある。
4．免許の停止や取り消しがおこなわれることがある。

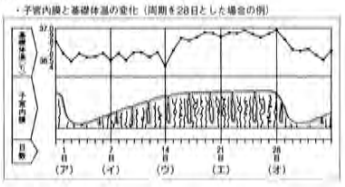
(11) 次の文は，人工呼吸と胸骨圧迫（心臓マッサージ）について述べたものです。正しいものはどれですか。1～5のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

1．人工呼吸で一回に吹き込む量は，多ければ多いほどよい。
2．胸骨圧迫（心臓マッサージ）は，下が固いところで行う。
3．胸骨圧迫（心臓マッサージ）をおこなう際の手の組み方は，必ず右手を上にする。
4．人工呼吸と胸骨圧迫（心臓マッサージ）は，おおむね20分間をめやすに行う。
5．人工呼吸と胸骨圧迫（心臓マッサージ）は，必ず2人でおこなう。

(12) 次の図は，女性の性周期を基礎体温と子宮内膜の様子で示したものです。図の中で排卵日と考えられるのはいつですか。1～5のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。（性周期を28日とした場合の例である）

1．（ア）
2．（イ）
3．（ウ）
4．（エ）
5．（オ）

・子宮内膜と基礎体温の変化（周期を28日とした場合の例）



(13) 次の文のうち，「リハビリテーション」について正しく説明しているものはどれですか。1～5のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

1．生活を物質的な面から量的にとらえるのではなく，個人の生きがいや精神的な豊かさを重視して質的にとらえる考え方。
2．治療の後，けがや病気による障害のある人に対して，医学的・心理学的な指導や機能訓練をし，機能回復や社会復帰をはかること。
3．障害の有無，年齢等にかかわらず，誰もが普通の生活を営むことを当然とする福祉の基本的な考え方。
4．身体に障害のある人や高齢者が生活を常ひうえで支障がないように商品をつくったり建物を設計したりすること。
5．資源を節約したり，環境汚染を防止したりするために，不要品・廃棄物などを再利用すること。

(14) 次の文は，「セカンド・オピニオン」について説明したものです。正しいものはどれですか。1～4のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

1．診断や治療方法について，家族が提示する医療上の意見のこと。
2．診断や治療方法について，同じ病気にかかった人が提示する医療上の意見のこと。
3．診断や治療方法について，主治医以外の第三者の医師が提示する医療上の意見のこと。
4．診断や治療方法について，インターネット上の情報が提示する医療上の意見のこと。

(15) 次の文は，環境基本法に定められた対策について述べたものです。誤りのあるものはどれですか。1～4のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

1．環境を守るための基本的な計画を作成すること。
2．公害で被害を受けた人を認定すること。
3．環境基準を設定すること。
4．環境基準が守られているか監視すること。

(16) 次の文は，大気汚染物質と健康への影響について述べたものです。汚染物質（A）～（C）と健康への影響（ア）～（ウ）との正しい組み合わせはどれですか。1～4のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

【汚染物質】
（A）二酸化いおう（SO_2）　（B）浮遊粒子状物質　（C）光化学オキシダント
【健康への影響】
（ア）さまざまな刺激性物質がふくまれており，目を刺激したり，呼吸困難，手足のしびれをおこしたりする。
（イ）気道・気管支の粘膜にとけて，刺激する。慢性気管支炎，気管支ぜんそくなどをおこす。
（ウ）気管支や肺胞に沈着し，長い年月にわたると肺繊維症などをおこす。

1．（A）と（ア），（B）と（イ），（C）と（ウ）
2．（A）と（ア），（B）と（ウ），（C）と（イ）
3．（A）と（イ），（B）と（ウ），（C）と（ア）
4．（A）と（イ），（B）と（ア），（C）と（ウ）

(17) 次の文は，食中毒予防の三原則とそのポイントについて述べたものです。三原則（A）～（C）と予防のポイント（ア）～（ウ）との正しい組み合わせはどれですか。1～4のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

【三原則】
（A）細菌を食品につけない　（B）細菌をふやさない　（C）細菌を殺す
【予防のポイント】
（ア）手や指に傷があり化膿しているときは，手洗いを十分にし，ゴム手袋をして調理する。また，調理中に口・目・鼻・髪などを手でさわらない。
（イ）生ゴミ，ほう丁，食器，ふきん，スポンジなどのキッチン用具は，熱湯や塩素系消毒剤で消毒する。
（ウ）十分に加熱したものでも素早くさましてから，小分けして冷蔵庫で保存する。

1．（A）と（ア），（B）と（イ），（C）と（ウ）
2．（A）と（ア），（B）と（ウ），（C）と（イ）
3．（A）と（イ），（B）と（ウ），（C）と（ア）
4．（A）と（イ），（B）と（ア），（C）と（ウ）

(18) 次の文は，働く人の健康について述べたものです。誤りのあるものはどれですか。1～5のうちから一つ選び，その番号に○をつけてください。

1．過剰な仕事量と休養の不足が続いて，過労死にいたることがある。
2．職場での健康管理や健康づくりを推進するために，トータル・ヘルス・プロモーション・プランと呼ばれる活動が展開されている。
3．近年，コンピュータなどの画面を見つめながら行う作業が増えてきたため，VDT 障害が発生している。
4．近年，生産工程のオートメーション化やコンピュータの普及などにより，労働者の精神的ストレスは減少している。
5．労働者にとって，より健康的に働き，豊かで充実した人生が送れるよう，生活の質（クオリティ・オブ・ライフ）の向上を目指すことが求められている。

保健学習に関する調査（保護者用）

本調査票における「保健の授業」とは，小学校では体育科の時間に，中学校・高等学校では保健体育科の時間に行われる保健学習のことです。

〔参考〕　現在，学校で行われる「保健の授業」の授業時間数は次の通りです。

小学校 3，4 年生	小学校 5，6 年生	中学校	高等学校
2 年間で 8 時間程度	2 年間で 16 時間程度	平均 2～3 週間に 1 回程度	1，2 年生で週 1 回

問１　この調査票を持ってきたお子さんと調査票にお答えいただいている方の関係を下から選び，番号に○をつけてください。

１．母　　２．父　　３．祖父母　　４．その他

問２　次の（1）～（6）のそれぞれについて，「1. あてはまる」，「2. あてはまらない」，「3. わからない」から，あなたのこれまでの経験などであてはまるものを１つずつ選んで，番号に○をつけてください。

	1. あてはまる	2. あてはまらない	3. わからない
(1)　学校で保健の授業があることを知っている。	1	2	3
(2)　保健の授業を参観したことがある。	1	2	3
(3)　子どもが使っている保健の教科書をみたことがある。	1	2	3
(4)　保健の授業で学んだ内容について，子どもから聞いたことがある。	1	2	3
(5)　保健の授業で学んだ内容について，教師との話し合いで話題にしたことがある。	1	2	3
(6)　保健の授業で学ぶ内容に関心がある。	1	2	3

問３　次の（1）～（4）のそれぞれについて，「１．そう思う」，「２．どちらかといえばそう思う」，「３．どちらかといえばそう思わない」，「４．そう思わない」の中から，あなたの考えに一番近いものを１つ選んで，番号に○をつけてください。

	1. そう思う	2. どちらかといえばそう思う	3. どちらかといえばそう思わない	4. そう思わない
(1) 保健の授業は，学校教育の中で大切だ。	1	2	3	4
(2) 保健で学んだことは，子どもの今の生活に役立つ。	1	2	3	4
(3) 保健で学んだことは，子どもが社会に出てからの生活に役立つ。	1	2	3	4
(4) 保健の授業時間はもっと増やしたほうがよい。	1	2	3	4

問４　次の（1）～（23）の保健の授業で学ぶ内容について，「1. 学校で，ぜひ教えてほしい」，「2. 学校で，できれば教えてほしい」，「3. 学校で，教えてもらう必要はない」の中から，あなたの考えにあてはまるものを１つ選んで，番号に○をつけてください。

保健の授業で学ぶ内容	1. 学校で，ぜひ教えてほしい	2. 学校で，できれば教えてほしい	3. 学校で，教えてもらう必要はない
(1)　健康の考え方・大切さについて	1	2	3
(2)　食生活について	1	2	3
(3)　運動習慣について	1	2	3
(4)　睡眠などの休養について	1	2	3
(5)　体の発育や発達について	1	2	3
(6)　思春期の体の変化について	1	2	3
(7)　妊娠や避妊法について	1	2	3
(8)　感染症とその予防について	1	2	3
(9)　生活習慣病とその予防について	1	2	3
(10)　むし歯や歯周病の予防について	1	2	3
(11)　喫煙，飲酒，薬物乱用の防止について	1	2	3
(12)　けがの防止について	1	2	3
(13)　交通安全について	1	2	3
(14)　防犯について	1	2	3
(15)　自然災害と避難について	1	2	3
(16)　応急手当の意義や方法について	1	2	3
(17)　不安・悩み，ストレスへの対処について	1	2	3
(18)　高齢者と健康について	1	2	3
(19)　環境と健康について	1	2	3
(20)　食品の安全について	1	2	3
(21)　医薬品の正しい利用について	1	2	3
(22)　保健・医療機関の利用について	1	2	3
(23)　労働と健康について	1	2	3

問５　学校教育で育成すべき児童・生徒の能力について，あなたの考えをお伺いします。より重要と思うものから順番に１～５の番号をつけてください。

・日本語の能力　（　　）番
・計算する能力　（　　）番
・コンピュータを使う能力　（　　）番
・英語の能力　（　　）番
・健康・安全に生活する能力　（　　）番

ご協力，ありがとうございました。

保健学習の指導に関する調査

（教師用）

お願い

この調査の目的は，保健学習（教科における保健の授業）の指導の状況等について把握し，その推進のための基礎資料を得ることです。

あなたの学校で，平成22年度に保健学習を担当する教師全員（ティームティーチング等により一部を担当する教師は除く）に回答をお願い致します。

なお，この調査票にあなたの名前を書くことはありません。また，本調査によって得られたデータは，本目的以外には使用されませんので，ありのままを回答してください。回答の内容によって不利益が生じることはありません。

何卒，ご協力をお願い申し上げます。

（財）日本学校保健会

1

1 （1）～（6）まで，あなたご自身のことや調査対象学級についてお伺いします。
それぞれについて，あなたに該当するものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

（1）年齢について（平成22年3月31日の時点でお答え下さい。）

1．27歳未満	2．27歳以上37歳未満	3．37歳以上47歳未満	4．47歳以上

（2）性別について

1．男	2．女

（3）教職経験年数について（平成22年3月31日の時点でお答え下さい。）

1．5年未満	2．5年以上10年未満	3．10年以上20年未満	4．20年以上

（4）現在の職種について

1．小学校の学級担任	2．小学校の学級担任以外（　　）
3．中学校の保健体育科教諭	4．中学校の保健体育科教諭以外（　　）
5．高等学校の保健体育科教諭	6．高等学校の保健体育科教諭以外（　　）

（5）教員免許について（A～G に示したそれぞれの免許状の取得の有無について，該当する番号に○をつけてください。）

A．小学校

1．ある	2．ない

B．中学校・保健体育

1．ある	2．ない

C．中学校・保健

1．ある	2．ない

D．高等学校・保健体育

1．ある	2．ない

E．高等学校・保健

1．ある	2．ない

F．養護教諭

1．ある	2．ない

G．その他

（　　）

（6）昨年度（平成21年度）の保健学習の担当について

1．担当した	2．担当しなかった

※「2．担当しなかった」と回答した方は，4ページの5へ進んでください。

2 昨年度（平成21年度）に保健学習を担当した方に，その実施状況についてお伺いします。（1）～（6）のそれぞれについて，該当するものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

（1）あなたは，保健学習をどのように行いましたか。

1．毎週あるいは隔週というように規則的に行った	2．冬季・梅雨時などある時期に集中して行った
3．出の日に行うことが多かった	4．その他（　　）

（2）あなたは，保健学習の内容をどの程度実施できましたか。

1．ほぼ予定どおり	2．予定の7～8割ぐらい
3．予定の5～6割ぐらい	4．予定の半分未満

（3）あなたは，保健学習の準備をするとき，教科書や教師用指導書以外に，本や新聞・雑誌などの資料を利用しましたか。

1．利用した	2．どちらかといえば利用した
3．どちらかといえば利用しなかった	4．利用しなかった

（4）あなたは，保健学習の準備をするとき，児童・生徒の反応を予想して，指導方法を工夫しましたか。

1．工夫した	2．どちらかといえば工夫した
3．どちらかといえば工夫しなかった	4．工夫しなかった

（5）あなたは，保健学習で児童・生徒の評価をするとき，多様な評価方法を用いましたか。

1．用いた	2．どちらかといえば用いた
3．どちらかといえば用いなかった	4．用いなかった

（6）あなたは，保健学習をするとき，評価を次の指導に生かしましたか。

1．生かした	2．どちらかといえば生かした
3．どちらかといえば生かさなかった	4．生かさなかった

3 昨年度（平成21年度）に保健学習を担当した方に，その指導に関してお伺いします。（1）～（10）のそれぞれについて，該当するものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

（1）あなたが指導した保健学習では，ティームティーチングや少人数指導を実施しましたか。

1．多くの時間で実施した	2．どちらかといえば実施した
3．どちらかといえば実施しなかった	4．全く，又は，殆ど実施しなかった

2

（2）あなたが指導した保健学習では，課題に応じて学習グループを編成した授業を行いましたか。

1．多くの時間で行った	2．どちらかといえば行った
3．どちらかといえば行わなかった	4．全く，又は，殆ど行わなかった

（3）あなたは，保健で学習したことを，授業以外でさらに調べたりするよう指導しましたか。

1．多くの時間で指導した	2．どちらかといえば指導した
3．どちらかといえば指導しなかった	4．全く，又は，殆ど指導しなかった

（4）あなたが指導した保健学習では，コンピュータを活用した授業を行いましたか。

1．行った	2．どちらかといえば行った
3．どちらかといえば行わなかった	4．行わなかった

（5）あなたが指導した保健学習では，学校図書館を活用した授業を行いましたか。

1．行った	2．どちらかといえば行った
3．どちらかといえば行わなかった	4．行わなかった

（6）あなたが指導した保健学習では，課題解決的な学習を取り入れた授業を行いましたか。

1．行った	2．どちらかといえば行った
3．どちらかといえば行わなかった	4．行わなかった

（7）あなたが指導した保健学習では，発展的な課題を取り入れた授業を行いましたか。

1．行った	2．どちらかといえば行った
3．どちらかといえば行わなかった	4．行わなかった

（8）あなたが指導した保健学習では，実験・実習を取り入れた授業を行いましたか。

1．行った	2．どちらかといえば行った
3．どちらかといえば行わなかった	4．行わなかった

（9）あなたが指導した保健学習では，学習カード（ワークシート）や学習資料などの工夫を行いましたか。

1．行った	2．どちらかといえば行った
3．どちらかといえば行わなかった	4．行わなかった

（10）あなたが指導した保健学習では，学習の実現状況が不十分な児童・生徒に対し，授業の合間や放課後などに更に指導を行いましたか。

1．行った	2．どちらかといえば行った
3．どちらかといえば行わなかった	4．行わなかった

3

4 昨年度（平成21年度）に保健学習を担当した方にお伺いします。（1）～（4）のそれぞれについて，該当するものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

（1）あなたが指導した保健学習は，児童・生徒に好感を持たれていたと思いますか。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（2）あなたが指導した保健学習では，児童・生徒が考えたり工夫したりしていたと思いますか。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（3）あなたが指導した保健学習では，児童・生徒が内容について理解したと思いますか。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（4）あなたが指導した保健学習では，児童・生徒が自分の生活や行動の仕方について，健康の面から振り返ったり考えたりして取り組んでいたと思いますか。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

5 保健学習の指導に関するあなたの考えについてお伺いします。（1）～（10）のそれぞれについて，あなたの考えに一番近いものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

（1）保健学習の指導は好きだ。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（2）保健学習の指導は，小学校体育科または中・高校の保健体育科を担当する教師として重要だ。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（3）保健学習の指導が充実すれば，児童・生徒の今の生活に役立つ。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（4）保健学習の指導はおもしろい。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（5）保健学習は，教科としてより充実することが必要だ。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（6）保健学習の指導が充実すれば，児童・生徒は健康な生活を送れるようになる。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（7）保健学習の指導は，興味深い。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（8）保健学習の指導は，学校教育の中で大切だ。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（9）保健学習の指導が充実すれば，児童・生徒が心や体の不安や悩みを軽くしたり，解決したりするのに役立つ。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（10）保健学習の指導が充実すれば，児童・生徒が社会に出てからの生活に役立つ。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

6 健康に関するあなたの考えについてお伺いします。（1）～（3）のそれぞれについて，あなたの考えに一番近いものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

（1）健康は，何をするにも必要だ。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（2）健康は，何よりも大切だ。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（3）健康は，幸せな生活を送るために重要だ。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

7 学校教育で育成すべき児童・生徒の能力について，あなたの考えをお伺いします。より重要と思うものから順番に1～5の番号をつけてください。

・日本語の能力	（　　）番
・計算する能力	（　　）番
・コンピュータを使う能力	（　　）番
・英語の能力	（　　）番
・健康・安全に生活する能力	（　　）番

8 （1）～（3）のそれぞれについて，あてはまるものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

（1）あなたは，保健学習の指導に熱心な教師を学校内外でどのくらい知っていますか。

1．2人以上知っている　約（　　）人	2．1人知っている	3．1人も知らない

（2）あなたは，保健学習に関して，相談できる教師がいますか。

1．2人以上いる　約（　　）人	2．1人いる	3．1人もいない

（3）あなたは，保健学習の指導で利用できる教材や教具が身近にありますか。

1．十分ある	2．少しある	3．ない

9 （1）～（10）のそれぞれについて，あてはまるものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

（1）あなたは，大学あるいは認定講習等で保健科教育法ないし体育科・保健体育科教育法を履修しましたか。

1．保健科教育法を履修した
2．体育科・保健体育科教育法を履修し，その中に保健科教育の内容も含まれていた
3．体育科・保健体育科教育法を履修したが，そのなかに保健科教育の内容は含まれていなかった
4．どちらも履修しなかった

（2）あなたが履修した保健科教育法ないし体育科・保健体育科教育法の授業は，興味深かったですか。

1．興味深かった	2．どちらかといえば興味深かった
3．どちらかといえば興味深くなかった	4．興味深くなかった
5．どちらも履修しなかった	

（3）あなたは，履修した保健科教育法ないし体育科・保健体育科教育法で学んだ内容は，理解できましたか。

1．理解できた	2．どちらかといえば理解できた
3．どちらかといえば理解できなかった	4．理解できなかった
5．どちらも履修しなかった	

（4）あなたは，あなた自身の教育実習の全期間において，保健学習の指導を何時間担当しましたか。

1．2時間以上担当した（　　）時間	2．1時間担当した	3．担当しなかった

（5）あなたは，あなた自身の教育実習で，保健学習の指導をうまく行うことができましたか。

1．できた	2．どちらかといえばできた
3．どちらかといえばできなかった	4．できなかった
5．保健学習の指導を担当しなかった	

（6）あなたは，あなた自身の教育実習で，保健学習の指導に興味をもつことができましたか。

1．できた	2．どちらかといえばできた
3．どちらかといえばできなかった	4．できなかった
5．保健学習の指導を担当しなかった	

（7）あなたは，平成17～21年度の5年間に，教育委員会や研修センター等の公的な機関が主催する保健学習に関する研修に参加したことがありますか。（薬物乱用防止教育や性・エイズ教育などの研修で一部でも保健学習に関する内容があれば，1回としてお答えください。）

1．2回以上ある　約（　　）回	2．1回ある	3．参加したことがない

（8）あなたは，平成17～21年度の5年間に，校内の保健学習に関する研修に参加したことがありますか。（薬物乱用防止教育や性・エイズ教育などの研修で，一部でも保健学習に関する内容があれば，1回として回答してください。）

1．2回以上ある　約（　　）回　　2．1回ある　　3．参加したことがない

（9）あなたが平成17～21年度の5年間で参加した保健学習に関する研修は，保健学習の内容や指導方法の理解を深めるのに有意義でしたか。

1．有意義だった	2．どちらかといえば有意義だった
3．どちらかといえば有意義でなかった	4．有意義ではなかった
5．参加したことがない	

（10）あなたが平成17～21年度の5年間で参加した保健学習に関する研修は，あなたが保健学習の指導を実践するのに役立ちましたか。

1．役立った	2．どちらかといえば役立った
3．どちらかといえば役立たなかった	4．役立たなかった
5．参加したことがない	

10　体育学習（教科における体育の授業）の指導に関するあなたの考えについてお伺いします。（1）～（10）のそれぞれについて，あなたの考えに一番近いものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

※ 体育学習を担当していない方は，9ページの 11 へ進んでください。

（1）体育学習の指導は好きだ。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（2）体育学習の指導は，小学校体育科または中・高校の保健体育科を担当する教師として重要だ。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（3）体育学習の指導が充実すれば，児童・生徒の今の生活に役立つ。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（4）体育学習の指導はおもしろい。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（5）体育学習は，教科としてより充実することが必要だ。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（6）体育学習の指導が充実すれば，児童・生徒は友だちと協力し合えるようになる。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（7）体育学習の指導は，興味深い。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（8）体育学習の指導は，学校教育の中で大切だ。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（9）体育学習の指導が充実すれば，児童・生徒は運動をすることが好きになる。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（10）体育学習の指導が充実すれば，児童・生徒が社会に出てからの生活に役立つ。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

11　運動部活動の指導に関してあなたの考えをお伺いします。（1）～（10）のそれぞれについて，あなたの考えに一番近いものを一つ選んで，その番号に○をつけてください。

※ 小学校に勤務している方および中・高校で運動部活動を担当していない方は，以下の項目について回答せずに終了してください。ご協力，ありがとうございました。

（1）運動部活動の指導は好きだ。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（2）運動部活動の指導は，保健体育科を担当する教師として重要だ。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（3）運動部活動の指導が充実すれば，生徒の今の生活に役立つ。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（4）運動部活動の指導はおもしろい。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（5）運動部活動の指導は，生徒の健全育成のために必要だ。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（6）運動部活動の指導が充実すれば，生徒は友だちと協力し合えるようになる。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（7）運動部活動の指導は，興味深い。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（8）運動部活動の指導は，学校教育の中で大切だ。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（9）運動部活動の指導が充実すれば，生徒は運動をすることが好きになる。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

（10）運動部活動の指導が充実すれば，生徒が社会に出てからの生活に役立つ。

1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない	4．そう思わない

ご協力，ありがとうございました。

本書は，文部科学省補助金による「学校保健振興事業」として，下記の財団法人日本学校保健会に設置した「保健学習推進委員会」で作成したものである。

『保健学習推進委員会名簿（平成 21 年度～23 年度)』

○委 員 長　野津　有司　　筑波大学大学院人間総合科学研究科　教授

小学校部会

委員	岩田　英樹	金沢大学人間社会学域人間科学系　教授
委員	関口　健一	宇都宮市立石井小学校　教諭
委員	冨岡　　寛	川崎市立京町小学校　教頭
委員	渡邉　正樹	東京学芸大学　教授

中学校部会

委員	西岡　伸紀	兵庫教育大学大学院学校教育研究科　教授
委員	横嶋　　剛	宇都宮市教育委員会学校健康課　係長
委員	吉田　初美	熊谷市立大幡中学校　教諭
委員	渡部　　基	北海道教育大学教育学部　教授

高等学校部会

委員	今関　豊一	順天堂大学スポーツ健康科学部　准教授
委員	植田　誠治	聖心女子大学文学部　教授
委員	大見　　学	愛知県教育委員会体育スポーツ課　主査
委員	加藤　俊文	千葉県立千葉女子高等学校　教諭（平成２１年度、２２年度）
委員	久保　元芳	宇都宮大学教育学部　講師（平成２３年度）
委員	和唐　正勝	宇都宮大学　名誉教授

なお、本書の作成にあたり、
森　　良一　文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課教科調査官
のほか、下記の方々に、多大な援助とご助言をいただきました。
有賀　玲子　文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課学校保健対策専門官
岩﨑　信子　文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課健康教育調査官
北垣　邦彦　文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課健康教育調査官

保健学習推進委員会報告書

－第２回 全国調査の結果－

初版発行　平成 24 年 2 月 23 日

発行者　財団法人　日本学校保健会

〒105-0001　東京都港区虎ノ門 2-3-17

虎ノ門二丁目タワー 6 階

TEL　03-3501-0968, 3785

FAX　03-3592-3898

印刷所　株式会社サンワ

http://www.sanwa-s.com